はじめに

はじめに 8
知っておいていただきたいこと 8
本書の見かた 12
クイックガイド 13
車両装備 13
内装 15
よくあるご質問（Q & A） 26

1 安全なドライブのために

安全にお使いいただくために 30
運転する前に 30
安全なドライブのために 31
シートベルト 35
シートベルトの着用のしかた・外しかた 39
SRS エアバッグ 43
SRS エアバッグシステムの作動 51
お子さまの安全のために 57
お子さまを乗せるときは 57
お子さま用シート 61
座席位置別のお子さま用シート適合性について 64
お子さま用シートの取り付け 68
警報装置 74
イモビライザーシステム 74
セキュリティアラーム（警報装置） 75

2 EV システム

EV システム 80
EV システムについて 80
EV システムの注意 83
電気自動車運転のアドバイス 87
走行可能距離について 88
充電 89
充電に関する装備 89
普通充電ケーブルについて 92
普通充電コネクターのロック・アンロック 96

接続可能な外部電源について 99
充電方法について 100
充電に関するアドバイス 103
充電の前に知っておいていただきたいこと 104
普通充電のしかた 107
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた 113
タイマー充電機能を使う 118
マイルームモードを使う 123
正常に充電できないときは 126
DC 外部給電システム 139
DC 外部給電システムの使いかた 139
DC 外部給電システムが正常に作動しないときは 145

3 走行に関する情報表示

メーターディスプレイ 148
計器の見かた 148
マルチインフォメーションディスプレイ 153
センターディスプレイ 156
センターディスプレイ 156
警告と表示 159
警告灯と表示灯 159
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ 182

4 運転する前に

キー 204
キー 204
ドアの開閉 206
ドア 206
バックドア 209
キーレスエントリー 212
キーレスプッシュスタートシステム 214
シートの調節 218
前席シート 218
後席シート 221
ハンドル／ミラー 228
ハンドル 228
ミラー 229

ウインドーの開閉 233
ウインドー 233

5 運転するときは

出発の前に 240
運転するとき 240
荷物を積むときの注意 247
運転手順 248
パワースイッチ 248
ダイヤルシフトの操作 253
走行モード 258
ヒルディセントコントロール（4WD 車） 260
方向指示器レバー 263
電動パーキングブレーキ 264
ライト・ワイパーの使いかた 269
ライトスイッチ 269
フォグランプスイッチ 273
ワイパー／ウォッシャー（フロント） 273
ワイパー／ウォッシャー（リヤ） 277
運転支援装置について 279
スズキ セーフティサポート 279
デュアルセンサーブレーキサポート II （DSBS II） 292
誤発進抑制機能 299
発進お知らせ機能 302
アダプティブハイビームシステム 303
車線逸脱抑制機能 307
車線維持支援 312
二次衝突軽減ブレーキ 317
アダプティブクルーズコントロール 317
標識認識機能 326
ブラインドスポットモニター（BSM）（車線変更サポート付） 329
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 334
パーキングセンサー 336
低速時ブレーキサポート (前進・後退) 341
後方誤発進抑制機能 346
全方位モニター 349
ドライバーモニタリングシステム (DMS) 365
運転支援装置 369
運転するときのアドバイス 376
走行するときは 376

駐車するときは 378
寒冷時の運転 379

6 装備の取扱い

エアコン・ヒーターの使いかた 386
エアコンの吹き出し口 386
オートエアコン 387
各スイッチの使いかた 389
エアコンの上手な使いかた 394
リモート操作によるエアコン操作について 395
シートヒーター 397
ステアリングヒーター 398
室内灯の使いかた 400
室内灯 400
収納スペース 404
収納スペース 404
ドリンクホルダー 406
ショッピングフック 408
ラゲッジシェルフ（荷室カバー） 408
ラゲッジボード 409
そのほかの装備 411
サンバイザー 411
可倒式アシストグリップ 412
フットレスト 413
アームレスト（ひじ掛け） 413
アクセサリーソケット 414
USB ソケット 415
AC 電源コンセント（100V、1500W）[非常時給電モード付] .. 416
ワイヤレス充電 426
ガラスルーフ (サンシェード付き)（タイプ別装備） 431
ルーフラックアンカー 431
アンテナ 432
オーディオ機能について 432
ステアリングオーディオスイッチ 433

7 お手入れのしかた

外装の手入れ 436
外装のお手入れ 436

内装の手入れ 440
内装のお手入れ 440
簡単な点検・部品交換 442
ボンネット 442
ウインドーウォッシャー液の補充 444
タイヤの点検 445
エアコンのお手入れ 447
携帯リモコン 449
ヒューズが切れたときは 450
電球の交換 458
ワイパー 459

8 万一のとき

まずはじめに 464
非常点滅灯表示灯スイッチ（ハザードランプ） 464
故障したときは 464
万一、事故が起きたときは 465
発炎筒 466
車両を緊急停止するには 467
水没／冠水したときは 468
トラブルが起きたときの対処方法 470
けん引について 470
スズキ緊急通報（ヘルプネット®） 477
パンクしたときは 482
鉛バッテリーあがりのときは 493
EV システムが始動できないときは 496
充電リッドが開かないときは 496
オーバーヒートしたときは 497
スタック（立ち往生）したときは 498

9 サービスデータ

仕様一覧 500
車体番号 500
サービスデータ 501
こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます 503

索引

索引 511

MEMO

知っておいていただきたいこと

本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。

お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。

保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。

はじめに

このたびは、スズキ e VITARA をお買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、 お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「安全なドライブのために」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 限定車の装備品や、 スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、 担当セールススタッフにおたずねください。

スズキ純正部品およびアクセサリーの使用をおすすめします

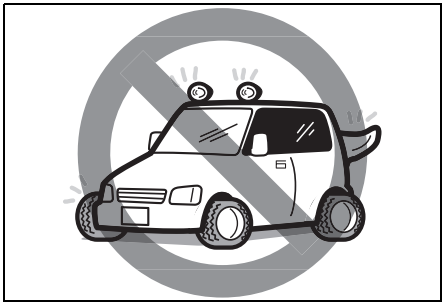
スズキ純正部品およびアクセサリーは、お客様のお車に合うように設計されています。(お車の仕様に合わせて設計されています)

スズキ純正部品以外のものを使用すると、お車の性能に悪影響をおよぼす可能性があります。また、保証を受けられない場合や、故障の原因になることもあります。

不正改造はしない

⚠ 警告

- **不正改造をすると、火災や事故につながるおそれがあります。また、取扱い、性能、耐久性に悪影響をあたえたり、法令に違反したりするおそれがあります。**
  この車に適さない部品を取り付ける、あるいは自己流の調整や配線をするなどの改造をしないでください。
  また、このような改造はスズキ セーフティ サポートのような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をするおそれがあり危険です。



- **スズキ純正品以外のホイール、ホイールナットを使用すると、走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。**
  ホイール、ホイールナットは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。
- **次のような改造をするとLEDヘッドライトのオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。**
  - **サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）**
  - **指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着**

! 注記

- **この車に無線機を搭載する前には、周波数、最大出力、車へのアンテナ位置、搭載や使用のための具体的な条件について、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談することをおすすめします。**
  無線機が不適切に搭載された場合や、無線機がこの車に適さない場合には、車の電子制御系が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- **ナビゲーション、オーディオ機器、ETC車載器などの電気機器の取り付け取り外しは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から直接電気製品の電源をとったり、アース線を接続したりしないでください。電子部品のはたらきをさまたげ、火災、故障、バッテリーあがりなどのおそれがあります。**
- **お車の故障診断コネクターへ指定以外の機器を接続すると、電子部品のはたらきをさまたげたり、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。**
  お車の故障診断コネクターには、指定の点検整備用の故障診断装置以外は接続しないでください。
- **お車に次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。**
  - **サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）**
  - **指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着**

スズキ純正品以外の電装品を取り付けるリスクについて

! 注記

スズキ純正品以外の電装品を取り付けることで、他の電装品が正常に作動しなくなったり、重大な故障または個人情報の流出につながるおそれがあります。

スズキ純正品以外の電装品を取り付けたことによる故障などの損害についてはスズキはその責任を負いかねます。

データの記録について

この車には、車両の制御や操作などに関するデータを記録するコンピュータが装備されており、以下のデータを記録します。

データの種類について

- 車両の状態
- 車速、走行距離、平均速度、平均電費、走行時間、シフト操作履歴、総外部充

電量、バッテリー容量劣化度（SOCE）、消費電力などの車両の状態
- シフトポジション等のEVシステムの状態
- アクセル、ブレーキ、ステアリング角、シフトポジションなど、操作の状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報（イベントデータレコーダー（EDR）に記録されます。EDR は Event Data Recorder の略です。）
- 運転支援装置の作動状況
- 前方カメラの画像情報（DSBS Ⅱ）

アドバイス

- お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。
- 会話などの音声や車内の映像は記録しません。
- 使用条件などにより、データが記録されない場合があります。
- 前方カメラが画像データを記録しないように設定できます。スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。（ただし、記録しないように設定すると、システム作動時のデータは残らなくなります。）

データの開示について

スズキ、スズキの代理店・販売店およびスズキの委託先は、コンピュータに記録されたデータを、車両の事故解析・故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。

なお、スズキ、スズキの代理店・販売店およびスズキの委託先は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

データの消去について

「データの種類について」に記載されているデータは、お車のメンテナンスや法令への準拠等に必要なものを除き、スズキ販売店またはスズキ代理店で消去できます。

お客様がお車をおゆずりになるときや廃車されるときなどに、「データの種類について」に記載されているデータが消去されていないことにより第三者に漏洩したとしてもスズキはその責任を負いかねますので、お客様のご判断にてスズキ販売店またはスズキ代理店にデータの消去をご依頼ください。

SRS エアバッグのイベントデータレコーダー（EDR）

EDR とは Event Data Recorder （イベントデータレコーダー）の略です。SRS エアバッグが作動するような事故のときにデータを記録します。 **(>>> P.8)**

スズキコネクトによるデータの取扱いについて

お客様がスズキコネクトをご利用の場合、サービス提供のためにお客様の車両位置情報や車両情報を車載通信機内に保存します。詳細についてはスズキコネクトの利用規約をご確認ください。

お車をおゆずりになるときや廃車などされるときは、お手数ですがお客様ご自身でスズキコネクトの解約手続きを行ってください。解約手続きを行うことで、車載通信機に保存されているお客様の個

人・プライバシー情報は削除されます。詳しくはスズキコネクトアプリ取扱説明書をご参照ください。

- 解約手続きをしなかったことによるお客様の個人・プライバシー情報の漏えいについては、スズキはその責任を負いかねます。

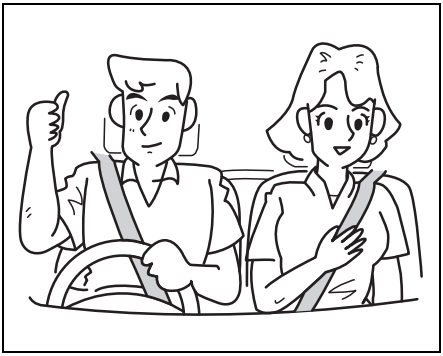
充電ポート

- メーカー指定の充電ケーブルを充電インレットに接続してください。
- 充電していないときは、充電リッドを閉じてください。

走行するときは

⚠ 警告

- **走行前に同乗者全員にシートベルトを正しく着用させないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
- **助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。**



- **お酒を飲んだときや眠気をもよおす薬を飲んだときは、運転を控えてください。注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。**

車検／点検について

車検および点検整備ついては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

廃棄と廃車

お車を廃車にするときや、エアバッグやプリテンショナ ― などを廃棄するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

本書の見かた

警告／注意／注記／アドバイス

本書では、次の記号を使用しています。

“ 警告 ”、“ 注意 ”、“ 注記 ”、“ アドバイス ” は、とくにしっかりお読みください。

⚠ 警告

取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。

⚠ 注意

取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。

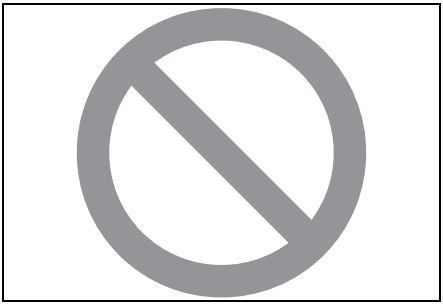
! 注記

取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。

アドバイス

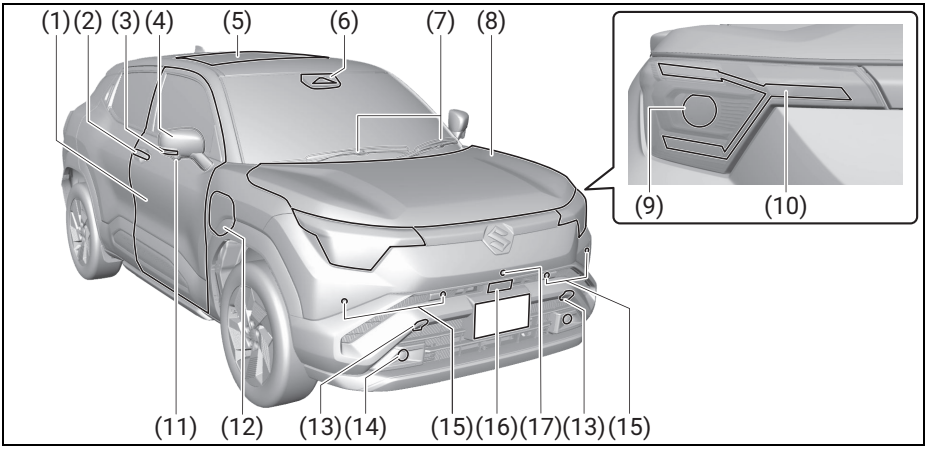
お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

イラストの中で次の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。



車両装備

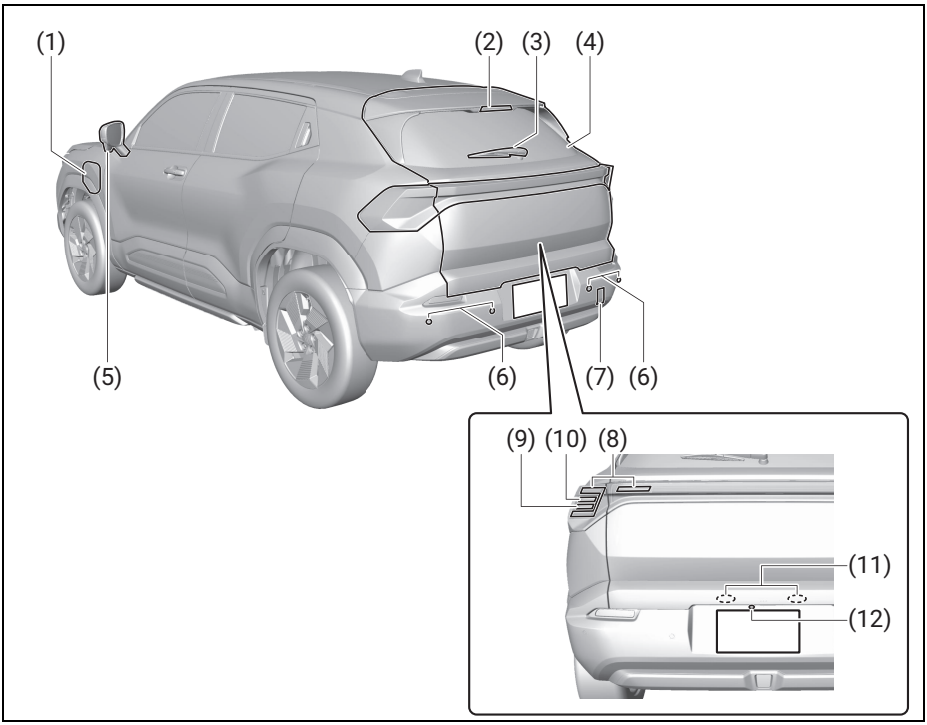
外観（フロント）



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) ドア **(>>> P.206)**
(2) ドアロック **(>>> P.206)**
(3) 方向指示器／非常点滅表示灯（ドアミラー） **(>>> P.263) (>>> P.458)**
(4) ドアミラー **(>>> P.229)**
(5) ガラスルーフ（タイプ別装備） **(>>> P.431)**
(6) 前方カメラ（DSBS Ⅱ） **(>>> P.281)**
(7) フロントワイパー **(>>> P.273) (>>> P.460)**
(8) ボンネット **(>>> P.442)**
(9) ヘッドライト **(>>> P.269) (>>> P.458)**
(10) 方向指示器／非常点滅表示灯（フロント） **(>>> P.263) (>>> P.458)**
車幅灯
DRL（デイタイムランニングランプ） **(>>> P.272) (>>> P.458)**
(11) サイドカメラ **(>>> P.349)**
(12) 普通充電ポート **(>>> P.89)**
(13) けん引フックカバー **(>>> P.472)**
(14) フロントフォグランプ **(>>> P.273) (>>> P.458)**
(15) 超音波センサー **(>>> P.336)**
(16) 前方レーダー（DSBS Ⅱ） **(>>> P.281)**
(17) フロントカメラ **(>>> P.349)**

外観（リヤ）

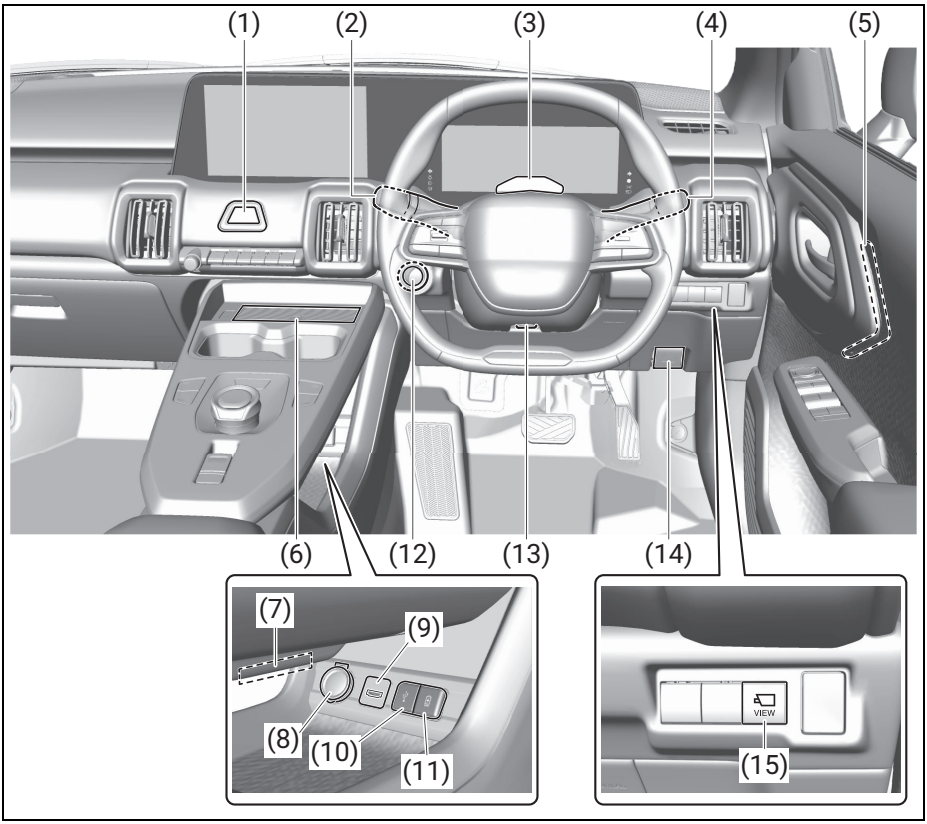


お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) 急速充電ポート **(>>> P.89)**
(2) ハイマウントストップランプ **(>>> P.458)**
(3) リヤワイパー **(>>> P.277) (>>> P.461)**
(4) バックドア **(>>> P.209)**
(5) サイドアンダーミラー **(>>> P.231)**
(6) 超音波センサー **(>>> P.336)**
(7) フックカバー **(>>> P.472)**
(8) 制動灯／尾灯 **(>>> P.458)**
(9) 方向指示器／非常点滅表示灯（リヤ） **(>>> P.263) (>>> P.458)**
(10) 後退灯 **(>>> P.458)**
(11) 番号灯 **(>>> P.458)**
(12) バックカメラ **(>>> P.349)**

内装

運転席まわり



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) 非常点滅表示灯スイッチ **(>>> P.464)**

(2) ワイパー／ウォッシャースイッチ **(>>> P.273)** **(>>> P.277)**

(3) ドライバーモニタリングカメラおよび LED **(>>> P.365)**

(4) ライトスイッチ **(>>> P.269)**
方向指示器スイッチ **(>>> P.263)**
フォグランプスイッチ **(>>> P.273)**

(5) LED アンビエントライト（前席ドア） **(>>> P.402)**

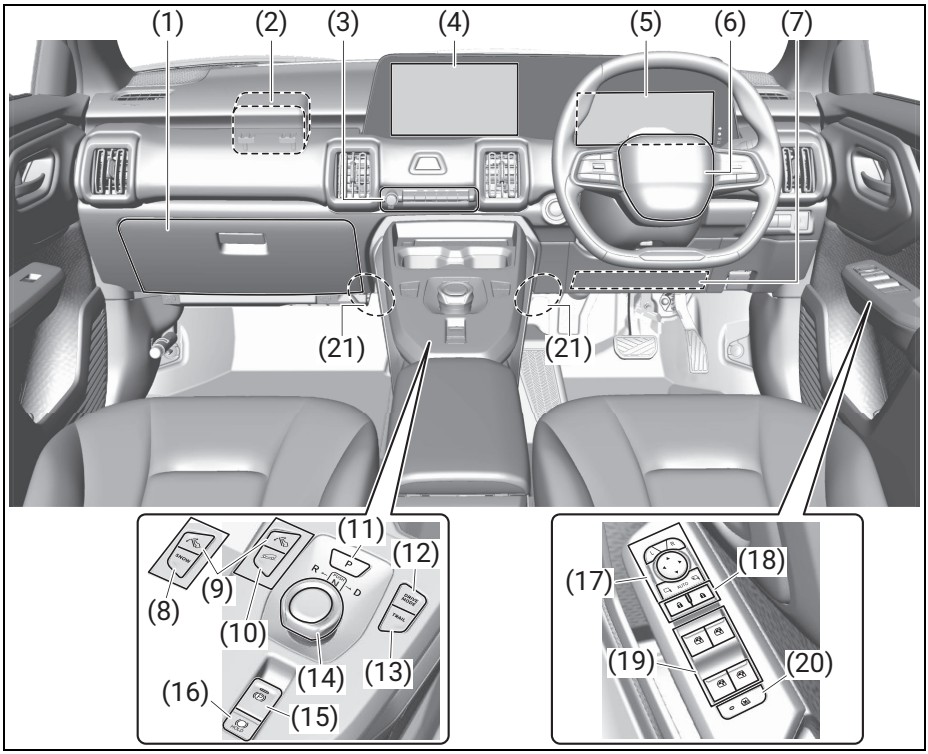
(6) ワイヤレス充電 **(>>> P.426)**

(7) LED アンビエントライト（センターコンソールミドルトレイ） **(>>> P.402)**

(8) アクセサリーソケット **(>>> P.414)**

(9) HDMI 端子 (別冊 ※1)
(10) USB ソケット **(>>> P.415)**
(11) USB 電源ソケット **(>>> P.415)**
(12) パワースイッチ **(>>> P.248)**
(13) テレスコピック＆チルトステアリング（レバー） **(>>> P.228)**
(14) ボンネットオープナー **(>>> P.442)**
(15) 全方位カメラスイッチ **(>>> P.349)**
※1 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

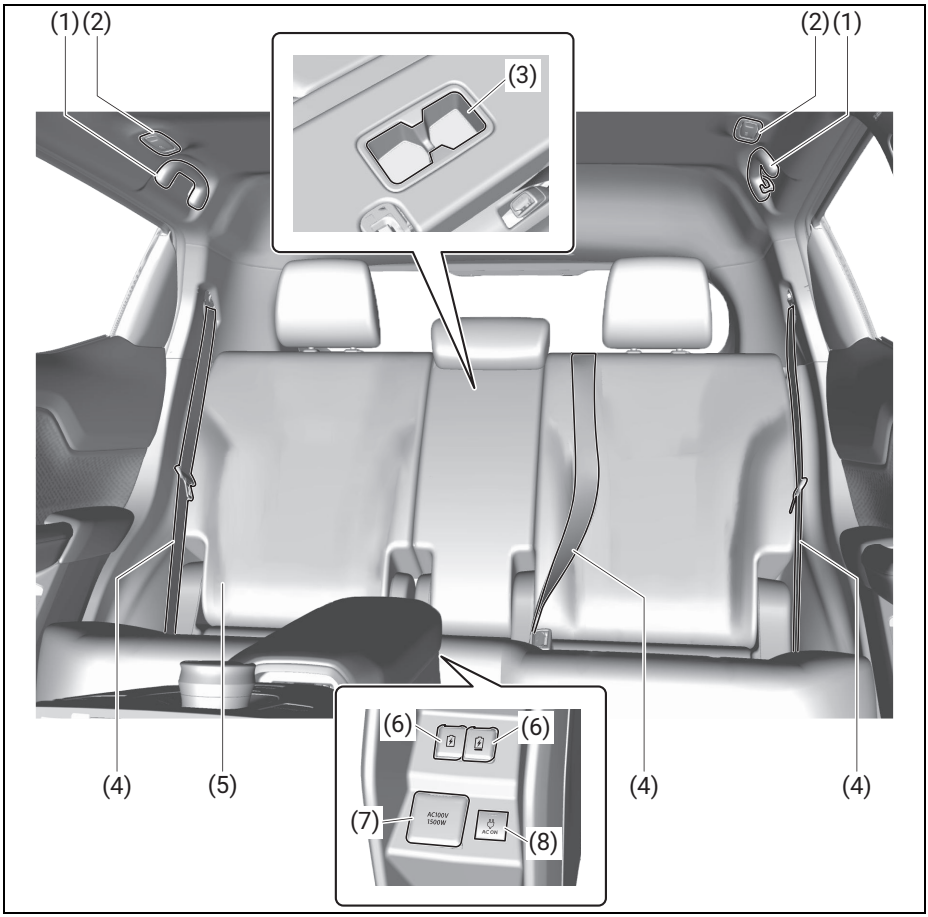
フロント



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。
(1) グローブボックス **(>>> P.404)**
(2) 助手席 SRS エアバッグ **(>>> P.52)**
(3) エアコン、ヒーター **(>>> P.387)**
音量調節スイッチ **(>>> P.433)**
(4) センターディスプレイ **(>>> P.156)**
(5) メーター **(>>> P.148)**

(6) 運転席 SRS エアバッグ **(>>> P.52)**
ホーンスイッチ **(>>> P.228)**
(7) 運転席 SRS ニーエアバッグ **(>>> P.52)**
(8) スノーモードスイッチ（2WD 車） **(>>> P.259)**
(9) イージードライブペダルスイッチ **(>>> P.258)**
(10) ヒルディセントコントロールスイッチ（4WD 車） **(>>> P.260)**
(11) P ポジションスイッチ **(>>> P.255)**
(12) ドライブモードスイッチ **(>>> P.258)**
(13) トレイルモードスイッチ（4WD 車） **(>>> P.259)**
(14) ダイヤルシフト **(>>> P.253)**
(15) パーキングブレーキスイッチ **(>>> P.264)**
(16) ブレーキホールドスイッチ **(>>> P.266)**
(17) ドアミラー角度調整スイッチ **(>>> P.229)**
ドアミラー格納スイッチ **(>>> P.230)**
(18) パワードアロックスイッチ **(>>> P.208)**
(19) パワーウインドースイッチ **(>>> P.233)**
(20) ウインドーロックスイッチ **(>>> P.234)**
(21) 足元照明 **(>>> P.402)**

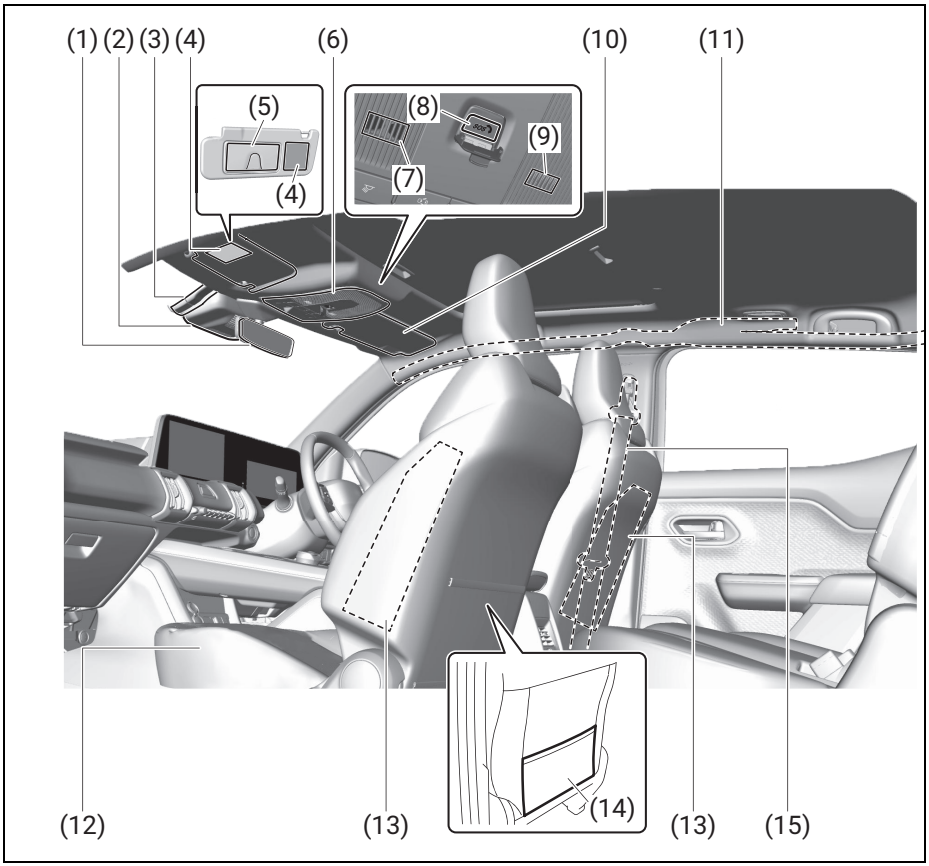
リヤ



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) 可倒式アシストグリップ **(>>> P.412)**
(2) 後席室内灯 **(>>> P.401)**
(3) ドリンクホルダー **(>>> P.406)**
(4) シートベルト **(>>> P.35)**
(5) 後席シート **(>>> P.221)**
(6) USB 電源ソケット **(>>> P.415)**
(7) AC 電源コンセント（100V、1,500W）[非常時給電モード付] **(>>> P.416)**
(8) AC 電源コンセント ON/OFF スイッチ **(>>> P.416)**

サイド



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) ルームミラー **(>>> P.229)**
(2) 前方カメラ（DSBS II） **(>>> P.281)**
(3) レインライトセンサー **(>>> P.274)**
(4) 助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル（※1、※2） **(>>> P.46)**
(5) バニティ ― ミラー／チケットホルダー **(>>> P.411) (>>> P.411)**
(6) 前席室内灯 **(>>> P.400)**
(7) ハンズフリーマイク **(>>> P.433)**
(8) SOS ボタン **(>>> P.477)**
(9) マイク（スズキ緊急通報） **(>>> P.477)**
(10) サンバイザー **(>>> P.411) (>>> P.411)**
(11) SRS カーテンエアバッグ **(>>> P.48)**

(12) 前席シート **(>>> P.218)**

(13) SRS サイドエアバッグ **(>>> P.48)**

(14) シートバックポケット **(>>> P.406)**

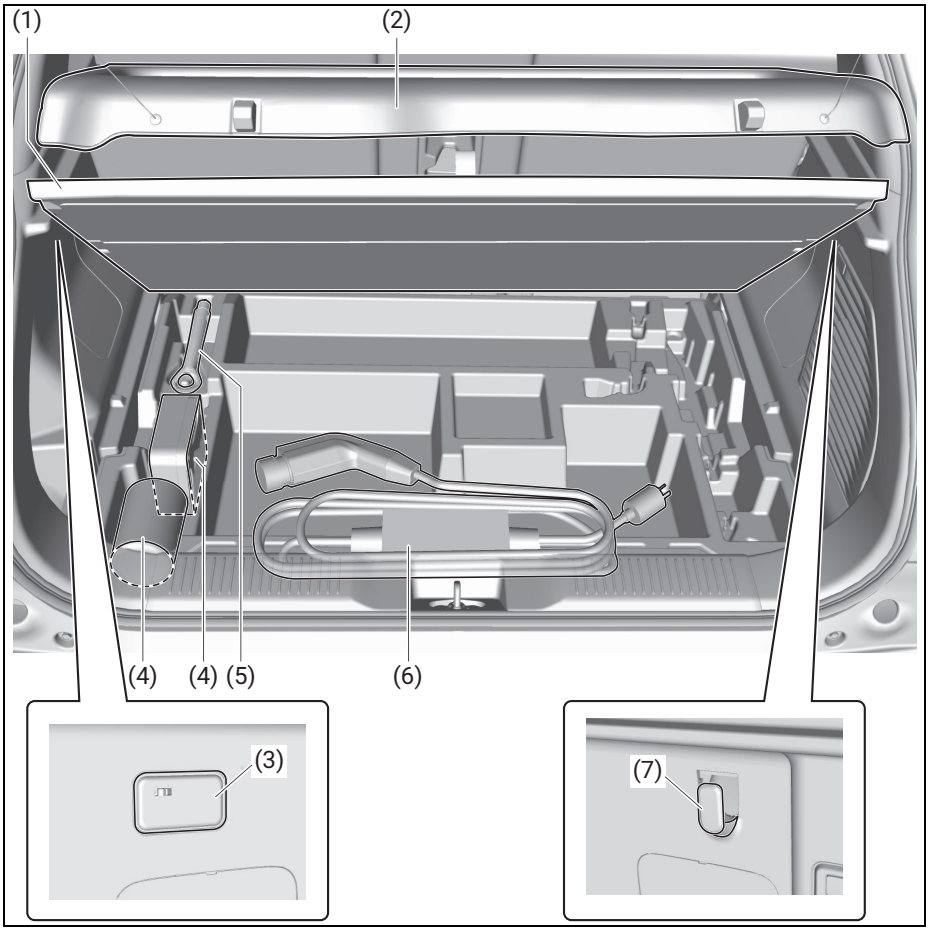
(15) シートベルト **(>>> P.35)**

※1 お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。

※2 前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。



荷室



(1) ラゲッジボード **(>>> P.409)**
(2) ラゲッジシェルフ **(>>> P.408)**
(3) 荷室室内灯 **(>>> P.403)**
(4) タイヤパンク応急修理セット **(>>> P.482)**
(5) けん引フック **(>>> P.472)**
(6) 普通充電ケーブル **(>>> P.92)**
(7) ショッピングフック **(>>> P.408)**

警告ブザーが鳴ったときは

車両状態や対処方法などに関する警告と注意事項を、ブザー音や音声案内でお知らせします。

次の表は、ブザー音や音声案内でお知らせする状況を示しています。

- ※1 は、ブザー音や音声案内とともに、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
- 音声案内については設定の切替え（カスタマイズ）にて、お知らせ音声および運転サポート音声の設定を変更することができます。

いつ	メーター	原因と対処方法
いずれかのドアまたはボンネットを開けたとき	 2 秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。次のいずれかの操作により警報を途中で停止できます。 • キーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠する • パワースイッチを “ON” にする
パワースイッチを “ON” にしたとき	 約 8 秒間 小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあっていないか車の中を確認してください。
パワースイッチが “ON” のとき	 （赤色） 点灯	ブレーキ液の不足、またはブレーキシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
走行中	 点滅 ※1	• 運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 • いずれかの乗員がシートベルトを着用していません。ベルトを着用してください。 • 助手席に荷物などを載せていると、乗員がいなくても、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し警告ブザーが鳴る場合があります。
	 点灯 ※1	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。
	※1	充電リッドが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。

いつ	メーター	原因と対処方法
運転席ドアを開けたとき	 点灯 ※1	ヘッドライトまたは車幅灯が点灯したままです。これらを消してください。
パワースイッチを “LOCK（OFF）” にもどそうとしたとき	※1	ダイヤルシフトの故障などによりパワースイッチを “LOCK （OFF）” にもどせません。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
パワースイッチが “ON” のとき	 1 秒間隔で点滅 ※1	キーレスプッシュスタートシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
パワースイッチを操作したとき	 点灯 ※1	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れています。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをパワースイッチに当ててください。
パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたとき	 点滅 ※1	パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたときは携帯リモコンを検知していましたが、EV システム始動時に検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置でパワースイッチを操作してください。
いずれかのドアを開閉したとき	 点滅 ※1	携帯リモコンが検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置にしてください。
運転席ドアを開けたとき	—	パワースイッチが “ACC” になっています。“LOCK（OFF）” にもどしてください。
リクエストスイッチを押したとき	—	パワースイッチが “ACC” または “ON” になっています。“LOCK （OFF）” にもどしてください。
	—	携帯リモコンが車内にあります。リモコンを車外に持ち出してください。
	 点灯 ※1	いずれかのドア（バックドアを含む）が完全に閉まっていません。完全に閉めてください。

いつ	メーター	原因と対処方法
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	 点灯 ※1	いずれかのドア（バックドアを含む）が完全に閉まっていません。完全に閉めてください。
走行中	 点灯 ※1	電動パーキングブレーキが解除されていません。電動パーキングブレーキを解除してください。
停車中	—	電動パーキングブレーキの解除、またはブレーキホールドを設定できませんでした。車両状況を確認の上、再設定してください。
パワースイッチが“ON”のとき	 （赤色） 点灯 ※1	ブレーキの効きが悪くなっています。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
	 （黄色） 点灯 ※1	ブレーキの効きが悪くなっています。できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	 点滅 ※1	ESP® のシステムに異常があると点灯します。できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
坂道で停車中	 点灯 ※1	車両が動く可能性があるため、すみやかにブレーキを踏んで、急勾配を避けて駐車してください。
	 HOLD （白色） 点灯 ※1	急坂路ではブレーキホールドシステムでブレーキが保持できず車両が動き出す場合があります。急勾配を避けて駐車してください。

いつ	メーター	原因と対処方法
パワースイッチが“ON”のとき	 点灯 ※1	• パーキングブレーキのシステムに異常がある可能性があります。パーキングブレーキスイッチを数回操作してもメッセージが消えない場合は、できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。 • シートベルトを着用していない、または運転席ドアが開いているため、電動パーキングブレーキを自動解除できません。 シートベルトの着用と運転席ドアが閉まっていることを確認してください。 • ブレーキを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押しているため、電動パーキングブレーキを解除できません。 ブレーキを踏みながらパーキングブレーキスイッチを操作してください。
	 HOLD (白色) 点灯 ※1	• ブレーキホールドの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。 • シートベルトを着用していない、または運転席ドアが開いているため、ブレーキホールドが作動しません。 シートベルトの着用と運転席ドアが閉まっていることを確認してください。 • ブレーキを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押しています。 ブレーキを踏みながら操作してください。
走行中	※1	シフト制御システムに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

よくあるご質問（Q & A）

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

ドアの開閉

Q キーレスエントリーが作動しない。

A キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。**(>>> P.212)**

A 携帯リモコンの電池が消耗しているときは、交換してください。**(>>> P.449)**

Q ドアを開けたら警報が鳴る。

A 警報装置（セキュリティアラーム）が作動しています。**(>>> P.75)**

窓ガラス

Q フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。

A デフロスタースイッチをご使用ください。 **(>>> P.391)**

Q バックドアガラス内側のくもりを取りたい。

A リヤデフォッガースイッチをご使用ください。 **(>>> P.392)**

タイヤ

Q パンクした。

A パンクの状態によっては、タイヤパンク応急修理セットをご使用いただくことで、応急修理ができます。**(>>> P.482)**

バッテリーあがり

Q バッテリーがあがり、EV システムが始動できない。

A 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、EV システムを始動してください。**(>>> P.493)**

スズキ セーフティ サポート

Q スズキセーフティサポートが作動するとき、作動しないときを知りたい。

A 次の項目をお読みください。 **(>>> P.279)**

電装品

Q　電気装置が使用できなくなった。

A　ヒューズを点検してください。**(>>> P.450)**

EV システム

Q　EV システムが始動しない。

A　充電ケーブルが接続されているか確認してください。**(>>> P.107) (>>> P.113)**

A　ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押しているか確認してください。**(>>> P.248)**

A　シフトポジションが“P”になっているか確認してください。**(>>> P.254)**

A　携帯リモコンが車内の検知範囲にあるか確認してください。**(>>> P.217)**

A　携帯リモコンの電池が消耗していないか確認してください。**(>>> P.215)**

A　鉛バッテリーが消耗していないか確認してください。**(>>> P.495)**

MEMO

1. 安全なドライブのために

安全にお使いいただくために 30
運転する前に 30
安全なドライブのために 31
シートベルト 35
シートベルトの着用のしかた・外しかた.....39
SRS エアバッグ.....43
SRS エアバッグシステムの作動 51

お子さまの安全のために 57
お子さまを乗せるときは 57
お子さま用シート 61
座席位置別のお子さま用シート適合性について.....64
お子さま用シートの取り付け 68

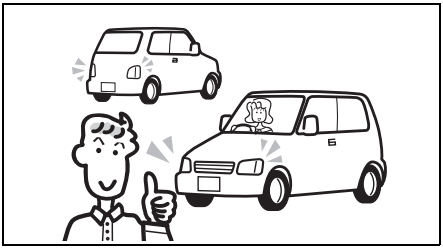
警報装置.....74
イモビライザーシステム 74
セキュリティアラーム（警報装置）75

運転する前に

日常点検を確実に

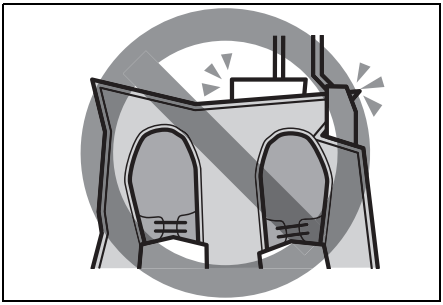
車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

詳しくは、メンテナンスノート（日常点検）をご覧ください。



車にあったフロアマットを適切に使用する

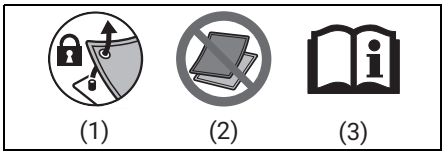
フロアマットが前方に滑り、ペダルの操作のさまたげになることを防ぐため、この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。



⚠ 警告

- **次の注意事項をお守りいただかないと、ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがあります。**

警告ラベルの説明



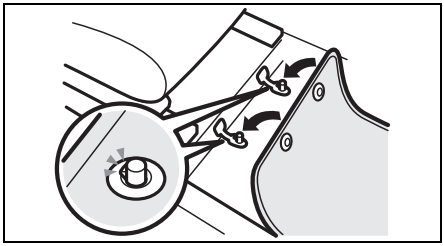
(1) フロアマットが固定具に固定されていることを確認してください。

(2) フロアマットを重ねて敷かないようにしてください

(3) 詳しくは、取扱説明書（本書）をお読みください。

<u>スズキ純正フロアマットの例</u>

運転席および助手席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。



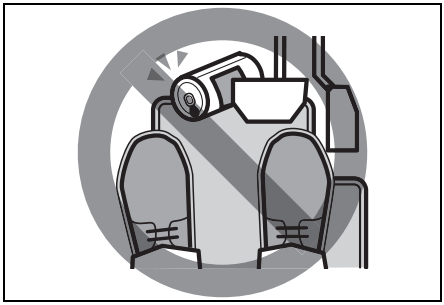
- **フロアの形状に合わないフロアマットは絶対に使用しないでください。**

運転席の足元付近にものを置かない

⚠ 警告

空き缶などを足元に放置すると、ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

空き缶などを足元に放置しないでください。またシート上の荷物は床に落ちないように固定してください。



車両が損傷している状態で走行しない

⚠ 警告

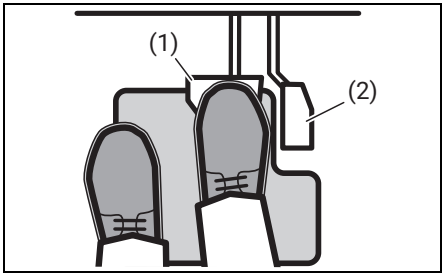
車両が損傷していたり、警告灯が点滅または点灯したり警告ブザーが鳴っているときは、スズキ販売店またはスズキ代理店に相談し、速やかに点検、修理を受けてください。損傷の状況によっては車両火災や故障につながるおそれがあります。

安全なドライブのために

運転席にすわって

1) ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートやハンドルを調節します。 **(>>> P.218) (>>> P.228)**

2) アクセルペダルとブレーキペダルの位置を右足で確認します。

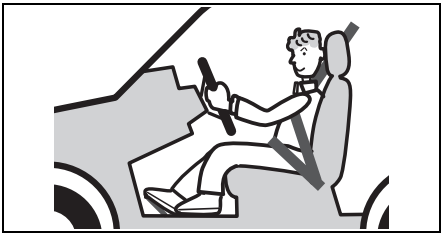


(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に

⚠ 警告

- **走行中にハンドル、シート、ルームミラーやドアミラーの調節をするとハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。ハンドルやシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節は走行前に行なってください。(>>> P.218) (>>> P.228) (>>> P.229)**
- **背もたれを倒しすぎると、万一のときにヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。背もたれを必要以上に倒さないでください。**



正しい運転姿勢

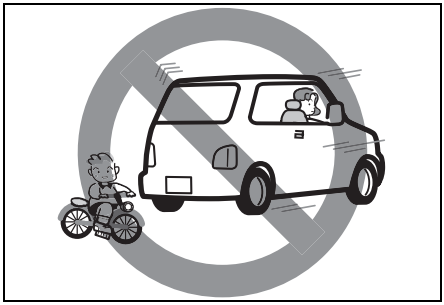
正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。
- メーター全体が見えるようにハンドル位置を調整してください。



周囲をよく確認してから発進する

周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。



⚠ 注意

全方位モニター、パーキングセンサー、バックミラーだけでは周囲の安全が十分に確認できません。車を前進または後退させるときは、直接目視で周囲の安全を確認してください。

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

⚠ 警告

- **運転中に携帯電話などを操作すると、電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。



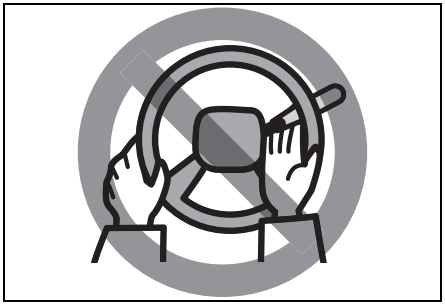
- **走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  運転者は、走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない

⚠ 警告

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作すると、ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

スイッチなどを操作するときは、ハンドルの中に手を入れて操作しないでください。



ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

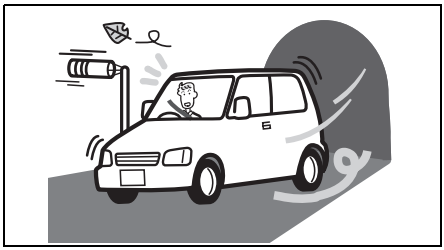
⚠ 注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。

横風が強いときは

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通りすぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。



草の生い茂った場所は走行しない

⚠ 警告

草などが駆動系部品にからまると、駆動装置が損傷するおそれがあります。

草の生い茂った場所は走行しないでください。

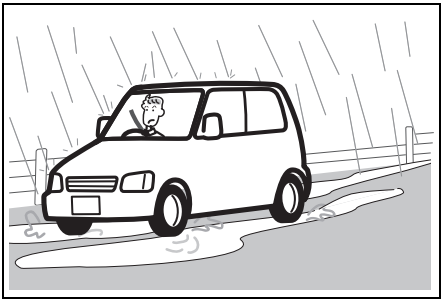


滑りやすい路面ではゆっくり走る

⚠ 注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などで、「急」のつく運転をすると、スリップ事故につながるおそれがあります。

濡れた路面や凍結路､積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど「急」のつく運転はしないでください。

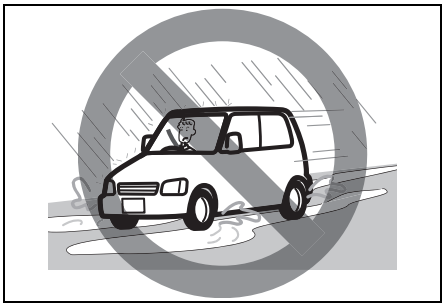


水たまりを高速で通り抜けない

⚠ 注意

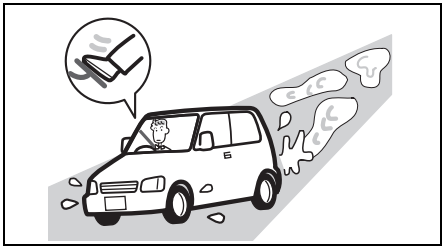
水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けないでください。



水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。



シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

シートベルトは正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため必ず全員に着用させましょう。

⚠ 警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **万一のときにシートベルトが本来の効果を十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことをお守りください。**
  - **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮できないおそれがあるため、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
  - **シートベルトが損傷するおそれがあるため、シートベルトをドアにはさまないようにしてください。ドアを閉める前に、シートベルトがたるみなく巻き戻されているか確認してください。**
  - **シートベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

シートベルトは正しく着用

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。 **(>>> P.39)**



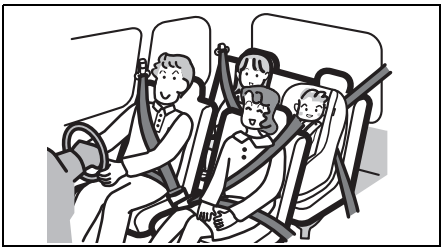
⚠ 警告

シートベルトを正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあります。

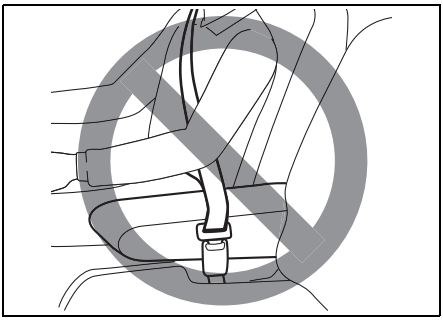
シートベルトを正しく着用し、次のことに注意してください。

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腰部でなく腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに内臓が強く圧迫されるおそれがあります。**

- **ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前方に投げ出されるおそれがあります。**



- **アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下を通してください。**

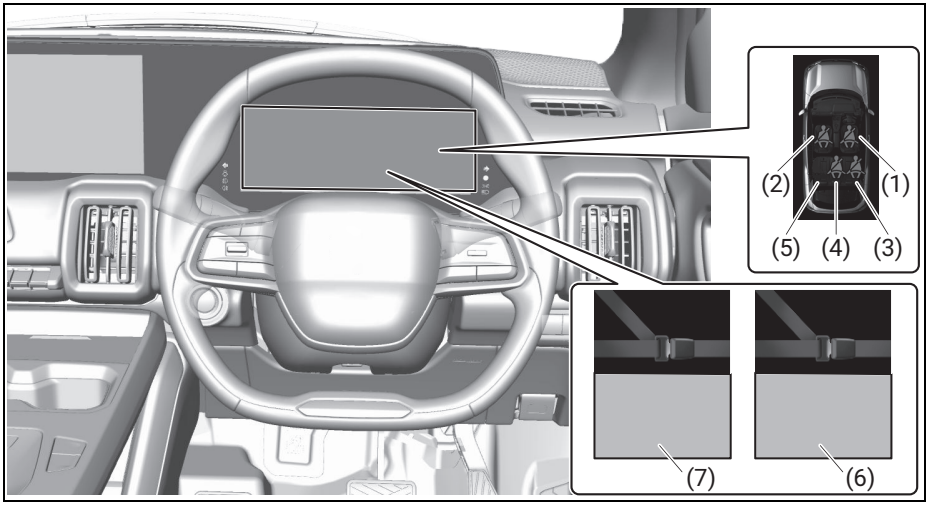


- **お子さまを乗せるときは、次の参照先をお読みください。 (>>> P.57)**
- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**



シートベルト非着用警告

運転者または助手席および後席の乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告灯が点滅または点灯し、シートベルトを着用するように促します。



(1) 運転席シートベルト警告灯
(2) 助手席シートベルト警告灯
(3) 後席シートベルト警告灯（後席右）※1
(4) 後席シートベルト警告灯（後席中央）※1
(5) 後席シートベルト警告灯（後席左）※2
(6) “ 運転席シートベルトが外れています ”
(7) “ 助手席シートベルトが外れています ”

※1 シートベルトが着用されていないことを示しています
※2 シートベルトが着用されていることを示しています

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあります。

EV システムを始動する前にシートベルトを正しく着用してください。

アドバイス

シートベルト警告灯が点灯すると、シートベルト警告がメーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

運転席シートベルト非着用警告

運転者がシートベルトを着用していないと、パワースイッチが “ON” のとき、次のように作動します。

1) 運転席シートベルト警告灯が点灯します。
2) 車速が約 15 km/h 以上になると、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切替わります。

3)シートベルトが着用されるまで、警告灯は点灯します。

運転中にシートベルトを外すと、車両の速度に応じて 1) または 2) から作動します。

- 車速が約15 km/h未満のときは、1)から作動します。
- 車速が約15 km/hを超えるときは、2)から作動します。

警告は、シートベルトを着用するかパワースイッチを “LOCK （OFF）” にすると解除されます。

助手席シートベルト非着用警告

助手席または後席で乗員がシートベルトを着用していないと、パワースイッチが “ON” のときに作動します。

警告のしかたは、運転席シートベルト非着用警告と同様です。

! 注記

- **助手席のシートクッションにはシートベルトリマインダーのセンサーが内蔵されています。シートクッションの上に重いものや尖ったもの等を置いたり、助手席の取り外しや分解、改造等を行なったりすると、センサーが誤作動したり破損したりするおそれがあります。シートクッションの上に重いものや尖ったもの等は置かないでください。助手席および後席の取り外しや分解・改造は行なわないでください。**
- **シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。助手席シートベルトリマインダーセンサーが損傷するおそれがあります。**
- **シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面、ヒーターやシートベルトリマインダーセンサーが損傷する原因となります。**
- **シートのお手入れは、次の参照先を確認してください。 (>>> P.440)**

アドバイス

- 助手席に荷物などを載せていると、乗員がいなくても、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し警告ブザーが鳴る場合があります。
- 助手席にお子さまや小柄な大人が乗車したり、クッションを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しない場合があります。

後席シートベルト非着用警告

後席の乗員の有無にかかわらずシートベルトを着用していないと点灯します。

パワースイッチを “ON” にして走行を開始すると、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときから約 65 秒間点灯したあと消灯します。また、走行していないときに後席ドアを開けたときも点灯します。

- 次のような場合、後席シートベルト警告灯が約 65 秒間点滅するとともにシートベルト警告ブザーが約 35 秒間鳴り続けます。シートベルト警告ブザーが停止したあと約30秒たつと後席シートベルト警告灯が点滅から点灯に切り替わります。
  - 車速が約 15 km/h 以上になったあとに後席シートベルトをはずした場合
  - 後席ドアを開かずに後席シートベルトをはずしたあと車速が約 15 km/h 以上になった場合

後席シートベルトが着用される、もしくはパワースイッチを “LOCK（OFF）” に

すると、後席シートベルト非着用警告は解除されます。

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。**(>>> P.440)**

⚠ 警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

シートベルトの着用のしかた・外しかた

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

シートベルトの着用のしかた

1) タングプレートとシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

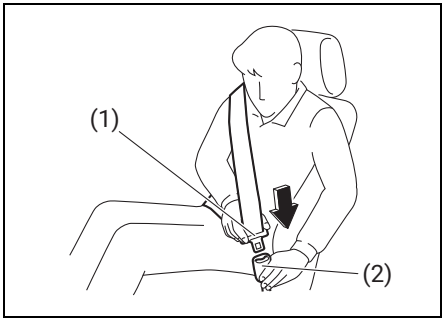


(1) タングプレート

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2) タングプレートをバックルの差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



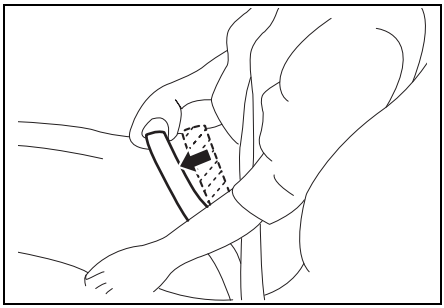
(1) タングプレート
(2) バックル

アドバイス

後席左側用のバックルとの間違い防止のため、後席中央席のバックルには、“CENTER” の表示があります。

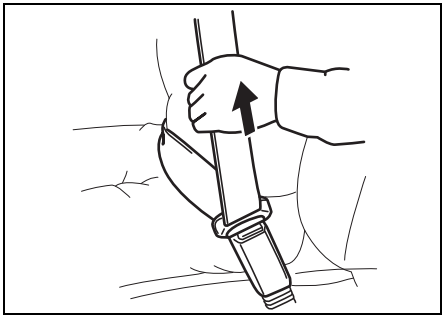
3) ベルトを引っ張るなどして、タングプレートがバックルに確実に固定されていることを確認します。

4) 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。



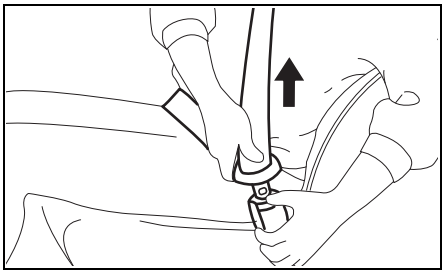
5) 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

6) ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。



シートベルトの外しかた

バックルのボタンを押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



アドバイス

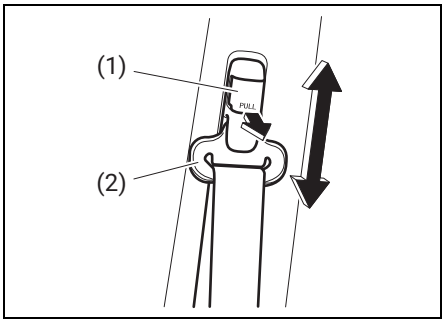
ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

肩ベルトの高さ調節（前席のみ）

身体の大きさにあわせて、シートベルトが正しく着用できるようにショルダーアンカーの高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。

- 下に調節するときは、ロックレバーを引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



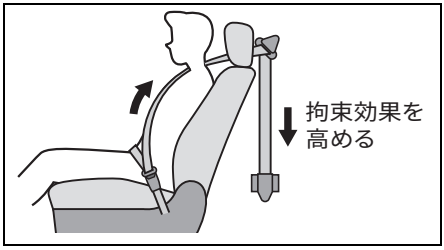
(1) ロックレバー
(2) ショルダーアンカー

シートベルトプリテンショナー（前席および後席の左右）

シートベルトプリテンショナーとは

パワースイッチが “ON” のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。衝撃の強さなどによっては、運転席・助手席 SRS エアバッグシステムと連動する場合と、シートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。
- 車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けたとき。SRS サイド／カーテンエアバッグシステムと連動しています。**(>>> P.30)**



⚠ 警告

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

廃棄や廃車

作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

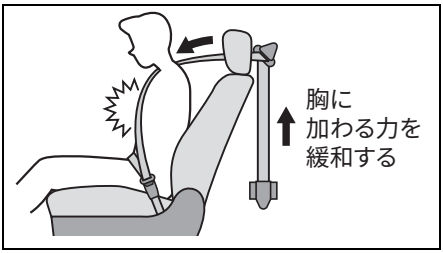
⚠ 警告

プリテンショナーを廃棄する場合、不適切に扱うと、プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

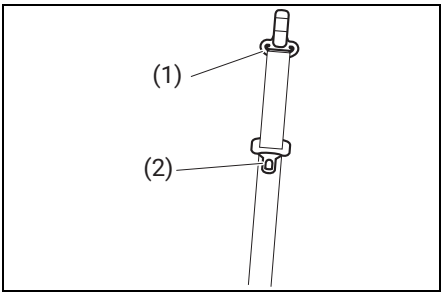
シートベルトフォースリミッター（前席および後席の左右）

事故等でシートベルトが強い力で引かれたときに、乗員の胸部への衝撃を緩和する機構です。



⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部およびタングプレート部の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

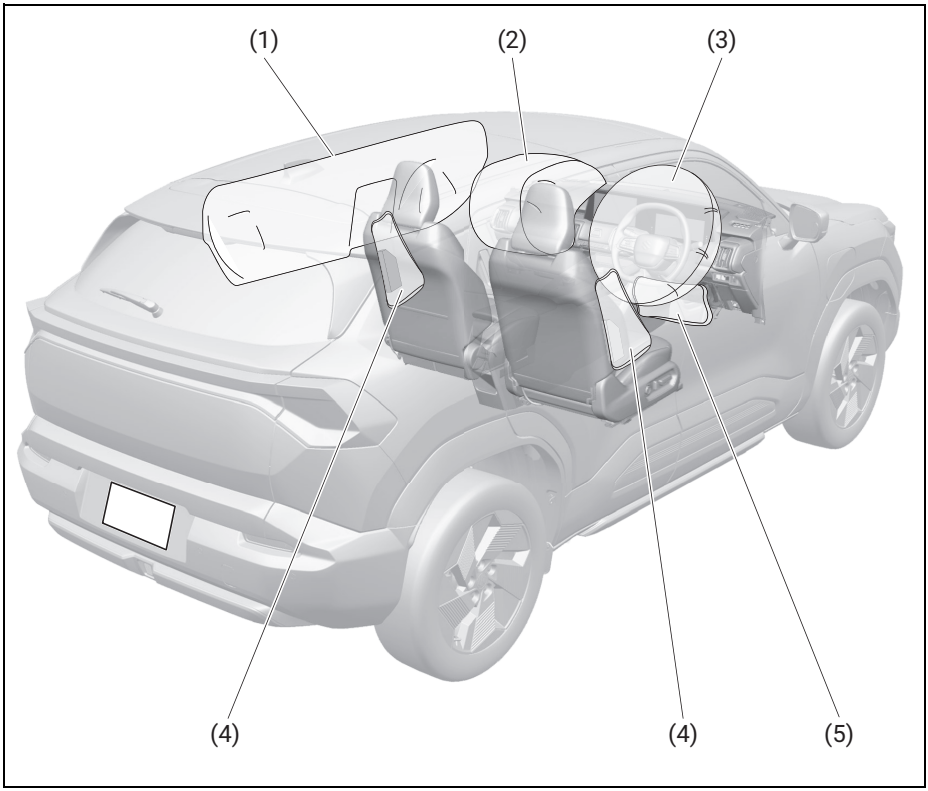


(1) ショルダーアンカー部
(2) タングプレート部

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは衝突による強い衝撃を受けたときにふくらみ、運転者および乗員への衝撃をやわらげます。

この車両には、次の SRS エアバッグが装備されています。



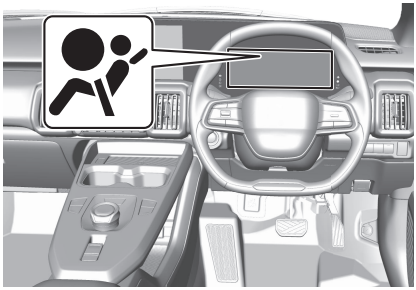
(1) SRS カーテンエアバッグ
(2) 助手席 SRS エアバッグ
(3) 運転席 SRS エアバッグ
(4) SRS サイドエアバッグ
(5) 運転席 SRS ニーエアバッグ

SRS エアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System の略で、補助拘束装置の意味です。

- メーター内のSRSエアバッグ警告灯は、パワースイッチが“ON”のときに、次のような状況で点灯します。
  点灯した場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したとき
- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があるとき



⚠ 警告

- **SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。**
  シートベルトを装着していないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  SRS エアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- **シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できず、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。**
  シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。

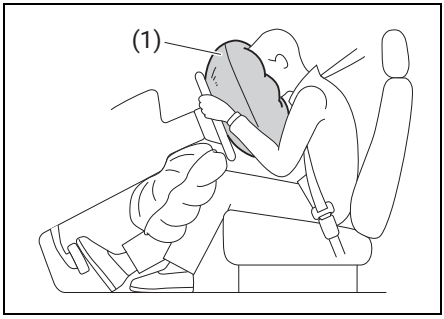
アドバイス

この車は、イベントデータレコーダー（EDR）システムにより、SRS エアバッグが作動したときのデータを記録・蓄積します。

運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

パワースイッチが “ON” の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インストルメントパネルに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席･助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した運転席・助手席乗員の主に顔面への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。**(>>> P.39)**
- イラストは、運転席側が作動したときを代表しています。



(1) SRS エアバッグ

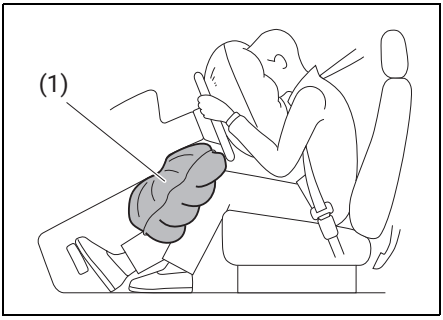
運転席 SRS ニーエアバッグシステム

運転者の下半身への衝撃をやわらげます。

パワースイッチが “ON” の場合に、車の前方向から強い衝撃を受けると、運転席 SRS ニーエアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席SRSニーエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS ニーエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを

着用した運転席の主に下半身への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。**(>>> P.39)**

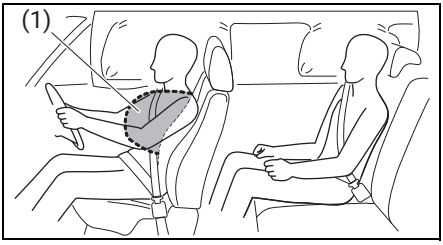


(1) SRS ニーエアバッグ

SRS サイドエアバッグシステム

パワースイッチが “ON” の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席乗員の胸部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）の SRS サイドエアバッグが SRS カーテンエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRSサイドエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS サイドエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席乗員の主に胸部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。**(>>> P.39)**
- イラストは、運転席側が作動したときを代表しています。



(1) SRS サイドエアバッグ

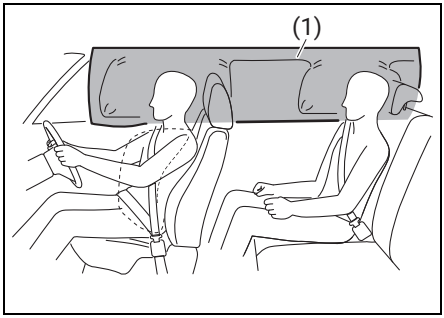
アドバイス

SRS サイドエアバッグは、乗員の有無に関係なく、衝撃を受けた側の SRS サイドエアバッグがふくらみます。

SRS カーテンエアバッグシステム

パワースイッチが “ON” の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席および後席外側乗員の頭部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）の SRS カーテンエアバッグが SRS サイドエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRSカーテンエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS カーテンエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席および後席外側乗員の主に頭部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。**(>>> P.39)**
- イラストは、運転席側が作動したときを代表しています。



(1) SRS カーテンエアバッグ

アドバイス

SRS カーテンエアバッグは、乗員の有無に関係なく、衝撃を受けた側の SRS

サイド／カーテンエアバッグがふくらみます。

SRS エアバッグ車を運転するときは

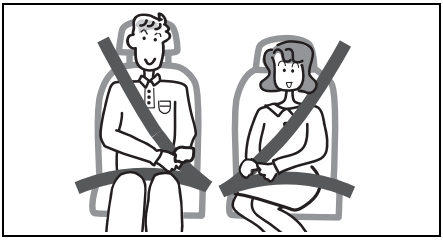
シートベルトは必ず着用

⚠ 警告

SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。

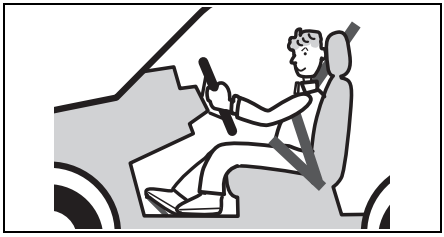
シートベルトを装着していないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。



着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。**(>>> P.32)**



⚠ 警告

- **ハンドルやインストルメントパネルに顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしていると、SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  ハンドルやインストルメントパネルに顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。
- **SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。**



助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響

と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。

この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくお読みになり、適切に取り付けてください。



⚠ 警告

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席SRSエアバッグ装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席SRSエアバッグがふくらむと、後ろ向きお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱説明書（本書）を読むことを指示 **(>>> P.57) (>>> P.62)**

表示と収納場所

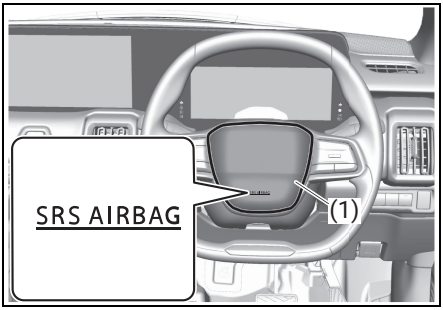
“SRS AIRBAG”の表示がある付近に収納されています。

⚠ 警告

- **エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりすると、万一のときにエアバッグが正常に作動できず、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。
- **エアバッグの収納場所を強打したり衝撃を加えると、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらんだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。

運転席 SRS エアバッグ

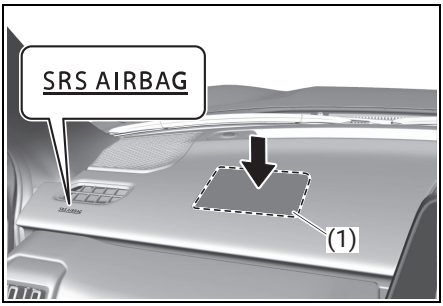
ハンドルの中央部に収納されています。



(1) 運転席 SRS エアバッグ

助手席 SRS エアバッグ

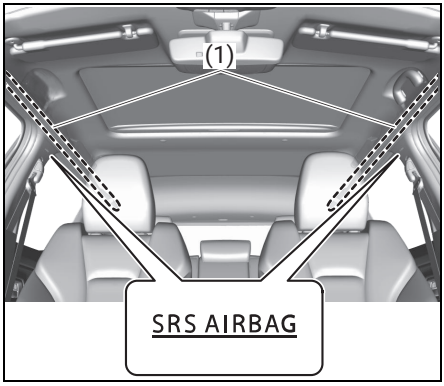
助手席側のダッシュボードに収納されています。



(1) 助手席 SRS エアバッグ

SRS カーテンエアバッグ

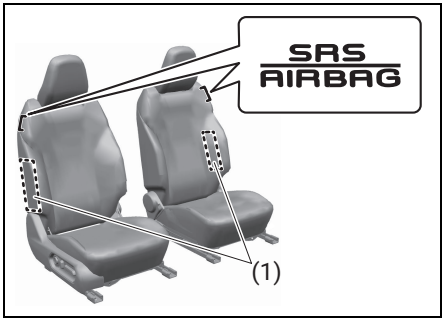
運転席側および助手席側のルーフサイドに収納されています。また、ピラーには図のような表示がついています。



(1) SRS カーテンエアバッグ

SRS サイドエアバッグ

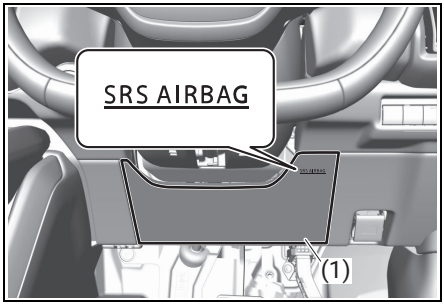
前席背もたれのドア側に収納されています。前席シートには、図のようなタグがついています。



(1) SRS サイドエアバッグ

運転席 SRS ニーエアバッグ

ハンドルの下にあるインストルメントパネルに収納されています。



(1) SRS ニーエアバッグ

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

SRS エアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたり SRS エアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

⚠ 警告

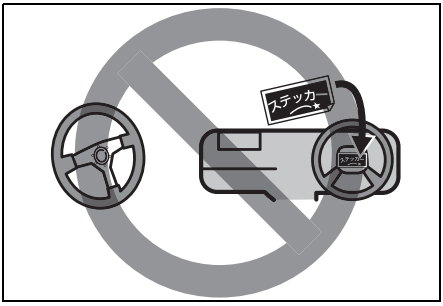
- **万一のときに SRS エアバッグが本来の効果を十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことをお守りください。**
  - **サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因となります。**
  - **車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。**
  - **無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などが SRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。**
  - **SRS エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれているおそれがあります。**
- **SRS エアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手が加えられると、必要でないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
  - **ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理**
  - **インストルメントパネルまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理**
  - **オーディオ用品などの取り付け**
  - **ダッシュボード周辺の板金塗装および修理**
  - **前席シートの交換およびシートまわりの修理**
  - **フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理**
  - **センターピラーまわりの修理**

運転席 SRS エアバッグについて

⚠ 警告

- **SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけると、SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。ハンドルにもたれかかるなどして、収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。**
- **万一のときにSRSエアバッグが本来の効果を十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことをお守りください。**

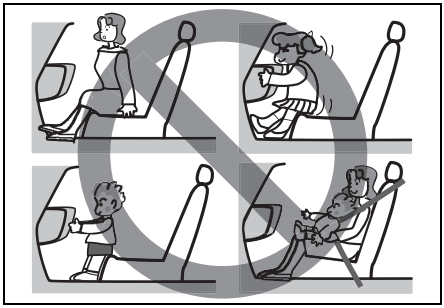
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。



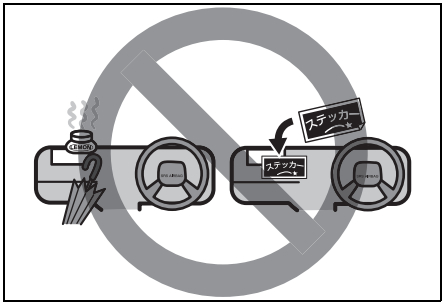
助手席 SRS エアバッグについて

⚠ 警告

- 助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - インストルメントパネルのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
  - お子さまをSRSエアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



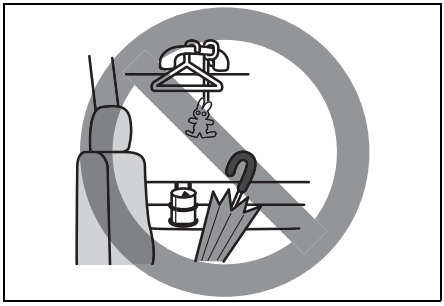
- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。
- 万一のときに SRS エアバッグの本来の効果が十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - エアバッグ収納部およびその周辺に、ステッカーを貼る、色をぬる、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付ける、置く、傘を立てかけるなどしないでください。
  - フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。



SRS サイド／カーテンエアバッグについて

⚠ 警告

- **スズキ純正シートカバーを正しい向きと位置に取り付けないと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、純正の専用品以外のものを使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなる原因となります。**
  前席にシートカバーを取り付けるときは、SRS サイドエアバッグ装備車専用のスズキ純正シートカバーを使用し、付属の取扱説明書をよくお読みください。
- **ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけると、SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、これらのものが飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  - **ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。**



SRS エアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠ 警告

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキ販売店またはスズキ代理店で交換してください。

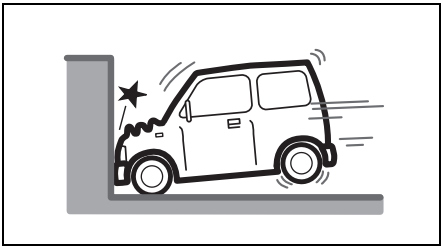
⚠ 注意

- **SRS エアバッグ作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。**
  SRS エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。
- **エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。**
  ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

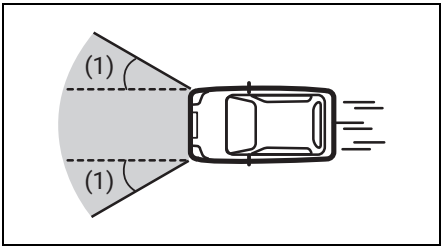
運転席･助手席 SRS エアバッグ、運転席 SRS ニーエアバッグ

こんなとき作動します

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約 25 km/h 以上の速度で正面衝突したとき



- 車両前方左右約 30° 以内の方向から、上図の正面衝突と同等の強い衝撃を受けたとき

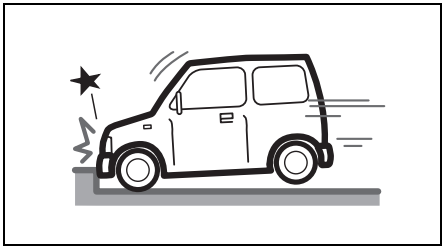


(1) 約 30°

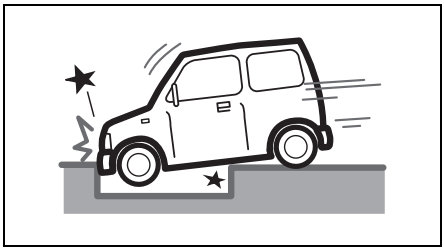
こんなとき作動することがあります

車体下部に強い衝撃を受けると、作動することがあります。

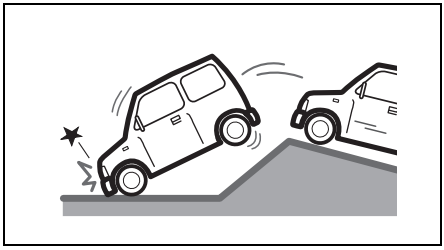
- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



- 深い穴や溝などに落ちたとき



- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき

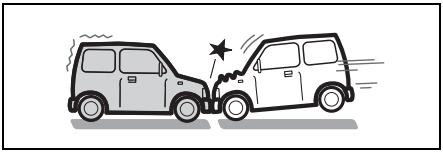


こんなとき作動しないことがあります

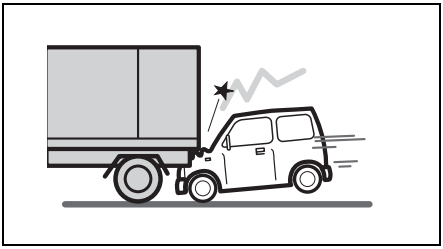
衝突の相手が変形または移動しやすかったり、自車の衝突部位が変形しやすかったりして強い衝撃が発生しない場合は作動しません。

また、衝突の角度が車両前方左右約 30 ° を超えるとき、多くの場合は作動しません。

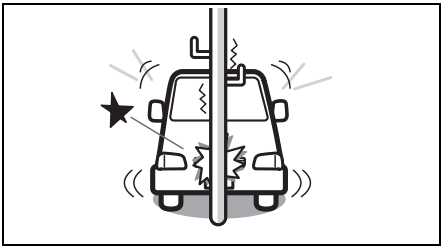
- 停車している同程度の重さの車に、50 km/h 程度、もしくはそれ以下の速度で前面衝突したとき



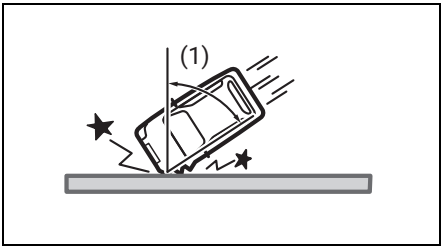
- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



- 電柱や立木などに衝突したとき

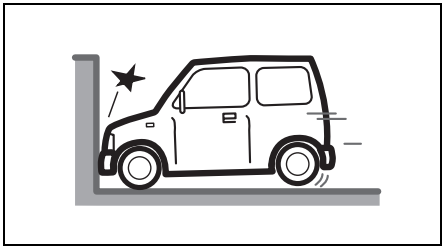


- 車両前方左右約 30° を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



(1) 約 30°

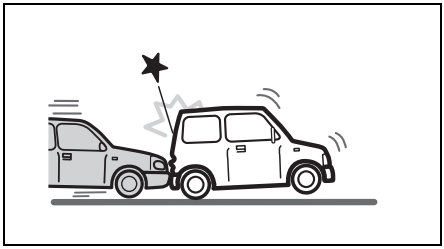
- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約 25km/h よりも低いとき



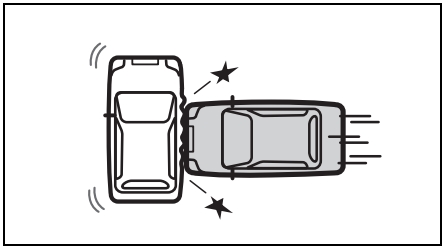
こんなときは作動しません

後方、横方向からの衝突、横転などでは作動しません。衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

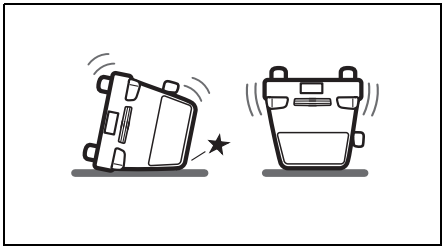
- 後方からの衝突



- 横方向からの衝突



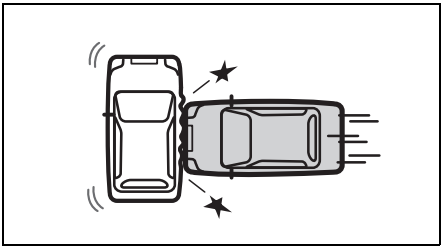
- 横転や転覆をしたとき



SRS サイド／カーテンエアバッグ

こんなとき作動します

- 一般的な乗用車に約 30 km/h 以上の速度で真横から客室部に衝突されたとき、またはそれと同等以上の衝撃を受けたとき

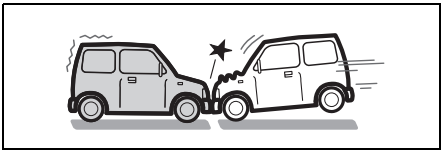


こんなとき作動することがあります

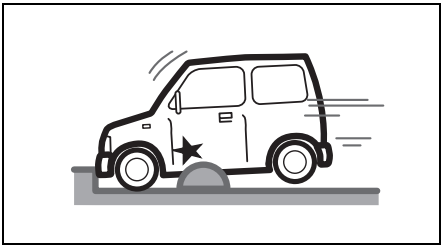
前面衝突でも横方向への衝撃が強いときは作動する場合があります。

また、車両下部に強い衝撃を受けたときに作動する場合があります。

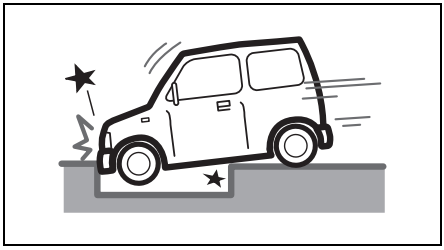
- 前面衝突



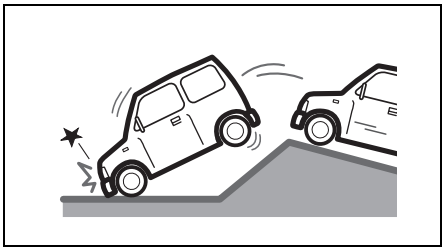
- 縁石や地面の突起物に衝突したとき



- 深い穴や溝などに落ちたとき

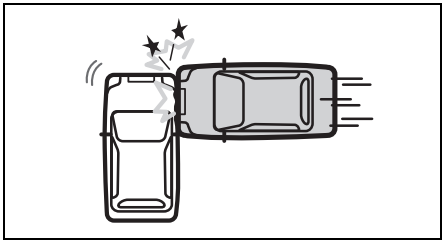


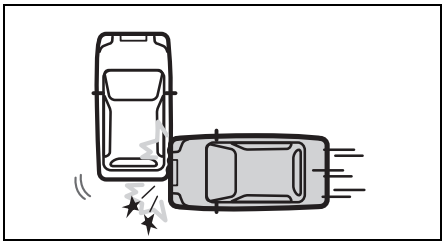
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



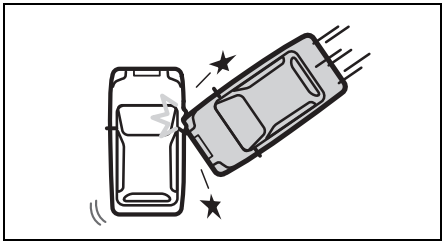
こんなとき作動しないことがあります

- 客室部以外（モータールームや荷室部）に側面から衝突されたとき

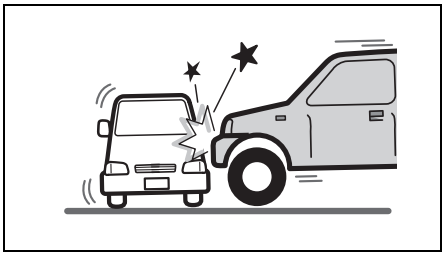




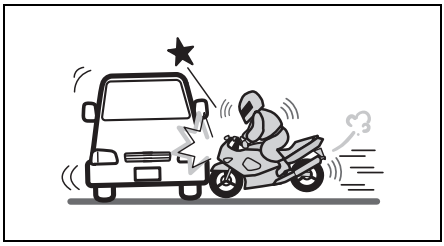
- 側面の斜め方向から衝突されたとき



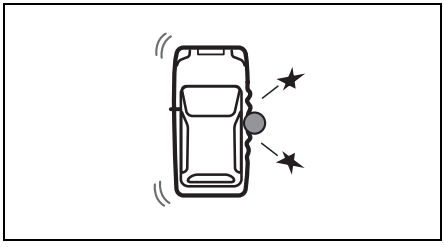
- 車高の高い車に側面から衝突されたとき



- 二輪車に側面から衝突されたとき

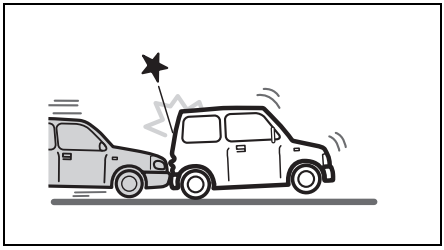


- 電柱、立ち木などに衝突したとき

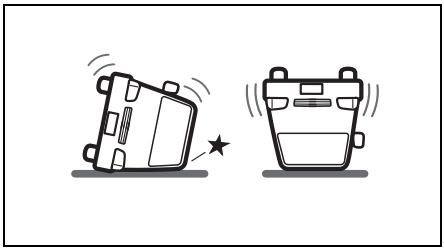


こんなときは作動しません

- 後方からの衝突



- 横転や転覆をしたとき



この車は、SRS エアバッグが作動したときのデータを記録するコンピューターを装備しています。システム全体の状態や、SRS エアバッグの作動に関する情報を記録します。

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠ 注意

エアバッグは正しく取り扱わないと、思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



お子さまを乗せるときは

慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さま用シートを使用する

- お子さまを乗せるときは、お子さま用シートを使用してください。
  ご使用の際は、お子さま用シートの安全基準に適合していることを確認してください。
- すべてのお子さま用シートは、車両に装備されているシートベルトまたはISOFIX 対応お子さま用シート固定用アンカーを使用して座席に固定されるよう設計されています。

アドバイス

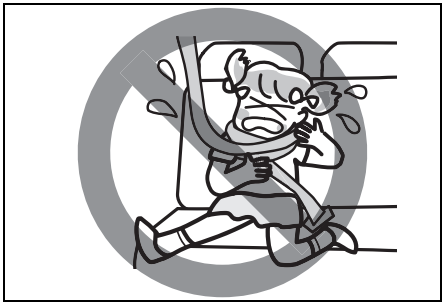
- お子さま用シートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- シートベルトで固定するタイプのお子さま用シートは、種類により取り付け方法が異なる場合があります。
  使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。

シートベルトで遊ばせない

⚠ 警告

お子さまがベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいると、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



お子さまは後席に乗せる

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。



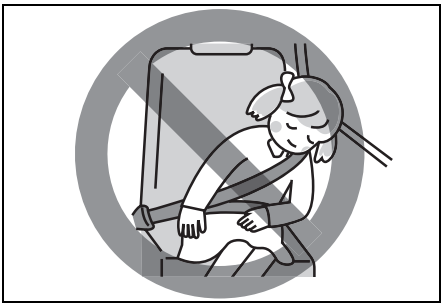
- 後席ドアには、チャイルドプルーフが装備されています
  チャイルドプルーフを使用すると、車内から後席ドアが開かないようにできます。 **(>>> P.209)**

⚠ 警告

- **お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。**
- **お子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。**
  - **助手席を前に出していると、助手席SRS エアバッグが作動したとき**

の強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、助手席を一番後ろに下げてください。

- お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしていると、SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。



- チャイルドプルーフを使用しないと、走行中などに不意にドアが開き、車外に放り出されて重大な傷害につながるおそれがあります。後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフを使用してください。(>>> P.209)
- アームレストやシートを動かすとき、お子さまが手や足などをはさんでけがをするおそれがあります。
アームレストやシート下のレール部など車内の可動部に手や足などを近づけないように注意してください。

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

- シートベルトを装着しないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- この車のシートベルトは成人サイズの乗員に適するように設計されています。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。



- お子さまをしっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
ひざの上にお子さまを抱かないでください。



- **一本のシートベルトを二人以上で使用すると、急ブレーキ時や衝突時などにシートベルトが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- **ベビーシートを使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。 **(>>> P.233)**

⚠ 警告

- **ウインドーがロックされていないと、お子さまの誤った操作により、お子さま自身､あるいは他の乗員がウインドーにはさまれたり巻き込まれたりするおそれがあります。**
  パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。(>>> P.234)
- **パワーウインドーを作動可能なままにしておくと、お子さまの誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  車から離れるときは、お子さまがパワーウインドーを操作することがないように、必ずパワースイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまと一緒に離れてください。

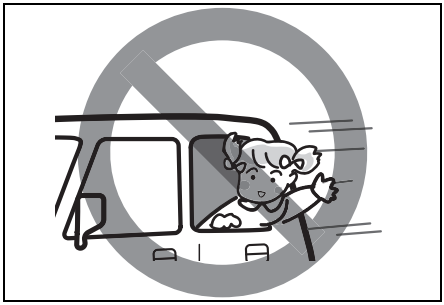


窓から顔や手を出さない

⚠ 警告

お子さまが手や顔などを出していると、急ブレーキで重大な傷害を受けたり､転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれもあります。

お子さまが窓から手や顔などを出さないように注意してください。

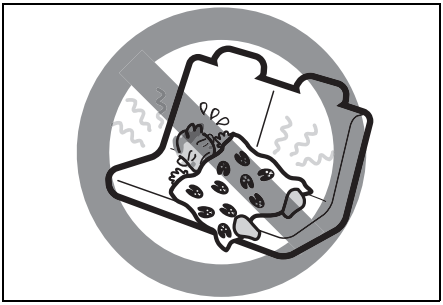


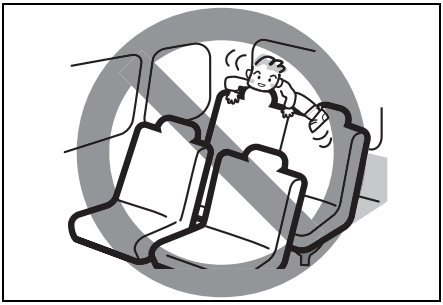
車から離れるときは

⚠ 警告

車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- **お子さまの誤った操作で、火災や車の発進などによる事故につながるおそれがあります。**
- **炎天下の車内は高温になるため、お子さまが熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害や最悪の場合には死亡につながるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。**





お子さまを荷室に乗せない

⚠ 警告

荷室は人が乗る構造になっていません。

荷室へお子さまを乗せて走行すると、急ブレーキなどで重大な傷害につながるおそれがあります。

荷室へお子さまを乗せないでください。また、道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

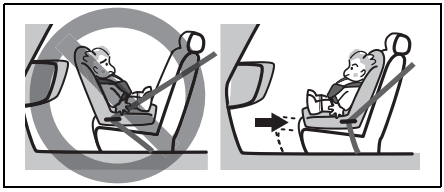
お子さま用シート

お子さま用シートの使用について

- ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- 安全のため、お子さま用シートおよびジュニアシートも後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
- 助手席サンバイザーの両面には、助手席 SRS エアバッグ装備車にお子さま用シートを取り付ける場合の禁止事項などを示した警告ラベルが貼られています。お子さま用シートをご使用の前に、次の参照先を必ずお読みください。**(>>> P.46)**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

- **前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。**
  やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



- **お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしていると、SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。
- **お子さま用シートが正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
- **シートの背もたれを倒すと、お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。
- **事故などで強い衝撃を受けたお子さま用シートを使用すると、万一のときに性能を十分発揮できず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  事故などによりお子さま用シートが強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。

⚠ 注意

お子さま用シートをシートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たり、思わぬけがや破損のおそれがあります。

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。

適切なお子さま用シートの選択について

お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

- 次の参照先ももよくお読みください。 **(>>> P.57)**

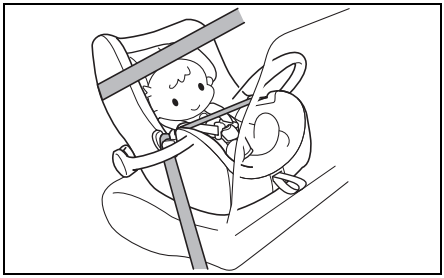
この車は、2006 年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合したISOFIXお子さま用シート固定対応取付装置（ISOFIX アンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。 **(>>> P.69)**

お子さま用シートの種類

代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。



チャイルドシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。



ジュニアシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。



前向き装着のお子さま用シートは、シートベルトが首やあごにかかったり、腰骨にかかってしまうようなお子さまにご使用ください。

- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
  - ISOFIX（※1）/i-Size（※2 ）タイプのお子さま用シート

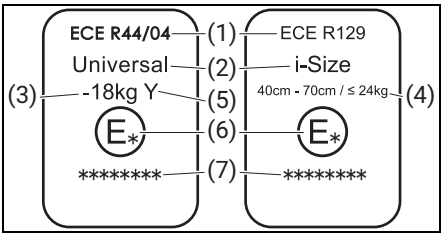
※1 ISOFIX とは、お子さま用シートの取付装置の大きさや取り付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※3)】の規格です。

※2 i-Size は、ISOFIX の使用を前提とし、乳幼児（お子さま）の頭頸部（頭や首）をしっかりと保護する構造を備えたお子さま用シートの安全基準です。従来の体重を基準としたグループ分けではなく、身長を基準にグループ分けされています。

※3 ISO とは、International Organization for Standardization（インターナショナルオーガニゼイションフォー スタンダーディゼイション）の略です。

UN R44/129 の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

UN R44（※1）および UN R129（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



(1) 法規番号（※2）

(2) お子さま用シートのカテゴリー（※3）

(3) 対象となるお子さまの体重範囲

(4) 対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重

(5) 装置の仕様

(6) お子さま用シートを認可した国番号

(7) お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 UN R44 および UN R129 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。

※2 お子さま用シート本体の認証マークに ECE とありますが、内容は UN と同じです。

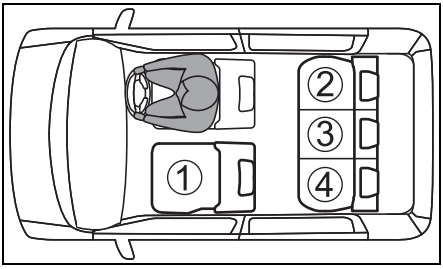
※3 上図の「Universal」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、UN R44 または UN R129 の基準に適合しています。

座席位置別のお子さま用シート適合性について

座席位置別のお子さま用シート適合性



シート位置番号	マーク
①（※1、※2、※3）	U
②（※2、※3）	U
③（※2、※3）	U
④（※2、※3）	U

U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。
	i-Size（※4）お子さま用シートおよび ISOFIX お子さま用シートに適しています。
	テザーアンカーが装備されています。
	前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを絶対に使用しないでください。

※1 お子さま用シートを取り付けるときは、シートは一番後ろに下げてください。

※2 前向きお子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節してください。

※3 ヘッドレストとお子さま用シートが干渉するときは、ヘッドレストをお子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外してください。

※4 i-Size は、ISOFIX の使用を前提とし、乳幼児（お子さま）の頭頸部（頭や首）をしっかりと保護する構造を備えたチャイルドシートの安全基準です。従来の体重を基準としたグループ分けではなく、身長を基準にグループ分けされています。

座席位置別のお子さま用シート適合性の詳細情報

シート位置番号	着席位置			
	①	②	③	④
シートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	有（※1）	有	有	有
i-Size お子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	無	有	無	有
横向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：L1/L2）	無	X	無	X
後ろ向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：R1/R2X/ R2/R3）	無	R1, R2X, R2, R3	無	R1, R2X, R2, R3
前向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：F2X/F2/F3）	無	F2X, F2, F3	無	F2X, F2, F3
ジュニアシートに適する着席位置（治具：B2/B3）	B2, B3	B2, B3	B2, B3	B2, B3

※1 前向きお子さま用シートのみ取り付けができます。

上表に記入する文字の説明

有：お子さま用シートを取り付けることができます。

無：お子さま用シートを取り付けることができません。

X：この治具に対応する ISOFIX 対応お子さま用シートの取り付けには適していません。

ISOFIX 対応お子さま用シートはいくつかの「治具」および「サイズ等級」に分けられます。上表に示す「治具」の着席位置でお子さま用シートを使用することができます。「治具」および「サイズ等級」の関係は次のページをお読みください。

お子さま用シートの「サイズ等級」を確認するために、お子さま用シートに付属の取扱説明書をお読みください。お手持ちのお子さま用シートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、お子さま用シートの「車種別適合表」を参照するか、製造元または販売店にご相談のうえ、適合性を確認してください。

ISOFIX タイプのお子さま用シートの、サイズ等級と治具の関係について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。サイズ等級と治具の関係は次の一覧表をご覧ください。

質量グループ（体重）	サイズ等級	治具	説明
0（10kg まで）	F	L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット ※1）
	G	L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット ※1）
	E	R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
0 ＋（13kg まで）	E	R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
	D	R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	―	R2X	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート (R 2 とは別形状)
	C	R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
I（9 ～ 18kg）	D	R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	―	R2X	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート (R 2 とは別形状)
	C	R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	B	F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
	B1	F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (F2 とは別形状)
	A	F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
II（15 ～ 25kg）	―	―	―
III（22 ～ 36kg）	―	―	―

※1 キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

ジュニアシートタイプのお子さま用シートの治具について

治具	説明
B2	幅が 440 mm のジュニアシート
B3	幅が 520 mm のジュニアシート

推奨お子さま用シート

お子さま用シートには、スズキ純正品をおすすめします。
詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

お子さまの体格	取り付け向き	推奨お子さま用シート	着席位置			
			①	②	③	④
100 cm 以下 18 kg 以下	後向き	スズキ純正 i-Size チャイルドシート	×	○	×	○
76 - 100 cm、 かつ 月齢 15ヶ月以上 18 kg 以下	前向き					
100 - 150 cm (15 - 36 kg) (3 歳 - 12 歳)	前向き	スズキ純正 ジュニアシート	×	○	○ (※1)	○

※1 ISOFIX アンカーによる固定はできません。

お子さま用シートの取り付け

お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

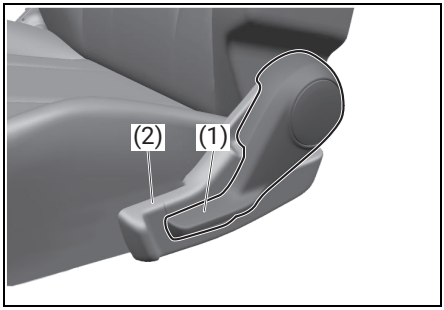
シートベルトによるお子さま用シートの固定

⚠ 警告

- **お子さま用シートが正しく取り付けられていないと、事故の際お子さまやその他乗員が重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートは必ず本書とお子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、確実に取り付けてください。
- **お子さまの体が正しく固定されていないと、事故の際お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずお子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。**
- **後席でお子さま用シートを使用するときに、前席がお子さまの足やお子さま用シートと干渉していると、事故の際お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。干渉しないよう前席を調整してください。**

この項目では、お子さま用シートを後席に取り付ける手順を説明しています。助手席に取り付ける場合は、次のこともあわせて確認してください。

- 助手席は、一番後ろに下げてください。
- 下図のリクライニングレバーとカバーの間にシートベルトを通さないでください。



(1) リクライニングレバー
(2) カバー

1)ヘッドレストがお子さま用シートに当たるときは、ヘッドレストの高さを調節するか取り外します。**(>>> P.222)**



⚠ 警告

- **ヘッドレストが当たった状態では、お子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。
- **お子さま用シートを取り外したときは、取り外したヘッドレストを再度取り付けてください。**

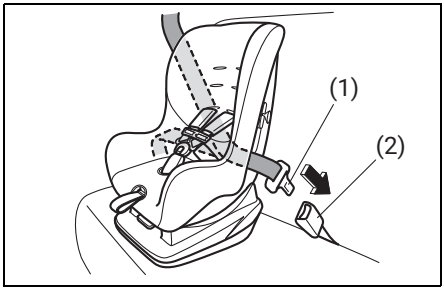
- **背もたれの無いジュニアシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取り付けてご使用ください。衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

⚠ 注意

取り外したヘッドレストを、客室内に放置すると、急ブレーキをかけたときなどに飛び出し、乗員やものなどに当たって、思わぬけがや破損のおそれがあります。

取り外したヘッドレストは、ラゲッジアンダーボックスなどに格納して、客室内に放置しないでください。

2) お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節します。
3) 座席が確実に固定されているか確認します。
4) お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。
5) カチッと音がするまで、タングプレートをバックルにしっかりと差し込みます。



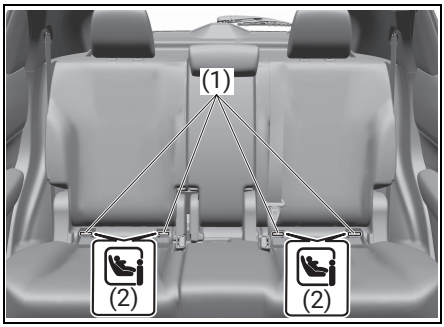
(1) タングプレート
(2) バックル

6) お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、お子さま用シートが正しく取り付けられているか確認します。
   - 正しく取り付けられない場合は、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

ISOFIX/ i-Size お子さま用シートの固定

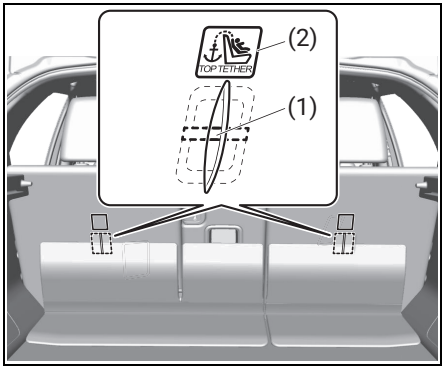
後席には、UN R44 または UN R129 の基準に適合したISOFIX/i-Size タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための取付装置が装備されています。

- 座面と背もたれのすきまにある金具が、ISOFIX 対応お子さま用シート固定用アンカー（以下 ISOFIX アンカーと略す）です。



(1) ISOFIX アンカー
(2) マーク

- 背もたれ裏側にある金具が、お子さま用シート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。



(1) テザーアンカー
(2) マーク

- ISOFIX タイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。

⚠ 警告

- **シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺に異物やシートベルトなどがないか確認してください。
- **荷物の固定をするときに、ISOFIX アンカーやテザーアンカーを使用すると、アンカーが曲がったり損傷したりして、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  荷物の固定などに、ISOFIX アンカーやテザーアンカーを使用しないでください。

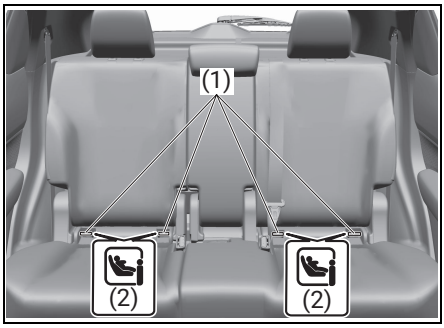
ISOFIX アンカーによるお子さま用シートの固定

⚠ 警告

お子さま用シートが正しく取り付けられていないと、事故の際お子さまやその他乗員が重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さま用シートは必ず本書とお子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、確実に取り付けてください。

1) ISOFIX　アンカーの位置を確認します。
   - 座面と背もたれのすきまにあります。



(1) ISOFIX アンカー
(2) マーク

アドバイス

ISOFIX アンカーがある付近には、前図のようなマークがついています。

2) ヘッドレストがお子さま用シートに当たるときは、ヘッドレストの高さを調節するか取り外します。**(>>> P.222)**



⚠ 警告

- **ヘッドレストが当たった状態では、お子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。
- **お子さま用シートを取り外したときは、取り外したヘッドレストを再度取り付けてください。**
- **背もたれの無いジュニアシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取り付けてご使用ください。衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

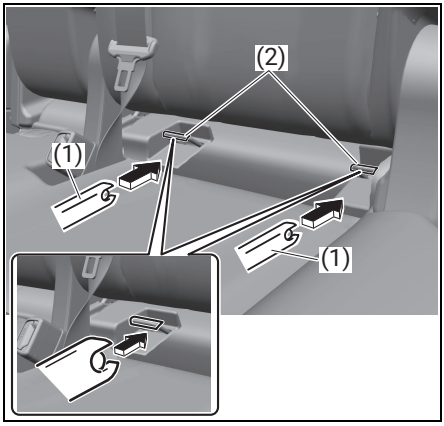
⚠ 注意

取り外したヘッドレストを、客室内に放置すると、急ブレーキをかけたときなどに飛び出し、乗員やものなどに当たって、思わぬけがや破損のおそれがあります。

取り外したヘッドレストは、ラゲッジアンダーボックスなどに格納して、客室内に放置しないでください。

3) 座席が確実に固定されているか確認します。

4) お子さま用シートのコネクターをISOFIX アンカーへ差し込みます。



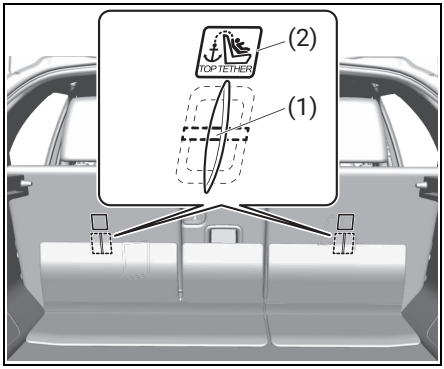
(1) コネクター
(2) ISOFIX アンカー

5) お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

6) お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、お子さま用シートが正しく取り付けられているか確認します。
   - 正しく取り付けられない場合は、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

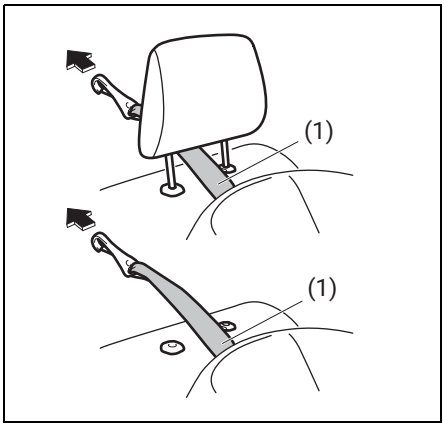
テザーアンカーによるお子さま用シートの固定

お使いのお子さま用シートにテザーベルトが装備されている場合は、テザーアンカーに取り付けます。



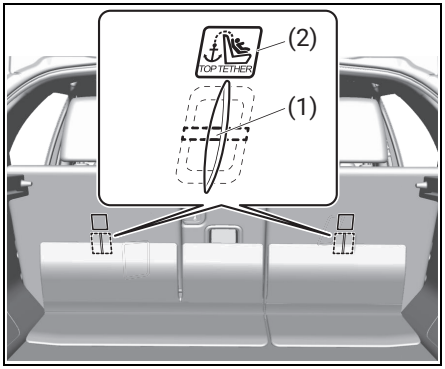
(1) テザーアンカー
(2) マーク

1) ラゲッジシェルフ（荷室カバー）を取り外します。 **(>>> P.408)**
2) お子さま用シートが ISOFIX アンカーで確実に取り付けられているか確認します。 **(>>> P.70)**
3) テザーベルトを、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。
   - ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間をテザーベルトがねじれないように通します。



(1) テザーベルト

4) 背もたれ裏側にあるテザーアンカーにテザーベルトを取り付けます。



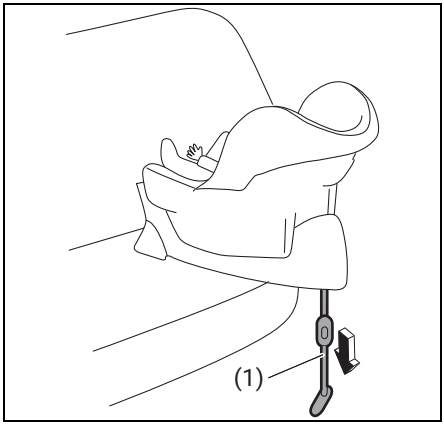
(1) テザーアンカー
(2) マーク

5) お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、お子さま用シートが正しく取り付けられているか確認します。
   - 正しく取り付けられない場合は、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

サポートレッグ付きお子さま用シートの使用について

お使いのお子さま用シートにサポートレッグが装備されている場合は、次の手順にしたがって装着してください。

1) サポートレッグを設置するフロアにものがないことを確認してください。
2) お子さま用シートが ISOFIX アンカーで確実に取り付けられているか確認します。 **(>>> P.70)**
3) お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、サポートレッグが床につくまで伸ばしてください。



(1) サポートレッグ

4) お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、お子さま用シートが正しく取り付けられているか確認します。

- 正しく取り付けられない場合は、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、リモコンキー（携帯リモコン）が電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたリモコンキー（携帯リモコン）以外では EV システムを始動できないようにするシステムです。

- 携帯リモコンを所持してパワースイッチを “ON” にすると、イモビライザーシステムが解除され、メーター内のイモビライザー警告灯が点灯します。
- “READY” 表示灯が点灯すると、イモビライザー警告灯が消灯します。
- パワースイッチを “LOCK（OFF）” にすると、イモビライザーシステムが作動します。

! 注記

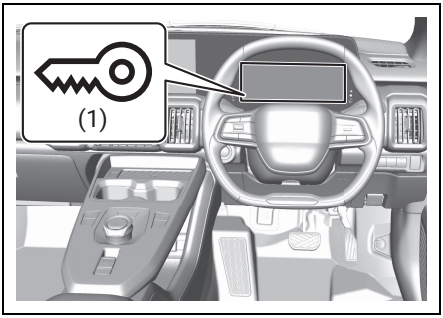
イモビライザーシステムを改造したり取り外したりすると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

イモビライザーシステムの改造や取り外しをしないでください。

アドバイス

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

イモビライザー警告灯



(1) イモビライザー警告灯

メーターパネル内にあります。

- イモビライザーシステムまたはキーレスプッシュスタートシステムの異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点滅します。
- 点滅すると、EV システムが始動しない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にもどしてから、操作をやり直してください。**(>>> P.250)**
- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。 **(>>> P.251)**

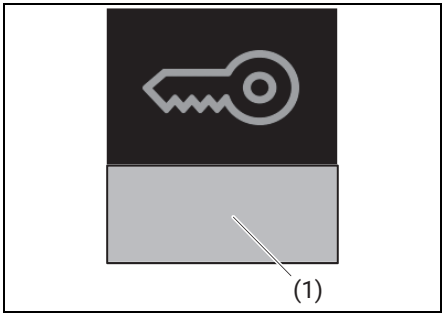
! 注記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インストルメントパネルの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

アドバイス

- イモビライザー警告灯が点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。



(1) “ スタートシステム異常
取扱説明書を確認してください ”

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、ボンネットを閉じた状態にて、ドアをキーレスエントリーまたはキーレスプッシュスタートシステムのリクエストスイッチで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。

ただし、ボンネットが開いている状態で、ドアをキーレスエントリーまたはキーレスプッシュスタートシステムのリクエストスイッチで施錠した場合は、ボンネットを閉めてから約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。

セット状態にて、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチ以外のもの（※1）で解錠し、いずれかのドアまたはボンネットを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※1 キーやロックレバーを含む

! 注記

セキュリティアラームを改造したり取り外したりすると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラームの改造や取り外しをしないでください。

アドバイス

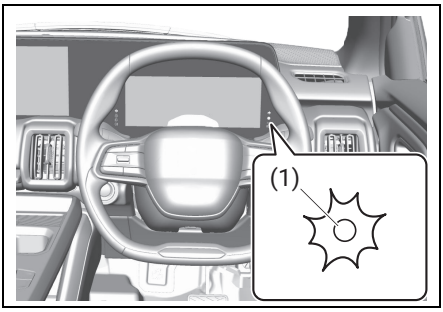
- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。キーで解錠してドアを開けると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明してください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。

- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- セキュリティアラームのメンテナンスは不要です。

セキュリティアラームのセットのしかた

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠してください。セキュリティアラームインジケーターが小刻みに点滅し、約 20 秒後にアラームがセットされます。

セット中は、セキュリティアラームインジケーターが 2 秒間隔で点滅します。



(1) セキュリティアラームインジケーター

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーで解錠し、ドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、アラームがセットされません。

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、次のいずれかの操作により警報を途中で停止できます。

- パワースイッチを “ON” にする
- キーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠する

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、約 20 秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態で鉛バッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

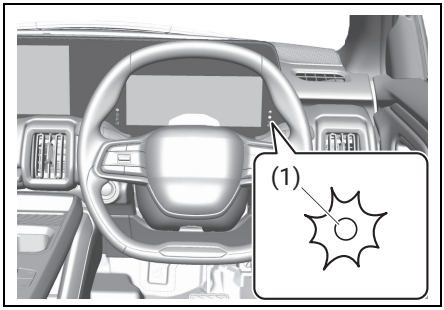
盗難などにより警報が作動した場合、パワーイッチを “ON” にすると、セキュリティアラームインジケーターが数秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームの作動

非常点滅表示灯しばらく点滅するとともに、室内ブザーが数十秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンがしばらく断続的に鳴ります。作動中は、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

セキュリティアラームインジケーター

- ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、しばらく小刻みに点滅してからセキュリティアラームがセットされます。
  セット中は、2 秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、パワースイッチを“ON”にしたときに約8秒間小刻みに点滅します。
- 車体の電子制御システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに 1 秒間隔で点滅します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



(1) セキュリティアラームインジケーター

MEMO

2. EV システム

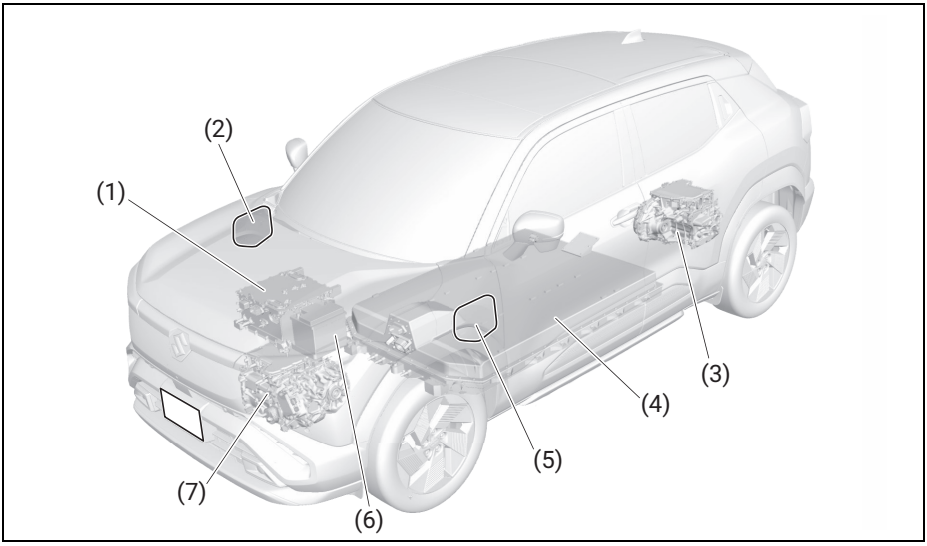
EV システム 80
EV システムについて 80
EV システムの注意 83
電気自動車運転のアドバイス 87
走行可能距離について 88

充電 89
充電に関する装備 89
普通充電ケーブルについて 92
普通充電コネクターのロック・アンロック 96
接続可能な外部電源について 99
充電方法について 100
充電に関するアドバイス 103
充電の前に知っておいていただきたいこと 104
普通充電のしかた 107
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた 113
タイマー充電機能を使う 118
マイルームモードを使う 123
正常に充電できないときは 126
DC 外部給電システム 139
DC 外部給電システムの使いかた . 139
DC 外部給電システムが正常に作動しないときは 145

EV システムについて

電気自動車は、駆動用バッテリーに蓄えられた電気を使用して電動モーターを駆動することによって走行します。電気を使用して走行するため、CO2（二酸化炭素）や NOx（窒素酸化物）を排出しない環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



(1) ESU：Electricity Supply Unit（電力供給ユニット［車載充電器・DCDC コンバーター内蔵］）
(2) 普通充電ポート
(3) 電動モーター／インバーター（リヤ）（タイプ別装備）
(4) 駆動用バッテリー
(5) 急速充電ポート
(6) 鉛バッテリー（SRSエアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどに電力を供給します）
(7) 電動モーター／インバーター（フロント）

減速時と制動時（回生ブレーキ機能）

車輪が発電機として電動モーターを動かし、駆動用バッテリーを充電します。この回生ブレーキ機能を利用して駆動用バッテリーに電気を蓄えることで、走行距離をのばすことができます。

充電について

従来の車両の燃料補給とは手順が異なるため、以下を必ず読んでください。

- 充電に関する装備 **(>>> P.89)**
- 充電前に知っておくべきこと **(>>> P.104)**
- 充電方法 **(>>> P.100)**

- 正常に充電できないとき **(>>> P.126)**

回生ブレーキについて

次の場合、車両の運動エネルギーを電気エネルギーに変換して駆動用バッテリーを充電し、減速力を得ることができます。

- シフトポジションが “D” で運転中にアクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが “D” で運転中にブレーキペダルを踏んだとき

鉛バッテリーの充電について

鉛バッテリーは、EV システムが作動しているときや駆動用バッテリーが充電されているときに駆動用バッテリーから充電されます。お車が長期間使用されない場合、自然放電により鉛バッテリーがあがってしまうことがあります。この場合、正しい手順に従って対処してください。

お車を長期間使用しないとき

お車を長期間使用しないとき、駆動用バッテリーが極端に充電不足になるのを防ぐために、少なくとも 1 か月に一度は駆動用バッテリーを充電してください。劣化を防ぐため完全には充電せず、駆動用バッテリー残量警告灯が点灯する前に充電してください。

お車を長期間使用しないとき、鉛バッテリーあがりを低減するために駆動用バッテリーの電力を使用して鉛バッテリーを充電します。このとき、冷却ファンが作動することがありますが、これは異常ではありません。

鉛バッテリーあがりを防ぐために、充電リッドを開けたままにしたり、充電ケーブルをお車に接続したままにしないでください。

駆動用バッテリーの充電

- 駆動用バッテリーが低下すると、駆動用バッテリー残量警告灯が点灯または点滅し、メーターのマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 必要に応じて駆動用バッテリーを充電してください。駆動用バッテリーが電欠になると、走行できません。駆動用バッテリーが低下している場合は、できるだけ早く充電してください。

! 注記

この車両には、駆動用バッテリーが満充電のときに作動する自動メンテナンス機能が装備されています。駆動用バッテリーの性能を維持するため、週に一度は完全に充電してください。ただし、車両を長期間使用しないときは劣化を防ぐため、駆動用バッテリーが満充電の状態で保管しないでください。

電気自動車特有の騒音と振動について

電気自動車の “READY” インジケーターが点灯していても、通常の車のようにエンジン音や振動がないため、お車が走行可能であることに気づかない場合があります。安全のため、駐車時には必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを “P” にしてください。EV システムが始動した後、以下の音や振動が発生することがありますが、これは異常ではありません。

- 運転席のドアを開けたときにお車の前方から聞こえるブレーキシステムの作動音
- モータールームや荷室付近から聞こえるモーター音

- EV システムの始動および停止時にモータールームから聞こえるリレー音
- 次のようなとき、駆動用バッテリーから“ カチッ ”または“ コトン ”などのリレー作動音が聞こえることがあります。
  - EV システムの始動または停止するとき
  - 充電の開始または終了するとき
- ブレーキペダルを踏んだり、アクセルペダルを離したりするときに聞こえる作動音
- ラジエーターから聞こえる冷却ファンの作動音
- エアコン（コンプレッサー、ファンモーターなど）から聞こえる作動音

修理・メンテナンス・廃車について

お車の修理、メンテナンス、および廃棄については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

特に、お車を廃車するときは、駆動用バッテリーの回収についてスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

車両接近通報装置

走行中、接近する車両を周囲の人々に知らせるため、車両の速度に応じた音量で通報音を鳴らします。車速が 25 km/h を超えると通報音は停止します。

⚠ 警告

思わぬ事故を防ぐため、次のことに注意してください。

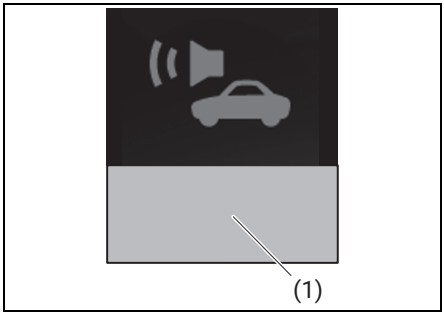
- **周囲の騒音が大きいときや、大雨や強風のときは、通報音が聞こえにくくなることがあります。**
- **低速でも注意して運転する必要があります。**

アドバイス

- 車両接近通報装置は車両の前方に装着されているため、車両後方は車両前方に比べ聞こえにくい場合があります。
- 走行中に車内でも通報音が聞こえることがありますが、車両接近を周囲の人に知らせるための音なので異常ではありません。

車両接近通報装置が異常のとき

車両接近通報装置に異常があると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



(1) “車両接近通報システム異常 販売店で点検を受けてください ”

EV システムの注意

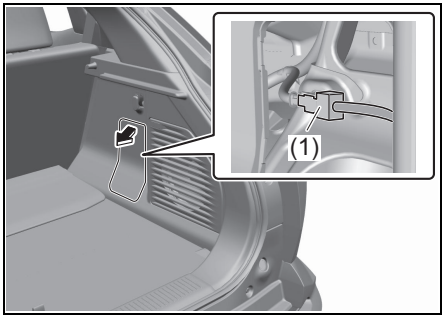
EV システムには、駆動用バッテリー、ESU（電力供給ユニット）、オレンジ色の高電圧ケーブル、電動モーターなどの高電圧部品や、冷却用ラジエーターなどの高温部品が含まれています。高電圧部品には取扱い注意のラベルが貼付されています。ラベルの指示に従って正しく取扱ってください。

⚠ 警告

高電圧・高温について

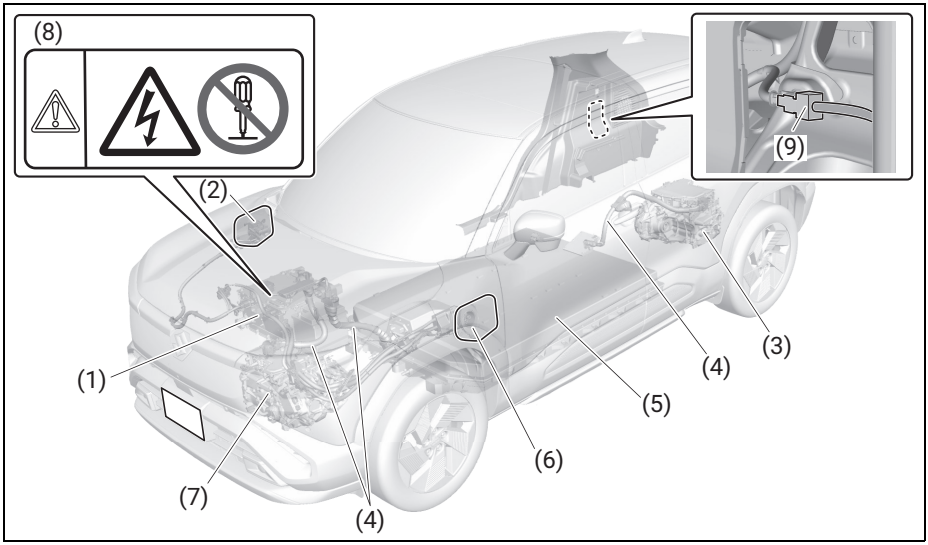
この車両は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、火傷や感電などの重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **高電圧部品、高電圧配線（オレンジ色）、およびそのコネクターを取り外したり分解したりしないでください。**
- **走行後、EV システムは高温になります。お車に貼られているラベルの指示に従い、常に高電圧および高温部位に注意してください。**
- **サービスプラグは右後部フェンダーの近くにあります。サービスプラグには絶対に触れないでください。サービスプラグは、お車の修理時に駆動用バッテリーの高電圧を遮断するために使用されます。**



(1) サービスプラグ

システムの構成部品



(1) ESU：Electricity Supply Unit（電力供給ユニット [車載充電器・DCDC コンバーター内蔵]）
(2) 普通充電ポート
(3) 電動モーター／インバーター（リヤ）（タイプ別装備）
(4) 高電圧配線（オレンジ色）
(5) 駆動用バッテリー
(6) 急速充電ポート
(7) 電動モーター／インバーター（フロント）
(8) ラベル
(9) サービスプラグ

電磁波について

- 高電圧部品および高電圧ケーブルは電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品と比較して、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線（遠距離通信）の一部について、受信時にノイズを含む場合があります。あらかじめご了承ください。

駆動用バッテリー（リチウムイオンバッテリー）

! 注記

- **このお車には、駆動用バッテリーが満充電のときに作動する自動メンテナンス機能があります。駆動用バッテリーの性能を維持するために、週に一度はバッテリーを満充電にしてください。ただし、お車を長期間使用しない場合は、劣化を防ぐために駆動用バッテリーを満充電のまま保管しないでください。 (>>> P.81)**
- **駆動用バッテリーは、ほかの充電式バッテリーと同様に時間の経過や使用状況にともない、容量（蓄電能力）が低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。これらはリチウムイオンバッテリー本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。**
- **極端な高温、または極低温の環境下では、お車を保管しないでください。高温炎天下での駐車を極力避けることで、リチウムイオンバッテリーの寿命を延ばすことができます。**

鉛バッテリーの取り外し

パワースイッチが “LOCK（OFF）” のときに、すべてのデータが EV システムに保存されます。データが保存される前に鉛バッテリーの端子を取り外すと、データが正しく保存されない可能性があります。

極寒の環境での始動について

外気温が非常に低い場合（約－ 30 ℃以下）、駆動用バッテリーが極端に冷たくなり、EV システムが始動できないことがあります。

この場合、気温が上昇し駆動用バッテリーが温まるまで待ってから、再度システムを始動してください。

事故が起きたときは

⚠ 警告

次のことをお守りいただかないと、火傷や感電などの重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **事故の続発を防ぐために、お車を安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを“P”にして EV システムを停止してください。**
- **高電圧部品や高電圧配線（オレンジ色）には絶対に触れないでください。**
- **車内および車外にはみ出している電気配線には絶対に触れないでください。**
- **液体の付着や漏れがある場合は、絶対に触れないでください。駆動用バッテリーの電解液（主に炭酸エステルで構成される有機電解液）は、目や皮膚に接触すると失明や皮膚障害を引き起こすおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合は、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。**
- **駆動用バッテリーの電解液が漏れている場合は、お車から離れてください。万一、駆動用バッテリーが破損した場合でも、バッテリーの内部構造により大量の電解液が漏れることはありませんが、漏れた場合は蒸気を発生します。この蒸気は目や皮膚を刺激し、吸引すると急性中毒を引き起こす可能性があり危険です。**
- **火気や熱いものを絶対に近づけないでください。電解液に引火するおそれがあり危険です。**
- **万一、車両火災が発生したときは、できるだけ早く離れてください。消火するときは必ず電気火災用の消火器（ABC 消火器）を使用してください。水をかける場合は、消火栓などから大量に水をかけてください。**
- **前輪（2WD 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しないでください。車輪の回転で駆動用モーターが発電するため、破損の状態によっては漏電し、火災のおそれがあります。**
- **車の下の路面を確認し、エアコンの水以外の液体が漏れている場合は、駆動用バッテリーが損傷している可能性があります。できるだけ早くお車から離れてください。このようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店に状況を連絡するときにあわせてお伝えください。軽度な事故でも駆動用バッテリーやその周辺部品が損傷する可能性があります。事故にあった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**

廃車や廃棄について

⚠ 警告

- **このお車にはリチウムイオンバッテリーが搭載されています。絶対に転売、譲渡、改造などしないでください。事故防止のため、廃車や駆動用バッテリーを廃棄するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店に必ずご相談ください。**
  - **不法投棄や放置は環境汚染を引き起こすだけでなく、第三者が高電圧部品に触れてしまい、感電事故を起こすリスクもあります。**
  - **装備されているお車以外で駆動用バッテリーを使用する（または改造する）と、感電、発熱、発煙、火災、爆発、電解液漏れなどが発生する可能性があります。特に、転売や譲渡などを行うと、相手にこ**

れらのリスクが認識されず、事故につながるおそれがあります。

- **駆動用バッテリーを取り外さずにお車を廃棄すると、高電圧部品、配線、コネクタに接触した場合、重大な感電のリスクがあります。お車を廃棄するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で駆動用バッテリーを廃棄してください。駆動用バッテリーは適切に廃棄しないと、感電などの重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

走行時の注意事項

⚠ 警告

- **床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに安全な場所に停止し、下まわりを点検してください。**
  床下に駆動用バッテリーの液漏れや損傷が見られる場合は、お車に触れず、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
  また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用バッテリーが損傷している可能性がありますので、床下に強い衝撃を受けたときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- **緊急時以外は、走行中にEVシステムを止めないでください。緊急時にEVシステムを停止する場合は、手順に従ってください。(>>> P.251)**

改造について

⚠ 警告

- **車高を下げると、床下の駆動用バッテリーが衝撃を受けやすくなり、バッテリーの損傷、発火や車両火災などが発生し、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造をしないでください。**

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたとき、EVシステムを停止し高電圧を遮断します。

このとき、EVシステムを再起動することはできなくなるため、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

警告メッセージ

EVシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージはメーターのインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

警告灯が点灯したとき、警告メッセージが表示されたとき

EVシステムを再起動できない可能性があります。

EVシステムを再起動しようとしたときに“READY”インジケーターが点灯しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

駆動用バッテリーが電欠したとき

駆動用バッテリーが電欠してEVシステムを起動できないときは、駆動用バッテリーの充電警告灯が消えるまでバッテリーを十分に充電（普通充電または急速充電）してから、システムを再起動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車の電費は高速走行を続けると低下します。高速道路や平均車速の高い走行は、走行距離を短くする可能性があります。

駆動用バッテリーの残量が低下しているときは、表示されている走行距離に頼りすぎたり、高速道路を走行したりしないでください。

適度な速度で走行することで、電力消費を抑えることができます。

経済的な運転のために、次のことに注意してください。

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときは、シフトポジションを “D” にしてください。
- 駐車するときは、シフトポジションを “P” にしてください。

渋滞

加速と減速の繰り返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報などを確認し、できるだけ渋滞を避けてください。また渋滞時は、ブレーキペダルをゆるめて徐々に前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしてください。これにより、余分な電力消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速するときは、早めのブレーキを心がけてください。減速時に発生する電力エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑えて、一定の速度で走行してください。料金所の手前では、早めにアクセルを戻し、緩やかなブレーキ操作を心がけてください。これにより、減速時に発生する電力エネルギーをより多く回収することができます

エアコンのオン／オフ

- 必要ないときは、エアコンをオフにしてください。これにより、余分な電力消費を抑えることができます。
  - 夏：外気温が高いときは、内気循環を使用してください。エアコンの負荷が軽減され、電費が向上します。
  - 冬：過度な暖房や不要な暖房を避けてください。ヒーターを使いすぎないことも、電費を向上させる効果があります。
- 普通充電ケーブルがお車に接続されている状態でタイマーエアコンを使用すると、主に外部電源からの電力を使用して車内を空調ができるため、出発直後の駆動用バッテリーの電力消費を抑えることができます。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検してください。タイヤ空気圧が適切でないと、電費を悪化させます。冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電費を悪化させます。季節や道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換してください。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費を悪化させます。不要な荷物は積んだままにせず降ろしてください。

走行可能距離について

メーターディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能なのかの目安を示しています。実際には表示された距離を走行できない場合があります。

表示値について

メーターのマルチインフォメーションディスプレイには、駆動用バッテリーの残量と状態に基づいた十分な走行性能を出せる値を推定して表示しています。低温時には、駆動用バッテリーに残量があっても、走行距離がなくなる場合があります。できるだけ早く充電してください。

走行できる距離をのばすために

走行できる距離は、運転のしかた、道路状況、天候や温度、電装品の使用状況、乗員数などによって大きく左右されます。

次の点に注意しながら運転すると、走行できる距離をのばすことができます。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をしない
- 一定の速度で走行するよう心がける
- エアコンを適切に使用し、過度な冷房や暖房を避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する
- 不要な荷物は積んだままにしない

充電が完了したときの表示について

お車の充電が正しく完了したことを確認するには：

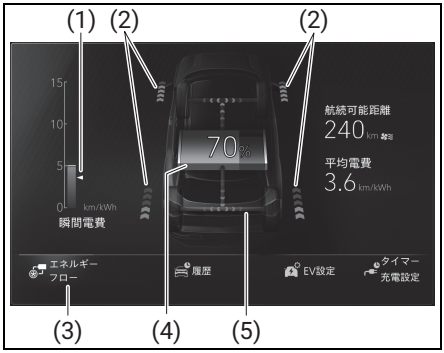
- 普通充電ポートの充電インジケーターが消灯している
- パワースイッチが“LOCK（OFF）”の状態でドアを開けると、メーターディスプレイに“ 充電結果のお知らせ：充電完了しました ”と表示される

接続された電源やタイマー充電機能の使用に関係なく、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

エネルギーフロー

センターディスプレイのエネルギーフローから、車両情報を確認できます。

1) センターディスプレイの“ 車両 ”を選択します。
2) 画面の“ エネルギーフロー”を選択します。



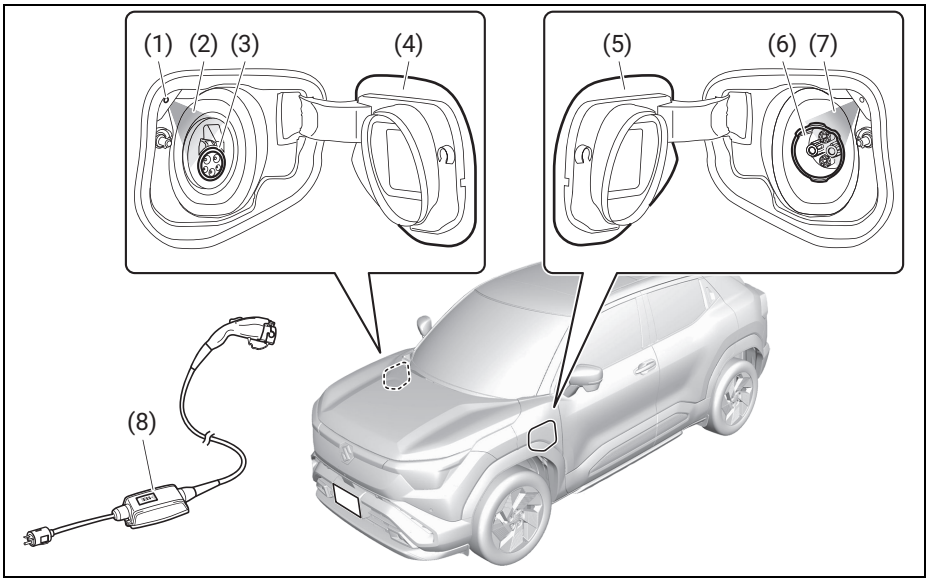
(1) 平均電費
(2) 駆動力配分（4WD モデル）
(3) エネルギーフロー
(4) 駆動用バッテリー残量
(5) 電動モーターの出力／回生

アドバイス

電動モーターの出力／回生の表示は、青色が出力、白色が回生になります。

充電に関する装備

充電装備の名称



(1) 充電インジケーター
(2) 普通充電ポート照明
(3) 普通充電インレット
(4) 普通充電リッド
(5) 急速充電リッド
(6) 急速充電インレット
(7) 急速充電ポート照明
(8) 普通充電ケーブル

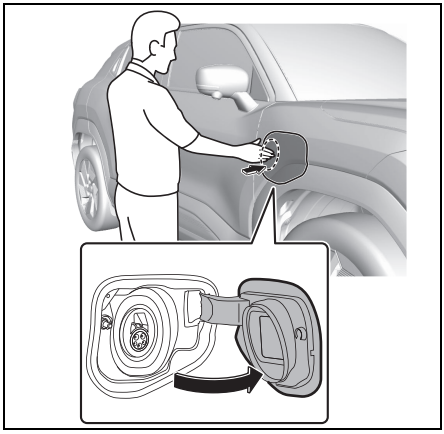
充電リッドの開閉

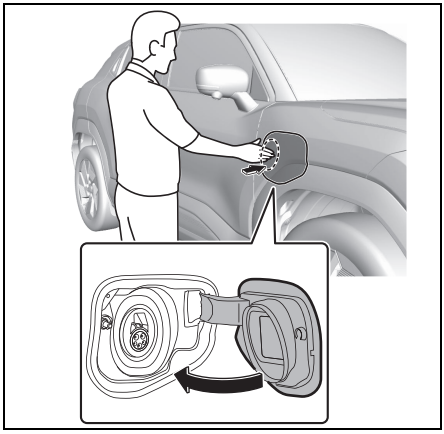
充電リッドの開けかた

ドアを解錠すると、充電リッドもアンロックされます。

充電リッドの車両後端側（図に示す位置）を押して、充電リッドを開けます。

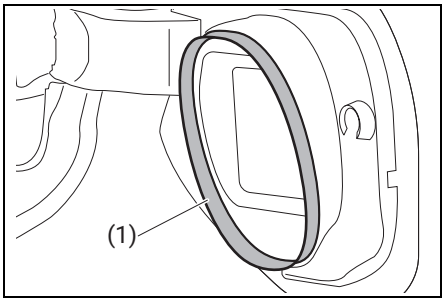
- 押した手を離すと充電リッドが少し開きます。その後、手でゆっくりと全開にしてください。





アドバイス

充電リッドの止水リップ（ゴム部品）に 亀裂や損傷がある場合は、スズキ販売店 またはスズキ代理店にご相談ください。



(1) 止水リップ（ゴム部品）

充電リッドの閉めかた

充電リッドの車両後端側（図に示す位置）を押して、充電リッドをゆっくりと押します。

- ドアを施錠すると、充電リッドもロックされます。

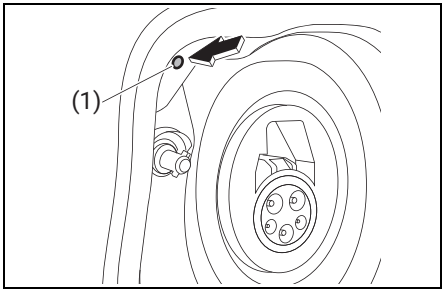
充電リッドのロックについて

- 次のようなとき、充電リッドはロックされます。
  - リクエストスイッチを使用してドアが施錠された場合
  - 携帯リモコンを使用してドアが施錠された場合
  - キーを使用してドアが施錠された場合
- タイマーロック機能でドアが施錠された場合、充電リッドが閉じていれば、充電リッドもロックされます。
- ドアが施錠されている状態で充電リッドを閉めた場合、充電リッドはロックされません。この場合、ドアを再度施錠することで、充電リッドがロックされます。
- 普通充電コネクターがロックされると、急速充電リッドもロックされます。

充電インジケーター

充電インジケーターは、普通充電ポートにのみ装備されています。

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電状態をお知らせします。



(1) 充電インジケーター

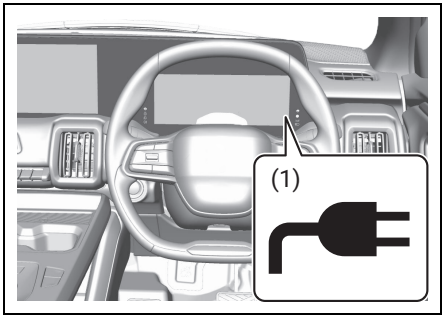
点灯・点滅パターン	車両の状態
点灯	• 充電中 ※1 • 寒冷時バッテリー昇温の作動中
通常の点滅 ※2	充電スケジュールが登録されている状態で、お車に普通充電ケーブルを接続したとき
速い点滅 ※2	電源またはお車の異常などにより充電できない状況のとき

※1 充電が完了すると充電インジケーターは消灯

※2 一定時間点滅したあと、インジケーターは消灯

充電コネクターが接続されているとき

普通充電または急速充電コネクターが接続された状態で、ドアを開けるかパワースイッチを “ON” にすると、充電コネクター接続表示灯が点灯します。



(1) 充電コネクター接続表示灯

普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

⚠ 警告

普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない**
- **普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
- **普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない**
- **普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない**
- **普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない**
- **電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない**
- **普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない**
- **普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近づけない**
- **普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）**
- **コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）**

! 注記

普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

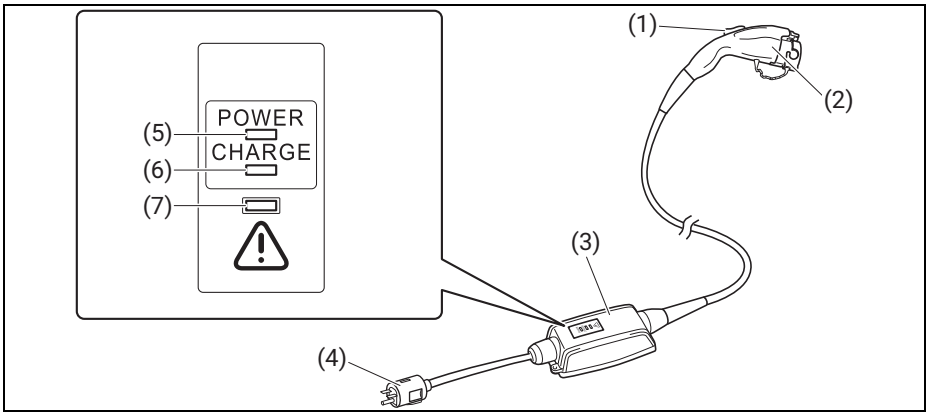
次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- **普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む**
- **普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する**
- **普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する**
- **普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する (>>> P.96)**
- **普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける**
- **普通充電コネクターを取りはずしたあとは、普通充電リッドを確実に閉める**

寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



(1) ロック解除ボタン
(2) 普通充電コネクター
(3) コントロールユニット
(4) 電源プラグ
(5) 電源インジケーター **(>>> P.94)**
(6) 充電インジケーター **(>>> P.94)**
(7) エラーインジケーター **(>>> P.94)**

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。

電気が遮断された場合の対処方法については、次の参照先を確認してください。**(>>> P.94)**

自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。**(>>> P.94)**

温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

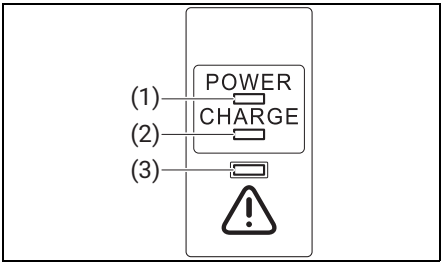
車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクターが車両に接続されていないと、普通充電コネクターに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケーターについて

各インジケーターのはたらき

3 つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。



(1) 電源インジケーター
コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

(2) 充電インジケーター
充電中に点灯します。

(3) エラーインジケーター
漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

電源インジケーターが点灯し、エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。それ以外の場合には、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているかを確認してください。点滅が解消しない場合も、電流を制限して充電が行われます。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近づいています。 スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

⚠ 警告

日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などがないこと**
- **コンセントに破損がないこと**
- **コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと**
- **充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと**
- **電源プラグの刃が変形していないこと**
- **電源プラグにほこり等の汚れがないこと**

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

普通充電コネクターのロック・アンロック

普通充電中の充電コネクターの取り外しや、第三者による充電ケーブルの持ち去りなどのいたずらなどを防止することができます。

普通充電コネクターをロック・アンロックするには

ロックするときは

普通充電コネクターは、普通充電インレットに挿し込んだ状態において、ドアの施錠状態・解錠状態に連動してロック・アンロックされます。

普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込んだ状態で、ドアを施錠すると、普通充電コネクターがロックされます。ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

アンロックするときは

ドアを解錠すると、普通充電コネクターがアンロックされます。

普通充電コネクターのロック機能について

- 普通充電コネクターをロック・アンロックくり返し操作すると、普通充電コネクターのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、普通充電コネクターを普通充電インレットに再び接続する前に、少し待ってください。
- 普通充電コネクターのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証す

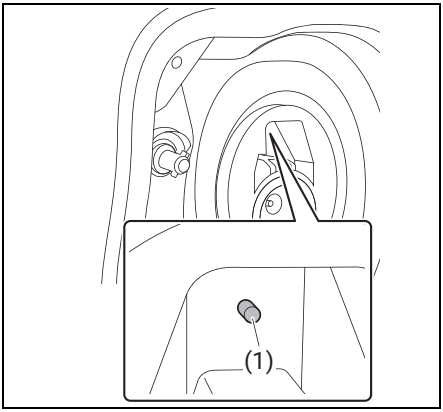
るものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

コネクターロックピンが出ていないか確認してください。

コネクターロックピンが出ている場合は、次の操作を行なってください。

1) 全てのドアおよび充電リッドが閉まっていることを確認してください。
2) 携帯リモコンのロックスイッチ、またはリクエストスイッチを押して施錠します。
3) 携帯リモコンのアンロックスイッチ、またはリクエストスイッチを押して解錠します。
4) コネクターロックピンが出ていないことを確認してください。



(1) コネクターロックピン

コネクターロックピンが作動しないときは、鉛バッテリーが消耗している可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

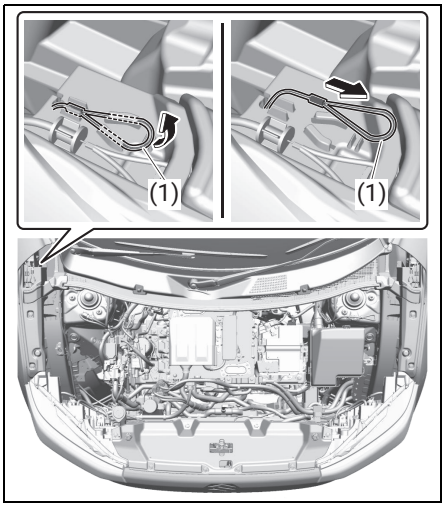
普通充電コネクターをアンロックできないとき

通常の操作で普通充電コネクターをアンロックできないときは、コネクターロック緊急解除ワイヤーを操作して、普通充電コネクターをアンロックすることができます。

緊急時以外は、この方法で解除させないでください。

異常が解消しない場合は、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理で点検を受けてください。

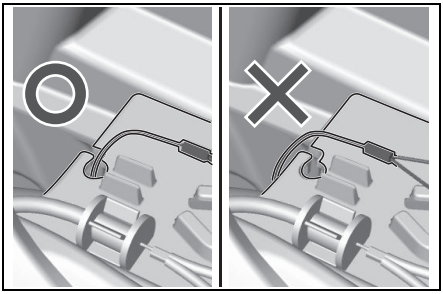
1) ボンネットを開ける **(>>> P.442)**
2) コネクターロック緊急解除ワイヤーを引く
   - リングに無理な力をかけたり、引っ張りすぎないようにしてください。普通充電コネクターがアンロックされ、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。



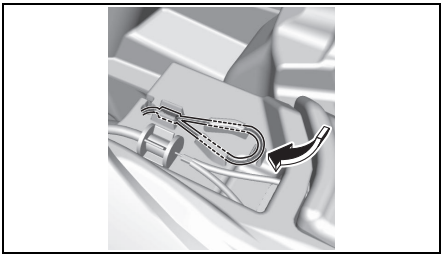
(1) コネクターロック緊急解除ワイヤー

アドバイス

コネクター緊急解除ワイヤーを操作するときは、車両の切り欠き部からワイヤーが外れていないことを確認してください。



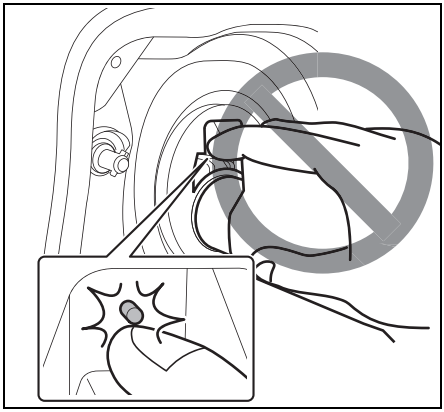
3) 普通充電コネクターのアンロック後、コネクターロック緊急解除ワイヤーの取手部をアタッチメントに固定する



⚠ 警告

普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき

コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



⚠ 注意

普通充電コネクターをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

- **普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する 異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、ロックできない可能性があります。**
- **普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない 普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターをアンロックしてください。**

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

⚠ 警告

電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アドバイス

契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力（※1）をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※1 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

充電環境について

必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載されている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。

- 200V 電源で 30A に対応した充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
- 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。

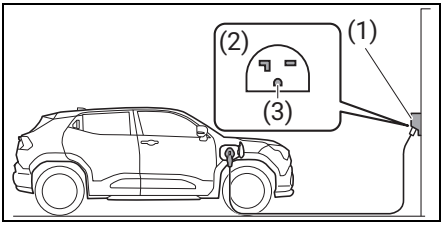
自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。（※1）

  ※1 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。
- 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。（※2）

  ※2 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。
- EV 充電用コンセントに接続してください。



(1) EV 充電用コンセント
(2) 200V コンセント極配置 （※3）
(3) 接地極（アース）

※3 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用バッテリーを充電することができます。

充電方法の種類

普通充電

AC コンセントと普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。**(>>> P.107)**

タイマー充電を設定することで、ご希望の日時に充電を行うことも可能です。**(>>> P.118)**

急速充電

CHAdeMO(チャデモ)（※1）規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用バッテリーを充電できます。**(>>> P.113)**

※1 CHAdeMO はチャデモ協議会が提案する商標名です。

V2H

車両と V2H 機器双方向に給電することを「V2H（Vehicle to Home の略）」といいます。**(>>> P.113)**

V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ給電することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器（※1）が必要です。（車両には付属していません）

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取扱説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※1 車両から自宅へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用給電システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠したもの。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

マイルームモード

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力（※1）で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。 **(>>> P.123)**

※1 状況により、駆動用バッテリーの電力が消費される場合があります。

寒冷時バッテリー昇温（充電時）

外気温が低いときに、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用バッテリーが一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、または充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- タイマー充電時は、タイマー設定内容に応じて作動します。 **(>>> P.118)**

寒冷時バッテリー昇温（急速充電前）

外気温が低いときは、充電時間が長くなります。氷点下で走行した後に急速充電を行なうとき、走行開始時に寒冷時バッテリー昇温を作動することで、急速充電にかかる時間を短縮できます。ただし、走行中の電力消費は増加します。この機能は、充電が開始されると自動的に停止します。

アドバイス

外気温は、外気温計で確認できます。 **(>>> P.152)**

寒冷時バッテリー昇温について

- 寒冷時バッテリー昇温の作動中は、充電インジケーターが点灯します。
- 充電中に寒冷時バッテリー昇温が作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。
- 寒冷時バッテリー昇温が作動すると、駆動用バッテリーの残量が低下するため、駆動用バッテリーの残量を補うために再度充電を行うことがあります。

走行中に寒冷時バッテリー昇温設定を変更するには

センターディスプレイで、走行中の寒冷時バッテリー昇温を設定することができます。

1) センターディスプレイの “ 設定 ” から “EV” を選択します。
2) “ 充電 ” を選択します。
3) “ 駆動用バッテリー温度 ” を選択し、“ 寒冷時バッテリー昇温（急速充電前）” を “ON” に変更します。

高温時バッテリー冷却（普通充電中）

駆動用バッテリーの温度が高いとき、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用バッテリーを冷却し、保護します。

高い速度で連続運転した後に急速充電をするときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。

アドバイス

高温時バッテリー冷却について

- 普通充電のみ：センターディスプレイで“ 高温時バッテリー冷却 ” の設定変更が可能。
- 高温時バッテリー冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。
- 駆動用バッテリーの残量が少ないときは、駆動用バッテリーが高温であっても、高温時バッテリー冷却が作動しない場合があります。
- 高温時バッテリー冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用バッテリーの冷却作動が停止します。
  - ボンネットを開けたとき
  - パワースイッチを “LOCK（OFF）” 以外にしたとき
  - シフトポジションを “P” 以外にしたとき
  - タイマーエアコンを作動させたとき **(>>> P.395)**
  - 駆動用バッテリーの残量が一定未満になったとき
- 高温時バッテリー冷却は、駆動用バッテリーと外部電源からの電力を利用します。
  - 高温時バッテリー冷却の作動中は、駆動用バッテリー残量が一定の幅で増減し、通常充電時のように駆動用バッテリー残量が増加しません。
  - 高温時バッテリー冷却の作動中も、充電器（スタンド）からは充電中と認識されます。よって、充電時間に応じて課金される充電器（スタンド）では、高温時バッテリー冷却の作動中にも課金が発生します。

高温時バッテリー冷却の設定を変更するには

センターディスプレイで、高温時バッテリー冷却の設定を変更することができます。

1) センターディスプレイの “ 設定 ” から “EV” を選択します。
2) “ 充電 ” を選択します。
3) “ 駆動用バッテリー温度 ” を選択し、“ 高温時バッテリー冷却（普通充電中）” を変更します。

充電に関するアドバイス

この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用バッテリーを充電してください。 **(>>> P.100)**

ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用バッテリーの残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用バッテリーを充電してください。

帰宅したら

次回のドライブのために、駆動用バッテリーを充電して下さい。充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用バッテリーを充電できます。なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。 **(>>> P.118)**

充電に関する情報を確認するには

車両のセンターディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

充電中は

充電中にパワースイッチが “LOCK（OFF）” の状態でいずれかのドアを開けると、現在の充電状態と充電完了までに必要な時間の目安（※1）が一定時間表示されます。

駆動用バッテリーの残量や外気温、充電器（スタンド）の仕様、外部電源の供給電圧などの条件により、実際の充電時間とは異なることがあります。

充電電流が小さくなり、充電時間が長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

※1 V2H 充電中は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。



充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが “LOCK（OFF）” の状態でいずれかのドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。 **(>>> P.126)**

充電の前に知っておいていただきたいこと

充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

⚠ 警告

充電、V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電または給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- **充電または給電時、充電器（スタンド）、急速充電器（スタンド）、充電ケーブル、V2H 機器に近づかないでください。ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。**
- **充電または給電中は車内にとどまらないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。**
- **ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。**

車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを “P” から切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが “P” からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用バッテリーを充電できます。ただし、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **200V での普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる (>>> P.99)**
- **お客さまの充電環境によっては、充電作業が屋外で行われる**

⚠ 注意

充電に関する留意事項

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- **お子さまなど、不慣れな方は充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルはお子さまの手の届かない場所で保管してください。**
- **充電器（スタンド）または、V2H 機器で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。**

アドバイス

安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作しても EV システムを始動することはできません。
- “READY” インジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行できなくなります。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること **(>>> P.264)**
- パワースイッチが “LOCK （OFF）” になっていること **(>>> P.252)**

- ヘッドランプ、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。**(>>> P.95)**

アドバイス

充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- 充電中は、空調システムおよび高温時バッテリー冷却の作動にともない、駆動用バッテリー付近から音が聞こえることがあります。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。

普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電について

普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

公共の普通充電器（スタンド）で充電する場合は、タイマー充電の設定状態を確認してください。

- 充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、“今すぐ充電”を ON にしてください。**(>>> P.122)**
- 充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

駆動用バッテリーの容量低下について

駆動用バッテリーは使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- 最高車速付近での走行を控える
- 充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電を活用する **(>>> P.118)**
- ひんぱんな急速充電は避ける
  なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

充電後に駆動用バッテリーの残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用バッテリーの残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）（※1）ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用バッテリー残量が大幅に低下したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※1 この場合、駆動用バッテリーの残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

駆動用バッテリーへの充電量が減少するとき

エアコンの使用、または寒冷時バッテリー昇温の作動等により駆動用バッテリーへの充電電力が小さくなった場合、駆動用バッテリーへの充電量もしくは駆動用バッテリー残量が減少することがあります。

充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用バッテリーの温度が高いとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど） **(>>> P.269)**
- マイルームモードを使用しているとき **(>>> P.123)**
- 充電中に停電したとき
- 充電器（スタンド）、V2H 機器で供給電力を調整しているとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- 寒冷時バッテリー昇温が作動したとき **(>>> P.101)**
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- ひんぱんに急速充電をくり返したとき
- 車両の急速充電電力設定で充電電力上限を変更したとき（急速充電時のみ）
- 充電関連部品の温度が高いとき

普通充電電力について

この車両は最大約 6kW の普通充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

100V 電源での充電は、充電電力が小さいため、充電時間が長くかかります。

また、100V 電源での充電時に、外部電源の供給電圧低下などにより充電電力が低下した場合、充電を停止する可能性があります。

200V 電源での充電をおすすめします。

普通充電のしかた

ここでは、普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、“ 今すぐ充電 ” を ON にしてから充電を実施してください。**(>>> P.122)**

⚠ 注意

普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

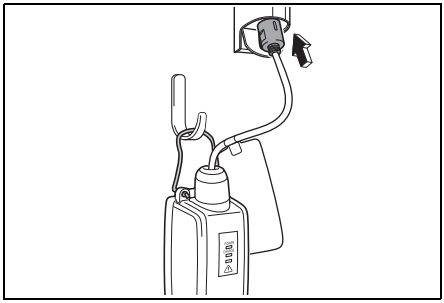
- **充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く**
- **普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する**
- **普通充電コネクターの保護キャップを無理に引っ張らない**
- **充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない**
  充電を停止することがあります。
- **普通充電インレットに普通充電コネクター以外のものを挿し込まない**
- **電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する**
- **ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない**
  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- **普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない。修理が必要な場合は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

充電前の重要確認事項

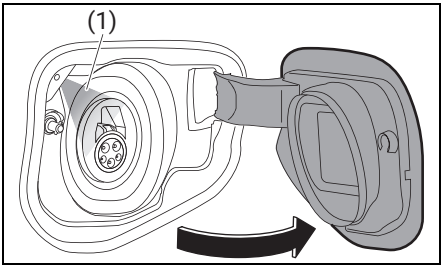
次の参照先を確認してください。**(>>> P.104)**

充電するときは

1) 普通充電ケーブルを用意する
2) 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む
   必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。
   手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。
   コントロールユニット上の電源インジ ケーターが点灯していることを確認してください。
   点灯していないときは、次を参照を確認してください。**(>>> P.126)**
   コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用してください。

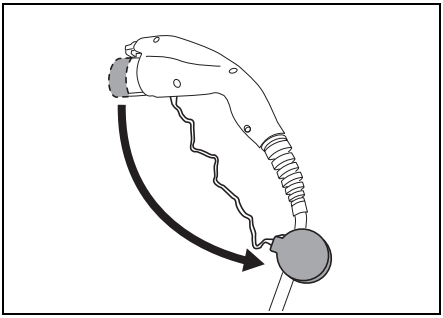


3) 車両のドアを解錠して、普通充電リッドを開ける **(>>> P.89)**
   普通充電リッドを開けると、普通充電ポート照明が点灯します。



(1) 普通充電ポート照明

4) 普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する



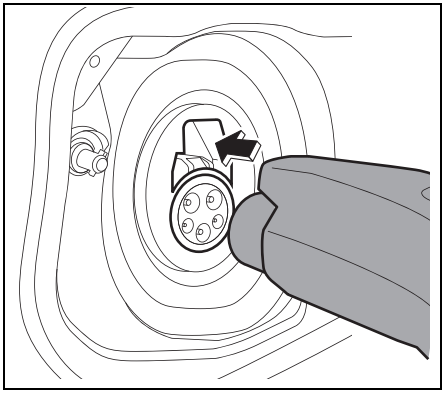
5) 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

カチッという音がして、普通充電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

ドアを施錠すると普通充電コネクターがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。 **(>>> P.96)**

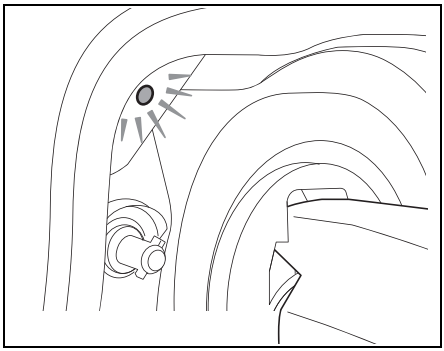


6) 普通充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認する

充電インジケーターが点灯していないときは、充電が開始されていません。 **(>>> P.90)**

充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。 **(>>> P.118)**

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、次の参照先を確認し、対処してください。。**(>>> P.94)**

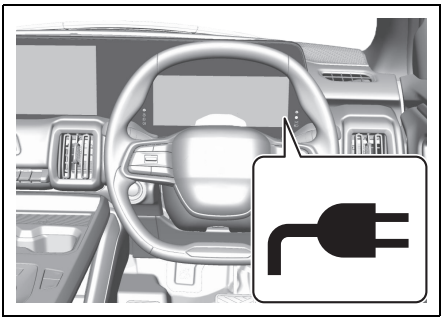


アドバイス

普通充電コネクターが接続されているとき

普通充電コネクターが接続された状態でドアを開けるかパワースイッチを“ON”にすると、センターディスプレ

イの充電コネクター接続表示灯が点灯して、充電コネクターを接続していることを通知します。



普通充電コネクターの接続後に充電 ポートの充電インジケーターが点滅したとき

充電スケジュールが登録されている状態になっており、充電を開始 することができません。**(>>> P.118)**

タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- 今すぐ充電を ON にする **(>>> P.122)**
- 充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直す

普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

- 次の参照先を確認してください。**(>>> P.96)**

安全機能について

普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクターを抜いてから再度、普通充電コネクターを挿し直して、充電ポートの充電インジケーターが点灯することを確認してください。

充電時間が長くなるとき

- 次の参照先を確認してください。**(>>> P.105)**

200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

センターディスプレイで、充電電流の上限値を変更することができます。※1

1) センターディスプレイから “EV 設定 ” を選択し、“ 充電 ” を選択します。
2) “ 普通充電電流 ” を選択します。
3) 16A または 8A を選択し、“ 確定 ” を選択します。

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。※2

- 充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。**(>>> P.99)**

※1：カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

※2：充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

普通充電インレット過熱保護

充電コネクターの接点への異物混入などにより、温度が上昇して溶損してしまうことを防ぐために、普通充電インレット部に温度センサを搭載しています。

一定の温度上昇が検知されると、速やかに充電を停止します。その後、パワース

イッチが“LOCK（OFF）”の状態でドアを開けると、メーターのマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。**(>>> P.132)**

⚠ 警告

充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (>>> P.99)**
- **充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する**
- **充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する**
  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- **挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない**
- **過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない**
- **普通充電コネクター・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない**
- **屋外では必ず防雨形コンセントを使用する**
  防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- **充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う**
- **充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する**
- **コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない**
- **雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない**
- **落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない**
- **普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない**
- **普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない**
- **電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む**
- **延長コード・変換アダプターを使用しない**
- **普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める**
  冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- **普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する**
- **普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。**

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。

次の参照先を確認し、対処してください。 (>>> P.94)

車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。**
- **分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

⚠ 注意

充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。

普通充電インレットが故障するおそれがあります。

アドバイス

自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。

充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

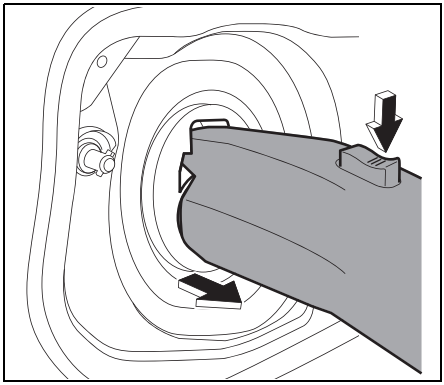
充電したあとは

1) 車両のドアの解錠操作をして、普通充電コネクターをアンロックする **(>>> P.96)**

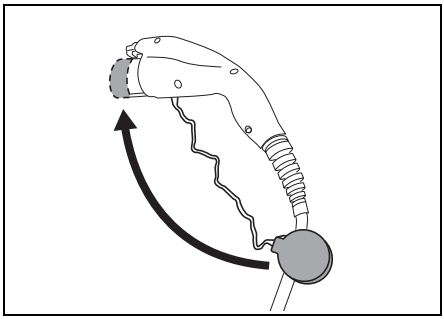
ドアの解錠操作をすると、普通充電コネクターもアンロックされ、普通充電ポート照明が点灯します。

2) ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取りはずす

充電中（充電インジケーターの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。

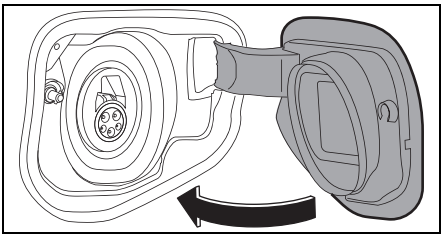


3) 普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける



4) 普通充電リッドを閉める

普通充電リッドをロックするときは、車両のドアを施錠します。 **(>>> P.89)**

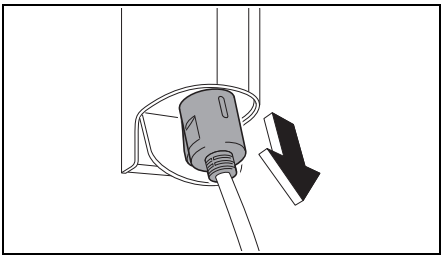


5) 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



アドバイス

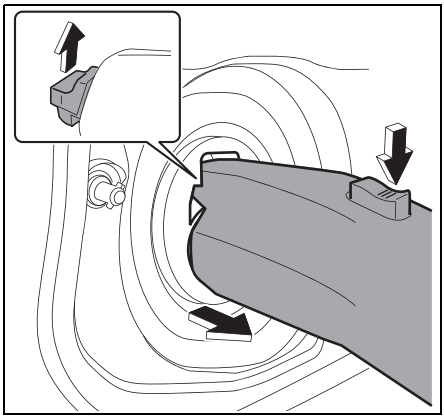
周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用バッテリー残量計 が満充電の状態になっていて も、パワースイッチを “ON” にすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

普通充電コネクターをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクターがロックされています。その場合は、スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンなどでドアの解錠操作をし、普通充電コネクターをアンロックしてください。



普通充電コネクターをアンロックできないとき

次の参照先を確認し、対処してください。 **(>>> P.96)**

⚠ 警告

充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

充電後の注意

- **普通充電ケーブルはお子さまの手の届かない場所で保管してください。**
- **コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルを**

ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。
普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

- **普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電リッドを閉めてください。**
  普通充電リッドを開けたたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた

ここでは、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電の手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）および V2H 機器の取り扱い方法をご確認ください。

⚠ 警告

急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **CHAdeMO 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用してください。**
- **電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠した V2H 機器を使用してください。**

! 注記

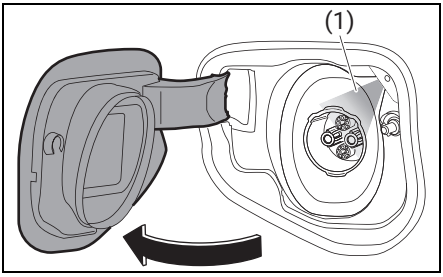
30m を超えるケーブルを使用しないでください。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電前の重要確認事項

次の参照先をお読みください。 **(>>> P.104)**

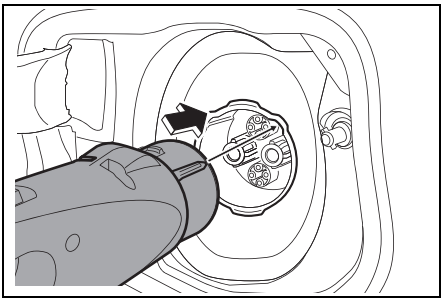
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときは

1) 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける **(>>> P.206)**
2) 急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電ポート照明が点灯します。



(1) 急速充電ポート照明

3) 急速充電コネクターを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込む
- 急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



4) 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を開始する
- 具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されます。充電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。

充電時間が長くなるとき

次の参照先をお読みください。 **(>>> P.105)**

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージ（例えば、“ 車両に異常がみつかりました ”、“ 車両故障発生 ” など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）・V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクター端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電中は

- マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。ただし、V2H 充電中の充電時間は表示されません。
- 急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。

- 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。
- 満充電に近づくと充電速度が低下して、充電完了までの時間が長くなります。
- 急速充電器（スタンド）の仕様により、満充電になる前に充電停止する場合があります。
- 駆動用バッテリーの残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までの時間が変化する場合があります。
- 駆動用バッテリーの容量の低下を防ぐため、ひんぱんな急速充電は避けることをおすすめします。
- 急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。
- 寒冷時など、駆動用バッテリーが冷えているときに急速充電・V2H 充電を行うと、モータールームから蒸気が出たり、ボンネットに結露ができたりします。駆動用バッテリーの昇温時に発生した熱が雪や氷、霜を蒸発させるためで、故障ではありません。
- 満充電時に充電量を補正しているため、駆動用バッテリー残量が 100%を表示しない場合があります。

V2H 充電／ V2H 給電について

- V2H 充電／ V2H 給電中は、マイルームモードを使用できません。
- 駆動用バッテリーが電欠間際まで低下していると、V2H 充電は使用できません。

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認 ” が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システムを始動できなくなります。

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後に EV システムを始動できなくなったときは次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

1) パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にする
2) 急速充電リッドを閉める
3) パワースイッチを “ON” にする

マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム確認中 ” が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、急速充電リッドを開けないでください。

システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で “LOCK （OFF）” になります。

4) ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、“READY” インジケーターが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠ 警告

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、

思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する
  - 急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わず、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- 急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない
- 急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを挿し込まない
- 急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない
- ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する
- 急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する
  - 急速充電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う
  - 急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中止してください。
- 急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する
  - 付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わない
  - 急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。
- 急速充電インレットの端子部が濡れないようにする
- 急速充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
  - 冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

急速充電コネクターを接続するとき

- 急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 急速充電中に、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずさないこと。急速充電器（スタンド）を操作して充電を停止した後、急速

充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしてください。

⚠ 注意

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電したあとは

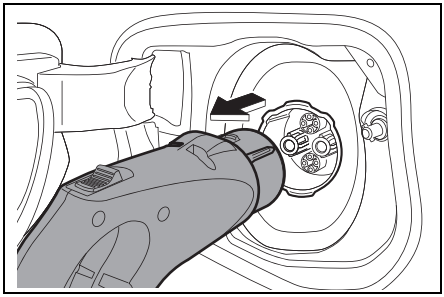
1)急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する

2)急速充電コネクターを取りはずす

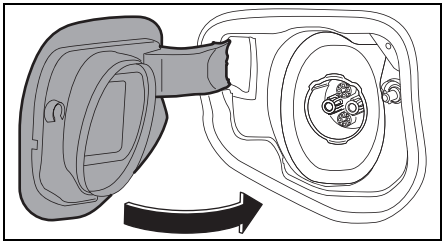
急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取りはずした急速充電コネクターは、もとの位置にもどしてください。



3)急速充電リッドを閉めてください。



アドバイス

急速充電コネクターをアンロックできないとき

- 急速充電コネクターは、急速充電器（スタンド）によりロックしています。車両のコネクターロック緊急解除ワイヤーで操作を行ってもアンロックはできません。
- 急速充電中は急速充電コネクターをはずすことはできません。はずす必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクターをはずすことができます。
- 充電が停止しても急速充電コネクターが抜けない場合、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に異常がある可能性があります。
  - 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
  - V2H 機器に問題がある場合は V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

急速充電・V2H 充電をしたあと

充電量上限で設定した値まで充電しても、急速充電器 (スタンド) ・V2H 機器に表示される充電量が実際の充電量より低く表示されることがあります。

! 注記

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電後の注意

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。急速充電リッドを開けたまま放置すると、急速充電インレットに異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。

タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

開始

設定した時刻 ※ 1 に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

開始・終了

設定した開始時刻と終了時刻に従って普通充電を実施します。※1

※1 駆動用バッテリーの状態により、予約開始設定時刻前に、充電が開始されることがあります。

繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。タイマー充電を実施したい曜日を 1 つ以上選択してください。

今すぐ充電の ON ／ OFF

充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、“ 今すぐ充電 ” を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電コネクター接続後、普通充電を開始することができます。

充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電が ON の時に普通充電コネクターを取り外した場合、今すぐ充電が OFF になります。

次回充電予定

登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻以降で最も近い充電スケジュールを “ 次回充電予定 ” と呼びます。

タイマー充電は、次回充電予定に従い、普通充電を実施します。

充電スケジュールを登録するには

センターディスプレイから、充電スケジュールを登録できます。

タイマー設定について

- 走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。
- 充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。
- 充電モードを “ 開始・終了 ” に設定し、開始時刻と終了時刻を同時刻に設定した場合、開始時刻から 24 時間充電を実施します。
- タイマー充電機能は、急速充電時および V2H 充電／ V2H 給電時には使用できません。

タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

- 時計が正しい時刻に調整されていること
- カレンダーが正しい年月日に設定されていること
- パワースイッチが “LOCK （OFF）” になっていること
- 充電スケジュールの登録後に普通充電コネクターを接続すること
  普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。
- 開始時刻よりも前に普通充電コネクターを接続すること
  充電モードを「開始」に設定したときは、設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続すると、次の充電スケジュールが参照されます。
  充電モードが「開始・終了」の場合は、開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続すると、すぐに充電を開始し、終了時刻まで充電を実施します。
- 普通充電コネクターの接続後、充電ポートの充電インジケーターが点滅することを確認してください。
- 電力遮断機能（タイマー機能を含む）を持つコンセントで使用しない
  常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

アドバイス

カレンダー設定について

タイマー充電は、センターディスプレイに表示される日時に従って実行されます。**(>>> P.158)**

充電スケジュールを登録しようとしたときに、カレンダー設定の確認画面が表示された場合は正しい日付になっているか確認し、誤っている場合は必ず修正してください。

カレンダーの内容が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しなくなります。

普通充電コネクターが車両に接続されたままの状態のとき

- 充電モードを“ 開始 ”に設定したときは、連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電コネクターを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用バッテリーが満充電のときは、タイマー充電は実施されません。
- 充電モードを“ 開始・終了 ”に設定したときは、満充電となる前に終了時刻に到達した場合、終了時刻以降で最も近い充電スケジュールを次回充電予定に更新して、満充電となるまでタイマー充電を繰り返し実施します。

タイマー充電が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行なったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- “リモートエアコン”を作動させたとき **(>>> P.395)**
- “ マイルームモード ” を開始したとき **(>>> P.123)**
- “今すぐ充電”を ON にしたとき **(>>> P.122)**
- “タイマー充電を”一時的にキャンセルしたとき **(>>> P.118)**

寒冷時バッテリー昇温／高温時バッテリー冷却について

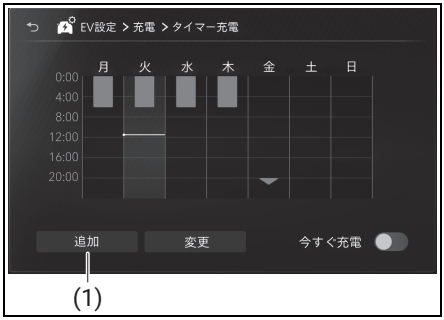
駆動用バッテリーの温度によっては、タイマー充電の待機中に寒冷時バッテリー昇温または高温時バッテリー冷却機能が作動し、充電インジケーターが点灯する場合があります。

センターディスプレイでの設定操作

充電スケジュール操作を行うときは、センターディスプレイを使用します。

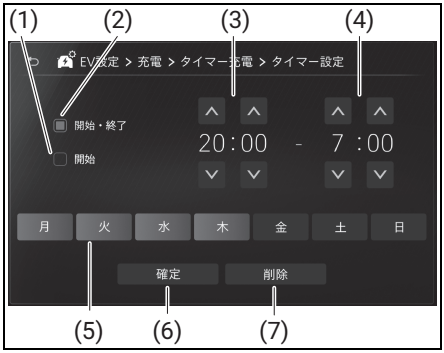
充電スケジュールを登録するには

1) センターディスプレイで“ 設定 ”を選択します。
2) “EV”を選択し、“ 充電 ”を選択します。
3) “ タイマー充電 ”を選択します。
4) “ 追加 ”を選択します。

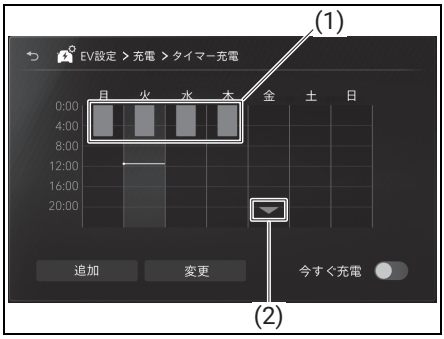


(1) “ 追加 ”

5) 充電モード“ 開始 ”または“ 開始・終了 ”を選択します。
6) 充電モードが“ 開始 ”の場合は、充電開始時間および充電する曜日を設定します。
   充電モードが“ 開始・終了 ”の場合は、充電の開始時間、終了時間、および充電する曜日を設定します。（複数の日を選択できます。）
7) 必要な設定変更を行った後、“ 確定 ”を選択します。



(1) “ 開始 ”
(2) “ 開始・終了 ”
(3) 開始時間
(4) 終了時間
(5) 曜日
(6) “ 確定 ”
(7) “ 削除 ”



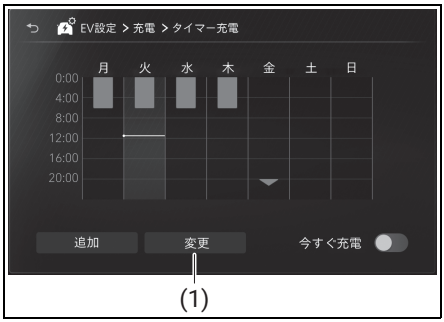
(1) “ 開始・終了 ” 設定
(2) “ 開始 ” 設定

設定終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、設定内容にしたがってタイマー充電が開始されます。

充電スケジュールの ON ／ OFF を切替えるには

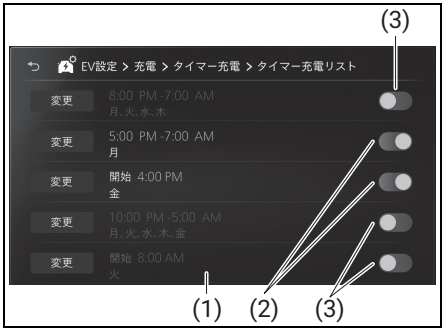
登録された充電スケジュールの ON ／ OFF を変更できます。

1)センターディスプレイで “ 設定 ” を選択し、“ 車両 ” を選択します。
2)“ 充電 ” を選択します。
3)“ タイマー充電 ” を選択します。
4)“ 変更 ” を選択して、登録された充電スケジュールのリストを表示します。



(1) “ 変更 ”

5)切替えたいスケジュールを選択して、ON ／ OFF を変更します。



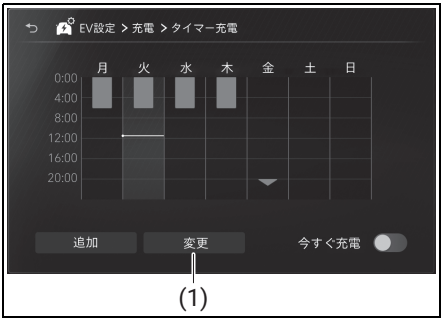
(1) 充電スケジュールリスト
(2) ボタン（ON）
(3) ボタン（OFF）

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、タイマー充電が行なわれなくなります。

充電スケジュールの登録内容を変更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

1) センターディスプレイで “ 設定 ” を選択します。
2) “EV” を選択し、“ 充電 ” を選択します。
3) “ タイマー充電 ” を選択します。
4) “ 変更 ” を選択して、登録された充電スケジュールのリストを表示します。



(1) “ 変更 ”

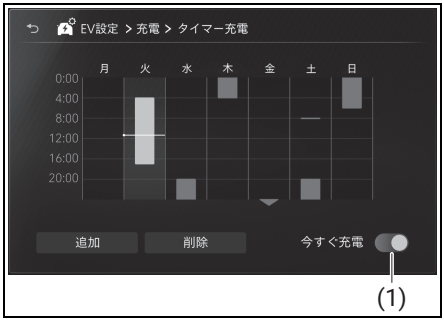
5) 変更または削除したい充電スケジュールの “ 変更 ” を選択します。
6) 登録されたスケジュールを変更するには、充電スケジュールの登録手順のステップ 5、6、7 を実行します。
登録された詳細を削除するには、“ 削除 ” を選択し、確認画面で “ はい ” を選択します。登録されたスケジュールの削除をキャンセルするには、“ いいえ ” を選択します。

今すぐ充電を ON にするには

次の 2 つのうち、いずれかの方法で設定を変更できます。

- タイマー充電での画面操作

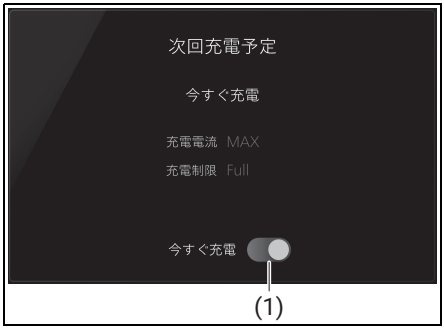
1) センターディスプレイで “ 設定 ” を選択します。
2) “ 車両 ” を選択し、“ 充電 ” を選択します。
3) “ タイマー充電 ” を選択します。
4) “ 今すぐ充電 ” をタッチします。
タッチするたびに、ON ／ OFF が切替ります。



(1) ボタン（ON）

- エンディング画面での操作

1) パワースイッチを “LOCK（OFF）” にします。エンディング画面がセンターディスプレイに表示されます。
2) 今すぐ充電 ” をタッチします。
タッチするたびに、ON ／ OFF が切替ります。



(1) ボタン（ON）

設定が完了し、普通充電コネクターを挿し込むと、充電が開始されます。

- 充電コネクターの操作

1) 普通充電コネクターを挿し込んだ後、充電インジケーターが点滅します。
2) 充電インジケーターが点滅している間に、普通充電コネクターがロックされた場合は解除して普通充電コネクターを取りはずし、すぐに再度挿し込みます。

タイマー充電の設定操作が中断されるとき

タイマー充電の設定は、次の状態になると中断されます。

- 設定が完了する前にパワースイッチを押したとき
- 車両が走行し始めたとき
- タイマー充電設定より優先度の高い画面が表示されたとき

⚠ 注意

EV システムが停止している状態で設定をするときは、鉛バッテリーあがりに注意してください。

マイルームモードを使う

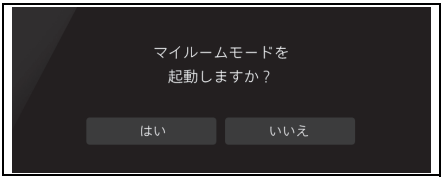
車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

1) 充電ケーブルを車両に接続して充電を開始します。
普通充電の場合： **(>>> P.107)**
急速充電の場合： **(>>> P.113)**
V2H 充電／ V2H 給電時は、マイルームモードを使用できません。

2) 充電中、またはタイマー充電の待機中にパワースイッチを “ON” にします。

3) センターディスプレイにマイルームモード設定画面が表示されます。



4) “ はい ” を選択し、“OK” を押すと、マイルームモードが開始され、エアコンやオーディオなどが利用可能になります。
マイルームモードを使用しないときは、“ いいえ ” を選択し、“OK” を押してください。

⚠ 注意

充電コネクターが正しく挿し込まれていないと、パワースイッチを操作した際に EV システムが意図せず起動し、事故につながる可能性があります。パワースイッチを操作する前に、充電コネクターの接続を確認してください。

アドバイス

- 充電中にパワースイッチを “ON” にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で “LOCK（OFF）” になります。
- パワースイッチを “LOCK（OFF）” にすると、マイルームモードが停止します。
- 急速充電が完了すると、マイルームモードは自動的に停止します。

マイルームモード使用中の電力バランスに関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに、駆動用バッテリーの残量画面が自動的に表示され、マイルームモード使用中のおおよその電力バランス（電力供給と電力消費のバランス）を確認することができます。

1) センターディスプレイの “ 車両 ” を選択します。
2) 画面の “ エネルギーフロー” を選択します。



マイルームモードの使用中は

マイルームモードの使用中は、次のようなことが起きる場合があります。

- 駆動用バッテリーの残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止します。その場合は、駆動用バッテリーの残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを “LOCK （OFF）” にし、駆動用バッテリーの残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。
- 駆動用バッテリーの充電時間が長くなります。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ります。
- 普通充電中または充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。
- パワーステアリング警告灯が点灯することがありますが、異常ではありません。
- 普通充電時はマイルームモードを維持するために満充電終了しないよう充電量を制御をしています。

急速充電中のマイルームモード使用について

- 急速充電中にマイルームモードを使用するときは、使用しないときと比べて、充電完了時の充電量が低下します。また、外気温が低く湿度が高い環境では、窓が曇る場合があります。エアコンスイッチを ON にすることで車内を除湿し、ガラスのくもりを取り除くことができます。**(>>> P.391)**
  その際は、寒冷時バッテリー昇温が停止するため充電量が低下する場合があります。
- 急速充電時は満充電になるとマイルームモードが終了します。

駆動用バッテリーが満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用バッテリーが満充電の状態で、普通充電コネクタが接続されて電力が供給されているときにパワースイッチを“ON”にすると、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに“ 充電リッドが開いています ”というメッセージが表示されます。

駆動用バッテリーが満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用バッテリーから一部の電力が消費されることがあります。この場合、再度充電が行われることがあります。

マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、センターディスプレイにメッセージが表示されたときは、次のように対処してください。

メッセージ	原因と対処方法
“ 駆動用バッテリー残量不足 マイルームモード 起動不可 ”	マイルームモードの開始に必要な駆動用バッテリーの残量がない状態です。 駆動用バッテリーの残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。
“ 駆動用バッテリー残量不足 マイルームモードを 終了します ”	駆動用バッテリーの残量が不足しています。マイルームモードの使用を中止して、駆動用バッテリーを充電してください。
“ 駆動用バッテリー残量低下 使用電力抑制してください ”	駆動用バッテリーへの充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用バッテリーの残量が低下しています。※1 • 車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。 • マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源を OFF にして、駆動用バッテリーの残量を増やしてください。

※1 センターディスプレイに表示される駆動用バッテリーの残量表示画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。 **(>>> P.124)**

⚠ 警告

マイルームモードを使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車内の温度が高温または低温になり、熱中症や脱水症状、低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態となるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。**
- **車両周囲の安全を十分に確認してから使用してください。**

正常に充電できないときは

正しい手順で行なっても充電が開始されない場合は、次の項目をご確認ください。

メーターのマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、次の参照先を確認してください。**(>>> P.132)**

普通充電が正しく行われないとき

次の内容を参考にして、必要な処置を行なってください。

普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが “OFF” になっている	手元スイッチが設定されている場合は、スイッチを “ON” にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。ほかのコンセントが近くにない場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物／設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。

- 上記項目で解消しない場合、普通充電ケーブル（電源プラグコードを含む）に断線等の可能性がありますので、ただちに充電を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。いったん電源プラグをコンセントから抜き、正常な電源に接続しなおしてください。**(>>> P.94)** 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

普通充電コネクターを接続しても充電ポートの充電インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクターが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 • 普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 • 普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケーターが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
すでに駆動用バッテリーが満充電になっている	駆動用バッテリーが満充電の場合、充電は行われません。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

普通充電ポートの充電インジケーターが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
普通充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているとき （※1）：充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、“ 今すぐ充電 ” を ON にしてください。**(>>> P.122)**
充電ポートの充電インジケーターが速い点滅をしているとき （※1）：外部電源、または車両に異常が発生している	パワースイッチが “LOCK （OFF）” の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。**(>>> P.132)**

※1 普通充電ポートの充電インジケーターの点灯・点滅については、次の参照先を確認してください。**(>>> P.132)**

正常に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電できないとき

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクターの接続状態を確認し、コネクターを確実にロックしてください。
急速充電コネクターが確実にロックされていない	接続状態に異常がないのに急速充電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。 • 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 • V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 • 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 • 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 • 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 • EV システムを始動できなくなった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	• 急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 • V2H 機器の取扱説明書を確認するなど電源状態をご確認ください。
すでに駆動用バッテリーが満充電になっている	駆動用バッテリーが満充電の場合、充電は行われません。
普通充電コネクターも接続している	普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電を開始できません。また、シフトポジションが “P” でないと急速充電システムを使用できません。
繰り返し急速充電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度充電してください。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器（スタンド）または V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器（スタンド）または V2H 機器の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
駆動用バッテリーの温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電または V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を実施してください。
急速充電器（スタンド）または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。 • 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 • V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。 • 急速充電器（スタンド）に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 • EV システムを始動できなくなった場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。しばらく時間をあけてから再度急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行なってください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度充電してください。

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後に EV システムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった	次の参照先の手順でシステムチェックを実施してください。 **(>>> P.115)** 再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
急速充電コネクターが接続されたままになっている	急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。(? P.87) 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクターを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電／ V2H 給電システムが故障した	• 故障の原因によっては、充電リッドを閉めることで、EV システムを始動できる場合があります。 • 始動できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行なってください。

希望の時刻に充電が開始しない

考えられる原因	対処方法
車両のカレンダー、時刻が正しく設定されていない	カレンダーの設定内容を確認し、正しい年月日、時刻に設定してください。 **(>>> P.158)**
車両に普通充電コネクターが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電コネクターを接続しておいてください。
設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続した	充電モードが “ 開始 ” の場合は、設定した開始時刻よりも前に普通充電コネクターを接続してください。 (※1) 充電モードを “ 開始終了 ” に設定した場合は、終了時刻よりも前に普通充電コネクターを接続すれば、開始時刻を過ぎていても充電します。

充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
“ 今すぐ充電 ” が ON になっている	タイマー充電する際は、“ 今すぐ充電 ” を OFF に設定してください。**(>>> P.122)**
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。 **(>>> P.121)**
充電モードが「開始・終了」に設定されており、かつ開始時刻と終了時刻のあいだに普通充電コネクターを接続した	充電モードが「開始・終了」のときは、開始時刻を過ぎて普通充電コネクターを接続すると、終了時刻まで充電が実施されます。充電スケジュールを確認してください。
充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクターを抜き挿しした	普通充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクターを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます。**(>>> P.109)** いったん普通充電コネクターを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモード、またはタイマーエアコンを作動させた	マイルームモード、またはタイマーエアコンを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが “LOCK（OFF）” の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行なってください。

“ 充電コネクターが操作されたため充電が停止しました ” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電中に普通充電コネクターを取りはずした	普通充電中に普通充電コネクターを取りはずすと、充電は中断されます。充電を継続する場合は、再度コネクターを接続してください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能 （※1）が作動したことで低下した駆動用バッテリー残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした	

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクターが確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 • 普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“ カチッ ” と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 • 普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 正しい作業手順に従っても充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
普通充電中に普通充電コネクターのロック解除ボタンを押した	普通充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクターを接続し直してください。

(※1) 寒冷時バッテリー昇温・タイマーエアコンが作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモードの使用も、電力を消費します。**(>>> P.101) (>>> P.395) (>>> P.123)**

“ 充電が停止しました（駆動用電池温度による制限）” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用バッテリーが高温の状態が続いたため、駆動用バッテリーの保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用バッテリーが冷えてから再度、充電を行ってください。

“充電が停止しました（停電または電源プラグ抜け）”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 • 電源プラグが抜けていないか • 手元スイッチが OFF になっていないか • コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか • ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	• 普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 • 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した • 普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある • 普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない • この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

“充電が停止しました（充電設備の要因）”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。 他の普通充電器（スタンド）で充電可能かご確認ください。他の普通充電器（スタンド）でも充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	
急速充電器（スタンド）が故障している	本メッセージが表示された場合は、急速充電器（スタンド）が故障しているおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）は使用しないでください。他の急速充電器（スタンド）での充電が可能かご確認ください。 他の急速充電器（スタンド）で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）で充電してください。
急速充電器（スタンド）が車両に適合していない	

“充電が停止しました（AC 供給電源の要因）”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 • 電源プラグがしっかりと挿し込まれているか • 延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか • 専用回線に接続されているか • 停電が発生していないか • 外部電源の供給電圧が低下していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

“充電が停止しました（電装品の電力消費大）”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 • ヘッドランプやオーディオなどが　ON になっている場合は、OFF にしてください。 • パワースイッチを “LOCK（OFF）” にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、鉛バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、鉛バッテリーを充電してください。

“充電が停止しました（システムの要因）”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

“充電完了 駆動用バッテリー保護のため 充電を優先しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用バッテリーヒーターが作動した	駆動用バッテリーヒーターが作動すると、タイマー充電を一時的にキャンセルして充電を開始します。 これは、駆動用バッテリーの保護機能のため、故障ではありません。

“充電システム確認のため充電リッドを閉めてください 取扱書を確認”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電／ V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、システムチェックが正常に終了するまで、システムを始動できなくなります。次の参照先の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。**(>>> P.115)**

“ 充電終了時刻になったため充電が停止しました ” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった	• 急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。
	車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。 • エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が “ON” のため、消費電力が大きい可能性があります。電装品の電源を “OFF” にしてから、急速充電を行って下さい。 • 駆動用バッテリーの温度が低い可能性があります。駆動用バッテリーが温まってから急速充電を行って下さい。

“ 充電が停止しました（充電設備または車両の要因）” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
コネクターロックシステムが故障した	スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください

DC 外部給電システム

車両に外部給電器 ※1 を接続することで、車両から外部へ給電 ※2 を行います。車両の鉛バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも給電を行うことができます。

※1 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用給電システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

※2 車両側の定格出力は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力上限以上は出力されません。

DC 外部給電システム

このシステムを使用するには、外部給電器 ※1 が必要です。（車両には付属していません）

※1 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用給電システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

DC 外部給電システムの使いかた

DC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行なってください。

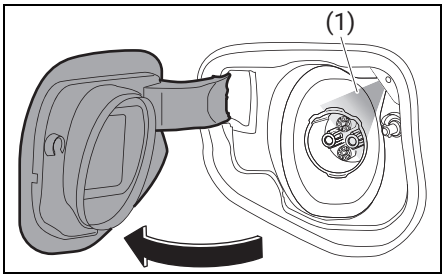
DC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず次の状態にあることを確認してください。

- パーキングブレーキがかかっている **(>>> P.264)**
- パワースイッチが “LOCK（OFF）” になっている **(>>> P.251)**
- 地面が硬く平らな場所に駐車されている
  駐車するときは、輪止めの使用をおすすめします。輪止めはスズキ販売店またはスズキ代理店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっている
- シフトポジションが “P” になっている

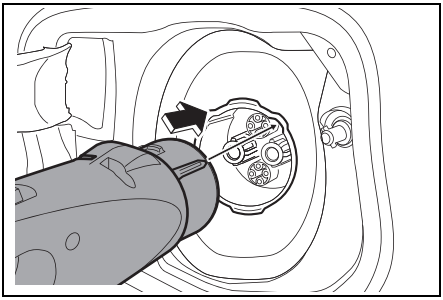
DC 外部給電を開始するときは

1) 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開けます。 **(>>> P.113)**
   急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電ポート照明が点灯します。

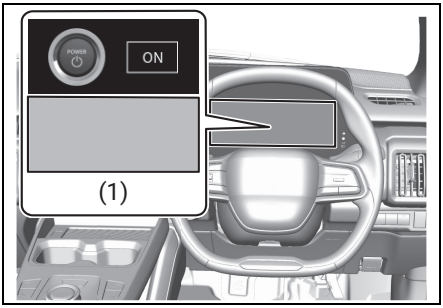


(1) 急速充電ポート照明

2)外部給電コネクターを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込みます。
- 外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



3)ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを“ON”にします。
- メーターのマルチインフォメーションディスプレイに“ 電源状態 ON”と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EV システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。



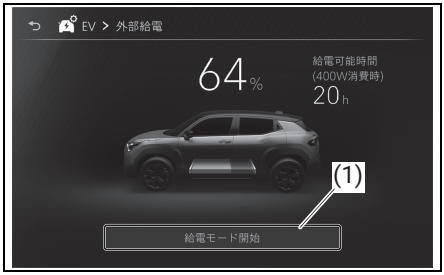
(1)“ 電源状態 ON”

4)センターディスプレイの“ 設定 ”を選択し、“EV”を選択します。

5)“ 外部給電 ”を選択します。
- 外部給電モードの選択画面が表示されます。

6)“ 給電モード開始 ”をタッチします。
- 外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。※1

駆動用バッテリーの残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。



(1)“ 給電モード開始 ”

※1 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

7)“OK”を選択します。
- 給電待機画面が表示されます。

スイッチを押すと、DC 外部給電システムの設定操作が中止されます。
- 外部給電器の操作方法は、外部給電器に付属の取扱説明書をご確認ください。

DC 外部給電中は、センターディスプレイで、現在の給電状況をお知らせします。

アドバイス

DC 外部給電システムの使用中は
- シフトポジションを“P”からほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- 外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。
- 車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。

- キーレスエントリまたはリクエストスイッチでドアの施錠・解錠することはできません。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、メータのマルチインフォメーションディスプレイに“リモコンを検知できません”と表示されたりすることがあります。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合、使用する電気製品を減らしてください。
- 走行中は DC 外部給電システムを使用できません。
- 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するために DC 外部給電システムが自動で停止することがあります。
  その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC 外部給電システムを開始してください。
- DC 外部給電後、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認”が表示されたとき急速充電後、V2H 充電／ V2H 給電後、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため充電リッドを閉めてください 取扱書を確認”が表示されたときの手順に従い、処置してください。**(>>> P.115)**
- 特に外気温が低いときは、駆動用バッテリーを保護するため、DC 外部給電システムを使用できないことがあります。
- その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用バッテリーを暖めてから使用してください。
- DC 外部給電システム使用中はエアコンおよび AC 電源コンセントを使用することができます。

AC電源コンセントの使用について

DC 外部給電システムを使用しているときは、車内にある AC 電源コンセントからも電源を取り出すことができます。ただし、DC 外部給電システムを車両側定格出力未満で使用している場合でも、DC 外部給電システムの出力を優先させるため、AC 電源コンセントの出力を停止する場合があります。AC 電源コンセントを使用したい場合には、DC 外部給電システムで使用している電気製品を減らし、もう一度 AC100V 電源を ON してください。**(>>> P.416)**

使用している電気製品を減らしても、AC 電源コンセントは自動で復帰しません。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両の火災や感電などを起こしたり、最悪の場合死亡につながる可能性があります。

DC 外部給電システムを使用するときの警告

- **傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。**
  使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- **ボンネットが閉まっていることを確認してください。**

- モータールーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かないでください。
- 給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が “OFF” になっていることを確認してください。
  電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
- ボディカバーなどをかけた状態で使用しないでください。
- お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わないでください。
- 外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続してください。
  外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは DC 外部給電システムを使用しないでください。
  使用中、雷に気づいたときには DC 外部給電システムを中止してください。
- 急速充電インレットに急速充電コネクターまたは外部給電コネクター以外のものを挿し込まないでください。
- 外部給電コネクターおよび急速充電インレットに異物がないか、または、雪や氷が付着していないか確認してください。
  付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 急速充電インレットの端子部がぬれないようにしてください。
- 外部給電コネクター、急速充電イン
- レットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まないでください。

車両に給電ケーブルが接続されているとき

ダイヤルシフトを操作しないでください。万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが “P” からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

DC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 給電時は、外部充電器、給電ケーブル に近づかないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、荷室など含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品

に付属の取扱説明書に記載されている注意事項をお守りください。

記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠した外部給電器を接続してください。(>>> P.139)

ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

DC 外部給電に関する情報の表示

メーターのマルチインフォメーションディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間 ※1 などの情報を確認することができます。

※1 表示される時間は 400W（急速充電インレットにおける電力）消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電時間と異なる場合があります。

- DC　外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンが “OFF” になります。DC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作してエアコンを作動させてください。※1

※1 DC 外部給電システムの使用中すると、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

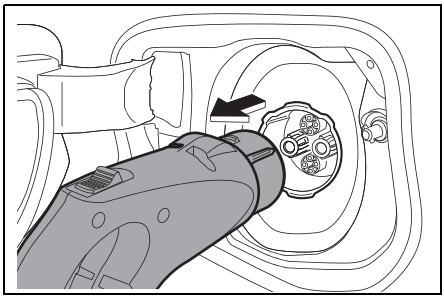
- 外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ（例えば、“ 車両に異常が見つかりました ”、“ 車両故障発生 ” など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。
  この場合、外部給電コネクターの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電器に付属の取扱説明書をご確認ください。

DC 外部給電を停止するときは

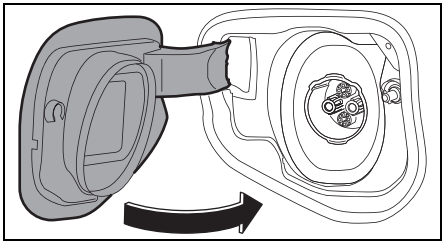
1) 使用している電気製品の電源を “OFF” にします。

2) 外部給電器を停止させます。
- 外部給電器に付属の取り扱い説明書に従い、操作してください。
- パワースイッチを “LOCK （OFF）” にしても給電を停止できます。

3) 外部給電コネクターを取りはずします。
- 外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器に付属の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



4) 急速充電リッドを閉めます。
- キャップはカチッと音がするまで確実に閉め、ロックされたことを確認してください。



2

アドバイス

DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき

次の参照先の手順に従い、処置してください。**(>>> P.115)**

外部給電コネクターをアンロックできないとき

次の参照先の手順に従い、処置してください。**(>>> P.117)**

⚠ 注意

DC 外部給電システムの故障を防ぐために

- **ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は急速充電リッドでケーブルを挟まないでください。**
- **外部給電コネクターを急速充電インレットに抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。**
  挿し込み不足の原因になります。
- **給電中に外部給電コネクターやケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。**
- **給電中に外部給電コネクターやケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけたりしないでください。**
- **給電中に外部給電コネクター・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください**
- **給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。**

DC 外部給電システムを使用したあとは

急速充電インレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、急速充電リッドを閉めてください。

急速充電リッドを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないとき

次の内容を参照して、それぞれ必要な処置を行なってください。

給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターがしっかりと接続されていない	外部給電コネクターが急速充電インレットに確実に接続されているか確認してください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
“READY” 表示灯が点灯している	パワースイッチが “LOCK （OFF）” の状態で、ブレーキを踏まずにパワースイッチを押し、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに “ 電源状態 ON” と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが “P” 以外にある	メーターでシフトポジションが “P” になっていることを確認してください。**(>>> P.151)**
駆動用バッテリーの残量が不足している	駆動用バッテリーの残量を確認し、残量が少なくなっているときは、駆動用バッテリーを充電してください。**(>>> P.149) (>>> P.100)**
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください
外部給電器に異常が発生している 外部給電器の電源が OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
前回使用時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認 ” が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。**(>>> P.115)** その後、再度開始操作を行ってください。

考えられる原因	対処方法
普通充電または急速充電を使用している	普通充電または急速充電を終了してから DC 外部給電システムの開始操作を行ってください。
繰り返し DC 外部給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度給電してください。
その他	「DC 外部給電作業前の重要確認事項」を確認し、再度開始操作を行ってください。**(>>> P.139)**

給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

使用後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電コネクターを取りはずしてください。
使用終了時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認 ” が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。**(>>> P.115)**

使用後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

3. 走行に関する情報表示

メーターディスプレイ 148
計器の見かた 148
マルチインフォメーションディスプレイ 153

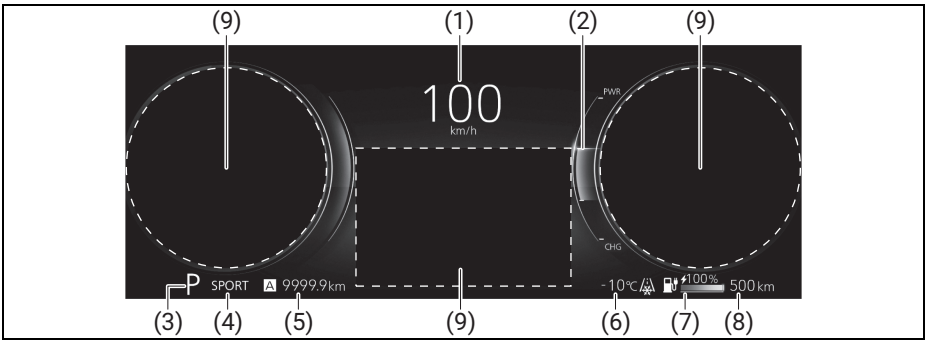
センターディスプレイ 156
センターディスプレイ 156

警告と表示 159
警告灯と表示灯 159
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ 182

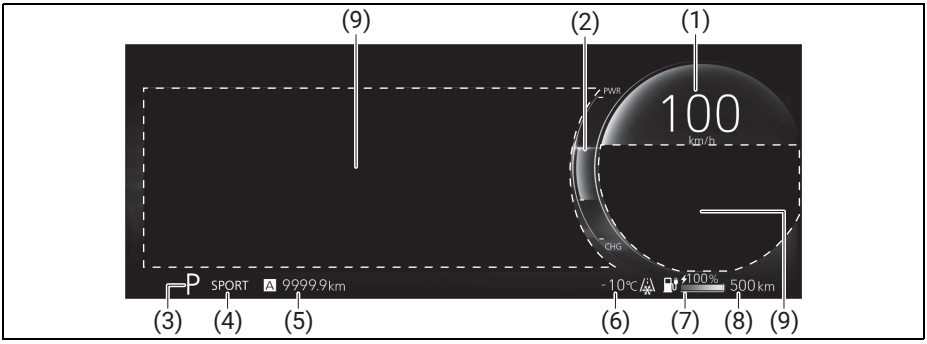
計器の見かた

パワースイッチが“ON”のとき、スピードメーターやパワーメーターなどがメーターディスプレイに表示されます。メーターディスプレイの表示レイアウトは、センターディスプレイの“設定”から変更できます。**(>>> P.503)**

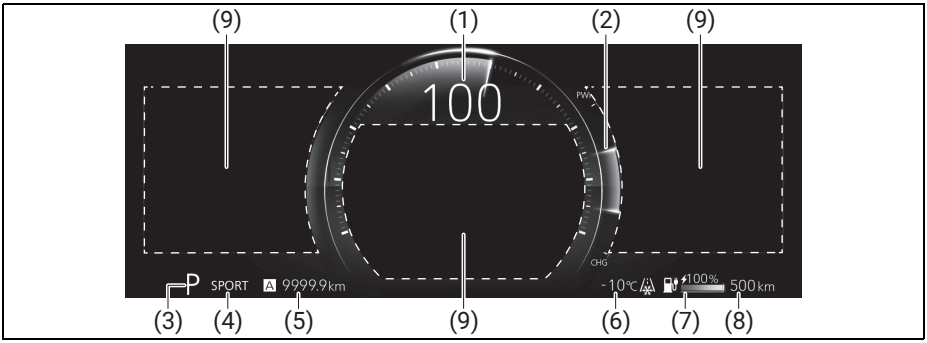
Standard



Wide



Classic



(1) スピードメーター（速度計）

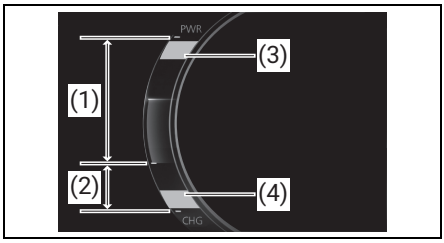
(2) パワーメーター
(3) シフトポジション
(4) ドライブモード（ECO、NORMAL、SPORT）
(5) トリップメーター（区間距離計）／オドメーター（積算距離計）
(6) 外気温計
(7) 駆動用バッテリー残量計
(8) 航続可能距離
(9) マルチインフォメーションディスプレイ

スピードメーター（速度計）

走行速度が示されます。

パワーメーター

走行中の EV システムの出力や、回生の状態を表示します。



(1) パワーエリア
(2) 回生エリア
(3) 出力制限表示
(4) 回生制限表示

- 加速時には、現在の出力（加速力）がパワーエリア内に表示され、出力制限表示 ※1 が上限となります。
- 回生時には、現在の回生エネルギー（回収している電力量）が回生エリア内に表示され、回生制限表示 ※2 が上限となります。

※1 以下の状況では、出力（加速力）が制限され、インジケーターがパワーエリア内に表示されます。インジケーターは状況に応じて変化します。
駆動用バッテリーの充電量が低く、これ以上の出力が供給できない場合、および / または駆動用バッテリーの温度が非常に高いまたは非常に低い場合。

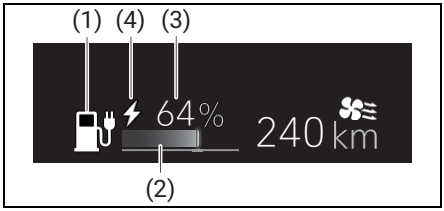
※2 以下の状況では、回生エネルギー（回収している電力量）が制限され、インジケーターが回生エリア内に表示されます。インジケーターは状況に応じて変化します。
駆動用バッテリーの充電レベルが高く、これ以上の回生が行なえない場合、および / または駆動用バッテリーの温度が非常に高いまたは非常に低い場合。

駆動用バッテリー残量計

駆動用バッテリー残量計は、駆動用バッテリーの残量の目安が示されます。

駆動用バッテリー残量警告灯が黄色で点灯した場合は、できるだけ早く駆動用バッテリーを充電してください。

充電中は、充電マークが点灯します。



(1) 駆動用バッテリー残量警告灯
(2) 駆動用バッテリー残量計

(3) 駆動用バッテリー残量（%）
(4) 充電マーク

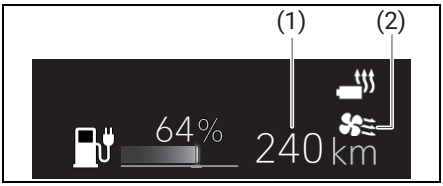
アドバイス

駆動用バッテリーの温度が低くなると、駆動用バッテリーの使用可能容量が減少するため、駆動用バッテリー残量が十分な充電残量を示していても、駆動用バッテリー残量警告灯が点灯することがあります。

航続可能距離

現在の駆動用バッテリーの充電状態で走行できるおよその距離が表示されます。

エアコンを使用しているときは、エアコンの作動状況が表示され、エアコンによる消費電力を考慮した航続距離が表示されます。



(1) 航続可能距離
(2) エアコンの作動状況

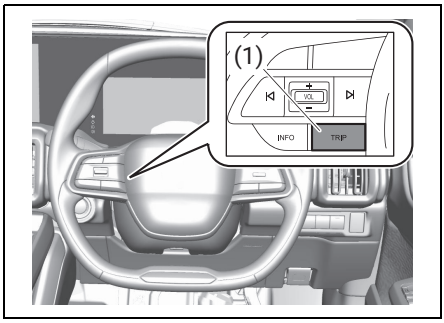
アドバイス

外気温が低くなると、駆動用バッテリー残量が十分な充電残量を示していても、走行距離が短くなることがあります。駆動用バッテリーを早めに充電してください。

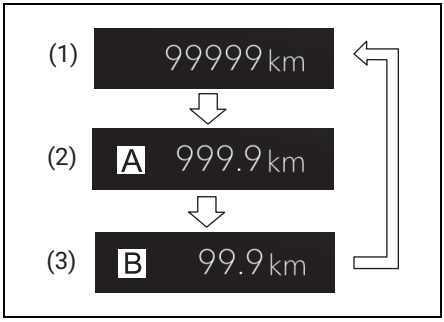
オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

トリップメーター（区間距離計）または、オドメーター（積算距離計）が表示されます。

ハンドルの “TRIP” スイッチを押すと、表示が切り替わります。



(1) “TRIP” スイッチ



⇧⇩	“TRIP” スイッチ短押し

(1) オドメーター
(2) トリップメーター A
(3) トリップメーター B

⚠ 警告

走行中に表示の切替えをすると、操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中は表示の切替え操作をしないでください。

オドメーター（積算距離計）

新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が表示されます。（リセットはできません）

トリップメーター（区間距離計）

リセットしてからの走行距離が表示されます。

A および B の 2 種類の走行距離を計測できます。

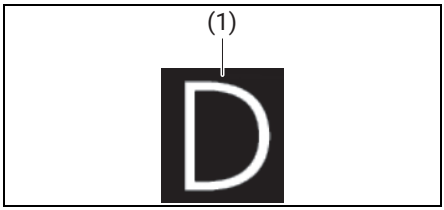
リセットするときは、表示が「0.0」になるまで “TRIP” スイッチを長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。

シフトポジション

現在のシフトポジションが表示されます。



(1) シフトポジション

アドバイス

パワースイッチを “ON” にする、またはシフトポジションを変更したときに、表示がすぐに切り替わらないことがありますが、異常ではありません。

ドライブモード／トレイルモード／スノーモード

選択した走行モードが表示されます。

ドライブモード表示

選択したドライブモードが表示されます。 **(>>> P.258)**

トレイルモード表示（4WD 車）

トレイルモードを選択すると表示されます。 **(>>> P.259)**

スノーモード表示（2WD 車）

スノーモードを選択すると表示されます。 **(>>> P.259)**

照度コントロール

メーター照明の明るさは、センターディスプレイで調整できます。

センターディスプレイの操作については、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

- センターディスプレイの“設定”から調整します。

  1) メインメニューの “ 設定 ” を選択します。

  2) “ 画面 ” を選択します。

  3) “ メーターディスプレイ ” を選択します。

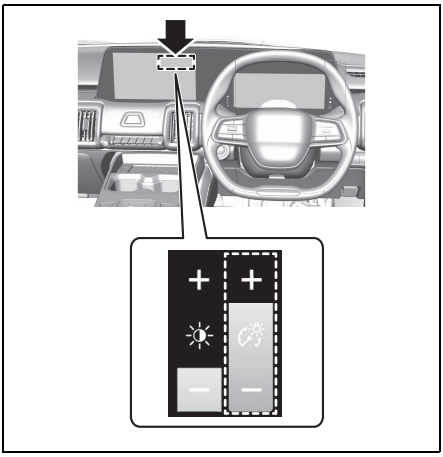
  4) 次の画面で “ 輝度 ” を調整します。



- センターディスプレイのステータスバーから調整します。

  1) ステータスバーからクイックアクセスメニューを開きます。

2)次の画面で “ 輝度 ” を調整します。



⚠ 警告

走行中に明るさの調節をすると、操作に気を取られて思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中は、明るさの調節をしないでください。

アドバイス

メーター照明の明るさは、車外が明るいときと暗いときそれぞれ調整することができます。

外気温計

外気温が℃単位で表示されます。外気温が氷点下近くになると、フリーズマークが表示されます。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。



(1) フリーズマーク

アドバイス

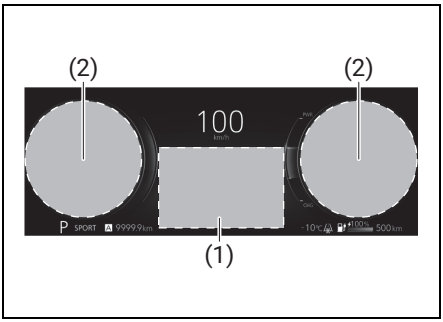
低速走行しているときや停止しているときは、表示と実際の外気温が異なる場合があります。

マルチインフォメーション ディスプレイ

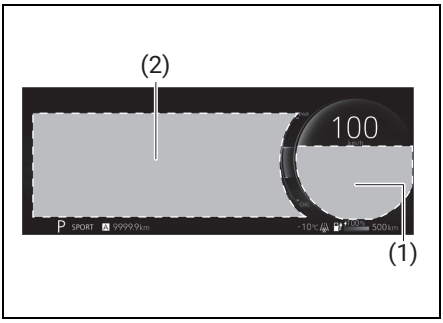
パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき、マルチインフォメーションディスプレイに消費電費や運転に関する情報が表示されます。マルチインフォメーションディスプレイは、センターディスプレイと連動してさまざまな情報を表示します。

メーターディスプレイの表示レイアウトは、センターディスプレイの設定から変更することができます。

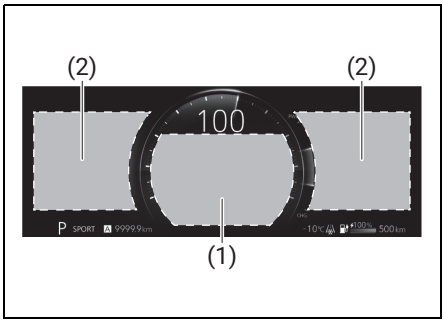
Standard



Wide



Classic



(1) 運転支援機能表示エリア
(2) コンテンツ表示エリア

運転支援機能表示エリア

運転支援機能に関する次の情報が表示されます。

- デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II） **(>>> P.292)**
- 車線逸脱抑制 **(>>> P.307)**
- 車線維持支援 **(>>> P.312)**
- 標識認識機能 **(>>> P.326)**
- アダプティブクルーズコントロール **(>>> P.317)**

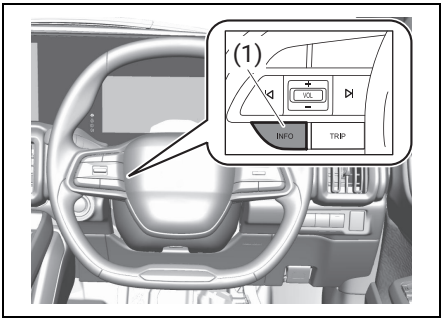
コンテンツ表示エリア

次のいずれかが表示されます。

表示内容を切替えるときは、ハンドルの “INFO” スイッチを押してください。

- ナビゲーション情報 ※1
- メディア情報 ※1
- 車両情報（瞬間電費、平均電費、エネルギーフロー、充電情報）
- ユーザーカスタマイズ ※1
- 警告やアドバイスなどのメッセージ

※1 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。



(1) “INFO ” スイッチ

3

ナビゲーション情報表示

センターディスプレイと連動して、ナビゲーションの画面がメーターディスプレイに表示されます。

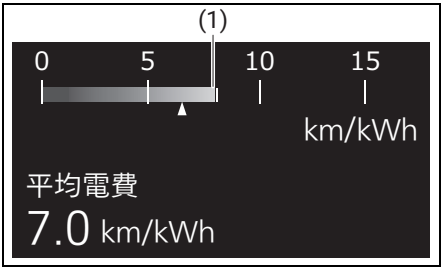
メディア情報表示

Bluetooth® 機器、USB 機器、Apple CarPlay、Android Auto ™などの情報がメーターディスプレイに表示されます。

詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

瞬間電費表示

走行中の瞬間電費がグラフで表示されます。



(1) 瞬間電費

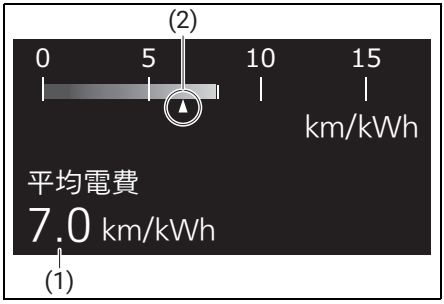
アドバイス

- 停車中はグラフが表示されません。
- 最大表示値は15.0 km/ k Whです。実際の電費がこれを超えても、それ以上の値は表示されません。
- 電費が大きく変化する走行をすると、表示に遅れが発生します。
- 表示される数値は目安です。実際の数値と異なる場合があります。

平均電費表示

平均電費が数字と瞬間電費のグラフ上に、マークで目安が示されます。

電費のリセットは、センターディスプレイの“ 設定 ” から行なってください。 **(>>> P.503)**



(1) 平均電費
(2) 平均電費マーク

アドバイス

センターディスプレイからの電費のリセットは、通算の電費のみ可能です。

充電情報表示

駆動用バッテリーが充電されているとき、充電に関する情報が表示されます。 **(>>> P.100)**

エネルギーフロー表示

EV システムの作動状態が表示されます。 **(>>> P.88)**

ユーザーカスタマイズ表示

ユーザーカスタマイズはセンターディスプレイの“ 設定 ”から有効にすることができ、センターディスプレイの特定のコンテンツ（壁紙や時計など）をメーターディスプレイに表示させることができます。 **(>>> P.503)**

警告やアドバイスなどのメッセージ表示

警告やアドバイスなどのメッセージは、優先度の高い順に表示されます。 **(>>> P.182)**

センターディスプレイ

パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき、センターディスプレイに車両情報やオーディオの情報などが表示され、メインメニューのアイコンからさまざまな設定ができます。

センターディスプレイの操作方法や情報の詳細は、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

アイコン	項目	内容
	車両	次の車両情報と設定が表示されます。 • エネルギーフロー • 履歴（走行距離／平均電費） • EV 設定 • タイマー充電設定
	エアコン	エアコンの操作ができます。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	設定	車両設定を変更できます。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	アプリ	Android Auto ™や Apple CarPlay を使用して、さまざまなアプリケーションが表示されます。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	メディア	オーディオシステムの操作画面が表示されます。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	電話	電話画面が表示されます。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	ナビ	ナビゲーションの画面が表示されます。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	ホーム	ホーム画面に戻ります。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。



(1) タブエリア
(2) ステータスバー

アドバイス

タブエリアのアイコンの位置は、車両の仕様やお客様の操作により変更されることがあります。

車両情報

メインメニューで“車両”を選択すると、“エネルギーフロー”、“履歴”（走行距離／電費）、“EV 設定”、“タイマー充電設定”にアクセスできます。

エネルギーフロー

“エネルギーフロー”を選択すると、EV システムの作動状態が画面に表示されます。 **(>>> P.88)**

履歴（走行距離／平均電費）

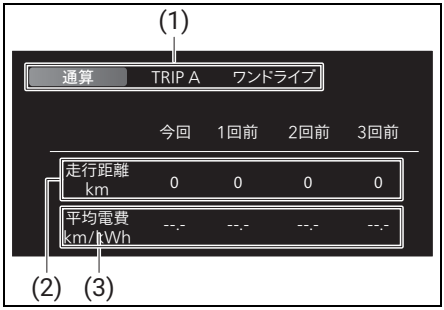
“履歴”を選択すると、走行距離と平均電費が画面に表示されます。

1) メインメニューから“車両”を選択します。
2) “履歴”を選択します。

通算

表示モード選択の“通算”を選択すると、表示をリセットしてからの走行距離と電費が表示されます。現在の数値と過去 3 回のリセットからの数値が表示されます。

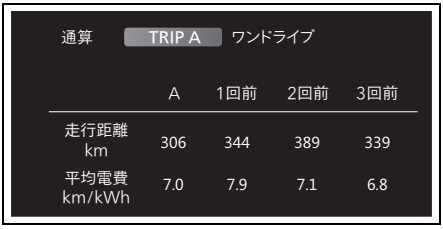
電費のリセットは、センターディスプレイの“設定”から行なってください。 **(>>> P.503)**



(1) 表示モード選択
(2) 走行距離
(3) 平均電費

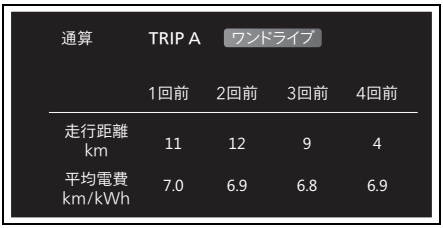
TRIP A

“TRIP A”を選択すると、トリップメーター A のリセットごとの走行距離と平均電費が表示されます。現在の数値と過去 3 回のリセットからの数値が表示されます。



ワンドライブ

“ ワンドライブ ” を選択すると、運転 1 回ごとの走行距離と平均電費が表示されます。過去 4 回の数値が表示されます。



EV 設定

“EV 設定 ” を選択すると、EV 設定画面が表示されます。 **(>>> P.503)**

タイマー充電設定

“ タイマー充電設定 ” を選択すると、タイマー充電設定画面が表示されます。 **(>>> P.118)**

時刻の設定

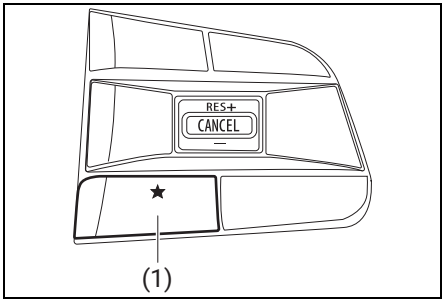
時刻の設定は、センターディスプレイの “ 設定 ” から行なうことができます。

詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

お気に入りスイッチ

ハンドルのお気に入りスイッチを押すと、お好みの機能が作動します。お好みの機能は、センターディスプレイの “ 設定 ” から設定できます。

詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

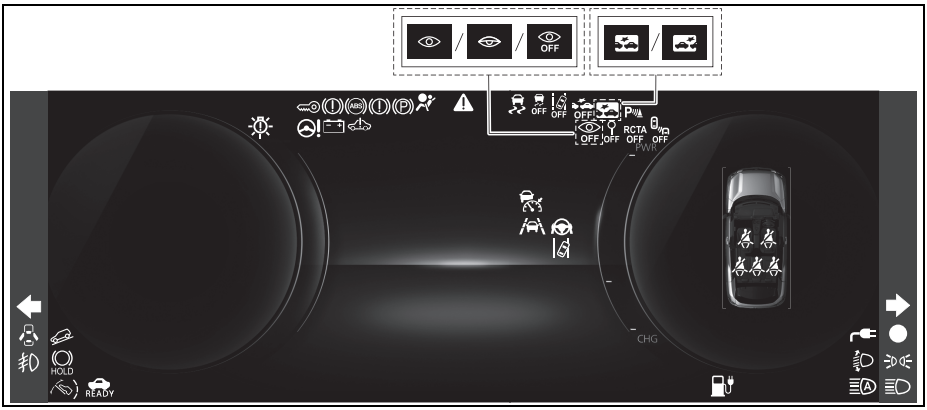


(1) お気に入りスイッチ

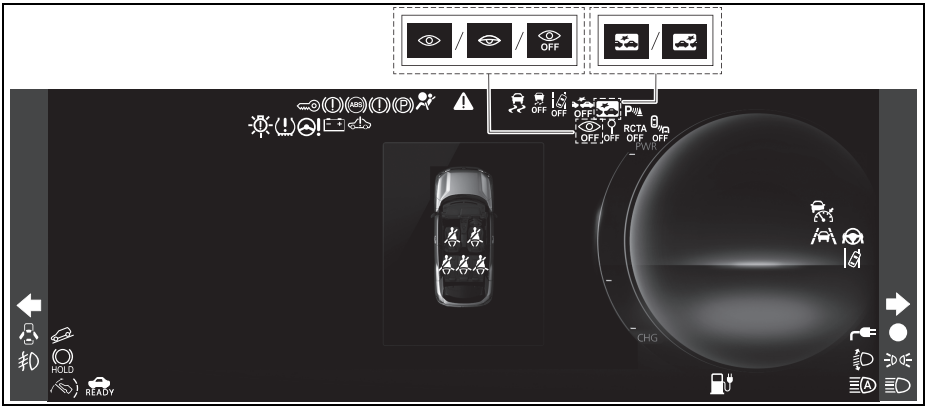
警告灯と表示灯

次のイラストは、すべての警告灯および表示灯を表示しています。
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

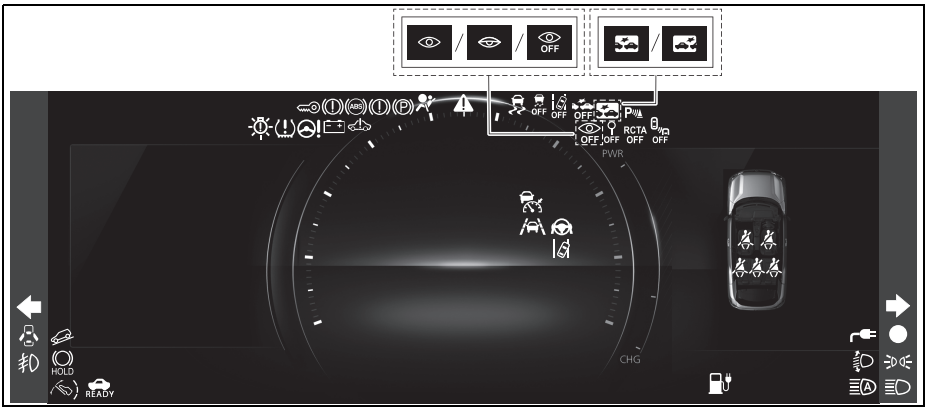
Standard



Wide



Classic



警告灯一覧

警告灯が点灯または点滅している場合は、落ち着いて次のように対処してください。

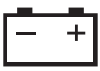
詳細は、次の参照先を確認してください。 **(>>> P.163)**

警告灯・表示灯が点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。**(>>> P.182)**

- 次の警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店でご連絡ください。

 (赤色)	※1	ブレーキ警告灯（赤色）
	※1	エアバッグ警告灯

- 次の警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、ただちに安全な場所に停車してください。詳細は、次の参照先を確認してください。**(>>> P.163)**

	※1	充電警告灯
	※1	ABS 警告灯
	※1	LED ヘッドライト警告灯
	※1	オートレベリング警告灯

 （黄色）	※1	アダプティブハイビームシステム警告灯
 （点灯）	※1	デュアルセンサーブレーキサポート（DSBS) II OFF 表示灯
 （黄色／点灯）	※1	車線維持支援表示灯
 （黄色／点灯）	※1	車線逸脱抑制作動表示灯
 （点灯）	※1	標識認識 OFF 表示灯
 （点滅）	※1	ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯
 （点滅）	※1	リヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯

- 次の警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

 （黄色）	※1	ブレーキシステム警告灯（黄色）
 （点滅）	※2	電動パーキングブレーキ作動表示灯
	※1	EV システム警告灯
	※1	パワーステアリング警告灯

	※1	イモビライザー警告灯
 （点灯）	※1	ESP® 作動表示灯
	※2	セキュリティアラームインジケーター
 （黄色）		アダプティブクルーズコントロール表示灯
 （点灯）	※1	パーキングセンサー作動表示灯
 OFF （点灯または点滅）	※1	DMS 警報 OFF 表示灯

- ドアを完全に閉めてください。

		半ドア警告灯

- ベルトを着用してください。

		シートベルト警告灯

- 駆動用バッテリーを充電してください。

 （黄色）		駆動用バッテリー残量警告灯

- 進行方向の交通状況、道路状況を確認の上、走行してください。

		脇見警告灯

- 運転に集中し、眠気を感じる場合は、道路状況を確認の上できるだけ早く休憩をとることをお勧めします。

		居眠り警告灯

- メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージを確認してください。

	※1	マスターウォーニング

※1 パワースイッチを “ON” にしたときに初期点灯するのが正常です。システムが正常な場合は、EV システムが始動すると数秒間点灯したあと消灯します。
点灯しないまたは点灯し続ける場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※2 システムの状態により、点滅パターンは変化します。
詳細は、次の参照先を確認してください。 **(>>> P.163)**

警告灯

ブレーキ警告灯（赤色）



(赤色)

次のような状況になると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。

- ブレーキ液が不足している
- ブレーキシステムに異常がある

走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠ 警告

次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したままのとき。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。**

SRS エアバッグ警告灯



次のような場合、パワースイッチを “ON” にしたときに点灯します。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある

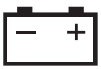
⚠ 警告

次のような場合、万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

ただちに使用を止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- **パワースイッチを “ON” にしても点灯しない**
- **パワースイッチを “ON” にしたあと、数秒間たっても消灯しない**
- **運転中に点灯**

充電警告灯



鉛バッテリーの充電系統に異常があると、“READY” 表示灯点灯中に点灯します。

- “READY” 表示灯点灯中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、鉛バッテリー保護のためパワースイッチを “LOCK （OFF）” にしたあと、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

ABS 警告灯



ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。点灯中は ABS が作動しません。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、パワースイッチを “LOCK （OFF）” にしてください。再びパワースイッチを “ON” にしたときに、数秒間点灯したあと消灯すれば、システムは正常です。
  消灯せず再び点灯する場合、ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯（赤色）が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

アドバイス

点灯中は ABS は作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

LED ヘッドライト警告灯



LED ヘッドライトに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。

- “READY” 表示灯点灯中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

オートレベリング警告灯



オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。

- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にしてください。再びパワースイッチを “ON” にしたときに、数秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。
  消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

アダプティブハイビームシステム警告灯



（黄色）

- アダプティブハイビームシステムのシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- スズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止のときにその他警告灯と同時に点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.286)**

デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）OFF表示灯



（点灯）

- 次のような電子制御システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
  - デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）**(>>> P.292)**
  - 誤発進抑制機能 **(>>> P.299)**
  - 低速前進時ブレーキサポート **(>>> P.341)**
  - 後退時ブレーキサポート **(>>> P.341)**
  - 後方誤発進抑制機能 **(>>> P.346)**
- スズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.286)**

車線維持支援警告灯



（黄色／点灯）

- 車線維持支援に異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- スズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.286)**
- システムが正常な場合は、パワースイッチを “ON” にしたときに数秒間黄色に点灯したあと、白色に点灯もしくは消灯します。パワースイッチを “ON” にしたときに点灯しない場合、車線維持支援の作動を確認できません。車線維持支援 ON/OFF スイッチを操作して車線維持支援を停止させ、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.314)**

車線逸脱警報作動表示灯



（黄色／点灯）

- 次のような電子制御システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
  - 車線逸脱警報 **(>>> P.307)**

- 車線逸脱抑制 **(>>> P.307)**
- ふらつき警報 **(>>> P.307)**

- スズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.286)**

標識認識 OFF 表示灯

（点灯）

- 標識認識機能のシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- スズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.286)**

ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯



（点滅）

- ブラインドスポットモニタのシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点滅します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.332)**
- ブラインドスポットモニタのシステムが一時停止のときに点滅します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.332)**

リヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯

（点滅）

- リヤクロストラフィックアラートのシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点滅します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.332)**
- リヤクロストラフィックアラートのシステムが一時停止のときに点滅します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.332)**

ブレーキシステム警告灯（黄色）



（黄色）

- 電動パーキングブレーキシステムおよび回生ブレーキシステムに異常があるときに黄色で点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

電動パーキングブレーキ作動表示灯



（点滅）

電動パーキングブレーキシステムに異常があるときに点滅します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

EV システム警告灯



EV システムや高電圧システムに異常があると点灯します。点灯した場合はとくに慎重に運転し、すみやかにお近くのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- EV システム警告灯が点灯すると、一部の電装品の電源が停止することがあります。電源が停止すると思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のことにご注意ください。
  - この電源につながった ETC 車載器あるいは DSRC 車載器が停止して機能しなくなります。
  - 有料道路料金所の ETC レーン通過の際にゲートが開かないため、ETC レーンは使用しないでください。
  - ナビゲーションやオーディオなどが停止して機能しなくなります。
  - ドライブレコーダー、バックアイカメラを装着している場合、電源が停止して機能しなくなります。

パワーステアリング警告灯



電動パワーステアリングシステムに異常があると、“READY” 表示灯点灯中に点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

⚠ 注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に次の操作を行なうと、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これは異常ではなく、システムの過熱防止のための保護機能です。
  - ハンドル操作を繰り返したとき
  - ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したとき
    しばらくハンドル操作を控えると、システムの温度が下がり操作力はもとにもどります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- マイルームモード使用中に点灯することがありますが、異常ではありません。

イモビライザー警告灯



イモビライザー／キーレスプッシュスタートシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点滅または点灯することがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

- 鉛バッテリー電圧が正常な状況で EV システムを始動しても点滅または点灯するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

ESP® 作動表示灯



（点灯）

ESP® のシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

セキュリティアラームインジケーター



システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに約 15 秒間、1 秒間隔で点滅します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

アダプティブクルーズコントロール警告灯



（黄色）

- アダプティブクルーズコントロールのシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- スズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。**(>>> P.286)**

パーキングセンサー作動表示灯



（黄色）

- パーキングセンサーのシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- パーキングセンサーのシステムが一時停止のときに点灯します。 **(>>> P.286)**

DMS 警報 OFF 表示灯



（点灯または点滅）

- ドライバーモニタリングシステムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点滅します。同時にマスターウォーニングが点滅します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- ドライバーモニタリングシステムが一時停止のときに点灯します。 **(>>> P.365)**

脇見運転警告灯



パワースイッチが“ON”のとき、DMSが脇見をしていると判断すると点灯します。**(>>> P.366)**

居眠り警告灯



パワースイッチが “ON” のとき、DMS が運転者の眠気を検知したり、居眠り運転をしていると判断すると点灯します。**(>>> P.365) (>>> P.366)**

半ドア警告灯



- いずれかのドア（バックドアを含む）が完全に閉まっていないときに点灯します。
- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーおよび音声案内が鳴ります。
  - 警告灯が点灯すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠ 警告

ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- パワースイッチが “LOCK （OFF）” の位置
- 点灯したまま 15 分が経過

シートベルト警告灯



- 運転者またはいずれかの乗員がシートベルトを着用していないと、点滅または点灯します。
  - 警告灯が点滅または点灯すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- シートベルトを着用しても、点滅または点灯したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

駆動用バッテリー残量警告灯



（黄色）

- パワースイッチが “ON” のとき、駆動用バッテリーの充電量が低いと点灯します。できるだけ早く駆動用バッテリーを充電してください。**(>>> P.100)**
- 警告灯が点灯すると、警告ブザー（チャイム）および音声案内が鳴ります。駆動用バッテリーを充電しないと、パワースイッチを “ON” にするたびに警告ブザー（チャイム）が鳴ります。

マスターウォーニング



メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージがあるとき、同時に点滅する場合があります。

表示灯一覧

		方向指示器表示灯
		フロントフォグランプ点灯表示灯
		ライト点灯表示灯
		ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯
 （緑色）		アダプティブハイビームシステム作動表示灯

 （点灯）	※2	電動パーキングブレーキ作動表示灯
 （緑色／白色）	※2	ブレーキホールド作動表示灯
 （点滅）	※1	ESP® 作動表示灯
	※1	ESP® OFF 表示灯
 （点滅）		デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）作動表示灯
 （点灯）	※1	デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）OFF表示灯
 （点滅）		後退時ブレーキサポート作動表示灯
 （緑色／白色）	※2	アダプティブクルーズコントロール表示灯
 （緑色／黄色）	※1 ※2	車線逸脱抑制作動表示灯
		車線逸脱抑制 OFF 表示灯
 （緑色／白色／黄色）	※1 ※2	車線維持支援表示灯

 （緑色／白色）	※1 ※2	自動操舵作動灯
 （点灯）	※1	ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯
 （点灯）	※1	リヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯
 （点灯）	※1	標識認識 OFF 表示灯
 （点灯）	※1	DMS 警報 OFF 表示灯
 （点滅）	※1	パーキングセンサー作動表示灯
 （緑色／白色）	※1 ※2	ヒルディセントコントロール表示灯（4WD 車）
		セキュリティアラームインジケーター
		“READY” 表示灯
		充電コネクター接続表示灯
		イージードライブペダル表示灯

※1 パワースイッチを “ON” にしたときに初期点灯するのが正常です。システムが正常な場合は、EV システムが始動すると数秒間点灯したあと消灯します。
点灯しないまたは点灯し続ける場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

※2 システムの状態により、点滅パターンは変化します。

詳細は、次の参照先を確認してください。 **(>>> P.163)**

表示灯

方向指示器表示灯



- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

フロントフォグランプ点灯表示灯



フロントフォグランプが点灯している間、点灯します。

ライト点灯表示灯



ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯



ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

アダプティブハイビームシステム表示灯



（緑色）

アダプティブハイビームシステムが作動している間、点灯します。

電動パーキングブレーキ作動表示灯



（点灯）

- 電動パーキングブレーキがかかったときに点灯します。
- 電動パーキングブレーキの状態によって、振る舞いが変わります。
  - 電動パーキングブレーキがかかっているとき、点灯を継続します。
  - 電動パーキングブレーキが解除しているとき、消灯します。

ブレーキホールド作動表示灯



（緑色／白色）

ブレーキホールドの状態によって、点灯色が変わります。

- ブレーキホールドが作動しているときは、緑色に点灯します。
- ブレーキホールドが作動する条件 （スタンバイ条件）を満たしているときは、白色に点灯します。

ESP® 作動表示灯



（点滅）

トラクションコントロールまたはスタビリティコントロールが作動すると、小刻みに点滅します。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP® による制御には限界があります。

アドバイス

点滅しているときは、トラクションコントロールまたはスタビリティコントロールのいずれかが作動しています。とくに慎重に運転してください。

ESP® OFF 表示灯



センターディスプレイの “ 設定 ” から、ESP® を作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II) 作動表示灯



（点滅）

デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）、誤発進抑制機能または低速前進時ブレーキサポートが作動中に点滅します。

アドバイス

鉛バッテリーの性能が弱っている場合、パワースイッチを “ON” にしたときの初期点灯が、一度消灯した後に再度数秒間点灯することがあります。

デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II) OFF 表示灯



（点灯）

センターディスプレイの “ 設定 ” から、デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）を作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.292) (>>> P.503)**

- センターディスプレイの “ 設定 ” から、ESP® を作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

後退時ブレーキサポート作動表示灯



（点滅）

後退時ブレーキサポートまたは後方誤発進抑制機能が作動中に点滅します。

アダプティブクルーズコントロール表示灯



（緑色／白色）

- アダプティブクルーズコントロールがスタンバイ状態のとき、白色に点灯します。 **(>>> P.324)**
- アダプティブクルーズコントロールが作動しているとき、緑色に点灯します。 **(>>> P.324)**

車線逸脱抑制作動表示灯



（緑色／黄色）

- 車線逸脱抑制が作動すると、緑色に点灯します。 **(>>> P.310)**
- 車線逸脱警報が作動すると、黄色に点滅します。 **(>>> P.310)**

車線逸脱抑制 OFF 表示灯



- センターディスプレイの “ 設定 ” から、車線維持支援を作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.310)** **(>>> P.503)**
- センターディスプレイの “ 設定 ” から、ESP® システムまたはトラクションコントロールを作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

車線維持支援表示灯



（緑色／白色／黄色）

- 車線維持支援がスタンバイ状態のとき、白色に点灯します。 **(>>> P.315)**
- 車線維持支援が作動しているとき、緑色に点灯します。 **(>>> P.315)**
- 車線維持支援が作動しているとき、車線または走路から逸脱すると、黄色に点滅します。 **(>>> P.315)**

自動操舵作動灯



（緑色／白色）

- 車線維持支援がスタンバイ状態のとき、白色に点灯します。 **(>>> P.315)**
- 車線逸脱抑制機能の車線逸脱抑制または車線維持支援が作動すると、緑色に点灯します。 **(>>> P.310) (>>> P.315)**

ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯



（点灯）

センターディスプレイの “ 設定 ” から、ブラインドスポットモニタを作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

リヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯



（点灯）

センターディスプレイの “ 設定 ” から、リヤクロストラフィックアラートを作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

- ブラインドスポットモニタを停止すると、リヤクロストラフィックアラートOFF表示灯も点灯します。

標識認識 OFF 表示灯



（点灯）

センターディスプレイの “ 設定 ” から、標識認識機能を作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

DMS 警報 OFF 表示灯



（点灯）

センターディスプレイの “ 設定 ” から、ドライバー モニタリング システムの “ 眠気・脇見警報 ” を作動停止（OFF）にすると点灯します。**(>>> P.503)**

パーキングセンサー作動表示灯



（点滅）

パーキングセンサーが作動中に障害物を検知すると点滅します。 **(>>> P.336)**

ヒルディセントコントロール表示灯（4WD 車）



（緑色／白色）

パワースイッチが “ON” のときにに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると緑色に点灯します。白色で点灯した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。

ヒルディセントコントロールスイッチを押しても緑色に点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.261)**

セキュリティアラームインジケーター



- ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、セキュリティアラームインジケーターが小刻みに点滅し、アラームがセットされると、セキュリティアラームインジケーターが 2 秒間隔で点滅します。**(>>> P.76)**
- 駐車時に警報が作動していると、パワースイッチを “ON” にしたときに小刻みに点滅し、ブザーが鳴ります。**(>>> P.76)**

“READY” 表示灯



パワースイッチを押して EV システムが始動し、走行可能な状態になると点灯します。

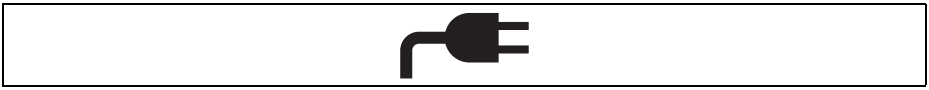
⚠ 警告

走行中に “READY” 表示灯が消灯すると次の状態になります。安全な場所に停車し、パワースイッチの操作をやり直してください。

- **ABS が作動しない（ABS 警告灯が同時に点灯したとき）**
- **回生ブレーキが作動しない**

パワースイッチの操作をやり直しても “READY” 表示灯が再点灯しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

充電コネクター接続表示灯



普通充電または急速充電コネクターが接続された状態で、ドアを開けるかパワースイッチを “ON” にすると点灯します。

イージードライブペダル表示灯



パワースイッチが “ON” のときにイージードライブペダルスイッチを押し、イージードライブペダルが作動すると点灯します。

イージードライブペダルの減速度は、センターディスプレイの設定から変更することができ、表示灯右側の目盛りが選択した減速度の強さに応じて変わります。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

各システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されます。また、メッセージの種類によっては、同時にブザーまたは音声案内が鳴る場合があります。

- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。
- 表示されるメッセージの種類によっては、メーター内のマスターウォーニングが同時に点滅する場合があります。

アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、定期的に表示が切り替わります。
- センターディスプレイの“設定”から、お知らせ音声および運転サポート音声の設定を変更することができます。**(>>> P.503)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	—	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。
	—	運転者、助手席または後席の乗員がシートベルトを着用していません。シートベルトを着用してください。**(>>> P.36)**
	“電源状態 ACC”	電源の状態が“ACC”のときに表示されます。 **(>>> P.250)**
	“電源状態 ON”	電源の状態が“ON”のときに表示されます。 **(>>> P.250)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ ブレーキを踏んで シフトを P に入れてください ”	シフトポジションが “P” 以外の位置、またはブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。**(>>> P.248)** ダイヤルシフトを操作しても、シフトポジションが変わらない場合があります。そのときは、ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを “P” にし、再度ダイヤルシフトを操作してください。
	“ スタートスイッチを 押してください ”	ブレーキペダルを踏んでいます。EV システムを始動するときは、パワースイッチを押してください。**(>>> P.248)**
	“ リモコンを検知できません ”	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れている状態で、パワースイッチ操作をしています。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをパワースイッチに当ててください。**(>>> P.217) (>>> P.248)** パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたときは携帯リモコンを検知していたが、始動時に検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置で、パワースイッチを操作してください。**(>>> P.217)**
	“ リモコンを スタートスイッチに 当ててください ”	
	“ リモコンを検知できません ”	EV システムを始動した状態、またはパワースイッチが “ACC” または “ON” のときに、ドアのいずれかを開閉して、携帯リモコンが検知外（車外など）になりました。リモコンを車内の検知できる位置に戻してください。**(>>> P.217)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ リモコンの電池を 交換してください ”	携帯リモコンの電池切れが近いです。電池を交換してください。 **(>>> P.449)**
	“ スタートシステム異常 取扱説明書を確認してください ”	イモビライザー／キーレスプッシュスタートシステムの異常または鉛バッテリーの電圧が低いことが考えられます。 鉛バッテリーの電圧が正常な状態でもこのメッセージが表示されたときはスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
—	“N レンジです 発進するにはブレーキを踏み シフト操作してください ”	シフトポジションが “N” の状態でアクセルペダルが踏まれています。EV システムを始動する場合は、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを変更してください。**(>>> P.240)**
	“ ライトが点灯しています ”	パワースイッチが “LOCK（OFF）” のときに、ヘッドライトまたは車幅灯を点灯した状態で運転席ドアを開けています。ヘッドライトまたは車幅灯を消してください。**(>>> P.272)**
—	“ 後席への置き忘れに 注意してください ”	リヤシートリマインダーが作動しました。後席に荷物の置き忘れがないか確認ください。
	“ ブレーキ液不足 安全な場所に停車して 販売店へ連絡してください ”	ブレーキ液が不足しているかブレーキシステムに異常があります。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
	“ ブレーキ力低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡してください ”	ブレーキの制動力が低下しています。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ ブレーキ力低下 販売店で点検を受けてください ”	ブレーキの制動力が低下しています。できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	“ パーキングブレーキ異常 点検を受けてください ”	パーキングブレーキのシステムに異常がある可能性があります。パーキングブレーキスイッチを数回操作してもメッセージが消えない場合は、できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.264)**
	“ パーキングブレーキを 作動できません ”	パーキングブレーキのシステムに異常がある可能性があります。パーキングブレーキスイッチを数回操作してもメッセージが消えない場合は、できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.264)**
	“ 車両が動く可能性があります 急勾配を避けて駐車してください ”	車両が動く可能性があるため、すみやかにブレーキを踏んで、急勾配を避けて駐車してください。**(>>> P.264)**
	“ パーキングブレーキが 連続で操作されました お待ちください ”	パーキングブレーキを短時間に繰り返し操作したため、一時的に電動パーキングブレーキが作動できない状態です。しばらく待ってから操作してください。**(>>> P.264)**
	“ パーキングブレーキが かかっています ”	電動パーキングブレーキが解除されていません。電動パーキングブレーキを解除してください。**(>>> P.264)**
	“ パーキングブレーキが 自動的に作動しました ”	他の機能（システム）の要求に応じて、電動パーキングブレーキが自動で作動しました。**(>>> P.264)**
	“ パーキングブレーキ シフト連動機能 ON”	電動パーキングブレーキのオートモードがONになりました。 **(>>> P.264)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ パーキングブレーキ シフト連動機能 OFF”	電動パーキングブレーキのオートモードが OFF になりました。 **(>>> P.264)**
	“ ブレーキを踏みながら スイッチを押してください ”	ブレーキを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押しているため、電動パーキングブレーキを解除できません。 ブレーキを踏みながらパーキングブレーキスイッチを操作してください。 **(>>> P.264)**
	“ パーキングブレーキを解除 できません （シートベルト / ドア開）”	シートベルトを着用していない、または運転席ドアが開いているため、電動パーキングブレーキを自動解除できません。 シートベルトの着用と運転席ドアが閉まっていることを確認してください **(>>> P.264)**
	“ ドライブスタート コントロール故障 点検を受けてください ”	ドライブ スタートコントロール（シフト操作時急発進抑制、後退時速度制限）に異常が考えられます。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 **(>>> P.246)**
	“ アクセルを戻してください ”	ドライブ スタートコントロール（シフト操作時急発進抑制、後退時速度制限）が作動しています。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.246)**
—	“ 速度抑制中 ”	ドライブ スタートコントロール（シフト操作時急発進抑制、後退時速度制限）が作動しています **(>>> P.246)**
—	“ 回生ブーストが使用できません 減速時は ブレーキを踏んでください ”	イージードライブペダルが使用できません。減速する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。 **(>>> P.258)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
—	“ 回生ブーストが使用できません 取扱説明書を確認してください ”	イージードライブペダルが使用できません。減速する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。**(>>> P.258)**
—	“ 回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください ”	回生ブレーキ力が低下している可能性があります。減速する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
—	“ 回生ブースト中のため SNOW モードへ 遷移できません ”	イージードライブペダル作動中のため、スノーモードへ切り替えることができません。イージードライブペダルを解除してからスノーモードに切り替えてください。**(>>> P.258)**
—	“TRAIL モード中のため ドライブモードへ 遷移できません ”	トレイルモード作動中のため、ドライブモードへ切り替えることができません。トレイルモードを解除してからドライブモードに切り替えてください。**(>>> P.258)**
—	“TRAIL モード中のため 回生ブーストへ 遷移できません ”	トレイルモード作動中のため、イージードライブペダルへ切り替えることができません。トレイルモードを解除してからイージードライブペダルに切り替えてください。**(>>> P.258)**
—	“ 回生ブースト中のため TRAIL モードへ 遷移できません ”	イージードライブペダル作動中のため、トレイルモードへ切り替えることができません。イージードライブペダルを解除してからトレイルモードに切り替えてください。**(>>> P.259)**
	“ エアバッグシステム異常 点検を受けてください ”	SRS エアバッグのシステムに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**(>>> P.163)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“運転席シートベルトが外れています”	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。**(>>> P.36)**
	“助手席シートベルトが外れています”	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。ベルトを着用してください。 **(>>> P.36)**
	“居眠り注意”	居眠り警報が作動しています。**(>>> P.366)**
	“眠そうです 休憩してください”	眠気警報が作動しています。**(>>> P.365)**
	“ドライバーモニタリングシステム異常 点検を受けてください”	ドライバーモニタリングシステムに異常がある可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.365)**
	“ドライバーモニタリングシステム一時停止中”	ドライバーモニタリングシステムが一時停止しています。状況が改善されれば、一時停止は解除されます。**(>>> P.365)**
—	“脇見注意”	脇見警報が作動しています。**(>>> P.365)**
	“デュアルセンサーブレーキサポート”	前方衝突警報が作動しています。 **(>>> P.293)**
		前方衝突被害軽減ブレーキアシストが作動しています。**(>>> P.293)**
		衝突被害軽減ブレーキが作動しています。 **(>>> P.293)**
		低速前進時ブレーキサポートが作動しています。**(>>> P.341)**
	“後退時ブレーキサポート”	後退時ブレーキサポートが作動しています。**(>>> P.341)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ アクセルが 踏まれています ”	衝突被害軽減ブレーキ作動中に、アクセルペダルが踏まれています。 アクセルペダルから足を離してください。 **(>>> P.293)**
	“ アクセルが 踏まれています ”	衝突被害軽減ブレーキ作動後の車両停止状態を保持中です。（アクセルペダルが踏まれている場合） アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.293)**
	“ ブレーキを踏んでください ”	
	“ ブレーキを踏んでください ”	衝突被害軽減ブレーキ作動後の車両停止状態を保持中です。（アクセルペダルが踏まれていない場合） ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.293)**
	“ アクセルが 踏まれています ”	誤発進抑制機能が作動しています。 アクセルペダルから足を離してください。 **(>>> P.299)**
	“ アクセルが 踏まれています ”	低速前進時ブレーキサポート作動後の車両停止状態を保持中です。（アクセルペダルが踏まれている場合） アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.341)**
	“ ブレーキを踏んでください ”	
	“ ブレーキを踏んでください ”	低速前進時ブレーキサポート作動後の車両停止状態を保持中です。（アクセルペダルが踏まれていない場合） ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.341)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ アクセルが 踏まれています ”	後方誤発進抑制機能が作動しています。 アクセルペダルから足を離してください。 **(>>> P.346)**
	“ アクセルが 踏まれています ”	後退時ブレーキサポート作動後の車両停止状態を保持中です。(アクセルペダルが踏まれている場合) アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.341)**
	“ ブレーキを踏んでください ”	
	“ ブレーキを踏んでください ”	後退時ブレーキサポート作動後の車両停止状態を保持中です。(アクセルペダルが踏まれていない場合) ブレーキペダルを踏んでください。 **(>>> P.341)**
—	“ デュアルセンサー ブレーキサポートが OFF になりました ”	デュアルセンサーブレーキサポート II (DSBS II)、誤発進抑制機能、低速時ブレーキサポート(前進・後退)および後方誤発進抑制機能は停止中です。**(>>> P.292)**
—	“ESP® が OFF のため デュアルセンサー ブレーキサポートも停止 ”	ESP® が停止しているため、デュアルセンサーブレーキサポート II (DSBS II)は停止中です。 **(>>> P.292)**
—	“DSBS II システム異常 点検を受けてください ”	デュアルセンサーブレーキサポート II の異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.286)**
—	“DSBS II システム 一時停止中 ”	前方レーダーと前方カメラの機能が一時停止しています。 **(>>> P.289)**
—	“ 前方カメラ 一時停止中 (視界不良)”	前方カメラが視界不良により、前方カメラの機能が一時停止しています。 **(>>> P.289)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
—	“ 前方カメラ 一時停止中 (温度範囲外)”	カメラ本体が極端に低温・高温のため、前方カメラの機能が一時停止しています。 **(>>> P.289)**
—	“ 前方レーダー 一時停止中 (汚れ)”	前方レーダーのよごれにより、前方レーダーの機能が一時停止しています。 **(>>> P.289)**
—	“ 前方レーダー 一時停止中 (温度範囲外)”	前方レーダー本体が極端に低温・高温のため、前方レーダーの機能が一時停止しています。 **(>>> P.289)**
—	“ 前方レーダー 一時停止中 (向き調整中)”	前方レーダーと車両の向きがずれていることにより、前方レーダーの機能が一時停止しています。**(>>> P.289)**
	“ ブレーキ踏んでください ACC システム故障 点検を受けてください ”	アダプティブクルーズコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.323)**
	“ ブレーキを踏んで ACC システムを 解除してください ”	アダプティブクルーズコントロールが自動解除されました。原因を改善して復帰してください。**(>>> P.323)**
	“ACC システム使用不可 シフトが D レンジに 入っていません ”	シフトポジションが “D” にないため設定できません。シフトポジションを “D” にして設定してください。**(>>> P.323)**
	“ACC システム使用不可 ESP® システムが OFF になっています ”	ESP® が停止しているため設定できません。 ESP® を作動させててください。 **(>>> P.323)**
	“ACC システムが使用できません 道路が急勾配です ”	急勾配を走行しているため設定できません。平坦な道で設定してください。 **(>>> P.323)**
	“ACC システムが使用できません ”	アダプティブクルーズコントロールが設定できません。説明に従い車速設定を再度行ってください。**(>>> P.323)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ ふらつき注意 ”	ふらつき警報が作動しています。 **(>>> P.307)**
	“ ハンドルを正しく 操作してください 車線逸脱を繰り返しています ”	ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がありません。ハンドルを持って操作してください。**(>>> P.307)**
	“ ハンドルを操作してください ”	
	“LDP システムが使用できません 現在の車速では作動しません ”	車速が車線逸脱抑制機能の作動上限車速範囲外のため、車線逸脱抑制機能が作動しません。**(>>> P.307)**
	“LKA システムが使用できません 現在の車速では作動しません ”	車速が車線維持支援の作動上限車速範囲外のため、車線維持支援が作動しません。 **(>>> P.312)**
	“ ハンドルを操作してください LKA システムが まもなく停止します ”	ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がありません。ハンドルを持って操作してください。**(>>> P.312)**
	“ ハンドルを操作してください ”	
	“ ハンドルを操作してください ” （手は赤色）	ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がありません。ハンドルを持って操作してください。**(>>> P.312)**
		

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ ハンドルを操作してください LKA システムが停止しました ”	ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がありません。ハンドルを持って操作してください。**(>>> P.312)**
	“ ハンドルを操作してください ” （手は赤色）	
	“ 先行車が発進しました ”	発進お知らせ機能が作動しています。 **(>>> P.302)**
	“ 信号が切り替わりました ”	
	“BSM システム異常 取扱説明書を確認してください ”	BSM と RCTA のシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.332)**
	“BSM システム 一時停止中 ”	BSM と RCTA の機能が一時停止状態です。EV システムを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**(>>> P.332)**
		BSM と RCTA はセンサーまたはセンサー周辺の汚れを検知しています。汚れを取り除き、EV システムを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**(>>> P.332)**
	“ パーキングセンサー異常 取扱説明書を確認してください ”	超音波センサーの異常が考えられます。EV システムを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**(>>> P.288)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ パーキングセンサー 一時停止中 センサー部を掃除してください ”	パーキングセンサーが汚れ等により正常に検知できない状態です。 **(>>> P.288)**
—	“ ソナーシステム一時機能停止中 ”	超音波センサーの機能が一時停止しています。**(>>> P.288)**
—	“ ソナーシステム異常 取扱説明書を確認してください ”	超音波センサーの異常が考えられます。EV システムを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**(>>> P.288)**
	“ESP® システム異常 点検を受けてください ”	ESP® のシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.372)**
	“ ヒルホールド 機能停止中 ”	ヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.374)**
	“ ブレーキホールド異常 点検を受けてください ”	ブレーキホールドの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。 **(>>> P.266)**
	“ ブレーキを離さないでください ブレーキホールド使用不可 (急勾配)”	急勾配に駐車しているなどにより、ブレーキホールドを設定できません。 ブレーキを離さないでください。 **(>>> P.266)**
	“ ブレーキホールドが 機能しません (シートベルト / ドア開)”	シートベルトを着用していない、または運転席ドアが開いているため、ブレーキホールドを自動解除できません。 シートベルトを着用と運転席ドアが閉まっていることを確認してから、再度操作ください。

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ ブレーキを踏みながら スイッチを押してください ”	ブレーキを踏まずにブレーキホールドスイッチを押しています。ブレーキを踏みながら操作してください。**(>>> P.266)**
—	“ 方向指示器スイッチ異常 点検を受けてください ”	方向指示器のシステムに異常がある可能性があります。できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
—	“ ワイパー機能異常 点検を受けてください ”	ワイパーのシステムに異常がある可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.274)**
—	“ トラクションコントロール OFF しました ”	トラクションコントロールが、センターディスプレイの“設定”で作動しない状態となっています。**(>>> P.503)**
	“ 車両接近通報システム異常 販売店で点検を受けてください ”	車両接近通報装置に異常がある可能性があります。できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.82)**
—	“ シフトシステム故障 取扱説明書を確認してください ”	シフト制御システムに異常があり、シフトポジションが切替わらなくなる可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
—		シフト制御システムに異常がある可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
—	“ シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱説明書を確認 ”	シフト制御システムに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

表示	メッセージ	原因と対処方法
—	“ シフトシステム異常 シフト切替不可 安全な場所に停車してください ”	シフト制御システムに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
—	“ シフトシステム異常 走行を継続できません ”	シフト制御システムに異常がある可能性があります。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
—	“P スイッチ異常 パーキングブレーキをかけ 取扱説明書を確認 ”	P ポジションスイッチに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
—	“ シフトシステム異常 パーキングブレーキをかけ 取扱説明書を確認 ”	シフト制御システムに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
—	“ シフトシステム不作動 パーキングブレーキをかけ 取扱説明書を確認 ”	シフト制御システムに異常がある可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
—	“ 安全な場所に停車して P スイッチを押してください ”	自動 P ポジション切替え機能が作動していません。安全な場所に停車し、P ポジションスイッチを押してください。**(>>> P.253)**
—	“ 補機用バッテリー充電不足 シフト切替不可 取扱説明書を確認 ”	鉛バッテリーの電圧が低下しているため、シフトポジションを変更できません。 **(>>> P.253)**
—	“ シフト切り替えできません しばらくしてから 再度操作してください ”	シフトポジションの切替えを短時間に繰り返し操作したため、一時的に変更ができない状態です。しばらく待ってから操作してください。

表示	メッセージ	原因と対処方法
—	“ ブレーキを踏んでから シフトを切り替えてください ”	ブレーキを踏まずに、シフトポジションを “P” 以外へ切替えようとしています。ブレーキを踏みながら切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“ アクセルペダルを戻してから シフトを切り替えてください ”	アクセルを踏んだまま、シフトポジションを “P” 以外へ切替えようとしています。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでから切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“EV システム始動後に シフト操作してください ”	EV システムが始動していない状態で、シフトポジションを切替えようとしています。EV システムを始動してからシフトポジションを切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“N に切替えました D に切替えるには 停車してから操作してください ”	後退中にシフトポジションを “D” へ切替えようとしています。完全に停止させてから切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“N に切替えました R に切替えるには 停車してから操作してください ”	前進中にシフトポジションを “R” へ切替えようとしています。完全に停止させてから切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“N に切替えました P に切替えるには 停車してから操作してください ”	走行中に P ポジションスイッチが押されたため、シフトポジションが “N” に切替わりました。シフトポジションを “P” にするには、完全に停止させてから切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“N に切り替えました 走行を続ける場合は シフト操作してください ”	走行中にシフトポジションが “N” に変更されました。走行を続けるときは、シフトポジションを変更してください。**(>>> P.253)**
—	“N に切り替える場合は N 操作を保持してください ”	シフトポジションを “N” にするときは、ダイヤルシフトを押したまま、しばらく保持してください。**(>>> P.253)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
—	“N ポジションを保持したい場合は 電源をオフしてください ”	自動 P ポジション切替え機能を作動させずに、シフトポジションを “N” で保持したいときは、メッセージが表示されている間にパワースイッチを “LOCK（OFF）” にしてください。**(>>> P.253)**
—	“P に切り替えました 発進するにはブレーキを踏み シフト操作をしてください ”	自動 P ポジション切替え機能が作動しています。発進するときは、ブレーキペダルを踏んでからシフトポジションを切替えてください。**(>>> P.253)**
—	“EV システムが高温になるため 停車時はブレーキを 踏んでください ”	上り坂などでアクセル操作で車を停止させようとすると、EV システムがオーバーヒートする可能性があります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**(>>> P.241)**
	“EV システム高温 出力制限中です ”	けん引や長い上り坂などの負荷がかかる走行は、EV システムがオーバーヒートする可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、オーバーヒートしたときの対処方法にしたがってください。**(>>> P.497)** この表示は、次の条件で表示されます。 けん引や長い上り坂などの負荷がかかる走行 高速道路や自動車専用道路などで長距離を走行しながら、急速充電を繰り返す
	“ 駆動用バッテリー低温 出力制限中です ”	駆動用バッテリーの温度が低いため、EV システムの出力が低下しています。加速性能、最高速度、登坂性能が低下しているため注意してください。

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ 出力制限中です ”	EV システムの出力が低下しています。
—	“EV システム異常 この車をけん引しないでください ”	EV システムに異常がある可能性があります。けん引しないでください。 **(>>> P.470)**
—	“ 駆動用バッテリーを 効率よく使うには 100%までの 充電を推奨します ”	駆動用バッテリーを満充電にせず繰り返し使用しています。駆動用バッテリーの性能を維持するため、週に一度は満充電にすることをおすすめします。**(>>> P.81)**
	“ 駆動用バッテリー残量低下 充電してください ”	駆動用バッテリーの充電量が低下しています。できるだけ早く充電してください。 **(>>> P.89)**
	“ 駆動用バッテリー残量低下 出力制限中 すみやかに充電してください ”	駆動用バッテリーの残量が少なくなっています。すみやかに充電してください。 **(>>> P.89)**
—	“ 充電が停止しました （システムの要因）”	充電システムに異常がある可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.137)**
—	“ 充電が停止しました （駆動用電池温度による制限）”	駆動用バッテリーが高温の状態が続いたため、充電が停止しました。駆動用バッテリーが冷えてから再度、充電を行なってください。**(>>> P.133)**
—	“ 充電が停止しました （電装品の電力消費大）”	電装品の使用により電力が消費されているため、充電が停止しました。次の参照先の指示に従ってください。次の参照先の指示にしたがってください。**(>>> P.136)**
—	“ 充電が停止しました （停電または電源プラグ抜け）”	外部電源または充電器の電源供給に問題が発生したため、充電が停止しました。次の参照先の指示にしたがってください。**(>>> P.134)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
—	“ 充電が停止しました （AC 供給電源の要因）”	外部電源または普通充電器の電源供給に問題が発生したため、充電が停止しました。次の参照先の指示にしたがってください。**(>>> P.136)**
—	“ 充電が停止しました （充電設備の要因）”	普通充電器（スタンド）が車両に適合していない、または充電器が充電を停止したため、充電が停止しました。次の参照先の指示にしたがってください。**(>>> P.135)**
—	“ 充電が停止しました （充電設備または車両の要因）”	コネクターのロックシステムに異常がある可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.138)**
—	“ 充電コネクターが 操作されたため 充電が停止しました ”	普通充電中に普通充電コネクターを取りはずした、または普通充電コネクターが確実に接続されていないため、充電が停止しました。次の参照先の指示にしたがってください。**(>>> P.132)**
—	“ 充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱説明書を確認 ”	急速充電時・V2H 充電／V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しませんでした。次の参照先の指示にしたがってください。**(>>> P.137)**
—	“ 充電完了 駆動用バッテリー保護のため 充電を優先しました ”	駆動用バッテリーヒーターが作動すると、タイマー充電を一時的にキャンセルして充電を開始しますが、駆動用バッテリーの保護機能のため故障ではありません。**(>>> P.137)**
	“ コネクテッドシステム異常 点検を受けてください ”	スズキ緊急通報のシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.480)**

表示	メッセージ	原因と対処方法
	“ 緊急通報中 ”	緊急通報中です。通話終了までの間は、緊急通報の通話が優先されます。 **(>>> P.480)**
—	“P レンジに入れて 取扱説明書を確認してください ”	このメッセージが表示されると、EV システム警告灯も点灯します。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**(>>> P.168)**

MEMO

4. 運転する前に

キー 204
キー 204
ドアの開閉 206
ドア 206
バックドア 209
キーレスエントリー 212
キーレスプッシュスタートシステム 214
シートの調節 218
前席シート 218
後席シート 221
ハンドル／ミラー 228
ハンドル 228
ミラー 229
ウインドーの開閉 233
ウインドー 233

キー

キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

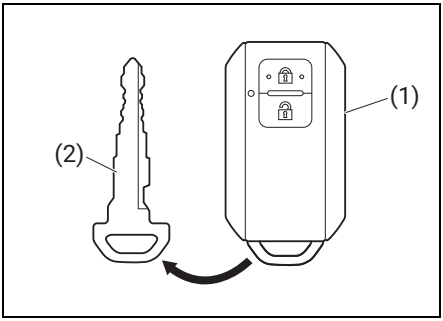
⚠ 警告

携帯リモコン (※1) を航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

※1 携帯リモコンは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

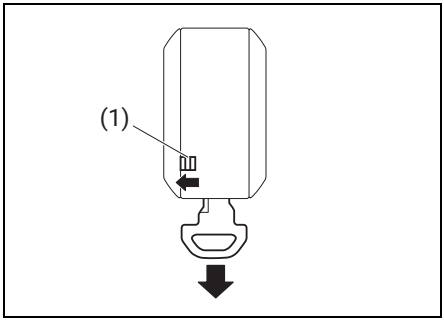
携帯リモコンに格納されているキーはドアの施錠・解錠に使えますが、EV システムの始動・停止には使えません。EV システムの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。**(>>> P.248)**

お車には携帯リモコンが 2 個、リモコンに格納可能なメカニカルキーが 2 本ついています。



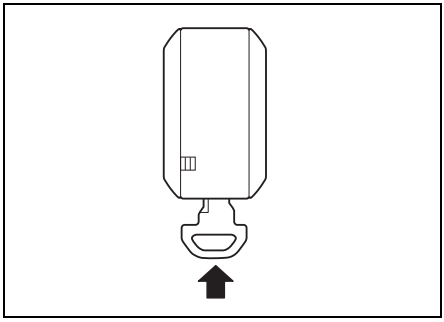
(1) 携帯リモコン
(2) メカニカルキー

携帯リモコンからメカニカルキーを取り出すには、ロック解除レバーを矢印の方向に引きながら取り出します。



(1) ロック解除レバー

携帯リモコンへメカニカルキーを格納するには、カチッと音がするまでメカニカルキーを差し込んでください。



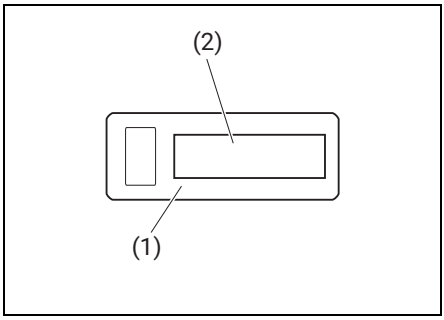
アドバイス

- 携帯リモコンには、メカニカルキーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 盗難などを防ぐため、メカニカルキーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーのご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレートには、キー作成時に必要なキーナンバーが打刻されています。

キーナンバープレートは安全な場所に保管してください。キーを紛失したとき、鍵を作るためにこの番号が必要になります。



(1) キーナンバープレート
(2) キーナンバー

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムの説明をご参照ください。 **(>>> P.74)**

ドア

⚠ 警告

- **シートベルトや荷物などをはさむと、半ドア状態になって走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。
- **火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、EV システムを止めドアを施錠してください。**
- **ドアを開けるときは、周囲に注意してください。後ろからの車や歩行者にぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  とくに風が強い日は注意してください。

⚠ 注意

- **お子さまがドアの開閉を行なうと、手、足、頭などをはさんでけがをするおそれがあります。**
  ドアの開閉はお子さまではなく、大人が行なうようにしてください。
- **バックドアの開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。**
  バックドアを開けるときは、完全に開けてください。

アドバイス

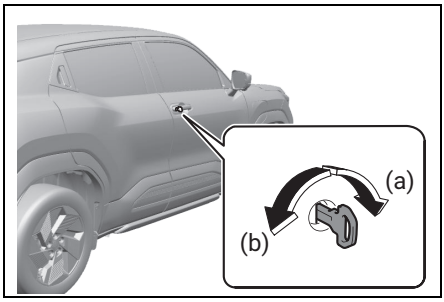
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。**(>>> P.75)**

車外からの施錠・解錠

メカニカルキー

全てのドアを施錠するには、メカニカルキーを差し込んで車の前方向にまわします。

解錠するには、メカニカルキーを差し込んで車の後ろ方向にまわすと解錠できます。



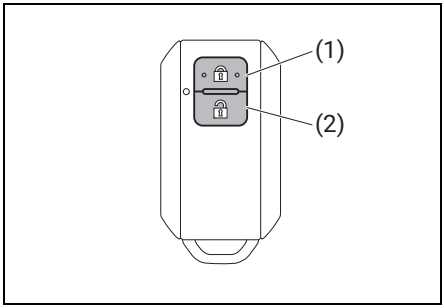
(a) 施錠
(b) 解錠

キーレスエントリー

キーレスエントリーシステムにより、携帯リモコンで次の操作ができます。

- 施錠するときは、ロックスイッチを押してください。
- 解錠するときは、アンロックスイッチを押してください。

施錠されると、方向指示器が 1 回点滅し、ブザーが 1 回鳴ります。



(1) 操作部（ロックスイッチ）
(2) 操作部（アンロックスイッチ）

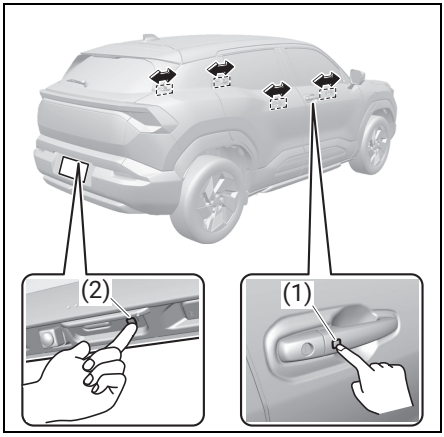
アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。（解錠はできます）車外ブザーが“ ピー ”と約 2 秒間鳴ります。
  - パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。

リクエストスイッチ

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「リクエストスイッチの作動範囲」に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

アドバイス

- 次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
  - いずれかのドアが開いている
  - パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。**(>>> P.212)** **(>>> P.213)**
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

キーを使わない施錠

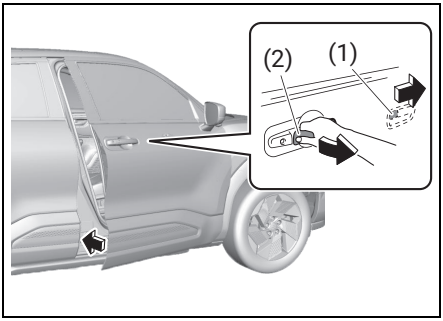
アドバイス

- 「キーを使わない施錠」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。
- 次のような状況では、「キーを使わない施錠」ができない場合があります。
  - 携帯リモコンが車内にある

- パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき **(>>> P.248)**

前席ドア

ロックレバーを施錠側（車の前方向）にして、ドアハンドルを引いたまま閉めると施錠できます。



(1) ロックレバー
(2) ドアハンドル

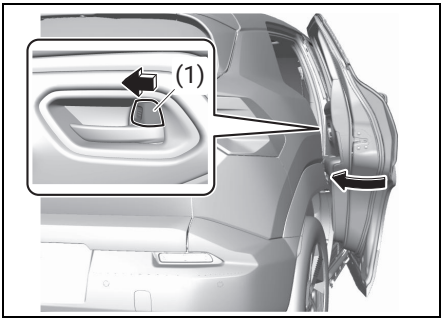
アドバイス

前席ドアを閉めるときは、必ずドアハンドルを持ってください。ドアが施錠されません。

後席ドア

ロックレバーを施錠側（車の前方向）にして、ドアを閉めると施錠できます。

ドアを閉めるとき、ドアハンドルを引いたままにする必要はありません。

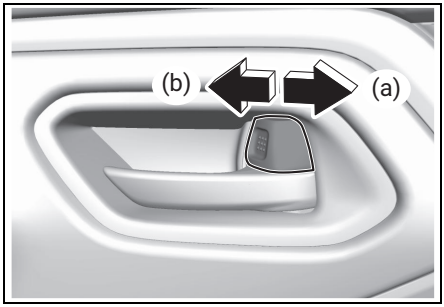


(1) ロックレバー

車内からの施錠・解錠

ロックレバー

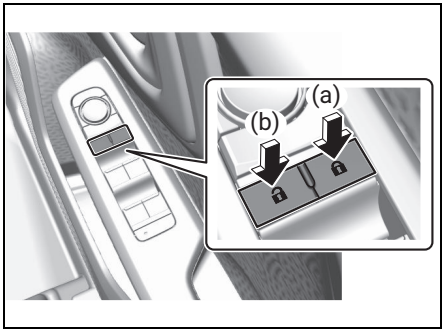
ドアを閉めてロックレバーを施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



(a) 解錠
(b) 施錠

パワードアロックスイッチ

運転席のパワードアロックスイッチを操作して施錠・解錠すると、助手席／後席／バックドアも同時に施錠・解錠します。



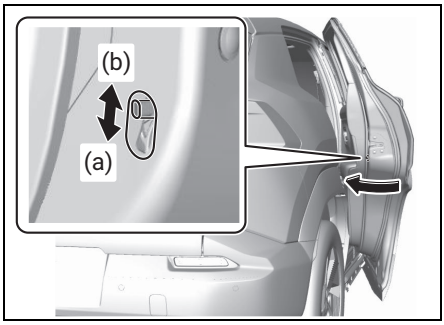
(a) 施錠
(b) 解錠

チャイルドプルーフ

後席ドアには、車内からドアが開かなくなるチャイルドプルーフが装備されています。

後席ドアにあるレバーを LOCK（開かない）の位置にすると、車外からのみドアを開けることができます。

レバーを UNLOCK（開く）の位置にすると、車内・車外のどちらからも開けることができます。



(a) LOCK（開かない）
(b) UNLOCK（開く）

⚠ 警告

お子さまを後席に乗せるときは、必ずチャイルドプルーフを LOCK（開かない）位置にしてください。

アドバイス

万一、車内から開ける場合は、窓から手を出して外側のドアハンドルをご使用ください。

バックドア

⚠ 警告

- **荷物をはさむと、半ドア状態になって走行中にバックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  バックドアを閉めるときは、荷物をはさまないようにしてください。
- **火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、EV システムを止めバックドアを施錠してください。**
- **バックドアを開けるときは、周囲に注意してください。後ろからの車や歩行者にぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  とくに風が強い日は注意してください。

車外からの施錠・解錠

メカニカルキー

運転席ドアにメカニカルキーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。 **(>>> P.206)**

携帯リモコン

携帯リモコンを使用して、バックドアの施錠・解錠ができます。 **(>>> P.206)**

リクエストスイッチ

リクエストスイッチを使用して、バックドアの施錠・解錠ができます。 **(>>> P.207)**

車内からの施錠・解錠

パワードアロックスイッチ

パワードアロックスイッチを操作して、バックドアの施錠・解錠ができます。 **(>>> P.208)**

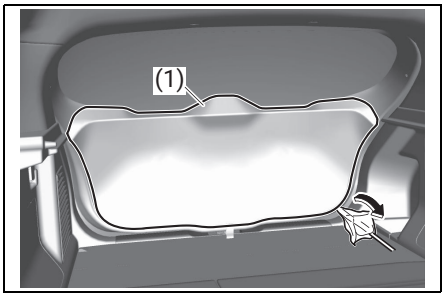
バックドアが開かないときは

故障や鉛バッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

緊急を要するときは、次の手順で解錠できます。

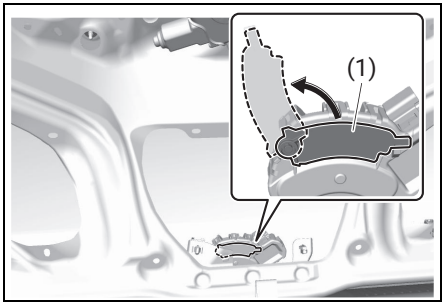
1) 後席の背もたれを倒すなどして、作業スペースを確保します。 **(>>> P.223)**

2) バックドアのトリムを先端に布をかぶせたマイナスドライバー（市販品）でこじって外します。



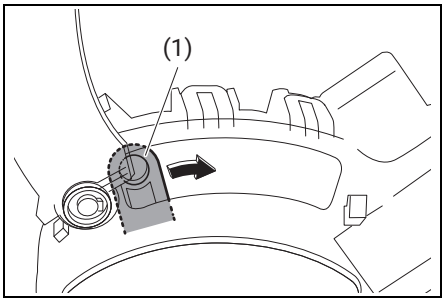
(1) バックドアトリム

3) ロック機構部のカバーを開けます。



(1) カバー

4) レバーを矢印の方向へスライドさせ、ロックを解除します。



(1) レバー

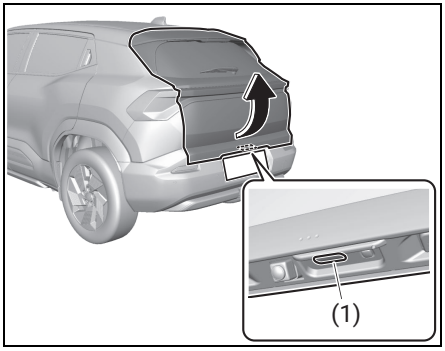
5) レバーをスライドさせたまま内側からバックドアを押し上げてください。バックドアを閉めると、再び施錠されます。

⚠ 注意

バックドアを内側から押し開くときは、車の後ろに人がいないことやものがないことを確認してください。バックドアが勢いよく開き、人やものに当たるおそれがあります。

バックドアの開閉

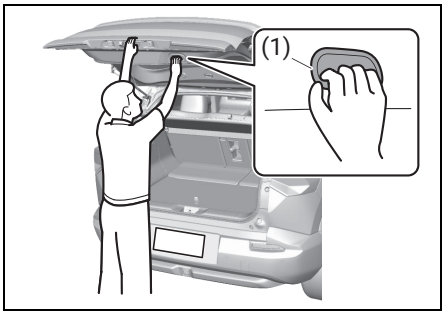
バックドアを開けるときは、解錠後、バックドアオープナースイッチを押しバックドアを持ち上げます。



(1) バックドアオープナースイッチ

バックドアを閉めるときは、ドア下面右側の手かけ部を持って引き下げます。

ドアを持って引き下げ、最後は外側から手で、少し勢いをつけて押し付けます。



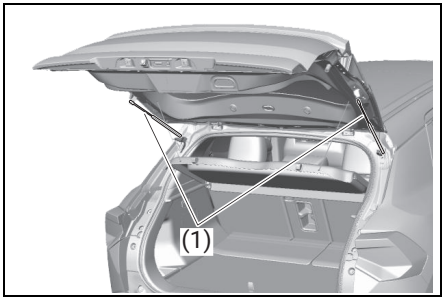
(1) 手かけ部

! 注記

ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

お守りいただかないと、バックドアをささえているダンパーステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドア開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、ものをかけたりしないでください。**



(1) ダンパーステー

アドバイス

バックドアが完全に閉まっていない場合は、次の手順を行なってください。

- バックドアオープナースイッチを押してバックドアを開けます。
- バックドアをもう一度閉めます。
- バックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

キーレスエントリー

車から約 2 m 以内の範囲で、携帯リモコンの操作部を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。

⚠ 警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、EV システムを止めてドアを施錠してください。

! 注記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インストルメントパネルの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**

アドバイス

- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアの施錠・解錠ができないときは、メカニカルキーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アンサーバック機能

キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

設定切替え（カスタマイズ）できない機能

	アンサーバック機能	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
車幅灯、尾灯、番号灯	—	約 15 秒間点灯
インストルメントパネルのスイッチ照明	—	約 15 秒間点灯

設定切替え（カスタマイズ）できる機能

次の機能の設定切替え（カスタマイズ）ができます。

初期設定（工場出荷時）

	アンサーバック機能	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1 回点滅	2 回点滅
室内灯	—	約 15 秒間点灯
車外ブザー	1 回吹鳴	2 回吹鳴

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯させたい場合は、室内灯スイッチを DOOR 位置にします。
- 室内灯が約 15 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。

設定切替え時

	アンサーバック機能	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	—	—
室内灯	2 回点滅	約 15 秒間点灯
車外ブザー	—	—

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチを DOOR 位置にします。
- 室内灯が約 15 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。

アドバイス

- フォグランプスイッチが “ON” の位置にあると、同時にフォグランプも点灯します。
- センターディスプレイのセッティングモードにて、アンサーバック機能の車外ブザーによる合図を停止することができます。 **(>>> P.503)**

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。
- タイマーロック機能が作動した場合も、ボンネットが開いている場合はセキュリティアラームがセットされません。
  ただし、ボンネットが開いている状態で、タイマーロック機能が作動した場合は、ボンネットを閉めてから約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。

アドバイス

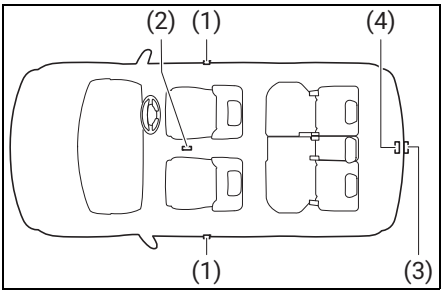
リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

キーレスプッシュスタートシステム

携帯リモコン

⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。**
  キーレスプッシュスタートシステムの各発信機（下図参照）から約 22 cm以内の範囲に､植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。



(1) 前席ドア車外発信機
(2) 車室内発信機
(3) バックドア車外発信機
(4) 荷室発信機

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステムの電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**
- **詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。**

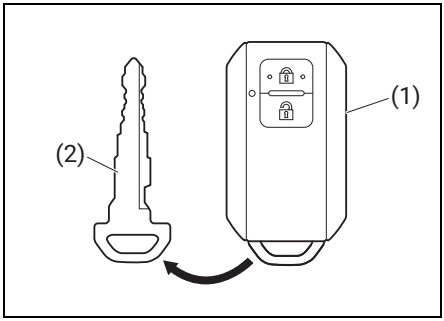
⚠ 注意

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話やほかのリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、パワースイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
  - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

お車には携帯リモコンが 2 個、リモコンに格納可能なキーが 2 本ついています。



(1) 携帯リモコン
(2) キー

⚠ 注意

携帯リモコンの分解、修理、改造をすると、発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。

! 注記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インストルメントパネルの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない所に置かない**

アドバイス

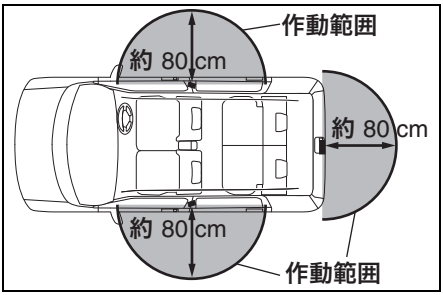
- 携帯リモコンは、日本国内でのみご使用ください。
- 携帯リモコンの内部に適合証明マークが貼り付けてあります。適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。
- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約 2 年です。
- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください

携帯リモコン電池消耗警告

携帯リモコンの電池切れが近いと、パワースイッチを “ON” にしたときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。電池交換のうえ、警告をリセットしてください。

リクエストスイッチの作動範囲

前席のドアハンドルまたはバックドアのリクエストスイッチ付近から、携帯リモコンが約 80 cm 以内にあるときにリクエストスイッチを押すと、施錠・解錠ができます。



アドバイス

- 「リクエストスイッチの作動範囲」で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている
- 車内の次のような場所に携帯リモコンがあると、電波の状況によってはリモコンが検知されて、リクエストスイッチが作動可能になる場合があり、携帯リモコンが車内に閉じ込められるおそれがあります。
  - インストルメントパネルの上
  - 床
  - 荷室
  - 奥まったところ（収納スペースなど）
- リクエストスイッチの作動は、携帯リモコンが作動範囲にあるドアのみとなります。例えば、運転席ドアの作動範囲にリモコンがあると、運転席ドアにあるリクエストスイッチは作動しますが、助手席ドアおよびバックドアにあるリクエストスイッチは作動しません。
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー

車外に持ち出した携帯リモコンがリクエストスイッチの近くにあるとき、以下の条件で車外ブザーが鳴り、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- パワースイッチが“ACC”または“ON”の状態で、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- パワースイッチを “LOCK（OFF）” にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  - 携帯リモコンを車内に置き忘れ、 別の携帯リモコンが車外のリクエストスイッチの近くにある ※1

    ※1 この状態でのブザー音はセンターディスプレイの“設定”から変更できます
  - いずれかのドアが開いている

パワースイッチを “LOCK （OFF）” にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認して

から、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、次のような施錠操作をすると自動的にすべてのドアが解錠されます。

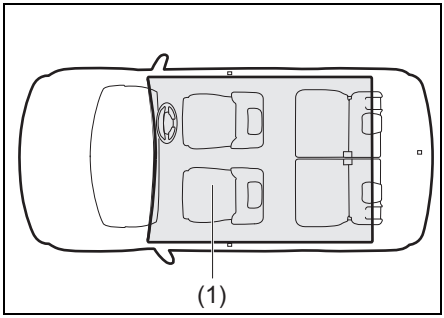
- 運転席ドアを開けて、運転席ドアのロックレバーで施錠操作をしたとき

アドバイス

- 「キーを使わない施錠」をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込めてしまうおそれがあります。
- パワースイッチが “ACC” または “ON” のときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- 鉛バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「車内の検知範囲」は、インストルメントパネルの上を除く車室内です。



(1) 車内の検知範囲

アドバイス

- 「車内の検知範囲」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
  - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床や荷室にある
- 「車内の検知範囲」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンがインストルメントパネルの上や荷室にある

前席シート

前席シートの調節

⚠ 警告

- 運転中にシートを調節しようとすると、シートが不意に動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
  シートの調節は走行前に行なってください。
- シートベルトを正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあります。
  シートベルトの機能を最大限に発揮するために、シートベルトを着用する前にシートを調節してください。
- シートバックが起きているときに、シートベルトは最大の効果を発揮するように設計されています。
  運転中は常にシートバックを起こしておいてください。
- 必要以上に背もたれを倒すと、万一のときにシートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。
  運転するときは、背もたれを必要以上に倒さないでください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れると、正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮できず、万一の事故で重大な傷害につながるおそれがあります。
  背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。
- シートの下にものを置かないでください。ものがはさまり、次のようなことが起きて思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
  - シートが固定されない
  - シート下の部品を損傷する
  - 床下にライターやスプレー缶があると、ガスが噴出して火災につながるおそれがある

⚠ 注意

シートを調節するときは、次のことに注意してください。

- 手や足をはさまれてけがをするおそれがあります。
  シートの下や可動部に手や足を近づけないでください。
- 動いたシートにぶつかって、けがをすることがあります。
  周囲の状況を確認し、同乗者がシートにあたらないように注意してください。

マニュアルシート（タイプ別装備）

⚠ 警告

シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが不意に動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

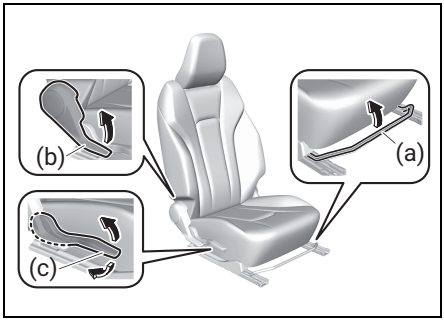
⚠ 注意

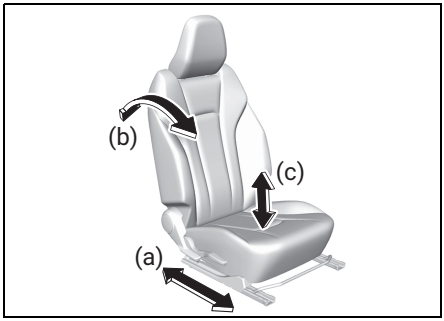
背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって、けがをするおそれがあります。

背もたれから離れてリクライニングレバーを操作しないでください。

操作するときは、手などを添えて操作してください。

マニュアルシートの調節





(a) 前後位置の調節（運転席／助手席）
スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。

(b) 背もたれの角度調節（運転席／助手席）
リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれを動かします。

(c) 運転席シートの高さ調節（運転席）
レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方に動きます。
レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方に動きます。

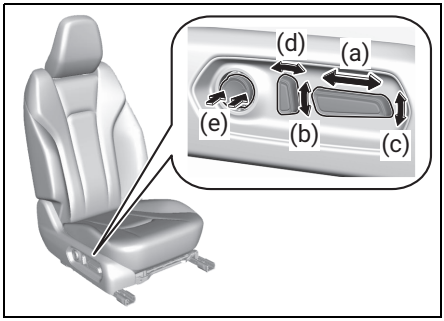
パワーシート（タイプ別装備）

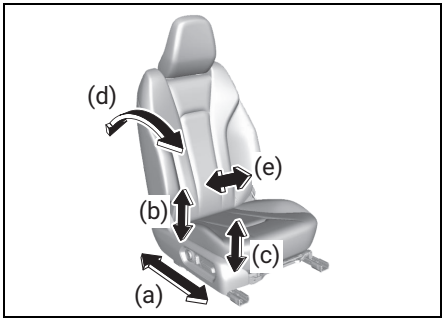
! 注記

EV システム停止中にパワーシートを操作すると、鉛バッテリー上がりの原因となります。

鉛バッテリー保護のため、EV システムが作動しているときにシート調節を行なってください。

パワーシートの調節





(a) 前後位置の調整（運転席）
スイッチを操作して、シートを前後に動かします。

(b) シートの高さ調節（運転席）
スイッチを操作して、シート全体の高さを調節します。

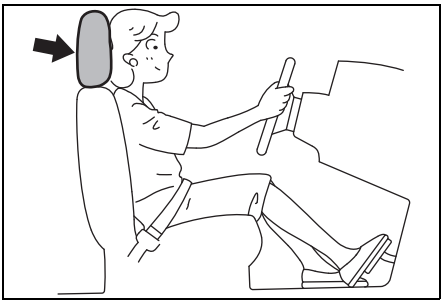
(c) 座面前端の高さ調整（運転席）
スイッチを操作して、座面前端の高さを調節します。

(d) 背もたれの角度調節（運転席）
スイッチを操作して、背もたれをの角度を調整します。

(e) 腰部の支持強さ調節（ランバーサポート）（運転席）
スイッチの前側を押すと、腰部の張り出し量が多くなります。

スイッチの後ろ側を押すと、腰部の張り出し量が少なくなります。

前席ヘッドレスト



4

⚠ 警告

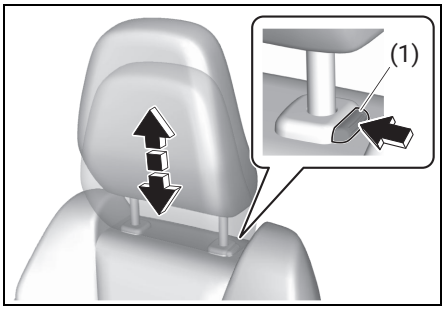
- **ヘッドレストを外したまま走行すると、後方からの衝突時に乗員の頭部の後傾を抑えることができないだけでなく、急ブレーキ時や衝突時などに乗員の頭部への衝撃を緩和することができず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。
- **ヘッドレストを前後逆に取り付けたり、固定が不十分だったりすると、万一のときにヘッドレストが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  ヘッドレストが前後逆の場合、高さ調節も固定もできません。
  ヘッドレストは、正しい向きで、しっかりと固定してください。

高さの調節

1)高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。

2)低くするときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを押し下げます。

3)ロックボタンを押さずにヘッドレストを押し下げるなどして、確実に固定されているか確認してください。



(1) ロックボタン

取り外しかた

ヘッドレストを取り外す必要があるとき(チャイルドシートの取り付け、清掃、交換など)は、ロックボタンを押したまま引き抜きます。

アドバイス

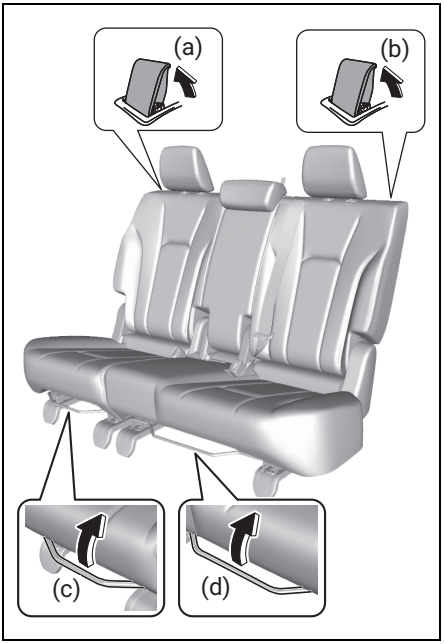
ヘッドレストを取り外すときに十分な余裕を確保するため、背もたれの角度調節が必要な場合があります。

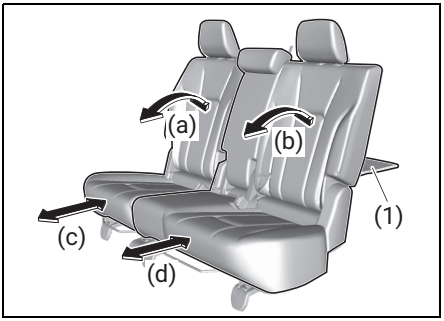
取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

後席シート

後席シートの調節





(1) ラゲッジフロアボード

(a) 後席右側背もたれの角度調節
ロックレバーを引き上げて、背もたれを動かします。

(b) 後席左側背もたれの角度調節
ロックレバーを引き上げて、背もたれを動かします。

後席中央は、後席左側と連動して動きます。

(c) 後席右側前後位置の調節
スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。

(d) 後席左側前後位置の調節
スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。
後席中央は、後席左側と連動して動きます。

⚠ 警告

- **シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが不意に動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。
- **シートベルトを正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  シートベルトの機能を最大限に発揮するために、シートベルトを着用する前にシートを調節してください。
- **シートの下にものを置かないでください。ものがはさまり、次のようなことが起きて思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。**
  - **シートが固定されない**
  - **シート下の部品を損傷する**
  - **床下にライターやスプレー缶があると、ガスが噴出して火災につながるおそれがある**

⚠ 注意

シートを動かすときは、次のことに注意してください。

- **ラゲッジフロアボードに指や手がはさまれてけがをする。**

- **荷物が倒れたときに身体がはさまれてけがをする。**

! 注記

ラゲッジフロアボードも連動して前後に動きますので、ボードの上に荷物がある場合はいったん降ろしてからシートを動かしてください。

後席ヘッドレスト

ヘッドレストは、事故の際に首のけがのリスクを軽減するように設計されています。

⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行すると、後方からの衝突時に乗員の頭部の後傾を抑えることができないだけでなく、急ブレーキ時や衝突時などに乗員の頭部への衝撃を緩和することができず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  走行する際は正しくヘッドレストを取り付けてください。
- **ヘッドレストを前後逆に取り付けたり、固定が不十分だったりすると、万一のときにヘッドレストが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。**
  ヘッドレストが前後逆の場合、高さ調節も固定もできません。
  ヘッドレストは、正しい向きで、しっかりと固定してください。

⚠ 注意

取り外したヘッドレストを、客室内に放置すると、急ブレーキをかけたときなどに飛び出し、乗員やものなどに当たって、思わぬけがや破損のおそれがあります。

取り外したヘッドレストは、ラゲッジアンダーボックスなどに格納して、客室内に放置しないでください。

アドバイス

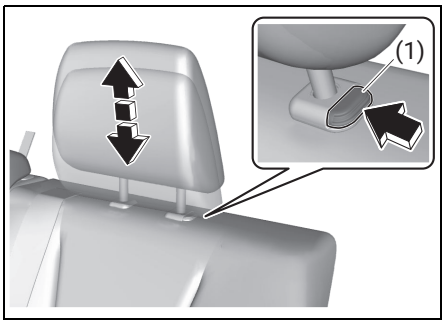
ヘッドレストを取り外すときに十分な余裕を確保するため、背もたれを前方に倒すことが必要な場合があります。

後席外側シート

後席外側シートのヘッドレストを使用するときは、収納位置から引き上げ、しっかりと固定します。

高さの調節

1) 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
2) 低くするときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを押し下げます。
3) ロックボタンを押さずにヘッドレストを押し下げるなどして、確実に固定されているか確認してください。



(1) ロックボタン

取り外しかた

ヘッドレストを取り外す必要があるとき(チャイルドシートの取り付け、清掃、交換など)は、ロックボタンを押したまま引き抜きます。

アドバイス

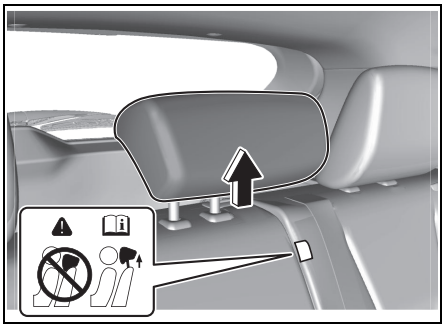
ヘッドレストを取り外すときに十分な余裕を確保するため、背もたれの角度調節が必要な場合があります。

取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み高さの調節をします。

後席中央シート

後席中央シートのヘッドレストを使用するときは、収納位置から引き上げ、しっかりと固定します。

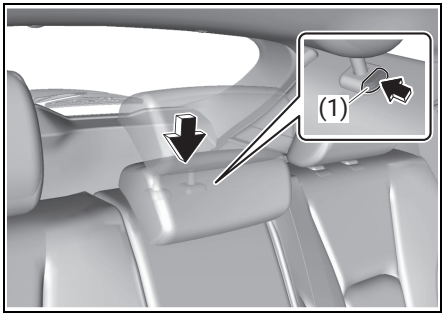


警告

ヘッドレストを外した状態または収納時の位置で、後席中央シートに人を乗せないでください。

収納時の位置

収納するときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。



(1) ロックボタン

取り外しかた

ヘッドレストを取り外す必要があるとき (チャイルドシートの取り付け、清掃、交換など) は、ロックボタンを押したまま引き抜きます。

取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込みます。

背もたれの倒しかた／起こしかた

背もたれを前方へ倒すと、荷室が広く使えます。

警告

- **背もたれを倒すときは、シートベルトを外し、ねじれがないように収納してください。シートベルトの損傷を防ぐことができます。**
- **背もたれが倒れるとき、乗員に当たって思わぬけがをする恐れがあります。**
  背もたれを倒すときは、乗員の安全を確保してください。
- **倒した背もたれの上や荷室に人を乗せると、急ブレーキ時や衝突時などに、人が投げ出されて重大な傷害につながるおそれがあります。**

倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。

- **背もたれを倒したときは、荷物が確実に固定されていることを確認してください。加速やブレーキ、衝突のときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。**
- **シートが確実に固定されていないと、走行中にシートが不意に動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

⚠ 注意

シートを動かすとき、手足をはさんだり、身体に当たったりするとけがのおそれがあります。

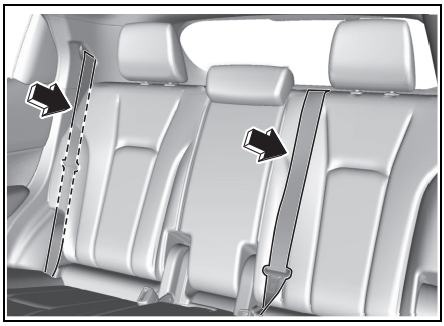
シートを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

! 注記

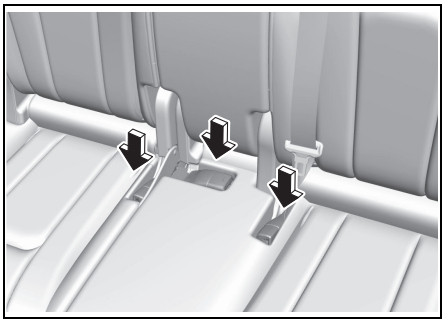
- **背もたれを倒す前に、後席シートから荷物を移動させてください。背もたれを倒したときに、シートが損傷したり、シートベルト警告ブザーが作動するおそれがあります。**
- **後席中央の背もたれを倒して使用するときは、荷物などで強い力をかけたり、ドリンクホルダーを損傷しないよう注意してください。**
- **背もたれを元に戻すときは、ロック部品が損傷しないように慎重に行なってください。手を使わないで戻したり、無理な力をかけたりしないでください。**

後席外側背もたれの倒しかた

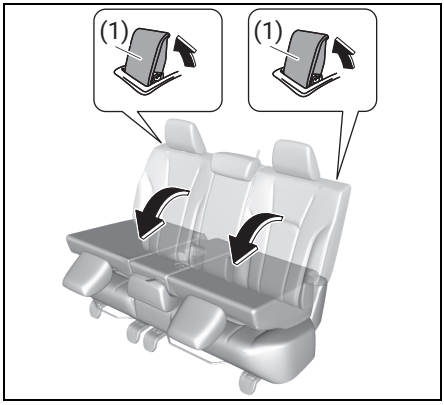
1) 後席中央の背もたれが倒れている場合は、元にもどしてください。
2) ヘッドレストは一番低い位置へ調節します。 **(>>> P.222)**
3) シートベルトを外して格納します。格納するときは、シートベルトにねじれがないことを確認してください。



4) シートベルトのバックルを格納します。



5) 背もたれ肩部のロックレバーを引いたまま、背もたれを前方へ倒します。後席中央は、後席左側と連動して動きます。



(1) ロックレバー

アドバイス

背もたれを倒す時に、ヘッドレストが前席に当たる場合は、前席の前後位置や背もたれの角度を調節してください。

後席外側背もたれの起こしかた

1) シートベルトが格納位置にあることを確認します。
2) 背もたれを起こし、固定される位置まで背もたれを車の後ろ方向へ押し付けます。後席中央は、後席左側と連動して動きます。
3) 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。



⚠ 警告

背もたれを起こすときにシートベルトがはさまれて損傷すると、事故などのときに正常に機能せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

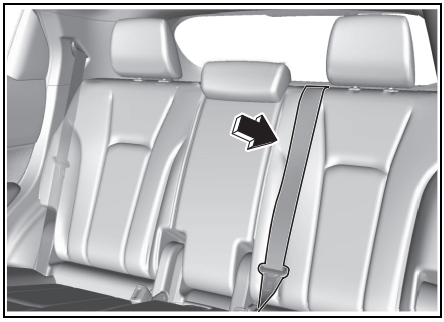
シートベルトが格納位置にあることを確認してください。

後席中央背もたれの倒しかた

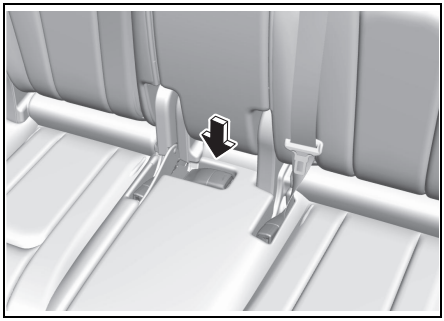
後席中央の背もたれは独立して倒すことができ、長い荷物を積むことができます。

また、アームレストとしても使用できます。 **(>>> P.413)**

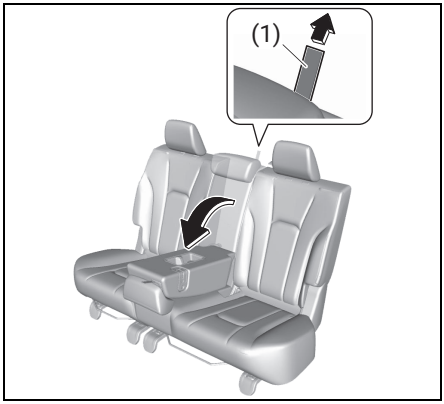
1) 背もたれを倒す前に、ヘッドレストは一番低い位置へ調節します。 **(>>> P.222)**
2) シートベルトを外して格納します。格納するときは、シートベルトにねじれがないことを確認してください。



3) シートベルトのバックルを格納します。



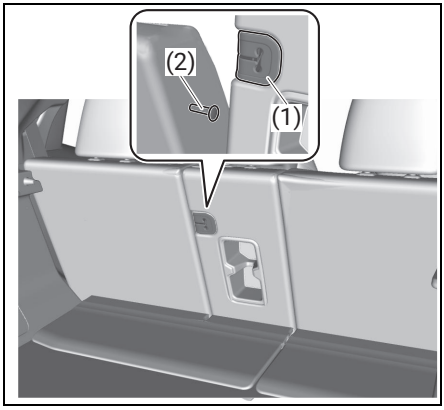
4) ストラップを引いたまま、後席中央の背もたれを前方へ倒します。



(1) ストラップ

⚠ 注意

荷物の固定などに、ロック部品やストライカーを使用しないでください。また、ロック部品やストライカーに砂などの異物を付着させないでください。ロック部品が損傷したりストライカーが曲がったりして、背もたれが固定できなくなるおそれがあります。



(1) ロック部品
(2) ストライカー

後席中央背もたれの起こしかた

1) 後席中央のシートベルトが格納位置にあることを確認します。
2) 背もたれを起こし、固定される位置まで背もたれを車の後ろ方向へ押し付けます。
3) 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

⚠ 警告

背もたれを起こすときにシートベルトがはさまれて損傷すると、事故などのときに正常に機能せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトが格納位置にあることを確認してください。

⚠ 注意

シートを起こすとき、ロック部品やストライカーに手をはさまないように気をつけてください。

! 注記

ストライカー周辺に異物があると背もたれが固定されない原因となります。

背もたれを起こすときは、ストライカー周辺に異物がないことを確認してください。

ハンドル

テレスコピック＆チルトステアリング

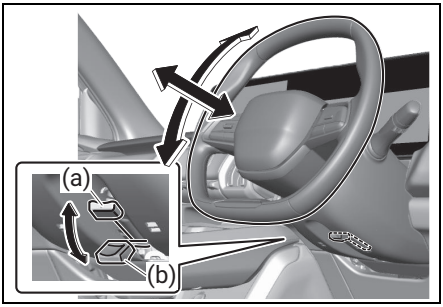
⚠ 警告

- **走行中にハンドル位置を調節すると、運転を誤って思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  ハンドル位置は必ず走行前に調節してください。
- **ハンドルが確実に固定されていないと、ハンドルの位置が不意に動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

調節のしかた

調整用のレバーはハンドル下にあります。

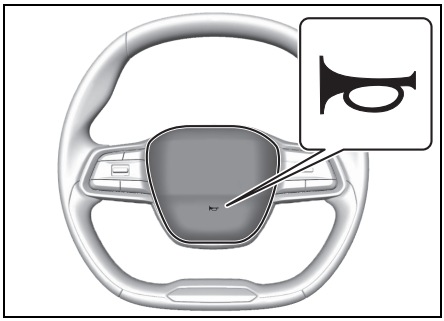
1) ハンドルの固定を解除します。
2) ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置に調節します。
   調節後は、ハンドルを固定します。
3) 調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。



(a) 固定
(b) 解除

ホーンスイッチ

パワースイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。

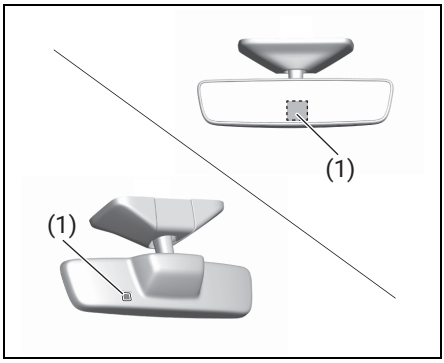


ミラー

ルームミラー

⚠ 警告

- **センサーに触れたり、センサーを覆ったりしないでください。システムが正常に作動しなくなる可能性があります。日よけ、ステッカー、アクセサリー、荷物などでセンサーをさえぎると、周囲の明るさを正確に感知できなくなります。**
- **走行中にルームミラーの調節をするとハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  ルームミラの調節は走行前に行なってください。



(1) センサー

⚠ 注意

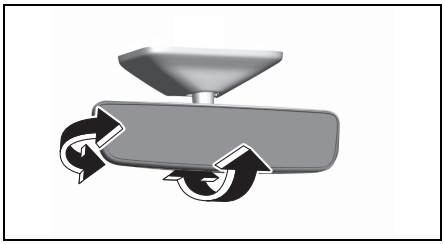
ミラーに力をかけないでください。重いものを取り付けたり、手のささえにしたりすると、ミラーが破損するおそれがあります。

ルームミラーの角度調節

ミラー全体を動かして角度を調節します。

自動防眩機能は、パワースイッチが “ON” のときに使用でき、後続車のライトの反射を自動的に減少させます。

- 自動防眩機能は常に作動します。
- シフトポジションを “R” にしているときは、自動防眩機能が作動しません



ドアミラー

⚠ 警告

走行中にドアミラーを調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラーは必ず走行前に調節してください。

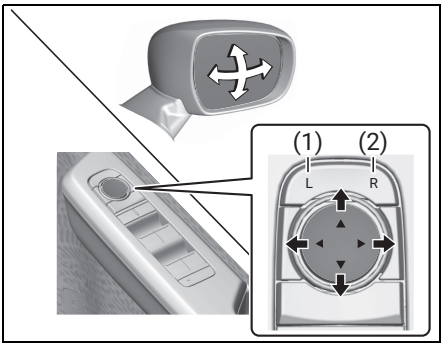
ドアミラーの角度調節

ドアミラーは、お車の側面が見えるように調節します。

調節するスイッチは、運転席ドアにあります。調節は、パワースイッチが “ACC” または “ON” の位置にあるときにできます。

1) 左右切替えスイッチを、調節したいミラーの側に押します。
2) 角度調節スイッチを押して、上下左右にミラーを動かします。

3)調節後は、左右切替えスイッチを中立位置へもどします。



(1) 左右切り替えスイッチ（左）
(2) 左右切り替えスイッチ（右）

ドアミラーの格納

⚠ 警告

ドアミラーを格納したまま走行すると、後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。

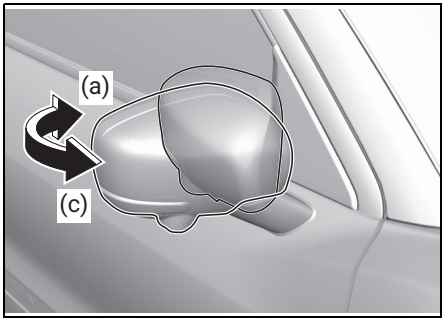
ドアミラーは、格納したまま走行しないでください。

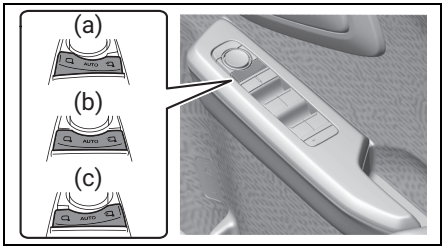
⚠ 注意

- **ドアミラーを動かすときは、次のことに注意してください。けがをしたり、ミラーが破損したりする原因となります。**
  - **ドアミラーの周囲に人やものがないか確認する**
  - **動いているドアミラーに触れない**
- **手でドアミラーを通常の位置にもどすとドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。**
  格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

ドアミラー格納スイッチ

狭い場所で駐車するときは、ドアミラーを格納してください。ドアミラー格納スイッチを操作して、格納・通常の位置に動かします。運転前に、ドアミラーが通常の位置にあることを確認してください。





(a) 格納
(b) AUTO
(c) 通常

リモート格納ミラー

ドアミラー格納スイッチが“AUTO”の位置にあるときは、ドアの施錠やパワースイッチの操作と連動して、ドアミラーが自動的に格納と通常の位置に切り替わります。

- キーレスエントリーまたはリクエストスイッチでドアを施錠すると、自動的にドアミラーが格納されます。
- 通常の位置にもどすときは、パワースイッチを“ACC”または“ON”にします。

! 注記

ドアミラーが凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。

ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください

アドバイス

- ドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、ドアミラーが自動的に格納されません。
- ドアミラー格納スイッチが格納の位置にあるときは、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたときに、ドアミラーが自動的に通常の位置にもどりません。
- タイマーロック機能が作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。 **(>>> P.213)**

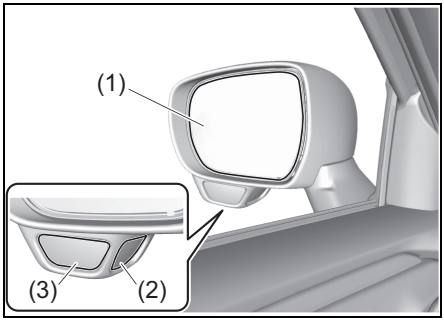
ドアミラーヒータースイッチ

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。 **(>>> P.392)**

サイドアンダーミラー

助手席側ドアミラー下部にあります。

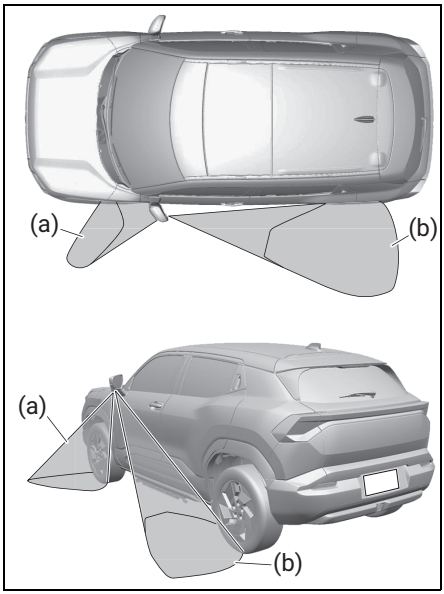
停車時およびごく低速時に、車両左側下部を確認するときに使用します。



(1) 主鏡
(2) サイドアンダーミラー 1
(3) サイドアンダーミラー 2

サイドアンダーミラーから見える範囲

ミラーから見える範囲は姿勢によって異なります。



(a) サイドアンダーミラー1で見える範囲
(b) サイドアンダーミラー2で見える範囲

⚠ 注意

ミラーだけにたよらず車から降りて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。

アドバイス

サイドアンダーミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。

ウインドー

パワーウインドー

パワースイッチが“ON”のときに、パワーウインドースイッチを操作すると、ウインドーの開閉ができます。

⚠ 警告

- **ウインドーの開閉操作をするとき、誤って手足や首などが挟み込まれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  ウインドーを操作するときは、次のことに注意してください。
  - **運転者は自身だけでなく他の乗員にもウインドー開閉操作に注意を払わせてください。**
  - **お子さまにはウインドースイッチを操作させないでください。**
  - **お子さまを乗せているときは常にウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。(>>> P.234)**
  - **車から離れるときは必ずパワースイッチを“LOCK（OFF）”にし、キーを携帯してお子さまと一緒に離れてください。**
  - **運転席で他席のウインドーを開閉するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。**
- **窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作すると、手や首をはさむおそれがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。

⚠ 注意

ウインドーガラスを開閉するとき、ガラスに触れると、巻き込まれてけがをするおそれがあります。

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。

! 注記

EV システム停止中にウインドーを開閉すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。

鉛バッテリー保護のため、EV システムが作動しているときにウインドーの開閉を行なってください。

📖 アドバイス

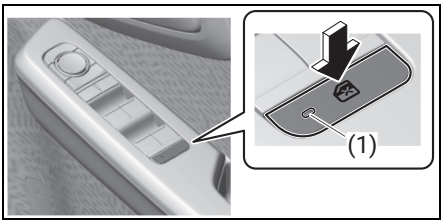
- 走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
  後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
  - 前席ウインドーも開ける。
  - 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。
- 走行中に前席ウインドーだけを開けていると、後席ウインドーだけを開けている場合と同様に耳を圧迫するような音が発生する場合があります。
  前席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
  - 後席ウインドーも開ける。

- 前席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチを押すと、表示灯が点灯し助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押し、表示灯を消灯させます。



(1) 表示灯

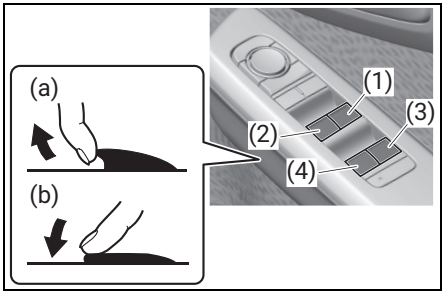
アドバイス

ウインドーロックスイッチがロック位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

運転席で各席のウインドーの開閉ができます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。(運転席ウインドーのオート機構を除く)
- すべてのウインドーにはオート機構が装備されていて、運転席から操作できます。



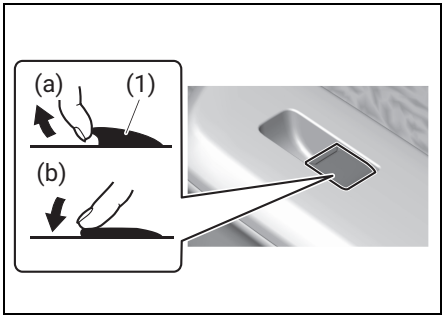
(1) 運転席ウインドースイッチ
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

(a) 閉まる
(b) 開く

助手席、後席での開閉

自席のウインドーを開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- すべてのウインドーにはオート機構が装備されています。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。**(>>> P.234)**



(1) ウインドースイッチ

(a) 閉まる

(b) 開く

アドバイス

ウインドーロックスイッチがロック位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ウインドーのオート機構

ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。

途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

ウインドーのオフディレイタイマー機能

パワースイッチを“ON”の位置から“ACC”または“LOCK（OFF）”にしたあとでも、30 秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

30 秒以内でも、運転席または助手席のドアを開けると、運転席ウインドーの開閉ができません。

はさみ込み防止機構

安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠ 警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

ウインドーの開閉操作は、十分に注意して行なってください。

⚠ 注意

はさみ込み防止機構は、ウインドーが閉まりきる直前に、はさみ込みを検知できない領域があり、指などをはさみけがをするおそれがあります。

ウインドーが閉まりきる直前は、とくに指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。
- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

はさみ込み防止機構の初期設定が必要なとき

次のような場合は、ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。

「初期設定のしかた」をお読みになり、初期設定を行なってください。 **(>>> P.236)**

- 鉛バッテリーの端子を外したとき

- ヒューズを点検・交換したとき
- 鉛バッテリーあがりがおきたとき

⚠ 警告

はさみ込み防止機構は、初期設定が完了するまで作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。

アドバイス

ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、初期設定を行なってください。

初期設定のしかた

はさみ込み防止機構の初期設定は次の手順で行なってください。

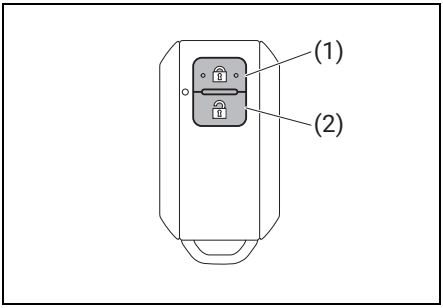
1) EV システムを始動します。 **(>>> P.248)**
2) ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。
3) ウインドーが停止したら、スイッチから手を離します。
4) もう一度ウインドースイッチを 10 秒以上押し続けてください。
5) ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。
6) ウインドーが停止したら、スイッチから手を離します。
7) もう一度ウインドースイッチを 10 秒以上引き上げ続けてください。
8) ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順 1 ～ 7 を何度繰り返してもウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

リモートパワーウインドー

パワースイッチが “LOCK （OFF）” の位置にあるときに、車外から携帯リモコンを使用して、ウインドー開閉することができます。

- 開けるときは、操作部（アンロックスイッチ）を押し続けてください。
  安全のため、ウインドーは完全に開きません。
- 閉めるときは、操作部（ロックスイッチ）を押し続けてください。



(1) 操作部（ロックスイッチ）
(2) 操作部（アンロックスイッチ）

⚠ 警告

リモートパワーウインドーを操作するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。

また、お子さまにはリモートパワーウインドーを操作させないでください。

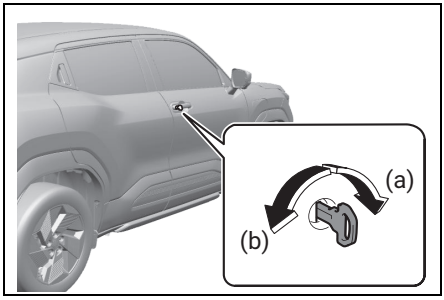
誤って手足や首などが挟み込まれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キー連動パワーウインドー

パワースイッチが “LOCK （OFF）” の位置にあるときに、車外からメカニカル

キーを使用して、ウインドー開閉することができます。

- 開けるときは、メカニカルキーを差し込んで、車の後ろ方向にまわして保持します。
- 閉めるときは、メカニカルキーを差し込んで、車の前方向にまわして保持します。



(a) 閉まる

(b) 開く

⚠ 警告

キー連動パワーウインドーを操作するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。

また、お子さまにはキー連動パワーウインドーを操作させないでください。

誤って手足や首などが挟み込まれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

この機能を有効にするには、あらかじめ設定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

MEMO

5. 運転するときは

出発の前に 240
運転するとき 240
荷物を積むときの注意 247

運転手順 248
パワースイッチ 248
ダイヤルシフトの操作 253
走行モード 258
ヒルディセントコントロール（4WD 車） 260
方向指示器レバー 263
電動パーキングブレーキ 264

ライト・ワイパーの使いかた 269
ライトスイッチ 269
フォグランプスイッチ 273
ワイパー／ウォッシャー（フロント） 273
ワイパー／ウォッシャー（リヤ）. 277

運転支援装置について 279
スズキ セーフティサポート 279
デュアルセンサーブレーキサポート II （DSBS II） 292
誤発進抑制機能 299
発進お知らせ機能 302
アダプティブハイビームシステム 303
車線逸脱抑制機能 307
車線維持支援 312
二次衝突軽減ブレーキ 317
アダプティブクルーズコントロール 317
標識認識機能 326
ブラインドスポットモニター（BSM）（車線変更サポート付） 329
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 334
パーキングセンサー 336
低速時ブレーキサポート (前進・後退) 341
後方誤発進抑制機能 346
全方位モニター 349
ドライバーモニタリングシステム (DMS) 365
運転支援装置 369

運転するときのアドバイス 376
走行するときは 376
駐車するときは 378
寒冷時の運転 379

運転するとき

発進

通常の発進

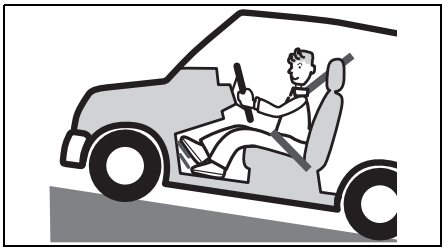
1) EVシステムを始動する前に、充電ケーブルが外れていることを確認してください。
2) EV システムを始動します。 **(>>> P.248)**
3) ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。
4) 前進時は “D”、後退時は “R” にダイヤルシフトを回し、ダイヤルシフトの位置を目で確かめます。
5) パーキングブレーキを解除し、メーター内の電動パーキングブレーキ作動表示灯の消灯を確認します。
6) ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

⚠ 注意

パワースイッチを確実に押せていない場合、EV システムが始動していないことがあります。EV システムが始動していない状態でダイヤルシフトを “R” または “D” に入れても車は動きません。この状態で発進しようとすると、坂道などで意図しない方向に車が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。EV システムを始動するときは、パワースイッチを確実に押し、表示灯や警告灯などで、EV システムが始動していることを確認してください。

急な上り坂での発進

1) EVシステムを始動する前に、充電ケーブルが外れていることを確認してください。
2) EV システムを始動します。 **(>>> P.248)**
3) ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。
4) 前進時は “D”、後退時は “R” にダイヤルシフトを回し、ダイヤルシフトの位置を目で確かめます。
5) パーキングブレーキスイッチを引き、パーキングブレーキをかけます。
6) 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキを解除して、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。



アドバイス

上り坂ではヒルホールドコントロールが作動し、急な上り坂での発進時に車が後退することを一定時間防ぎます。**(>>> P.374)**

走行

⚠ 警告

走行中にダイヤルシフトを “N” に入れると、回生ブレーキがまったく効かないため、思いがけない事故の原因となります。

緊急時以外は、走行中にダイヤルシフトを “N” に入れないでください。

一時停止

1) ダイヤルシフトは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
   - 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
   - 停車時間が長くなりそうなときは、ダイヤルシフトを “N” に入れます。
2) 再発進するときに間違えないよう、メーター内の表示でダイヤルシフトの位置と、パーキングブレーキが解除されていることを確かめます。

⚠ 警告

ダイヤルシフトが “P” または “N” 以外に入っていると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

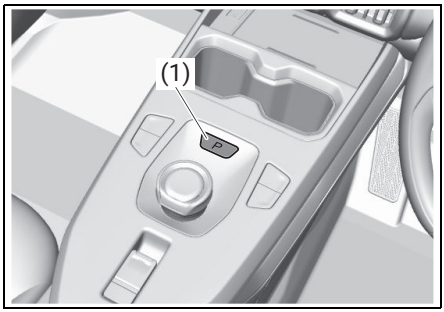
! 注記

上り坂などで、アクセル操作で車を停止させようとすると、EV システムや eAxle オイルが過熱し、故障の原因となります。

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。

駐車

1) 車を完全に止めます。
2) ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。 **(>>> P.264)**
3) ブレーキペダルを踏んだまま、P ポジションスイッチを押します。



(1) P ポジションスイッチ

4) パワースイッチを押して “LOCK（OFF）” に戻し、EV システムを停止します。
5) ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

⚠ 警告

P ポジションスイッチを押さないとシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車するときは、P ポジションスイッチを押してから EV システムを止めてください。

クリープ現象に注意して

車両が停車しているとき、シフトポジションが “P” または “N” 以外になっていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

アドバイス

シフトポジションが “P” または “N” 以外のときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。

ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、EV システムを始動する前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ペダルの踏み間違いには注意してください。

後退

正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

前進や後退を繰り返すとき

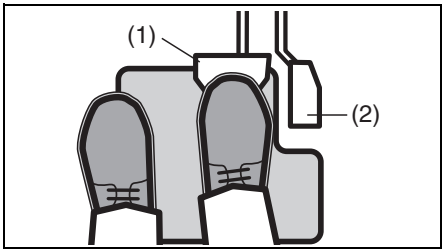
車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、ダイヤルシフトを “R” に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに “R” から “N” に入れる習慣をつけてください。

ブレーキペダルは右足で踏む

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。



(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

⚠ 注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ性能が急激に低下して、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。

長い下り坂では回生ブレーキを使用する

下り坂でブレーキペダルを連続して踏み続けると、ブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。長い下り坂を走行するときは、通常のブレーキと併せて回生ブレーキを使用してください。

⚠ 警告

駆動用バッテリーの充電レベルが高くなると、回生エネルギー（回収している電力量）が制限されるため、回生ブレーキが働かずブレーキ部品が過熱し

て、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! 注記

下り坂ではパワースイッチを“LOCK（OFF）”にしないでください。EV システムが損傷するおそれがあります。

緊急時以外は、走行中に EV システムを停止しないでください。

アドバイス

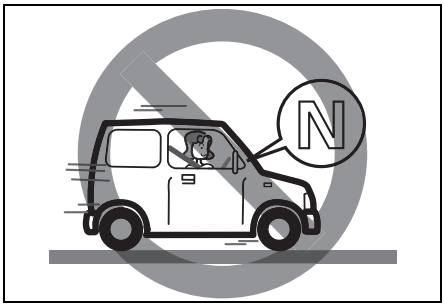
回生ブレーキは、急な下り坂で一定の車速を保ち、運転者を補助します。

走行中はニュートラルにしない

⚠ 注意

走行中にダイヤルシフトを “N”（ニュートラル）に入れると、回生ブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

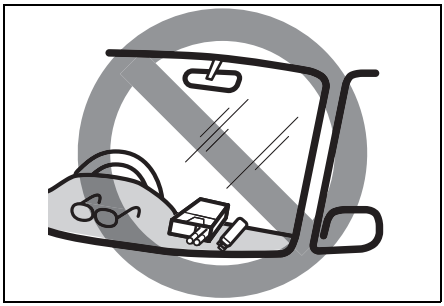
緊急時以外は、走行中にダイヤルシフトを“N”（ニュートラル）に入れないでください。



ライターやメガネなどを放置しない

⚠ 警告

- **炎天下で駐車すると、車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**
  炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。



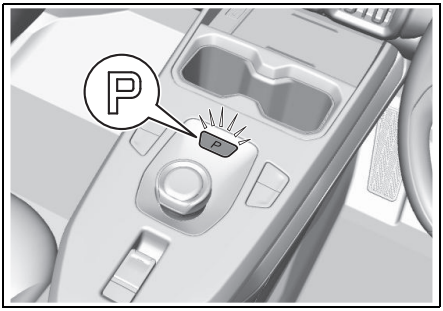
- **荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**
  操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。

車から離れるときは

⚠ 警告

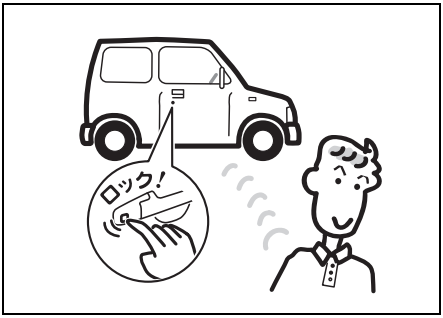
EV システムを始動したまま車から離れないでください。万一、シフトポジションが“P”以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがありま

す。また、車に乗り込むときに誤ってダイヤルシフトを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。



車から離れるときは EV システムを止めてドアを施錠

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。



⚠ 警告

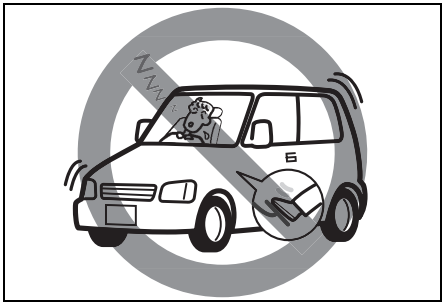
“READY”表示灯が点灯した状態で車から離れると、火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは、“READY”表示灯が点灯したまま離れないでください。

EV システムを始動したまま仮眠しない

⚠ 警告

EV システムを始動したまま仮眠しないでください。無意識にダイヤルシフトを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故につながったり、最悪の場合には死亡につながるおそれがあります。



アクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたとき

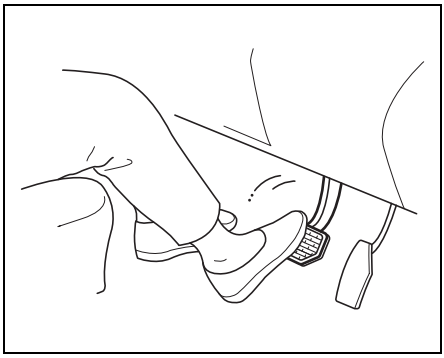
アドバイス

走行中にアクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたときに、ブレーキ効果を優先させるため、ブレーキオーバーライドシステムにより EV システムの出力が抑制される場合があります。

ブレーキについて

車両を停止させるのに必要な距離（制動距離）は、車両の速度が速くなるにつれて長くなります。

停止する際は、停止地点との間に十分な距離があるときにブレーキペダルを踏み始め、徐々に減速してください。



⚠ 警告

ブレーキ装置が濡れると、ブレーキ性能が低下し、思いがけない動きをすることがあります。

水たまり走行後や洗車後は、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

パワーアシストブレーキ

お車にはパワーアシストブレーキが装備されています。EV システムの停止やその他の故障によりブレーキアシストが失われた場合でも、システムは予備の電力で作動し、ブレーキペダルを踏み込み続けることで車両を停止させることができます。

ブレーキペダルを踏み込むと予備の電力の一部が消費され、踏むたびに減少するため、ブレーキペダルは均一な力で踏み、ポンピングブレーキはしないでください。

⚠ 警告

ブレーキシステムに予備の電力がなくなった場合でも、通常より強くブレーキペダルを踏み込むことで車両を停止することはできます。ただし、停止距離が長くなる場合があります。

4WD 車を運転するときは

4WD 車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠ 注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD 車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や冠水した道路（場所）を走行しないでください。**



急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール（シフト操作時急発進抑制、後退時速度制限））

急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、EV システム出力を抑制することがあります。

- “R” に切りかえたとき ※1
- “P” または “R” から、“D” などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※1

※1 状況によっては操作できない場合があります。

このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように EV システム出力を抑制 ※1 します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ 速度抑制中 ” が表示されます。

※1 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

アドバイス

ドライブスタートコントロールについて

- ESP® の作動を停止すると、急発進の抑制制御も停止します。 **(>>> P.374)**
  急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、ESP® の作動を停止してください。**(>>> P.374)**
  また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。
  - 走行モードのトレイルモード（4WD 車）を使用しているとき
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動：約 12 km/h）／ OFF（非作動：約 30 km/h）を切りかえることができます。**(>>> P.503)**
  - パワースイッチを “ON” にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
  - 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

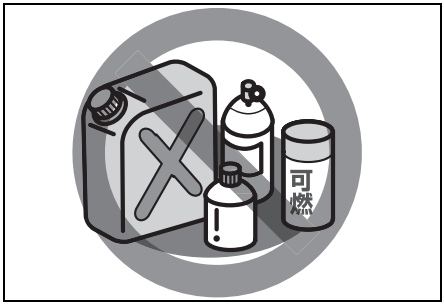
荷物を積むときの注意

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠ 警告

- **燃料、薬品が入った容器、スプレー缶などは、引火や爆発のおそれがあります。**
  燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。



- **インストルメントパネルの上にものを置くと運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席 SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。**
  インストルメントパネルの上には、ものを置かないでください。



⚠ 注意

- **荷物を積み重ねると、視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  車内に荷物を積み重ねないでください。



- **動物が車内で動きまわると運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。**
  動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。

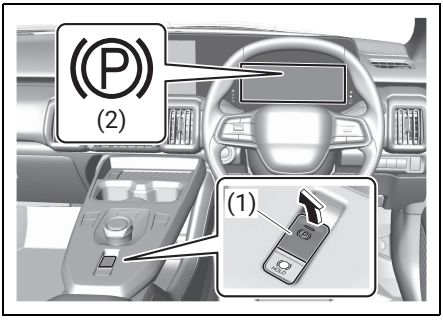
パワースイッチ

! 注記

- **鉛バッテリー保護のため、EV システムが始動しないときは、一度 “LOCK（OFF）” にもどし、30 秒以上待ってから再び行なってください。数回繰り返しても EV システムが始動しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
- **この車は押しがけによる始動はできません。押しがけをすると EV システムを損傷するおそれがあります。**
- **“READY” 表示灯が点灯していない状態で、パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたまま長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。**
  パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたままにしないでください。

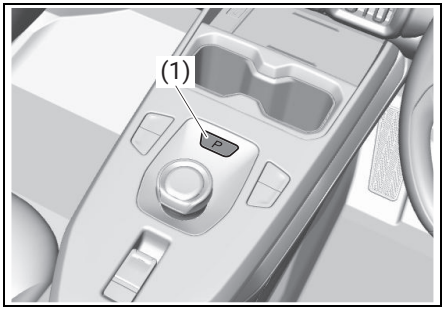
EV システムの始動のしかた

1) 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認します。
2) パーキングブレーキスイッチを引いて、電動パーキングブレーキ作動表示灯が点灯していることを確認します。



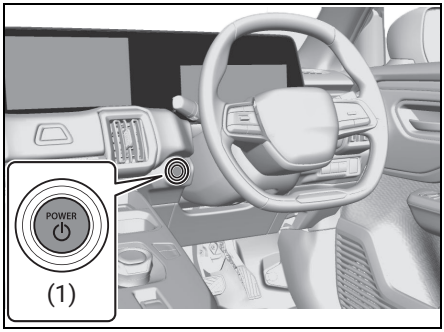
(1) パーキングブレーキスイッチ
(2) 電動パーキングブレーキ作動表示灯

3) EVシステムを始動しやすくするため、ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切ってください。
4) シフトポジションが“P”に入っていないときは、P ポジションスイッチを押します。
   - シフトポジションが “N” のときは EV システムは始動しません。



(1) P ポジションスイッチ

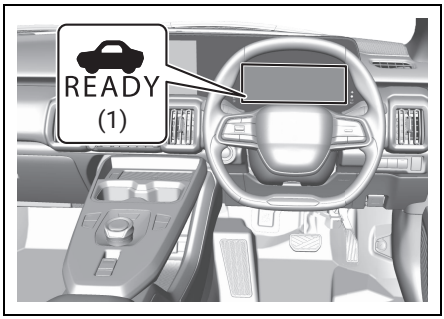
5) 右足でブレーキペダルをしっかり踏み続けます。
6) マルチインフォメーションディスプレイに“スタートスイッチを押してください”が表示されたらパワースイッチを押します。



(1) パワースイッチ

7) “READY” 表示灯が点灯することを確認してください。

- “READY” 表示灯が点灯するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。
- “READY” 表示灯が消灯しているときは走行できません。



(1) “READY” 表示灯

アドバイス

- EV システムを始動するために、パワースイッチを押し続ける必要はありません。
- “READY” 表示灯が点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。
- EV システムは、パワースイッチのどのモードからでも始動できます。
- 始動方法に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示される場合は、画面の指示に従ってください。
- 携帯リモコンの電池切れによりメカニカルキーでドアを解錠した場合、EV システムを始動するには携帯リモコンをパワースイッチに近づけてください。
- 外気温が低い場合は、EV システムの始動に時間がかかることがあります。
- EV システムを停止した直後に再始動しようとすると、始動できない場合があります。

パワースイッチを押しても EV システムが始動しないとき

システムに問題がある場合、パワースイッチを押してもEVシステムは自動的に始動しません。

次の手順でEVシステムを始動してください。

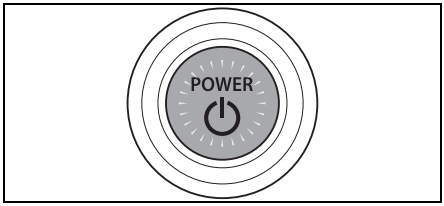
1)「EV システムの始動のしかた」の手順 1 ～ 5 を行ないます。 **(>>> P.248)**

2) パワースイッチを “ON” にします。
EV システムが始動するまでスイッチを押し続けます。
EV システムが始動したら、パワースイッチから指を離します。

パワースイッチ照明

パワースイッチの照明は、次の条件で点灯します。

- EV システムが停止しているとき、運転席ドアを開けると点灯します。運転席ドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- EV システムが停止しているとき、ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。
- “READY” 表示灯が点灯し、尾灯が点灯している間点灯します。



アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)

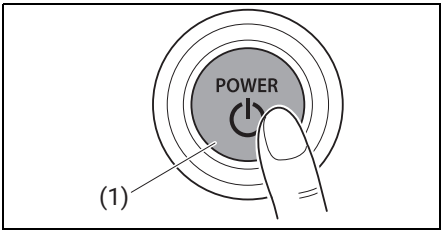
- ヘッドライトや車幅灯が消灯している
- 運転席ドアを開けたまま約 15 分が経過

電源モードの切替えのしかた

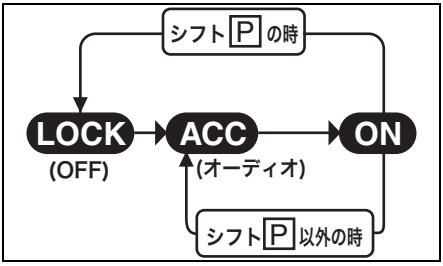
EVシステムを始動せずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてパワースイッチの電源モードを切替えます。

1)携帯リモコンを所持して運転席にすわります。

2)ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押します。



(1) パワースイッチ
押すごとに次のようにパワースイッチの電源モードが切り替わります。



アドバイス

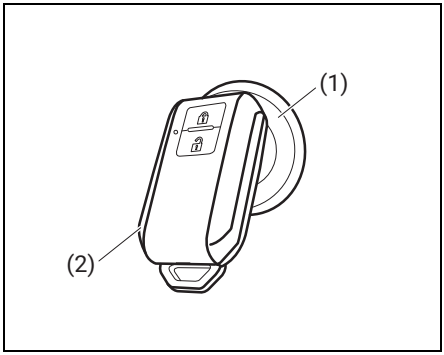
- シフトポジションが “P” 以外に入っていると、“LOCK（OFF）” には戻せません。
- パワースイッチの電源モードに応じて、マルチインフォメーションディスプレイに特定のメッセージが表示されます。
- パワースイッチが“ON”の位置で、シフトポジションが “P” 以外のとき、車両が停止している状態でパワースイッチを押すと、シフトポジションが自動的に “P” になります。

マスターウォーニングが点滅してEV システムが始動しないときは

携帯リモコンが検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでも切り替らないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切替えてください。

1)ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押します。

2)⚠（マスターウォーニング）が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコンの先端（ロックスイッチ側）をパワースイッチに約 2 秒間当てます。



(1) パワースイッチ
(2) 携帯リモコン

アドバイス

- 電源モードが切替わらないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因、またはキーレスプッシュスタートシステムの異常が考えられます。

スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

- ⚠（マスターウォーニング）の点滅中に、イモビライザー警告灯が約 5 秒間点灯します。このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、パワースイッチを “ON” にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

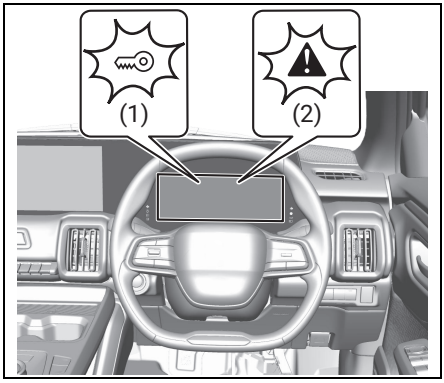
携帯リモコン車外持ち出し警告

EV システム始動中やパワースイッチを操作するときに携帯リモコンが検知されないと次のもので警告します。

- イモビライザー警告灯
- マスターウォーニング
- 室内／車外ブザー
- マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

- 警告の作動中は、EV システムの再始動ができません。また、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- イモビライザー警告灯およびマスターウォーニングの点滅は、通常、携帯リモコンが車内に戻ってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度パワースイッチを “LOCK（OFF）” に戻してから再操作してください。



(1) イモビライザー警告灯
(2) マスターワーニング

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

EV システムを止めるときは

⚠ 警告

緊急時以外は、走行中に EV システムを止めないでください。

- **次の機能が作動しません。**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **ESP®**
  - **スズキセーフティ サポート**

! 注記

走行中に EV システムを止めると、インバーターが損傷するおそれがあります。

緊急時以外は、走行中に EV システムを止めないでください。

車両の状態	EV システム停止方法
停車中	パワースイッチを押す
走行中 (緊急時)	パワースイッチを 3 連打以上、または 2 秒以上長押しする

停車中にEVシステムを停止できないときは、パワースイッチを 3 連打以上、または 2 秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

パワースイッチをもどすときは

1) Pポジションスイッチを押してシフトポジションを “P” にします。

2) パワースイッチを押して “LOCK（OFF）” にもどします。
安全のため、シフトポジションが “P” のときのみ、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にすることができます。

- 誤操作防止のため、次のようなときは、パワースイッチを “LOCK（OFF）” に戻せません。
  - シフトポジションが “P” 以外
- ダイヤルシフトの故障などで、パワースイッチを “LOCK（OFF）” に戻せないことがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
  - パーキングブレーキをかけて、車両が動かない状態になっていることを確認してください。
  - 盗難を防ぐため、メカニカルキーでドアを施錠してください。(リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません)
  - 鉛バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。(10 mm スパナなどの市販工具が必要です)

アドバイス

パワースイッチをもどすときに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

パワースイッチもどし忘れ警告ブザー

パワースイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- パワースイッチを “ON”(EVシステムは停止）または “ACC” にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが鳴ります。
  - パワースイッチが “ON”（EV システムは停止)でシフトポジションが “P” のとき、パワースイッチを 1 回押して “LOCK（OFF）” にもどすと、室内ブザーが止まります。
  - パワースイッチが “ACC” でシフトポジションが “P” のとき、パワースイッチを 2 回押して “LOCK（OFF）” にもどすと、室内ブザーが止まります。
- “LOCK（OFF）” にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

リヤシートリマインダー

後席への荷物の置き忘れなどをお知らせする機能です。

次の操作を行ってから、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にすると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示します。

- 後席ドアを開閉した後、約 10 分以内にパワースイッチを “ON” にする
- パワースイッチが “ON” のときに、後席ドアを開閉

メッセージはエンディングモードと一緒に表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された後、後席ドアを開閉せずにドアを施錠すると、ブザーと非常点滅表示灯にて再度お知らせします。（ブザー 6 回／非常点滅 3 回）

ダイヤルシフトの操作

⚠ 警告

ダイヤルシフトについて

- **ダイヤルシフトを取りはずしたり、スズキ純正品以外のダイヤルシフトを取り付けたりしないでください。また、ものをかけたりしないでください。ダイヤルシフトが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**
- **意図しないシフトポジションの切り替わりを防止するため、操作時以外はダイヤルシフトに触れないでください。**

P ポジションスイッチについて

- **車が動いているときは、P ポジションスイッチに触れないでください。停車の直前など、極端な低速走行をしているときに P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが “P” に切り替わることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**
- **意図しないシフトポジションの切り替わりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチに触れないでください。**

⚠ 注意

車から降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示が “P” であることと、電動パーキングブレーキ作動表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、車から降りてください。

! 注記

車が動いているとき、シフトポジションを “R” にすると、EV システムが故障する原因となります。

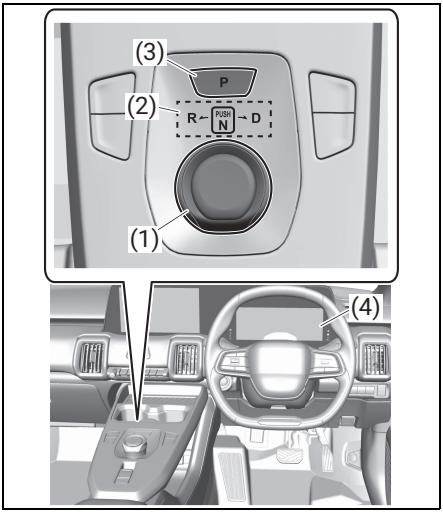
完全に停車させてから、シフトポジションを “R” にしてください。なお、トランスアクスル保護のため、前進車速が約 5 km/h 以上のときは、シフトポジションは切替わりません。

ダイヤルシフト各位置のはたらき

シフトポジション	目的および状態
“P”	駐車するときまたは EV システムを始動するとき
“R”	車を後退させるとき
“N”	動力が伝わらない状態
“D”	通常走行するとき

ダイヤルシフトの誤操作やシステムの状況等により、シフトポジションが切替わらない、またはダイヤルシフトの操作が無効にされたときには、シフトポジションが切り替わらない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

シフトポジションの表示と切替えかた



(1) ダイヤルシフト
(2) ダイヤルシフト表示
(3) P ポジションスイッチ
(4) メーター表示

ダイヤルシフト

ダイヤルシフトは、ゆっくり確実に操作してください。

“N” に切替えるときは、ダイヤルシフトを押したまま、しばらく保持します。

“R” または “D” に切替えるときは、ダイヤルシフトを押したまま、ダイヤルシフト表示の矢印に従って左または右に回してください。

ダイヤルシフトを操作したあとは、ダイヤルシフトから手を離してください。ダイヤルシフトが元の位置にもどります。

“P” から “N”・“D”・“R”、および “N”・“D”・“R” から “P” へ、または “D” から “R”、および “R” から “D” へ切替えるときは、ブレーキペダルを踏み、車両

が完全に停止している状態で行なってください。

シフトポジション表示

ダイヤルシフト表示

現在のシフトポジションが点灯します。ダイヤルシフトを操作したあとは、メーター内のシフトポジション表示を確認して、目的のシフトポジションに切替わっていることを確認してください。

メーター表示

現在のシフトポジションが表示されます。

P ポジションスイッチ

P ポジションに切替えるときは、車両を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけてから P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを “P” にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示が “P” であることを必ず確認してください。

アドバイス

パワースイッチの各モードにおけるシフトポジションの切替え

- パワースイッチが “LOCK（OFF）” またはACCのときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが “ON” で、“READY” 表示灯が消灯しているときは、シフトポジションはNにのみ切替え可能です。
- “READY” 表示灯点灯中は、シフトポジションを “P” から、“D”・“N”・“R” へ切替えることができます。

“P” から他のシフトポジションに切替える

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、操作します。
  ブレーキペダルを踏まずにダイヤルシフトを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切替えができません。
- ダイヤルシフトを操作したあとは、メーター内のシフトポジション表示を確認して、目的のシフトポジションに切替わっていることを確認してください。

シフトポジションを切替えられなかったとき

次の操作を行なうとブザーが鳴り、シフトポジションが切替えられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切替えてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、ダイヤルシフトを “P” から操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、ダイヤルシフトを “P” から操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極端な低速走行中にダイヤルシフトを “N” から操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極端な低速走行中にダイヤルシフトを “N” から操作したとき
- 走行中に、P ポジションスイッチを押したとき
  極端な低速走行時は、“P” に切りかわることがあります

シフトポジションが自動的に “N” に切替わったとき

次の操作を行なうとブザーが鳴り、シフトポジションが “N” に切替わったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- 車両が前進しているときに “R” へ切替えた
  低速走行時は “R” に切替わることがあります。
- 車両が後退しているときに “D” へ切替えた
  低速走行時は “D” に切替わることがあります。

走行中に “N” へ切替えるとき

一定以上の速度で走行中に “N” へ切替えるときは、ダイヤルシフトを “N” の位置で保持してください。

自動 P ポジション切替え機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが “P” に切替わります。

- パワースイッチが “ON”、かつシフトポジションが “P” 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき
  シフトポジションが “P” に切替わったあと、パワースイッチが “LOCK（OFF）” になります ※1
- シフトポジションが “P” 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
  - パワースイッチが “ON”
  - 運転席シートベルトを着用していない
  - ブレーキペダルを踏んでいない
  シフトポジションが “P” に切替わったあと、車両を発進させるときは、ダイヤルシフトを操作してください。
- 走行中に EV システムを緊急停止したあと、停車したとき
- シフトポジションが “P” 以外の状態で、鉛バッテリーの電圧が低下したとき

※1 停車直前など、極端な低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが “P” に切替わる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

シフトポジションが “P” から切替わらないときは

鉛バッテリーあがりの可能性があります。鉛バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、次の参照先を確認してください。**(>>> P.493)**

自動 P ポジション切替え機能を作動させずに、シフトポジションを “N” で保持したいときは

- 次の操作を行うと、シフトポジションが “P” に切替わるまでの間、自動 P ポジション切替え機能を作動させずに、シフトポジションを “N” に保持することができます。

1) EV システムが始動しているときにダイヤルシフトを操作し、シフトポジションを “N” に切替えます。
2) ダイヤルシフトを定位置にもどします。
3) ダイヤルシフトを“N”の位置に操作しブザーが鳴るまで保持します。
4) ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押します。

シフトポジションが “N” のまま EV システムが停止します。※1

ブザーが鳴り、メータ ― 内のマルチインフォメーションディスプレイに “ N ポジションを保持したい場合は電源をオフしてください ” が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを “N” 以外に切替えるには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを “P” に切替えてください。

- 必ずEVシステムが始動している状態で操作してください。
  EV システム停止状態では、シフトポジションを “N” に保持できない場合があります。
  ※1 この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが “P” に切替わったあと、パワースイッチが “LOCK（OFF）” になります。

ダイヤルシフトを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、シフトポジションを “R” に切替えたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに “R” から “N” に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからダイヤルシフトを操作してください。

⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままダイヤルシフトを操作すると、急発進して事故を起こすおそれがあります。

アクセルペダルを踏んだままダイヤルシフトを操作しないでください。

ダイヤルシフトの位置は目視で確認

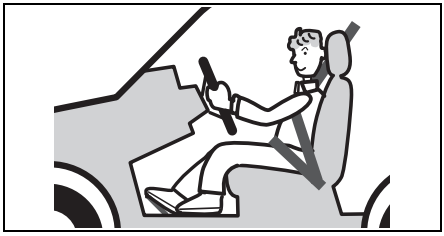
ダイヤルシフトの位置は、目視で確認してください。

- 始動時や降車時は “P” に入っていることを確認する
- 前進時は “D” に入っていることを確認する
- 後退時は “R” に入っていることを確認する

こんなことにも気をつけて

車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



⚠ 注意

ダイヤルシフトが前進位置（“D”）で惰性で後退したり、後退位置（“R”）で惰性で前進したりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因にもなります。

坂道などで、シフトポジションを前進の位置にしたまま惰性で後退したり、後退の位置にしたまま惰性で前進したりしないでください。

停車するとき

! 注記

車が少しでも動いているときにシフトポジションを “P” にすると、EV システムが故障する原因となります。車が少しでも動いているときは、シフトポジションを “P” にしないでください。

走行モード

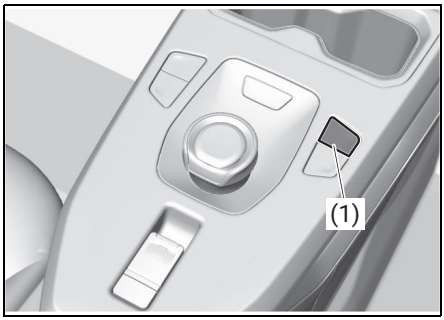
走行モードを切替えることで、環境に応じた運転が可能です。

ドライブモード

ドライブモードは、“DRIVE MODE”スイッチを押すと切替ります。

- 現在のドライブモードが、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

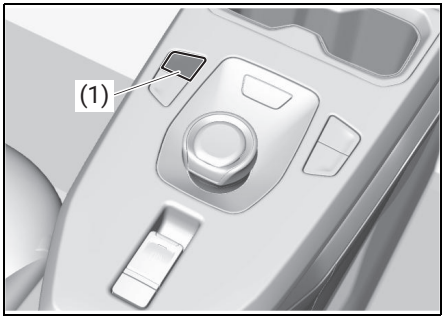
ドライブモード	特徴
“NORMAL”	通常使用するモード
“SPORT”	アクセルペダルの操作に素早く反応する駆動力を発生させ、機敏で力強い走行が可能になります。
“ECO”	アクセルペダルを踏んだ際に緩やかに加速。エアコンの消費電力を抑えることで、航続距離を伸ばすモード



(1) “DRIVE MODE” スイッチ

イージードライブペダル

アクセルペダルの操作のみで加速・減速コントロールを行ない、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。アクセルペダルを離したときの減速度が通常より強いため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくり緩めることで、なめらかに減速することができます。



(1) イージードライブペダルスイッチ

アドバイス

<u>イージードライブペダルが使用できないとき</u>

次のようなときは、システムが作動しません。

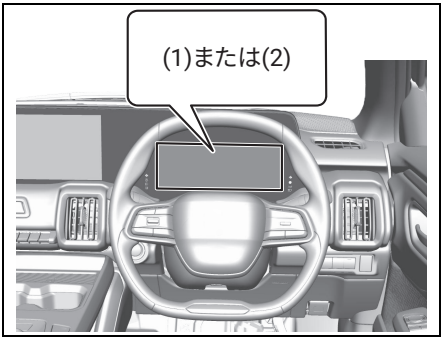
- ブレーキシステムまたは EV システムに不具合があるとき
- 回生ブレーキが制限されているとき
- 次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。
  - 駆動用バッテリーの充電量が高いとき
  - 駆動用バッテリーの温度が低いまたは非常に高いとき
  - 電動モーターまたはパワーコントロールユニットの温度が非常に高いとき
  - 回生ブレーキを長時間連続して使用しているとき

<u>回生ブレーキについて</u>

- アクセルペダルを離しても車両を停止させることはできません。停車時はブレーキペダルを踏んでください。
- 一度パワースイッチを “LOCK（OFF）” にしてから EV システムを

再始動すると、イージードライブペダルは OFF になります。

- 高速走行時には、回生ブレーキによる減速感が通常時よりも小さくなります。
- 最大減速度は、車速によって変わります。
- マルチインフォメーションディスプレイに次のいずれかのメッセージが表示されているときは、イージードライブペダルは使用できません。
  減速するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。



(1) “ 回生ブーストが使用できません 減速時はブレーキを踏んでください ”

(2) “ 回生ブーストが使用できません 取扱説明書を確認してください ”

制動灯の点灯

- 回生ブレーキ力が一定以上のとき、制動灯が点灯します。

設定の変更

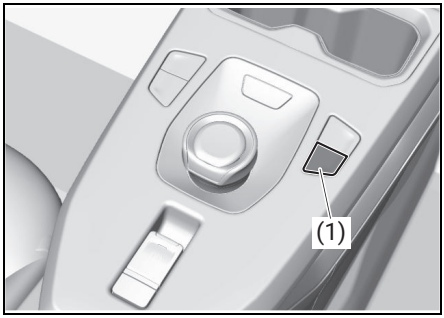
- センターディスプレイの設定で、イージードライブペダルの減速度を変更することができます。**(>>> P.503)**

トレイルモード（4WD 車）

“TRAIL” モードスイッチを押すことで、運転モードを変更することができます。

4WD モード	特徴
“AUTO”	路面の状況に応じて制御を最適化し、走行安定性と悪路走破性を両立するモードです
“TRAIL”	凸凹や段差のある悪路でも、ブレーキ LSD トラクションコントロール※1で悪路からスムーズに脱出できるモードです

※1 ブレーキ LSD トラクションコントロールとは、滑りやすい路面で駆動輪の片側が空転した場合、その空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、反対側の駆動輪の駆動力を確保しようとする補助機能です。



(1) “TRAIL” モードスイッチ

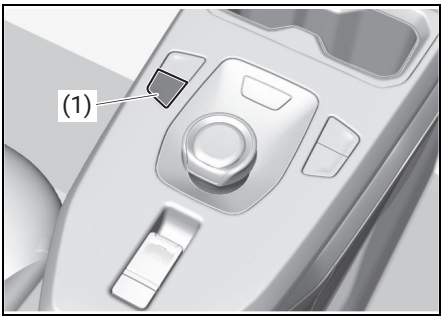
スノーモード（2WD 車）

スノーモードは、雪道などの滑りやすい路面でタイヤのスリップを抑えるモードです。

スノーモードは、“SNOW” モードスイッチを押すと、スノーモードに切替ります。

もう一度スイッチを押すと、スノーモードが解除されます。

- イージードライブペダルモードが ON のときは、スノーモードに切替えることができません。



(1) “SNOW” モードスイッチ

⚠ 警告

スノーモードが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

スノーモードを過信せず、常に安全運転を心がけてください。

アドバイス

- 雪道を走行するときは冬用タイヤを装着してください。
- スノーモードになっている状態でパワースイッチを “LOCK（OFF）” にする、またはイージードライブペダルモードをONにすると、スノーモードは解除されます。

ヒルディセントコントロール（4WD 車）

ヒルディセントコントロールは、回生ブレーキだけでは十分減速できないような急な坂道を下るときに、ESP ® の制御により一定の低車速を保ち、走行を補助するシステムです。

ヒルディセントコントロールは、雪道などの滑りやすい坂道において、ブレーキやアクセル操作に気をつかうことなく、ハンドル操作に集中することができます。

自動ブレーキが作動しているとき、ESP ® 作動表示灯が小刻みに点滅し、同時に制動灯も点灯します。

ヒルディセントコントロールが作動しているときにアクセルまたはブレーキペダルを踏むと、システムは一時的に解除されます。

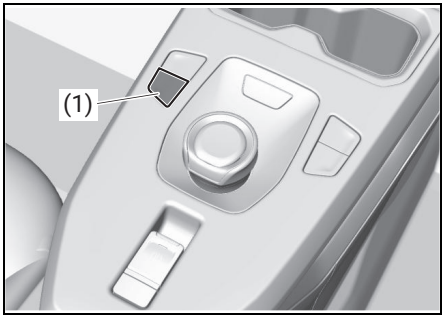
アクセルまたはブレーキペダルを離したとき、作動条件が満たされていれば

システムは再び作動します。ただし、車速が 25 km/h 以上になると、システムは自動的に解除されます。

ヒルディセントコントロールスイッチ

ヒルディセントコントロールを作動させるには、次の手順で行なってください。

1) “TRAIL” モードスイッチを押して、トレイルモードを作動させます。
2) ダイヤルシフトを操作して “D” または “R” に切替えます。
3) 車速が約 25 km/h 以下のときにヒルディセントコントロールスイッチを押します。メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が緑色に点灯し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になります。



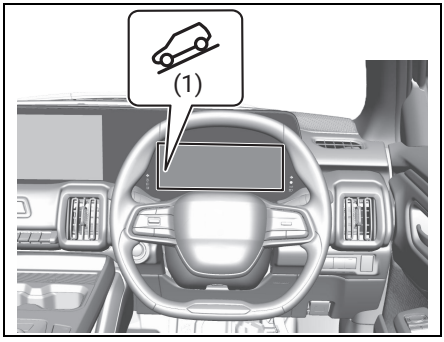
(1) ヒルディセントコントロールスイッチ

アドバイス

システムを解除するときは、もう一度ヒルディセントコントロールスイッチを押してください。

ヒルディセントコントロール表示灯

- システムが正常で、パワースイッチを“ON”にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- パワースイッチが“ON”のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると緑色に点灯します。白色で点灯した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。
- 次のような場合はシステムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
  - パワースイッチを“ON”にしても点灯しない
  - パワースイッチを“ON”にし、約2秒間たっても消灯しない



(1) ヒルディセントコントロール表示灯

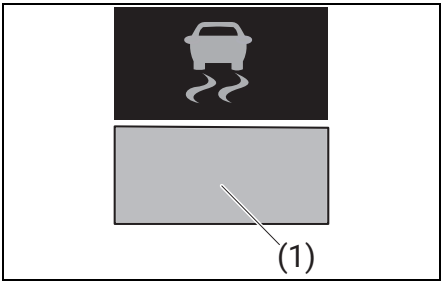
アドバイス

ヒルディセントコントロールスイッチを押したときに、ヒルディセントコントロール表示灯が白色で点灯した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。次の作動条件がみたされているか確認してください。

- シフトポジションが“D”または“R”
- 車速が25 km/h以下
- ブレーキ装置が過熱していない

ヒルディセントコントロール警告メッセージ

次の警告メッセージが表示されたときは、ヒルホールドコントロールまたはヒルディセントコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



(1) “ ヒルホールド機能停止中 ”

⚠ 警告

- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を下るときや、積載重量によっては、下り坂走行で一定の低車速を維持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  ヒルディセントコントロールを過信せず、必要に応じてブレーキペダルを踏み、安全運転を心がけてください。
- **シフトポジションが “N” でも、ヒルディセントコントロールが作動する場合がありますが、回生ブレーキが効きません。シフトポジションを “D” または “R” にしてください**

⚠ 注意

ヒルディセントコントロール作動中は、アクセルの操作量によってデュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）が作動しない場合があります。(>>> P.292)

アドバイス

- 警告メッセージが表示されているときは、システムを作動することができません。
- 次のような場合は、ヒルディセントコントロールまたは ESP® の異常が考えられます。スズキ販売店または スズキ代理店で点検を受けてください。
  - ヒルディセントコントロールスイッチを押しても点灯または点滅しない
  - ヒルディセントコントロールスイッチを押していないのに、走行中にヒルディセントコントロール表示灯が点灯し続ける

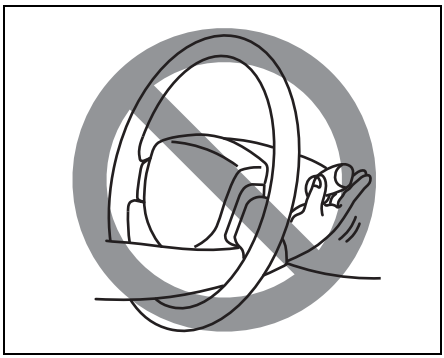
方向指示器レバー

パワースイッチが“ON”のときに使用できます。

⚠ 警告

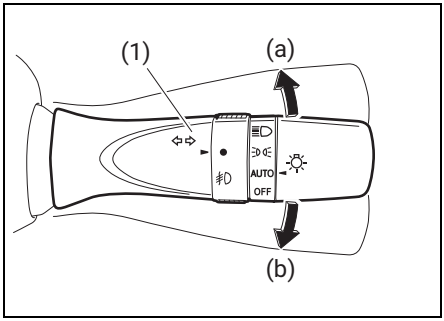
ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作すると、ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

スイッチなどを操作するときは、ハンドルの中に手を入れて操作しないでください。



右折・左折をするとき

- レバーを次のように動かしてください。
  - 左折時：レバーを押し上げます。
  - 右折時：レバーを押し下げます。
- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとに戻すと、レバーが自動的に戻り、方向指示器と表示灯が消灯します。



(1) 方向指示器レバー

(a) 左折

(b) 右折

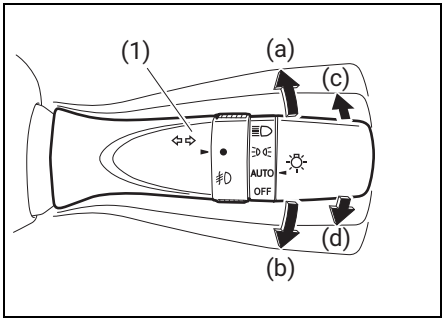
アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的に戻らないことがあります。レバーを手で戻してください。

車線変更をするとき

レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。



(1) 方向指示器レバー

(a) 左折

(b) 右折

(c) 左側へ車線変更

(d) 右側へ車線変更

電動パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、ダイヤルシフトの操作に応じてパーキングブレーキが自動でかかります。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

⚠ 警告

パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。また、お子さまが操作しないよう注意してください。

不意にブレーキが解除される、あるいは作動することで思わぬ事故につながるおそれがあります。

急坂路では

急坂路に駐車するときは注意してください。ブレーキが保持できず車両が動き出す場合があります。

すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠ 注意

鉛バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。

故障などでパーキングブレーキがかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

! 注記

駐車するとき

車から離れるときは、ダイヤルシフトを “P” にし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

操作のしかた

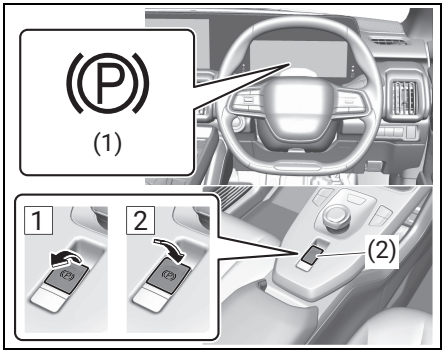
マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

1) パーキングブレーキスイッチを引き、パーキングブレーキをかけます。
   - 電動パーキングブレーキ作動表示灯が点灯します。緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、パーキングブレーキスイッチを引き続けてください。

2) パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除します。
   - ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

- 解除後、電動パーキングブレーキ作動表示灯が消灯します。
- 電動パーキングブレーキ作動表示灯が点滅した場合は、再度パーキングブレーキスイッチを操作してください。



(1) 電動パーキングブレーキ作動表示灯
(2) パーキングブレーキスイッチ

オートモードを ON にする

停車中にブレーキペダルを踏んで、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでパーキングブレーキスイッチを引き続けると、オートモードが ON になります。オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- ダイヤルシフトを“ P”以外から“ P”にすると、パーキングブレーキがかかり、電動パーキングブレーキ作動表示灯が点灯します。
  ダイヤルシフトは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキスイッチを押すと、パーキングブレーキが解除されます。
  - パーキングブレーキスイッチはブレーキペダルを踏みながら操作してください。

オートモードを OFF にする

停車中にブレーキペダルを踏んで、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでパーキングブレーキスイッチを押し続けると、オートモードが OFF になります。

アドバイス

パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが“ON”以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが“ON”以外では、オートモードは作動しません。
- パーキングブレーキが作動する（かける・解除する）とき、ブレーキペダルが動くことがありますが、パーキングブレーキの作動によるもので、異常ではありません。

パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- ダイヤルシフトが前進もしくは後退の位置にある
- ブレーキ警告灯やブレーキシステム警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

マルチインフォメーションディスプレイに“ パーキングブレーキが連続で操作されました お待ちください ”と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控え

てください。しばらくすると、もとの状態にもどります。

マルチインフォメーションディスプレイに “ パーキングブレーキ異常 点検を受けてください ” または “ パーキングブレーキを作動できません ” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。

ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動する（かける・解除する）とき、モーターの音（「ウィーン」という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電動パーキングブレーキ作動表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のように電動パーキングブレーキ作動表示灯が点灯します。
  ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
  ON 以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを “LOCK（OFF）” にしたとき、電動パーキングブレーキ作動表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーおよび音声案内が鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに “ パーキングブレーキ未解除 ” が表示されます。（車速が 3 km/h をこえたとき）

ブレーキシステム警告灯が点灯したときは

次の参照先を確認してください。 **(>>> P.168)**

冬季のパーキングブレーキの使用について

次の参照先を確認してください。 **(>>> P.379)**

ブレーキホールド

シフトポジションが “D” または “N” のとき、ブレーキホールドシステムを ON にして、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが “D” のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

⚠ 警告

急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムでブレーキが保持できず車両が動き出す場合があります。

すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保

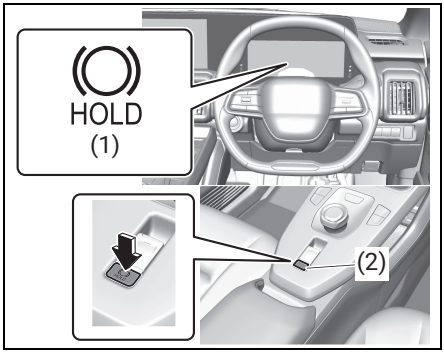
持中にパワースイッチを “LOCK（OFF）” にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。

駐車時に パワー スイッチ “LOCK（OFF）” にするときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを “P” にして、パーキングブレーキをかけてください。

システムを作動させるには

ブレーキホールドスイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にすると、ブレーキホールド作動表示灯が白色に点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯が緑色に点灯します。

ブレーキホールドスイッチを押していないときは、ブレーキホールド作動表示灯は消灯します。



(1) ブレーキホールド作動表示灯
(2) ブレーキホールドスイッチ

アドバイス

<u>システムの作動条件</u>

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“ パーキングブレーキ異常 点検を受けてください ” や “ ブレーキホールド異常 点検を受けてください ” が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールド作動表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

<u>ブレーキ保持について</u>

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

<u>ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき</u>

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でダイヤルシフトを前進もしくは後退の位置にしてアクセルペダルを踏む

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあと電動パーキングブレーキ作動表示灯が消灯したことを確認してください。

スズキ販売店またはスズキ代理店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールド作動表示灯が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイに“ ブレーキホールド異常 点検を受けてください ”と表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

ブレーキホールドの作動について

ブレーキ保持中にブレーキペダルを踏むと重く感じることがありますが、異常ではありません。

警告メッセージ・警告ブザーについて

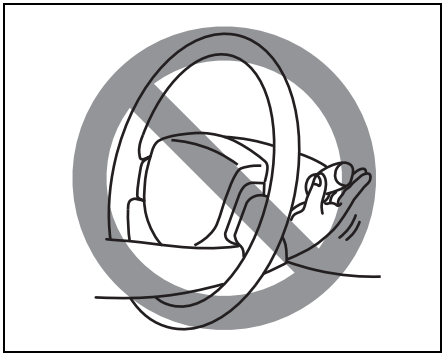
操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。メータ ― 内のマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

ライトスイッチ

⚠ 警告

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作すると、ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

スイッチなどを操作するときは、ハンドルの中に手を入れて操作しないでください。



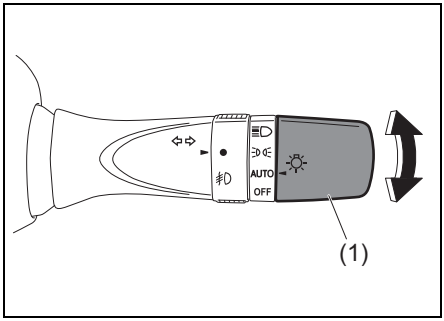
ライトスイッチの使いかた

! 注記

- **EV　システム停止中に長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。**
  EV システム停止中は、ライトを長時間点灯させないでください。
- **“AUTO” 位置のままパワースイッチを “ON” にしていると、EV システムが始動していなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯するため、そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。**

ライトの点灯・消灯

ヘッドライトなどを自動で点灯・消灯できます。自動で点灯または消灯しているとき手動で消灯または点灯できます。



(1) ライトスイッチ

アドバイス

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。

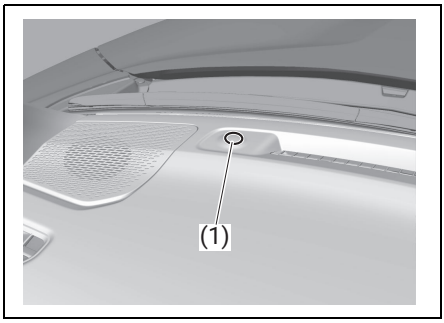
ライトスイッチの位置

位置	説明
	ライトスイッチのツマミをにするとヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。 • パワースイッチが “ON” から “ACC” または “LOCK（OFF）” にしても点灯したままです。 • パワースイッチが “ACC” または “LOCK（OFF）” でも点灯します。
	ライトスイッチのツマミをにすると車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。 • パワースイッチが “ON” で、車外がヘッドライトなどを自動で点灯する明るさのとき、シフトポジションが “P” 以外にあると、ヘッドライトも自動的に点灯します。 • パワースイッチを “ON” から “ACC” または “LOCK（OFF）” にしても点灯を継続します。 • パワースイッチが “ACC” または “LOCK（OFF）” でも点灯します。
“AUTO”	オートライトシステムにより車外の明るさに応じて自動的に点灯・消灯します。 • ライトスイッチのツマミが “AUTO” の位置でパワースイッチが “ON” のときに機能します。 • ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が同時に点灯・消灯します。 • 薄暗くなったときやトンネルなど急に暗くなったときに自動で点灯します。 • 自動で点灯しているとき • パワースイッチを “ACC” または “LOCK（OFF）” にすると消灯します。
“OFF”	ライトスイッチのツマミを “OFF” までまわすと点灯・消灯を切り替えることができます。 • パワースイッチを “ACC” または “LOCK（OFF）” にすると消灯します。 • パワースイッチが “ON” で車外がヘッドライトなどを自動で点灯する明るさの場合 • シフトポジションが “P” 以外では消灯できません。 • 消灯後、シフトポジションを “P” 以外にすると、ライトが再び点灯します。 • 消灯後、シフトポジションが “P” のまま、ライトスイッチのツマミを再度 OFF までまわすと消灯させた全てのライトが再び点灯します。

アドバイス

- フロントガラスのオートライトセンサー部分が泥や氷などで覆われていると、車外が明るくてもヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯することがあります。

- オートライトセンサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。



(1) オートライトセンサー

ライト自動消灯システム

鉛バッテリあがりを防ぐため、次の場合点灯しているライトは自動で消灯します。

- パワースイッチを “ACC” または “LOCK（OFF）” にしたときに、ヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるまたは約 10 分経過すると、ライトは自動で消灯します。
- パワースイッチが “ACC” または “LOCK（OFF）” のときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯を点灯した場合、約 10 分経過すると、ライトは自動で消灯します。

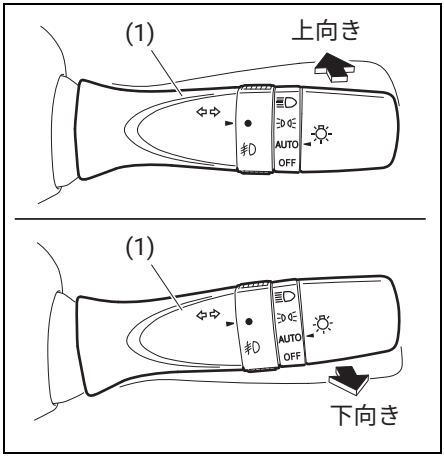
自動で消灯したあと再びライトを点灯させる場合は、ライトスイッチのツマミを “AUTO” の位置にしてから、の位置にする、またはと を切替えてください。

ライト自動消灯システムは、パワースイッチを “ON” にすると停止し、自動または手動で点灯・消灯します。

ライトの上向き、下向きの切替え

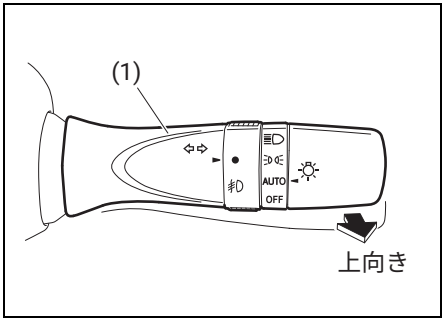
ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切替えると、遠くまで照らすことができます。

- 上向き（ハイビーム）は、EV システムが “ON” のときのみ点灯することができます。
- ライトが下向きで点灯しているときに、ライトコントロールレバーを車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。



(1) ライトコントロールレバー

- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。 **(>>> P.175)**



(1) ライトコントロールレバー

アドバイス

- 対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。
- アダプティブハイビームシステムによりヘッドライトの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を自動的に切替えることができます。**(>>> P.303)**

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にしたあとに、ヘッドライトや車幅灯を点灯させた場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが連続して鳴ります。

ヘッドライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

アドバイス

室内ブザーが鳴っているときは、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

DRL（デイタイムランニングランプ）システム

DRL は次の条件をすべてみたすと点灯します。DRL が点灯すると、尾灯も同時に点灯します。

- EV システムが始動中（“READY” 表示灯が点灯）
- ヘッドライトが消灯
- フロントフォグランプが消灯

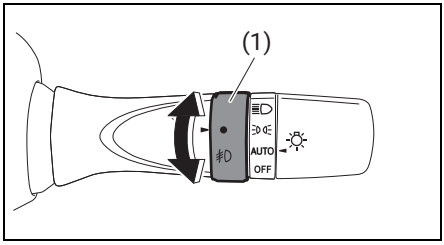
アドバイス

- DRL は車幅灯に比べて明るく点灯しますが、故障ではありません。
- 方向指示器を使用すると、点滅している側の DRL は消灯します。

フォグランプスイッチ

雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- フロントフォグランプはヘッドライトや車幅灯が点灯しているときに使用できます。フォグランプスイッチを 位置に まわすとフロントフォグランプが点灯し、メーター内のフロントフォグランプ点灯表示灯が点灯します。もとの位置にもどすと消灯します。**(>>> P.175)**



(1) フォグランプスイッチ

! 注記

鉛バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

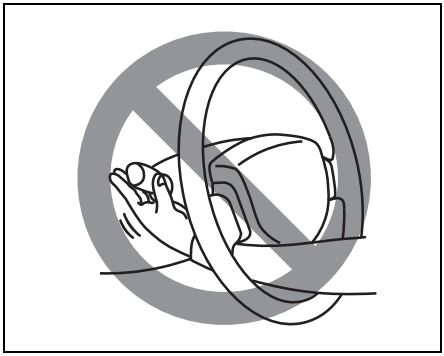
ワイパー／ウォッシャー（フロント）

パワースイッチが“ON”のときに使用できます。

⚠ 警告

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作すると、ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

スイッチなどを操作するときは、ハンドルの中に手を入れて操作しないでください。



⚠ 注意

寒冷時は、ウインドーに吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。

! 注記

- **空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
  ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。

- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときにワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
  ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。
- **ウォッシャー液が十分に出ないときにウォッシャーを使用すると、ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**
  ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。

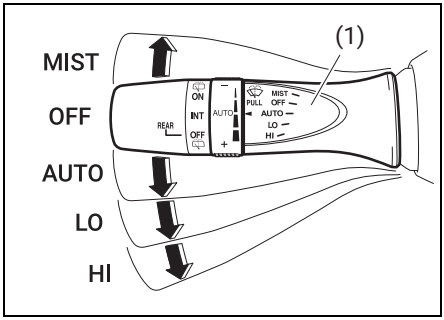
ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが一時的に停止します。次の手順で対処してください。

1) 安全な場所に停車し、パワースイッチを “ACC” または “LOCK（OFF）” にします。
2) ワイパースイッチを OFF にします。
3) ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
4) しばらくしてワイパーモーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。
   - しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

フロントワイパースイッチ

レバーを上下に操作すると、フロントワイパーが次表のように作動します。



(1) レバー

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO	自動作動
LO	低速作動
HI	高速作動

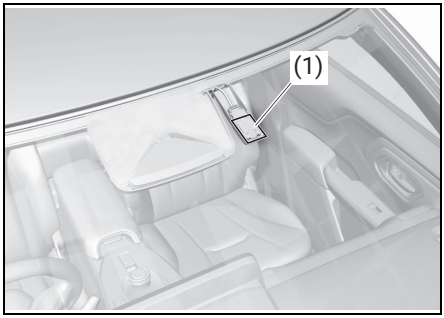
アドバイス

レバーを “OFF” から “AUTO” に操作したときは、ワイパーが 1 回作動したあと、自動作動になります。

オートワイパーシステム

ワイパースイッチを “AUTO” 位置にしていると、次の状況に応じてワイパーが自動で作動します。

- フロントガラスの上部にあるレインライトセンサーが感知した雨の程度（雪やそのほかの液体、ほこりなどを含む）
- 車速



(1) レインライトセンサー

⚠ 注意

- **ワイパースイッチが“AUTO”位置でパワースイッチを“ON”にしているときは、次のことをお守りください。守らないと、不意にワイパーが作動することがあり、けがのおそれがあります。また、ワイパーが故障する原因となります。**
  - **フロントガラスのセンサー部に触れたり、布などでふいたりしない**
  - **フロントガラスやセンサーに衝撃をあたえない**
- **自動洗車機を使うときや、フロントガラスのお手入れをするときは、ワイパースイッチを“OFF”にしてください。**

! 注記

次のような状況では、レインライトセンサーが雨や雪を正確に感知できず、正常に作動しない場合があります。

- **フロントガラスのセンサー部に、雨や雪が当たらないとき、もしくは当たっても感知しにくい種類の雪のとき**
- **センサー部に、泥や氷などの異物が付着しているとき**
- **ワイパーを作動させる前からフロントガラスに雨滴が付着しているとき**
- **センサーの温度が炎天下で 80 ℃以上のとき、または寒冷時で－ 10 ℃以下のとき**
- **フロントガラスに撥水加工をしているとき（雨滴が流れやすいため雨量が多いと判断し、作動回数が多くなる場合があります）**
- **フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼って、センサーを覆っているとき**
- **ワイパーブレードのゴム部が傷ついているとき**

オートワイパーの作動の目安

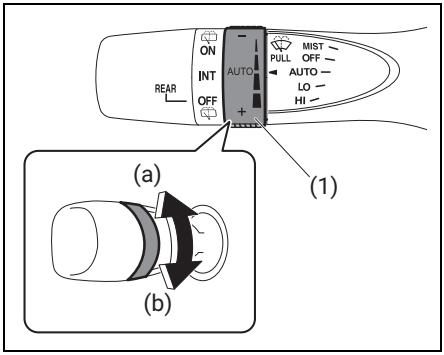
雨の程度	作動状態
なし	停止
小雨	間欠作動
普通の雨	低速作動
大雨	高速作動

次のような場合は故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください

- 雨の程度が変化しても、オートワイパーの作動が変化しないとき
- 雨や雪が降っていても、オートワイパーが作動しないとき

レインライトセンサーの感度調整

リングをまわします



(1) リング

(a) ＋側

(b) －側

リング位置	感度
(a) ＋側	敏感（雨に反応しやすい）
(b) －側	鈍感（雨に反応しにくい）

オートワイパーシステムの設定切替え

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、AUTO 位置での作動を次のように変更できます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

セミオートモード

間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。（停止しません）

間欠ワイパーモード

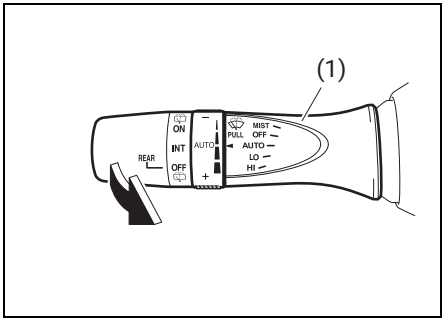
間欠作動だけします。作動間隔は、リングで調節できます。

フルオートモード（工場出荷時）

停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

フロントウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



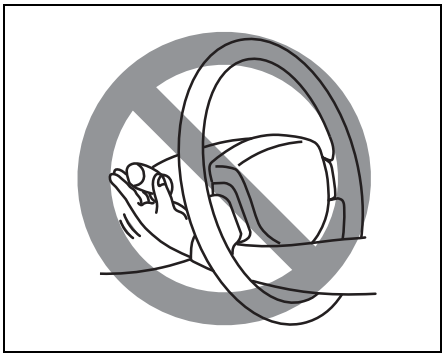
(1) レバー

ワイパー／ウォッシャー（リヤ）

パワースイッチが“ON”のときに使用できます。

⚠ 警告

思わぬ事故につながるおそれがあるため、ハンドルに手を通してスイッチの操作はしないでください。



⚠ 注意

寒冷時は、ウインドーに吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。

! 注記

- **空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
  ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときにワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
  ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。
- **ウォッシャー液が十分に出ないときにウォッシャーを使用すると、ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**
  ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。

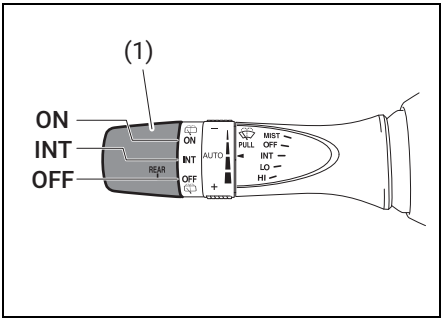
ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが一時的に停止します。次の手順で対処してください。

1) 安全な場所に停車し、パワースイッチを“ACC”または“LOCK（OFF）”にします。
2) ワイパースイッチをOFFにします。
3) ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
4) しばらくしてワイパーモーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。
   - しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

リヤワイパースイッチ

ツマミをまわすと、リヤワイパーが次表のように作動します。

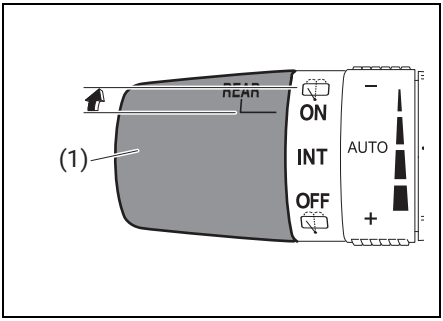


(1) ツマミ

ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止

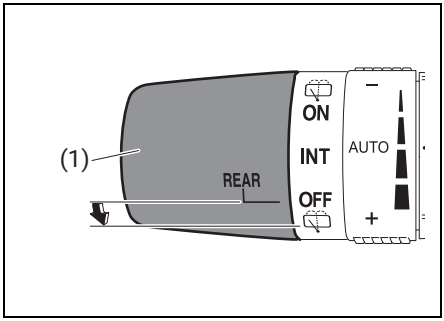
リヤウォッシャースイッチ

- 図の↑方向にツマミをまわし、“ON” の上にある(ウォッシャー) にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。ツマミから手を離すと ON に戻ります。



(1) ツマミ

- 図の↓ 方向にツマミをまわし、“OFF” の下にある(ウォッシャー) にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。
  ツマミから手を離すと “OFF” に戻ります。



(1) ツマミ

リヤワイパー（リバース連動）

フロントワイパーが作動しているときに、ダイヤルシフトを “R” に入れると、リヤワイパーが自動で作動します。

連続作動モード	シフトポジションが “R” にある間、ワイパーが作動します
単一作動モード	シフトポジションが “R” になると、一度だけワイパーが作動します
OFF	ワイパーは作動しません。

アドバイス

センターディスプレイの設定で、R (リバース) ポジション連動ワイパーの設定を変更することができます。**(>>> P.503)**

スズキ セーフティサポート

スズキ セーフティ サポートは、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠ 警告

スズキ セーフティ サポートについて

スズキ セーフティ サポートは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

安全にお使いいただくために

- **システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**
- **お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります**
- **走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。**
- **外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。**

システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。

- **過積載やパンクで車両が傾いているとき**
- **けん引するとき**
- **トラック／船舶／列車などに積載するとき**
- **車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき**
- **点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき**
- **オフロード走行やスポーツ走行をするとき**
- **洗車機を使用するとき**
- **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**
- **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
- **応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき**
- **タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき**
- **メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき**
- **事故や故障などにより走行不安定なとき**

アドバイス

システムによる前方車両や障害物、区画線、道路標識の検知は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御、警報の対象となるまでには数秒間かかります。

運転支援装置

スズキ セーフティ サポートの各機能

- デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II） **(>>> P.292)**
- 誤発進抑制機能 **(>>> P.299)**
- 発進お知らせ機能 **(>>> P.302)**
- アダプティブハイビームシステム **(>>> P.303)**
- 車線逸脱抑制機能 **(>>> P.307)**
- 車線維持支援 **(>>> P.312)**
- 標識認識機能 **(>>> P.326)**
- 二次衝突軽減ブレーキ **(>>> P.317)**
- アダプティブクルーズコントロール **(>>> P.317)**
- ブラインドスポットモニター **(>>> P.329)**
- リヤクロストラフィックアラート **(>>> P.334)**
- パーキングセンサ **(>>> P.336)**
- 低速時ブレーキサポート (前進・後退) **(>>> P.341)**
- 後方誤発進抑制機能 **(>>> P.346)**
- 全方位モニター **(>>> P.349)**
- ドライバーモニタリングシステム（DMS） **(>>> P.365)**

次の項目もあわせてお読みください。

- けん引してもらうときは **(>>> P.470)** **(>>> P.471)**
- 前方カメラ（DSBS II）／前方レーダー（DSBS II）／超音波センサー **(>>> P.281)**
- デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）の設定を変更する **(>>> P.298)**
- 車線逸脱抑制の設定を変更する **(>>> P.309)**
- 車線維持支援の ON/OFF を変更する **(>>> P.314)**

⚠ 警告

正確なタイヤ回転速度が検出できない場合

タイヤの空気圧が指定空気圧になっていない等、正確なタイヤ回転速度が検出できないと、下記機能が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

タイヤの空気圧を指定空気圧に調整できない等、正確なタイヤ回転速度が検出できないときは、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）をOFFにしてください。(>>> P.240)

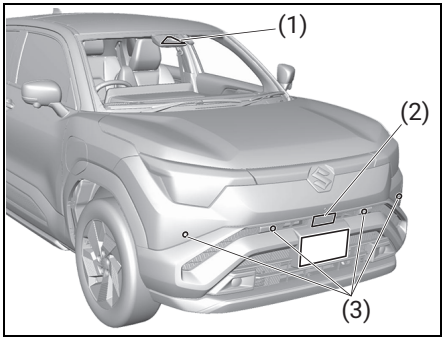
- **デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）**
- **誤発進抑制機能**
- **車線逸脱抑制機能**
  - **車線逸脱警報**
  - **車線逸脱抑制**
  - **ふらつき警報**
- **車線維持支援**
- **アダプティブクルーズコントロール**
- **低速時ブレーキサポート(前進・後退)**
- **後方誤発進抑制機能**

前方カメラ（DSBS Ⅱ）／前方レーダー（DSBS Ⅱ）／レーダーセンサー／超音波センサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

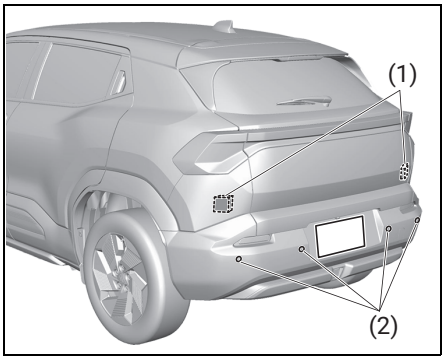
周囲の状況を検出するセンサー

フロント



(1) 前方カメラ（DSBS Ⅱ）
(2) 前方レーダー（DSBS Ⅱ）
(3) 超音波センサー

リヤ



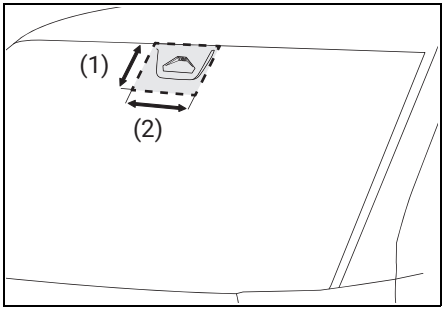
(1) レーダーセンサー
(2) 超音波センサー

⚠ 警告

前方カメラ（DSBS Ⅱ）の故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、前方カメラ（DSBS Ⅱ）が正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **前方カメラ（DSBS Ⅱ）の視界を遮ったりする可能性のあるものを置かないでください**
- **フロントガラスは常にきれいにしておく**
  - **フロントガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。**
  - **フロントガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ（DSBS Ⅱ）前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。**
  - **フロントガラス内側の前方カメラ（DSBS Ⅱ）取り付け部が汚れた場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください**
- **フロントガラスの前方カメラ（DSBS Ⅱ）前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない**



(1) 約 15 cm
(2) 約 25 cm

- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）前部のフロントガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントワイパー本体やブレードを交換するときは、指定のものを使用する（詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください）
- フロントガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントガラスの交換後は、前方カメラ（DSBS Ⅱ）の再調整が必要です。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）に液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）のレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  レンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）の取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）を分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ（DSBS Ⅱ）周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラ（DSBS Ⅱ）の視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラ（DSBS Ⅱ）の視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

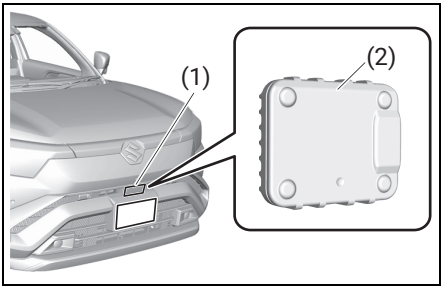
フロントガラスの前方カメラ（DSBS Ⅱ）取り付け部について

フロントガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ（DSBS Ⅱ）周辺のフロントガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ（DSBS Ⅱ）周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

前方レーダー（DSBS Ⅱ）の故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、前方レーダー（DSBS Ⅱ）が正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 前方レーダー（DSBS Ⅱ）とレーダー専用カバーは常にきれいにしておく
  前方レーダー（DSBS Ⅱ）前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪・ビニール袋（透明、半透明、有色、金属コーティング品）などが付着した場合は、取り除いてください。
  お手入れをする際は、前方レーダー（DSBS Ⅱ）やレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



(1) レーダー専用カバー
(2) 前方レーダー（DSBS II）

- 前方レーダー（DSBS II）やレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。
- 前方レーダー（DSBS II）周辺への衝撃を避ける
  前方レーダー（DSBS II）／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- 前方レーダー（DSBS II）を分解しない
- 前方レーダー（DSBS II）やレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、前方レーダー（DSBS II）の再調整が必要です。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  - 前方レーダー（DSBS II）を交換したとき
  - フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

超音波センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと超音波センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

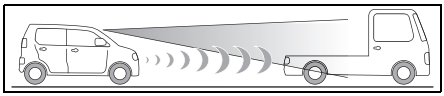
- 超音波センサーの表面は常にきれいにしておく
- 超音波センサー表面に汚れ／水滴／雪／ビニール袋などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、超音波センサーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- 超音波センサー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。前方の超音波センサーには純正フィルムが貼り付けています。剥がしたり、貼り直したりしないでください。
- 超音波センサー周辺への衝撃を避ける
  超音波センサー／フロントグリル／フロントバンパー／リヤバンパーに衝撃を受けた際は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- 超音波センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしない
- 超音波センサーを分解しない
- 超音波センサーや超音波センサー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない
- 高圧洗浄機を使うときは、超音波センサーに直接ノズルを向けないでください。
- スチームを使用した洗浄機を使うときは、超音波センサーにスチームを近づけすぎないようにする。
- 次のようなときは、超音波センサーの取り付け角度測定／初期化が必要です。詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  - 超音波センサーを脱着や交換したとき

- **フロントバンパー／フロントグリル／リヤバンパーを交換したとき**

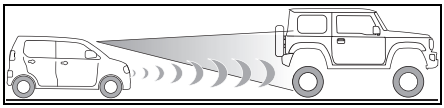
アドバイス

前方カメラ（DSBS Ⅱ）および前方レーダー（DSBS Ⅱ）が正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）および前方レーダー（DSBS Ⅱ）が極端に低温または高温になっているとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 霧／雪／砂嵐／激しい雨などの悪天候のとき
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラ（DSBS Ⅱ）に入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
  - トンネル
  - トラス橋
  - 砂利道
  - 轍のある雪道
  - 壁
  - 大型トラック
  - マンホール
  - ガードレール
  - 鉄板
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれている場合
- 対象車両に雪や泥などが大量に付着している場合
- 次のような道路を走行しているとき
  - 急なカーブや曲がりくねった道
  - 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
  - 左右に傾きのある道

- 路面に深いわだちがある道
- 整備されていない荒れた道
- 起伏や段差が多い道路

- ハンドル操作が不安定な場合
- 車線内での自車の位置が一定でない場合
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき

車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき

システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムの異常検出時
- ESP® 等の安全システムが作動時
- ESP® 等の安全システムが OFF の時

ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

超音波センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

- 超音波センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき
- 超音波センサーの一部が凍結したとき
- 炎天下や寒冷時
- 周辺の気温が急激に変化したとき
- 凹凸路・坂道・砂利道・草むら走行時
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 洗車場、自動車整備場、工事現場などの超音波が発生 する環境が周囲にあるとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき

- 超音波センサーに障害物が近づきすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者
- 人、スポンジ状のもの、雪壁などの音波を吸収しやすいもの
- 歩行者、自転車、動物などの動いているもの
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角ではないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、超音波センサーの方向がずれたとき
- 超音波センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア、除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 狭い道路を走行するとき
- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路で超音波センサーに水がかぶったとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱　(H形鋼など）の付近を走行するとき

サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

前方カメラ（DSBS Ⅱ）／前方レーダー（DSBS Ⅱ）／超音波センサーの一時停止・故障

次の表のようになったとき、システムが一時停止または故障しています。システムの故障・不調の原因によっては、点灯パターンが異なる場合があります。

前方カメラ（DSBS Ⅱ）／前方レーダー（DSBS Ⅱ）

	前方カメラ（DSBS Ⅱ）／前方レーダー（DSBS Ⅱ）	
	システム一時停止	故障
デュアルセンサーブレーキサポートⅡ（DSBS Ⅱ）OFF 表示灯		
車線逸脱抑制作動表示灯		
車線維持支援表示灯		
アダプティブクルーズコントロール警告灯		
アダプティブハイビームシステム警告灯	 （黄色）	 （黄色）
標識認識 OFF 表示灯		
マスターウォーニング		
デュアルセンサーブレーキサポートⅡ（DSBS Ⅱ）システム一時停止中表示	“DSBS Ⅱシステム一時停止中”	―
デュアルセンサーブレーキサポートⅡ（DSBS Ⅱ）システム要点検表示	―	“DSBS Ⅱシステム異常点検を受けてください”

以下のような場合にも表示することがあります。

- 街灯のない暗い道路を走行しているとき
- 勾配の変化がきつい坂を走行しているとき
- ガレージの中で停車しようとしているとき
- 単色の壁に前向きにゆっくり接近しているとき
- シャッターや横縞の壁に前向きにゆっくり接近しているとき

超音波センサー機能

	超音波センサー	
	システム一時停止	故障
デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）OFF表示灯	OFF	OFF
パーキングセンサー作動表示灯	P	P
マスターウォーニング	消灯	
ソナーシステム一時機能 停止表示	“ソナーシステム一時機能停止中”	非表示
ソナーシステム要点検表示	非表示	“ソナーシステム要点検”
パーキングセンサー掃除表示	 “パーキングセンサー一時停止中センサー部を掃除してください”	非表示
パーキングセンサーシステム要点検表示	非表示	 “パーキングセンサー異常 取扱説明書を確認してください”

アドバイス

- DSBS IIシステム一時停止または故障のときは次の機能が停止します。
  - デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）
  - 誤発進抑制機能
  - 車線逸脱抑制機能
  - 車線維持支援
  - 発進お知らせ機能
  - アダプティブハイビームシステム
  - アダプティブクルーズコントロール
  - 標識認識機能
- 超音波センサーシステム一時停止または故障のときは下記の機能が停止します。
  - 低速時ブレーキサポート (前進・後退)
  - 後方誤発進抑制機能

- パーキングセンサー

超音波センサーの一時停止

次のようなとき超音波センサーが一時停止します。

状況が改善されれば、センサーの一時停止は解除されます。

- 超音波センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき
- 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になったとき

超音波センサーの故障

故障したときは、パワースイッチを“LOCK（OFF）”にするまでシステムが停止します。

安全な場所に停車して、パワースイッチを“LOCK（OFF）”にし、EV システムを止めてください。再度、EV システムを始動したとき、パーキングセンサー作動表示灯が消灯していることを確認します。

- EV システムを再始動しても表示灯が点灯している場合、超音波センサーの故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

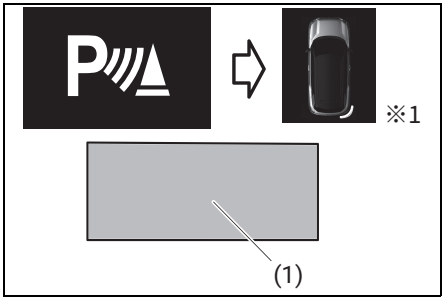
アドバイス

パーキングセンサー作動表示灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

超音波センサーが異物を検知したとき

超音波センサーが泥、雪、氷などのセンサーに付着した異物を検知すると以下の表のようにマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。付着した異物を取り除けば正常に復帰します。異物を検知している間は超音波センサーは一時停止しています。

異物が付着していないのに表示される場合は、センサーの異常の可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



(1)“パーキングセンサー一時停止中 センサー部を掃除してください”

※1 異物を検知しているセンサー側が表示されます

システム一時停止

次のようなときスズキ セーフティ サポートのシステムが一時停止します。

状況が改善されれば、システムの一時停止は解除されます。

表示される内容	原因	対処方法
“DSBS II システム一時停止中 ”	次の状態のため、システムの機能が一時停止しています。 • スズキ セーフティ サポートに関連するシステムが一時停止した • 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になった	原因が解消するまで、周囲に十分注意して走行してください。 表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
“前方カメラ一時停止中（温度範囲外）”	システム本体が低温または高温になったことで、システムの機能が一時停止しています。	• 原因が解消するまで、周囲に十分注意して走行してください。 • 表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。 • 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げてください。 • 極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を上げてください。
“前方カメラ一時停止中（視界不良）”	前方カメラの視界不良により、システムの機能が一時停止しています。以下の原因が考えられます。 • 大雨、吹雪、霧などの悪天候 • 前方カメラの前部のフロントガラスに汚れ、付着物がある • 前方カメラの前部のフロントガラスにくもりが発生している	次の対処法に従ってください。 ワイパーを使用してもシステムの一時停止が解除されない場合は、天候の回復を待つ。 • ワイパー機能を使って、フロントガラスの汚れや付着物を取り除く。**(>>> P.273)** • エアコン機能を使って、フロントガラスの曇りを取り除く **(>>> P.391)** • ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

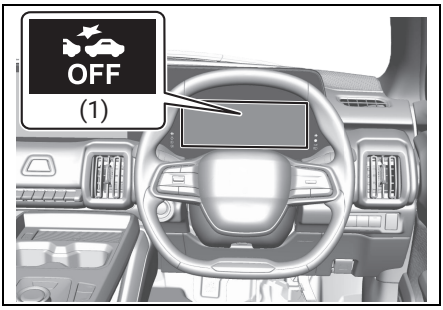
表示される内容	原因	対処方法
“前方レーダー一時停止中（汚れ）”	前方レーダーの不良により、システムの機能が一時停止しています。以下の原因が考えられます。 • 前方レーダー（DSBS Ⅱ）周辺の汚れ、油膜、雨滴などが付着している	やわらかい布などで前方レーダー周辺の汚れ、油膜、雨滴などをふき取ってください。
“前方レーダー一時停止中（温度範囲外）”	前方レーダーが低温または高温になったことで、システムの機能が一時停止しています。	原因が解消するまで、周囲に十分注意して走行してください。 • 表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
“前方レーダー一時停止中（向き調整中）”	前方レーダーの角度不良により、システムの機能が一時停止しています。	• 表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。 • 前方レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。
“ソナーシステム一時機能停止中”	次の状態のため、システムの機能が一時停止しています。 • 低速時ブレーキサポート（前進・後退）、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能に関連するシステムが一時停止した • 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になった	原因が解消するまで、周囲に十分注意して走行してください。表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
 “パーキングセンサーを掃除してください”	次の状態のため、システムの機能が一時停止しています。 • パーキングセンサーに関連するシステムが一時停止した • 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になった • 超音波センサーに泥、雪、氷などが付着した	柔らかい布などで超音波センサーの泥、雪、氷などをふき取ってください。 原因が解消するまで、周囲に十分注意して走行してください。表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）

進路上の作動対象をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報により運転者に回避操作をうながします。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）のON/OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。**(>>> P.503)**

- システムを停止（OFF）すると、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）OFF表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



(1) デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）OFF表示灯

- EVシステムを停止するたびに、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）の停止は解除されます。

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

- **安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。デュアルセンサーブレーキサポートIIを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**
- **デュアルセンサーブレーキサポートIIは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。(>>> P.279)**

デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）をOFFにするとき

次のときは、システムをOFFにしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。

- **過積載やパンクで車両が傾いているとき**
- **けん引するとき**
- **トラック／船舶／列車などに積載するとき**
- **車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき**
- **点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき**
- **オフロード走行やスポーツ走行をするとき**
- **洗車機を使用するとき**
- **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**

- **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
- **応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき**
- **タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき**
- **メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき**
- **事故や故障などにより走行不安定なとき**

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、作動対象が異なります)

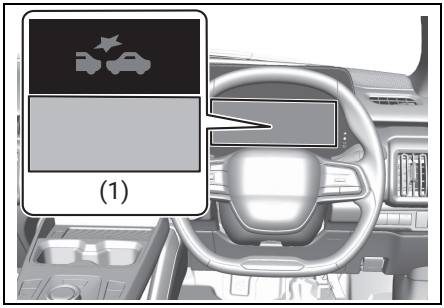
- 車両
- 自転車 ※1
- 歩行者
- 自動二輪車 ※1

※1 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

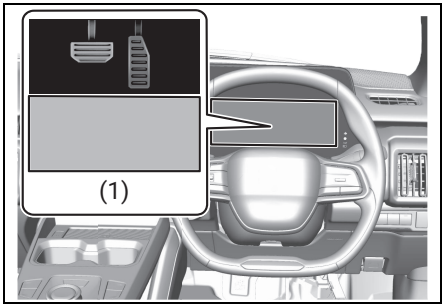
前方衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したと き、ブザー音が断続的に鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコ ンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。



(1) “ デュアルセンサーブレーキサポート ”

アクセルが強く踏み込まれているとシステム が判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレ イに表示されます。



(1) “ アクセルが踏まれています ”

前方衝突被害軽減ブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

衝突被害軽減ブレーキ

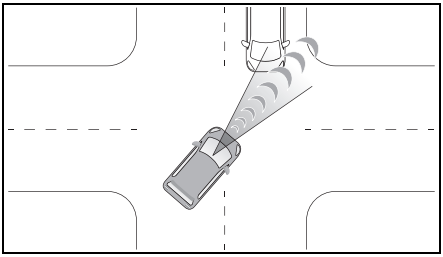
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

交差点衝突回避支援（右左折）

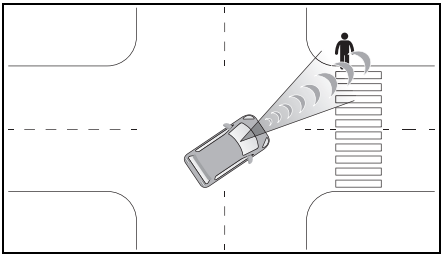
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、前方衝突警報および衝突被害軽減ブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



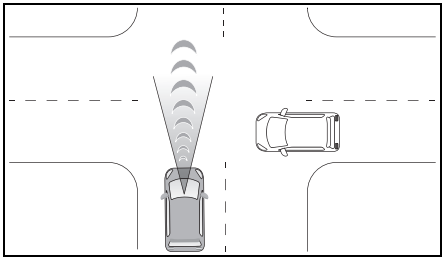
- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者や、自転車を検出したとき



交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、前方衝突警報および衝突被害軽減ブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



⚠ 警告

衝突被害軽減ブレーキについて

- **衝突被害軽減ブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。**
- **衝突被害軽減ブレーキの作動により車両が停止したときは、停止状態を維持するためなど必要に応じて、運転者自らブレーキをかけてください。**
- **衝突被害軽減ブレーキ作動後のブレーキ 保持は、次のような状況では作動しません。状況に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。**
  - **アクセルが踏まれている（システムが発進の意図があると判断してブレーキ保持を解除します）**
  - **交差点衝突回避支援機能で停止している（交差点衝突回避支援機能では停止後のブレーキ保持は行わないため）**
  - **急な坂道で停止している（システムがブレーキ保持を維持できないと判断した場合）**
- **衝突被害軽減ブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者が アクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、衝突被害軽減ブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。**
- **ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが**

判断し、衝突被害軽減ブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

アドバイス

デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）各機能の作動条件

デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）がONで、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- シフトポジションが“R”のとき
- ESP® OFF表示灯が点灯しているとき（前方衝突警報機能は作動します）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

- 前方衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180 km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

- 前方衝突被害軽減ブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約30～180 km/h	約10～180 km/h
自転車	約30～80 km/h	約30～80 km/h
歩行者	約30～80 km/h	約30～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約30～180 km/h	約10～80 km/h

- 衝突被害軽減ブレーキ

作動対象	自車速度	• 相対速度
先行車両、静止車両	約5～180 km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h

- 衝突被害軽減ブレーキ作動中に次の操作をすると、衝突被害軽減ブレーキの作動が解除される場合があります。
  - アクセルペダルを強く踏み込む
  - ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

- 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115km/h
自転車	約 5 ～ 30 km/h	－	約 5 ～ 40 km/h
歩行者	約 5 ～ 30 km/h	－	約 5 ～ 50 km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115km/h

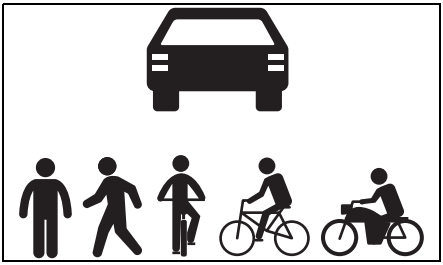
- 交差点衝突回避支援 (出合頭車両)

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両（側面）	約 5 ～ 60 km/h	• 自車速度以下 • 約 40 km/h 以下	約 5 ～ 60 km/h

アドバイス

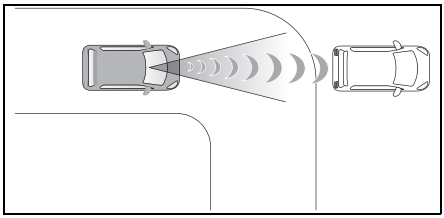
作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。図は作動対象として検出する対象のイメージです。

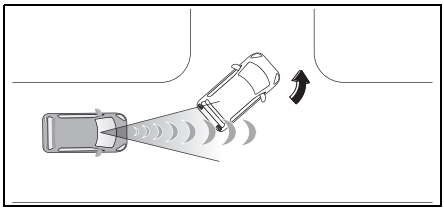


衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

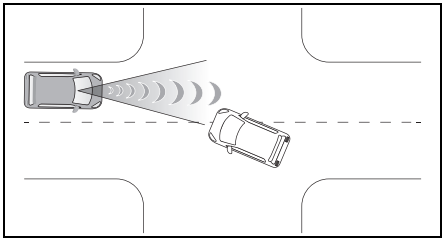
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
  - 作動対象などのすぐそばを通過するとき
  - 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
  - 作動対象などに急接近したとき
  - 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近づいたとき
  - カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



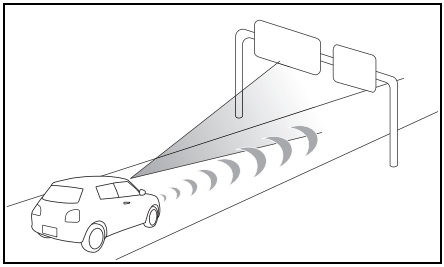
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



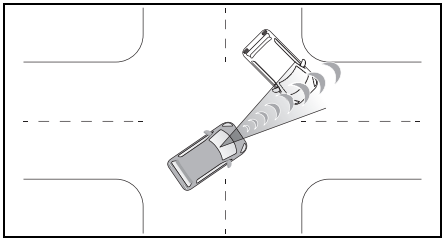
- 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



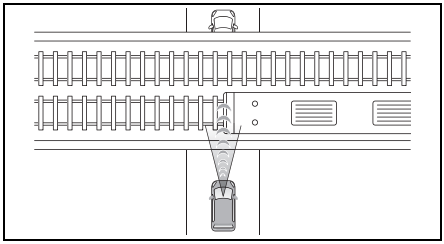
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- 右左折中に、対向車 / 対向二輪車 / 横断歩行者 / 横断自転車が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車 / 対向二輪車 / 横断歩行者 / 横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車 / 対向二輪車 / 横断歩行者 / 横断自転車が自車進路に入る手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



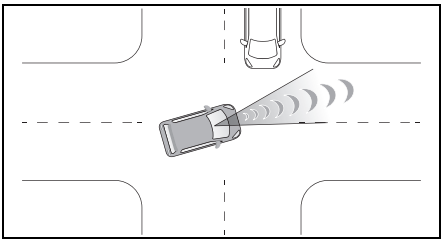
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- 道路上方 / 下方を移動する物があるとき



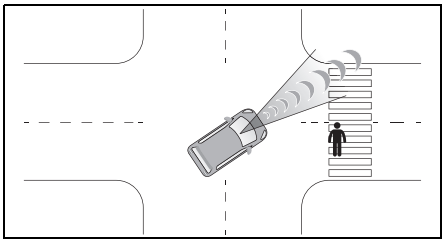
<u>システムが正常に作動しないおそれがあるとき</u>

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
  - 自車や作動対象がふらついているとき
  - 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
  - 作動対象に急接近したとき
  - 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
  - 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
  - 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
  - 作動対象が複数重なっているとき
  - 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
  - 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
  - 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
  - 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

- 斜めを向いている前方車両に近づいたとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- 交差点で出会い頭に大型トラック / けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）の設定を変更する

- デュアルセンサーブレーキサポート II の設定は、センターディスプレイの“設定”から切りかえることができます。※1 **(>>> P.503)**
- アダプティブクルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が [早い] のタイミングで作動します。(※1)

※1 切りかえることのできる項目は車の仕様によって異なります。

誤発進抑制機能

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したときや、停車または低速走行時に、車体端から前方約 3 m 以内に壁などの障害物を検知しアクセルペダルが強く踏み込まれた場合に、EV システムの出力を抑制することで加速を抑制します。抑制されていた EV システムの出力は、機能が解除されると徐々に戻ります。

作動時には、ブザー音が断続的に鳴り、次の方法で運転者にお知らせします。

- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示 **(>>> P.182)**

必要に応じて、デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）を ON/OFF することで、誤発進抑制機能の機能を ON/OFF することができます。**(>>> P.503)**

⚠ 警告

誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突時の被害を軽減することを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。

- **お客様自身で誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などを上がっている場合に機能が作動すると、自重により坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、誤発進抑制機能が作動しない、または作動が解除される場合があります。**

誤発進抑制機能の作動条件

誤発進抑制機能が ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

- 前方カメラ（DSBS II）・前方レーダー（DSBS II）による作動速度、作動解除は次のとおりです。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h
自転車	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h
歩行者	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h

- 超音波センサーによる作動速度、作動解除は次のとおりです。

自車速	約 0 ～ 10 km/h 以下

機能の作動中に次の動作をすると、作動が解除されます。

- アクセルペダルを離す
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する (前方カメラ（DSBS II）・前方レーダー（DSBS II）)

前方カメラ（DSBS Ⅱ）・前方レーダー（DSBS Ⅱ）、または超音波センサーのどちらかが機能を一時停止、もしくは故障した場合には、正常なセンサーの作動条件で誤発進抑制機能が作動します。

アドバイス

こんな場合は作動しません

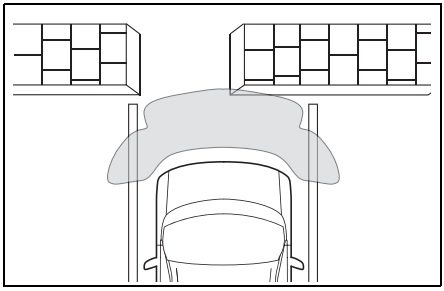
次のようなとき、誤発進抑制機能は作動しません。

- EV システム停止中のとき
- パワースイッチを “ON” にした直後の数秒間
- ダイヤルシフトの位置が以下のとき
  - 前方カメラ（DSBS Ⅱ）・前方レーダー（DSBS Ⅱ）：ダイヤルシフトの位置が “R” のとき
  - 超音波センサー：ダイヤルシフトの位置が “P”、“R”、“N” のとき
- デュアルセンサーブレーキサポートⅡ（DSBS Ⅱ）を停止させているとき
- 方向指示器が作動しているとき
- 非常点滅表示灯が作動しているとき (超音波センサー)
- 急な坂道のとき
- 障害物を検知できないとき
- 異常検出時には、前方カメラ（DSBS Ⅱ）・前方レーダー（DSBS Ⅱ）、または超音波センサーのどちらか、もしくは両方が作動しません

こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

- 前方カメラおよび前方レーダー、または超音波センサーが正常に作動しないとき **(>>> P.281)**
- ハンドル操作をしているとき
- 標識などの背が高く上部が張り出している障害物
- 縁石などの背が低い障害物
- 地面が傾斜している場所を走行中のとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 壁などの障害物の一部しか前方カメラおよび前方レーダー、または超音波センサーの検知範囲内に入っていないとき

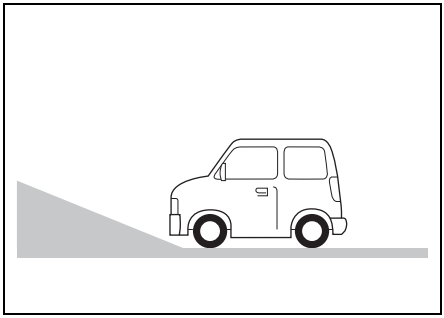


こんな場合にも作動することがあります

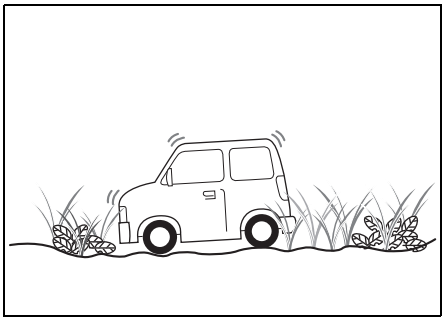
次のようなとき、前方カメラおよび前方レーダー、または超音波センサーが衝突

の可能性のある障害物と判断して誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



- 進行方向に駐車場のバーや遮断機、看板などがあるとき
- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき



- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両前方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両前方が著しく傾いているとき
- 前方カメラおよび前方レーダー、または超音波センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 車両前方に障害物がある状態で、起伏や段差などを乗り越えるとき
- 路面に段差、縁石、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき

踏切内などで作動した場合は

誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- いったんアクセルペダルを離し、再度アクセルペダルを踏み込む

⚠ 警告

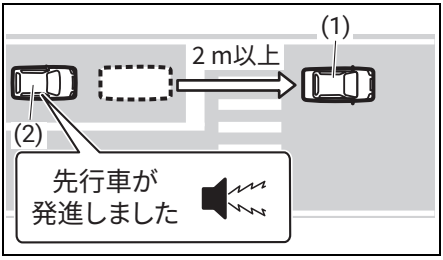
遮断機が下がる直前に無理に踏切内に侵入しないでください。踏切内で誤発進抑制機能や後方誤発進抑制機能、デュアルセンサーブレーキサポートII、低速時ブレーキサポート（前進・後退）が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。(>>> P.341)

発進お知らせ機能

発進お知らせ機能は、先行車の発進または信号が青にかわった後、自車が停止し続けた場合、室内ブザー音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進お知らせ機能

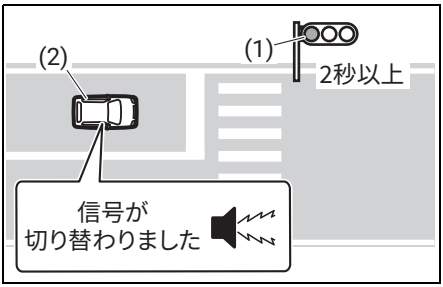
先行車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。



(1) 先行車
(2) 自車

信号切替りお知らせ機能

信号機の前で停車中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。



(1) 青信号
(2) 自車

アドバイス

作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します

- ダイヤルシフトが “P”、“R” 以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはダイヤルシフトが “N” で停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- アダプティブクルーズコントロールが作動していて、停車制御中のとき

発進お知らせ機能が作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラ（DSBS Ⅱ）と前方レーダー（DSBS Ⅱ）が対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- 複数の異なる信号機を認識した場合
- 先行車の付近に歩行者がいるとき
- その他の状況 **(>>> P.281)**
  - 前方カメラ（DSBS Ⅱ）および前方レーダー（DSBS Ⅱ）が正しく作動しないおそれがあるとき
  - システムの一部もしくは全てが作動しないと

先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき
- その他の状況 **(>>> P.281)**
  - 前方カメラ（DSBS Ⅱ）および前方レーダー（DSBS Ⅱ）が正しく作動しないおそれがあるとき
  - システムの一部もしくは全てが作動しないと

信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や、看板などの信号機ではないものを信号機と認識した場合
- 歩行者用 / 自転車用の信号機の形状が自動車用の信号機と似ている場合
- その他の状況 **(>>> P.281)**
  - 前方カメラ（DSBS Ⅱ）および前方レーダー（DSBS Ⅱ）が正しく作動しないおそれがあるとき

発進お知らせ機能の設定を変更する

発進お知らせ機能の設定は、センターディスプレイの “ 設定 ” から切りかえることができます。 **(>>> P.503)**

アダプティブハイビームシステム

アダプティブハイビームシステムは、フロントガラス上部に設置された前方カメラ（DSBS Ⅱ）により前方車両のライトや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドライトの配光を制御します。

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

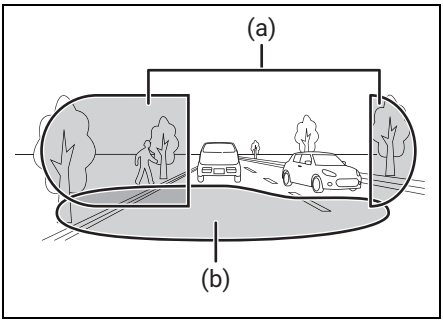
アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

次のような状況では、システムを OFF にしてください。システムが正常に作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **過積載やパンクで車両が傾いているとき**
- **けん引するとき**
- **車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき**
- **点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき**
- **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**
- **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
- **事故や故障などにより走行不安定なとき**

システムの制御

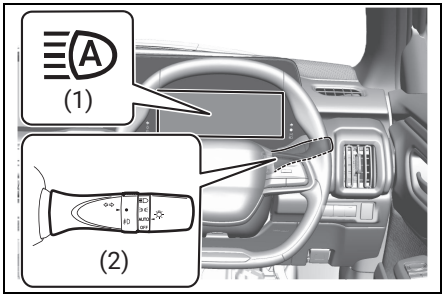
- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



(a) ハイビームで照らす範囲
(b) ロービームで照らす範囲

アダプティブハイビームシステムを使うには

- EV システムが “ON” のときにライトスイッチのツマミを “AUTO” の位置に回し、ヘッドライトが点灯した状態でレバーをヘッドライト下向きの位置（中間位置：手前に引いて自動で戻った位置）のときに、アダプティブハイビームシステムが作動して、メーター内のアダプティブハイビームシステム作動表示灯（緑色）が点灯します。**(>>> P.269)**



(1) アダプティブハイビームシステム作動表示灯（緑色）
(2) ヘッドライト下向きの位置（中間位置）

- レバーを手前に引いて離す、またはライトスイッチおよびレバーを上記の位置以外にすると、システムが OFF になり、メーター内のアダプティブハイビームシステム作動表示灯（緑色）が消灯します。

アドバイス

<u>システムの作動条件</u>

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
  - 車速が約 15km/h 以上
  - 車両前方が暗い
  - 前方にランプを点灯した車両がいない
  - 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
  - 車速が約 15km/h 以上
  - 車両前方が暗い
  - 前方にランプを点灯した車両がいる
  - 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

- 車速が約 10km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両の台数が多い
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

前方カメラ（DSBS Ⅱ）の検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
  - 車両が割り込んできたとき
  - 他車が前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
  - 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
  - 前方車両が遠方を走行しているとき
  - 前方車両が無灯火のとき
  - 前方車両のランプ類の照度が低いとき
  - 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
  - センサーが正しく作動しないおそれがあるとき **(>>> P.281)**
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度や遮光ハイビームへの切りかえタイミングが変化する場合があります。
  - 前方車両のランプの明るさ
  - 前方車両の動きや向き
  - 前方車両との車間距離
  - 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 前方車両が二輪車のとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
  - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
  - 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
  - ハイビームとロービームを頻繁に切りかえているとき
  - ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
  - システムを OFF にする必要があるとき **(>>> P.279)**
  - センサーが正しく作動しないおそれがあるとき **(>>> P.281)**

システムが一時的に作動しないおそれのある状況

- 車両をけん引したり、積載車で輸送などした後、アダプティブハイビームシステムが一時的に作動しないことがあります。アダプティブハイビームシステムに違和感を感じた場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

カスタマイズ機能

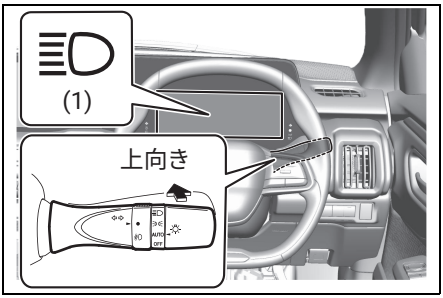
アダプティブハイビームシステムの設定は、センターディスプレイの “ 設定

” から切りかえることができます。**(>>> P.503)**

手動制御に切替えるには

ハイビームへの切替え

レバーをヘッドライト上向きの位置にします。メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

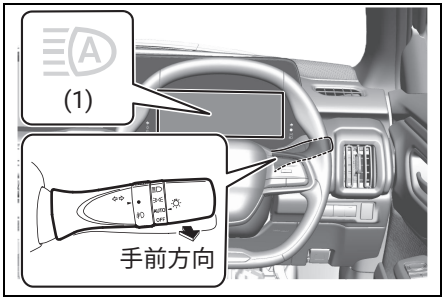


(1) ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯（緑色）

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

ロービームへの切替え

レバーを手前に引いて離す、またはライトスイッチのツマミを “AUTO” の位置以外に操作するとアダプティブハイビームシステムが OFF になり、メーター内のアダプティブハイビームアシスト作動表示灯（緑色）が消灯します。



(1) 消灯

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを手前に引いて離す、またはライトスイッチのツマミを “AUTO” の位置に回します。

車線逸脱抑制機能

基本機能

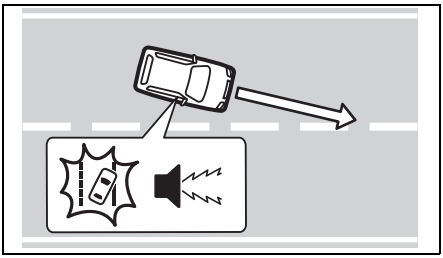
車線または走路 ※1 からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路 ※1 からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路 ※1 を前方カメラ（DSBS Ⅱ）や前方レーダー（DSBS Ⅱ）で認識します。

※1 アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

車線逸脱警報

車両が車線または走路 ※1 から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

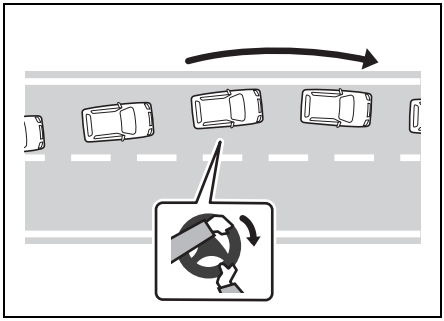


道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路 ※1 内の中央付近にもどってください。

※1 アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

車線逸脱抑制

車両が車線または走路 ※1 から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

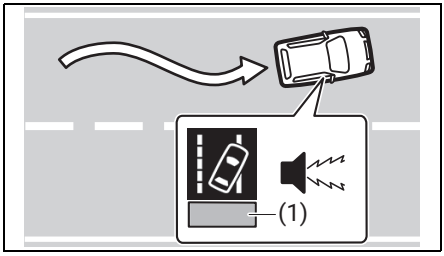


ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりし たときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

※1 アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

ふらつき警報

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。



(1) “ ふらつき注意 ”

⚠ 警告

<u>車線逸脱抑制機能をお使いになる前に</u>

- **車線逸脱抑制機能を過信しないでください。**
  車線逸脱抑制機能は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハン

ドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

- **適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**

アドバイス

各機能の作動条件

- 車線逸脱警報／抑制
  次の条件をすべて満たしたときに作動します。
  - 車速が約 50km/h 以上のとき車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
  - 対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低速支援を作動にした時)
  - システムが車線または走路 ※1 を認識しているとき（車線または走路 ※1 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
  - 線の幅が約 3m 以上のとき
  - 方向指示レバーを操作していないとき
  - 急カーブを走行していないとき
  - 一定以上の加減速がないとき
  - 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

  ※1 アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体
- ふらつき警報
  次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - 車速が約 50km/h 以上のとき
  - 車線の幅が約 3m 以上のとき

機能の一時解除

作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

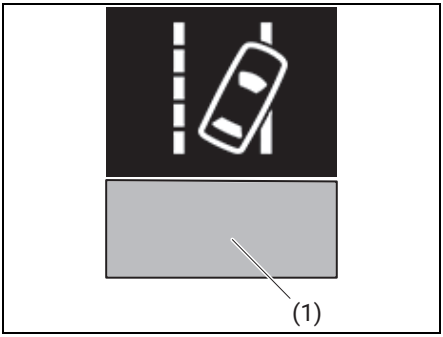
車線逸脱警報／抑制の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路※1がはっきり見えない場合､または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

  ※1 アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



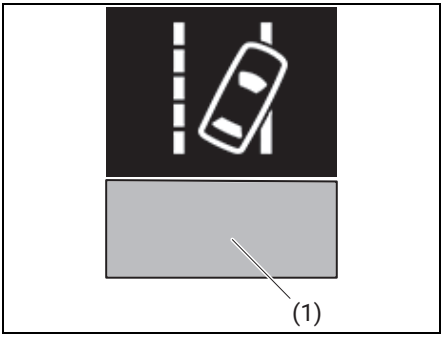
(1) “ ハンドルを正しく
操作してください
車線逸脱を繰り返しています ”

- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

  ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

ふらつき警報について

車両がふらついて走行しているとき、ディスプレイの表示と警報ブザーで休憩をうながします。



(1) “ ふらつき注意 ”

車両の状態や路面状況によってはふらつき警報が行われない場合があります。

車線逸脱抑制機能の設定を変更する

車線逸脱抑制機能の設定は、センターディスプレイの “ 設定 ” から切りかえることができます。**(>>> P.503)**

⚠ 警告

車線逸脱抑制機能を使用してはいけない状況

次のような状況では、システムを OFF にしてください。システムが正常に作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **過積載やパンクで車両が傾いているとき**
- **けん引するとき**
- **車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき**
- **点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき**
- **オフロード走行やスポーツ走行をするとき**
- **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**
- **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
- **応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき**
- **タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき**
- **メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき**

- **事故や故障などにより走行不安定なとき**

機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- **アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき**
- **横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき**
- **車線を検知できないおそれがあるとき (>>> P.281)**
- **超音波センサーが正しく作動しないおそれがあるとき (>>> P.281)**
- **システムの一部もしくは全てが作動しないとき (>>> P.281)**

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

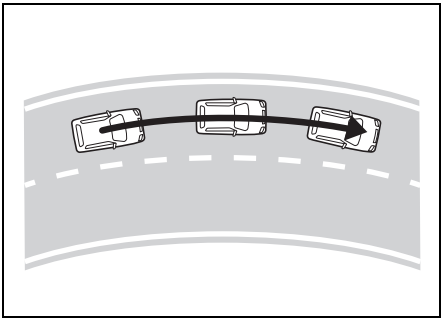
警告灯／表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ		状態
	車線表示	自動操舵作動灯	
 黄色（点灯）	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 白色（中抜き）	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色（点滅）	 黄色（点滅）	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報が作動中

警告灯／表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ		状態
	車線表示	自動操舵作動灯	
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色（点滅）	 黄色（点滅）	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報／抑制機能が作動中
 黄色（点灯）	消灯	消灯	システムが一時停止または異常を検知している

車線維持支援

基本機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、アダプティブクルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラ（DSBS Ⅱ）や前方レーダー（DSBS Ⅱ）で認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。



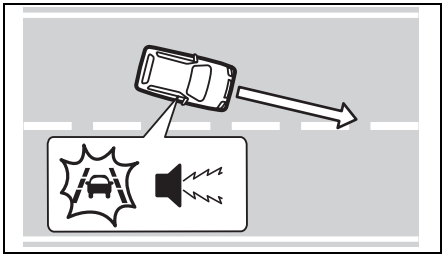
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

アダプティブクルーズコントロールが作動していないとき、車線維持支援は作動しません。 **(>>> P.317)**

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、ディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときは車線維持支援 ON/OFF スイッチを使用してシステムを ON にしてください。

- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。



ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。

⚠ 警告

車線維持支援をお使いになる前に

- **車線維持支援を過信しないでください。車線維持支援は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。**
- **適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**
- **車線維持支援を使用しないときは、車線維持支援 ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。**

アドバイス

機能の作動条件

- 次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - システムが車線を認識しているとき、または先行車 / 周辺車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
  - アダプティブクルーズコントロールが作動しているとき
  - 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

車線維持支援中の車線逸脱警報について

- 車線逸脱警報の警報手段を振動に変更していても、車線維持支援作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき
  さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起とともに、機能が解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。
- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

メッセージ	ブザー音
 “ハンドルを操作してください LKAシステムがまもなく停止します”	なし
 “ハンドルを操作してください”	
 “ハンドルを操作してください LKAシステムがまもなく停止します”	短い間隔の断続音
 “ハンドルを操作してください”※1	

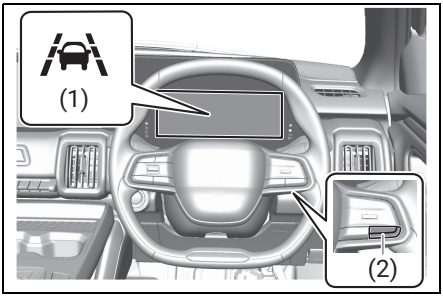
メッセージ	ブザー音
 “ ハンドルを操作してください LKA システムが停止しました ”	連続音
 “ ハンドルを操作してください ”※1	

※1 表示される手のアイコンは赤色

システムの ON/OFF を変更する

車線維持支援の作動／非作動を切り替えるには 車線維持支援 ON/OFF スイッチを押してください。

車線維持支援が作動状態のときは 車線維持支援表示灯が点灯します。



(1) 車線維持支援表示灯

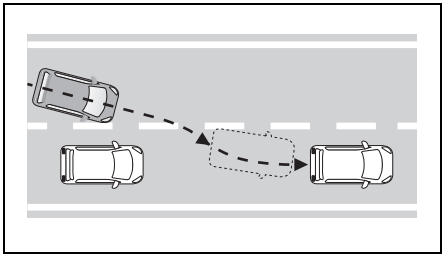
(2) 車線維持支援 ON/OFF スイッチ

⚠ 警告

機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- **先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）**



- **先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）**
- **先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）**
- **先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車 の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）**
- **周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）**
- **横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき**
- **センサーが正しく作動しないおそれがあるとき (>>> P.281)**
- **車線を検知できないおそれがあるとき (>>> P.281)**
- **次のような状況では、システムを OFF にしてください。システムが正常に作動せず、重大な傷害におよぶ**

か、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **過積載やパンクで車両が傾いているとき**
- **けん引するとき**
- **車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき**
- **点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき**
- **オフロード走行やスポーツ走行をするとき**
- **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**
- **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
- **応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき**
- **タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき**
- **メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき**
- **事故や故障などにより走行不安定なとき**

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線維持支援の作動状態を示しています。

警告灯／表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ		状態
	車線表示	自動操舵作動灯	
 白色（点灯）	 白色（中抜き）	 緑色（点灯）	車線維持支援がスタンバイ中
 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	車線維持支援が作動中

 黄色（点滅）	 黄色（点滅）	 緑色（点灯）	車両が点滅している側の車線から逸脱している
 黄色（点灯）	消灯	消灯	システムが一時停止または異常を検知している

二次衝突軽減ブレーキ

走行中にシステムが衝突を検出した場合、自動的にブレーキかけ、制動灯を点灯させて車両を減速させ、二次衝突による被害を軽減します。

⚠ 警告

二次衝突軽減ブレーキを過信しないでください。二次衝突軽減ブレーキは二次衝突による被害を軽減することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。また、事故の状態、構成部品の損傷状態、対象物の状態、天候状況、道路状況などの条件によっては、二次衝突軽減ブレーキが正常に作動しないことがあります。システムに頼りすぎると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

📖 アドバイス

二次衝突軽減ブレーキの作動条件

車両が走行中にシステムが衝突を検出した場合。ただし、構成部品が損傷いていると、システムは作動しません。

二次衝突軽減ブレーキの自動解除

次のとき、二次衝突軽減ブレーキが解除されます。

- 車両速度が 0 km/h になったとき
- システム作動後、一定時間が経過したとき
- アクセルペダルが深く踏み込まれたとき

アダプティブクルーズコントロール

前方レーダー（DSBS Ⅱ）と前方カメラ（DSBS Ⅱ）により車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離設定スイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

- **安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。**
- **アダプティブクルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。**
  - **システムが正しく作動しないおそれのある状況 (>>> P.281)**
- **設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。**
- **システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の**

場合死亡につながるおそれがあります。

システムの支援内容に関する注意点

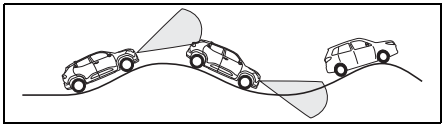
システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  アダプティブクルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシスムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  アダプティブクルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  アダプティブクルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

アダプティブクルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、アダプティブクルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道を走行するとき
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口を走行するとき
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- 交通量の多い道や頻繁に加減速を繰り返すような道を走行するとき。交通状況にあった速度で走行できないおそれがあります。
- 凍結や積雪などで滑りやすい道を走行するとき。タイヤが空転し、コントロールを失うおそれがあります。
- けん引されているとき、またはけん引するとき
- 事故や故障によって、まっすぐ走行できないとき
- 急な下り坂。設定した車速を超えるおそれがあります。また、追従制御時は十分に減速できず、先行車に接近するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道。前方カメラ（DSBS Ⅱ）や前方レーダー（DSBS Ⅱ）が先行車を検知できず、先行車に接近するおそれがあります。



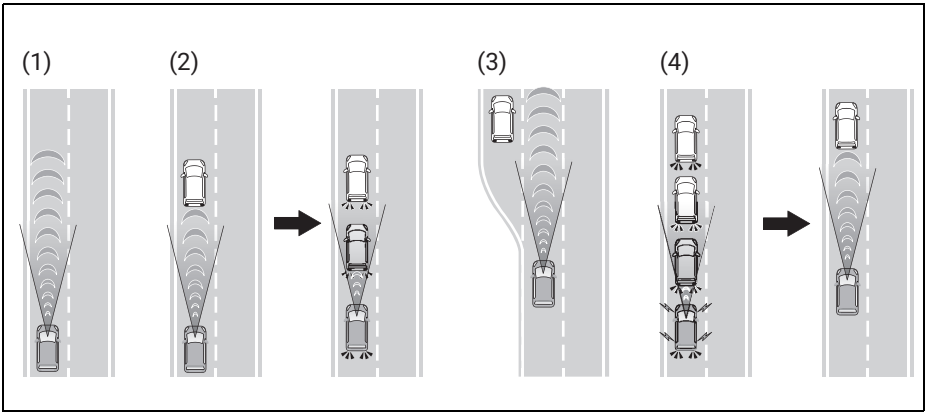
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき
  - 車線を検知できないおそれがあるとき： (>>> P.281)
- システムを OFF にする必要があるとき：
  次のときは、システムを OFF にしてください。
  システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。
  - 過積載やパンクで車両が傾いているとき
  - けん引するとき
  - トラック／船舶／列車などに積載するとき

- **車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき**
- **点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき**
- **オフロード走行やスポーツ走行をするとき**
- **洗車機を使用するとき**
- **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**
- **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
- **応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき**
- **タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき**
- **メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき**
- **事故や故障などにより走行不安定なと**

アドバイス

アダプティブクルーズコントロール作動中にブレーキ作動による音がすることがありますが、異常ではありません。

基本機能



(1) 定速走行：
先行車がいないとき
運転者が設定した速度で定速走行します。
下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し、ブザーが鳴ります。

(2) 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

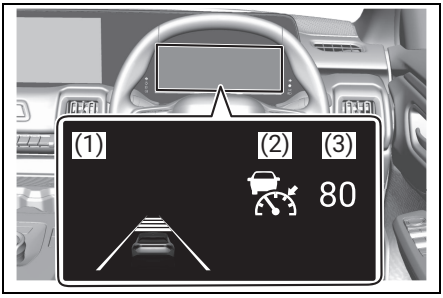
(3) 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

(4) 追従停止ー発進：
先行車が停止したときは、続いて停止します（停車制御）。先行車の発進後、RES+ / −ノブを RES + 位置に動かすか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、停車制御を続けます。

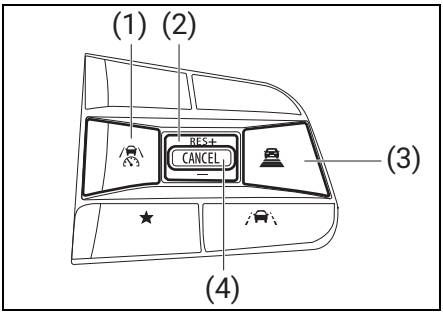
システムの構成部品

マルチインフォメーションディスプレイ



(1) マルチインフォメーションディスプレイ
(2) アダプティブクルーズコントロール表示灯
(3) 設定車速

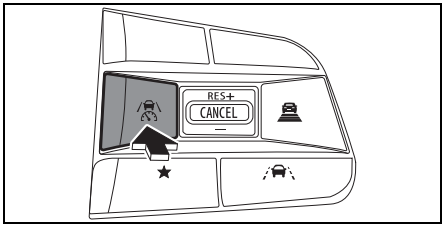
操作スイッチ



(1) 運転支援スイッチ
(2) RES ＋ / － ノブ
(3) 車間距離設定スイッチ
(4) キャンセルスイッチ

速度を設定する

1) 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速します。
2) 運転支援スイッチを押して速度を設定します。
マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

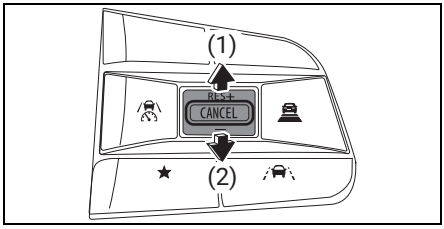


車速が約 30km/h 以下で運転支援スイッチを押した場合、設定速度が 30km/h に設定されます。ただし、停車している場合、発進するには、RES ＋ / － ノブを RES ＋ 位置に動かすか、アクセルペダルを踏む必要があります。

設定速度をかえる

スイッチで設定速度をかえる

- 設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで RES ＋ / － ノブを RES ＋ 位置または、－ 位置に動かします。



(1) 速度を上げる
(2) 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます

- 短押し:スイッチの操作をするごとに 1 km/h
- 長押し：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

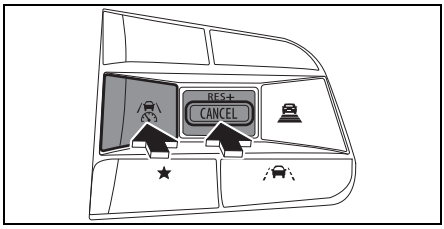
センターディスプレイの “ 設定 ” から設定速度の変化量を変更することができます。 **(>>> P.503)**

アクセルペダルで設定速度を上げる

1) 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速します。
2) RES ＋ / － ノブを RES ＋ 位置に動かします。

制御を解除する・復帰させる

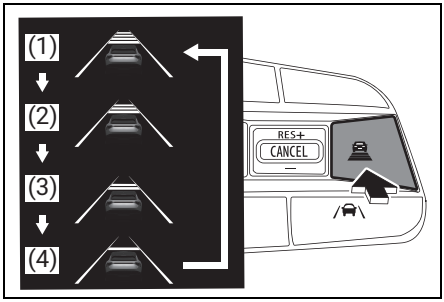
1) 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは運転支援スイッチを押します。
   ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
   (停車制御中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)



2) 制御を復帰させるには、運転支援スイッチを押すか、RES ＋ / － ノブを RES ＋ 位置に動かします。

車間距離を変更する

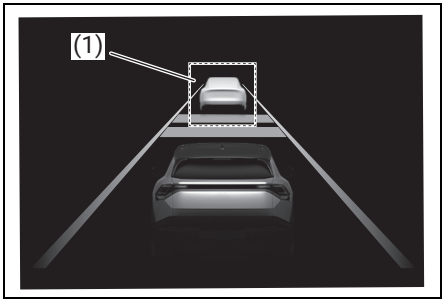
- スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



車間距離（イラスト番号）	距離の目安（車速 100km/h の場合）
長（1）	約 70m
中（2）	約 60m
短（3）	約 45 m
最短（4）	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、停車制御時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

先行車を検出すると、先行車マークも表示されます。



(1) 先行車マーク

5

アドバイス

設定条件について

- シフトポジションが“D”のとき設定できます。
- 車速が約 30 km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
  （ただし車速が約 30 km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30 km/h に設定されます）

車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、追従走行時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

追従走行中の停車制御について

- 停車制御中に RES + / － ノブを RES + 位置に動かした場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 分後にシステムは解除されます。ただし停車は継続されます。

アダプティブクルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にアダプティブクルーズコントロールが解除されます。

- スズキ セーフティ サポートによるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II））
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で停車制御したとき
- 停車制御中に次を検出したとき
  - 運転席シートベルトを着用していない
  - 運転席ドアが開いた
  - 車両が停止したあと約 3 分経過した
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき **(>>> P.281)**

アダプティブクルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

次の参照先を確認してください **(>>> P.279)**

センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。センサーが正しく車両を検知できず、接近警報も作動しないおそれがあります。**(>>> P.322)**

- 割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者

に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



アドバイス

<u>カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況</u>

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

カーブ速度抑制機能の設定を変更する：

セッティングモードからカーブ速度抑制機能の各種設定を変更できます。 **(>>> P.503)**

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80 km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

アダプティブクルーズコントロールの設定を変更する

アダプティブクルーズコントロールの設定はセッティングモードから変更することができます。 **(>>> P.503)**

アダプティブクルーズコントロールのメッセージ

システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メーター内またはマルチインフォメーションディスプレイに警告灯もしくはメッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

アダプティブクルーズコントロールが設定できないとき

警告灯	メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因と対処方法
	“ACC システム使用不可 シフトが D レンジに 入っていません ”	消灯	短い間隔の断続音	シフトポジションが “D” にないため設定できません。シフトポジションを “D” にして設定してください。
	“ACC システムが使用できません 道路が急勾配です ”	消灯	短い間隔の断続音	急勾配を走行しているため設定できません。平坦な道で設定してください。
	“ACC システム使用不可 ESP® システムが OFF になっています ”	消灯	短い間隔の断続音	ESP® が OFF のため設定できません。ESP® を ON に設定してください。
	“ACC システムが使用できません ”	消灯	短い間隔の断続音	上記以外で設定できないとき。説明に従い車速設定を再度行ってください。

アダプティブクルーズコントロールが自動解除したとき

警告灯	メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因と対処方法
	“ ブレーキ踏んでください ACC システム故障 点検を受けてください ”	点滅	連続音	アダプティブクルーズコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください
	“ ブレーキを踏んで ACC システムを 解除してください ”	消灯	連続音	上記以外で自動解除したとき。原因を改善して復帰してください。 **(>>> P.321)**

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

アダプティブクルーズコントロールの作動状態を示しています

表示灯	設定車速	設定 車間距離	先行車	状態
 白色（点灯）	 白色 （消灯／点灯）	 白色（点灯）	消灯	スタンバイ中
 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	消灯	定速走行中／ 加速走行中
 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	 点灯	減速走行中／ 追従走行中
 緑色（点灯）	 白色（点灯）	 白色（点灯）	 灰色（点灯）	停車制御中／アクセル ペダルによる加速中
 緑色（点灯）	 緑色（点灯）	 黄色（点滅）	 黄色（点滅）	接近警報作動中
 黄色（点灯）	 白色 （消灯／点灯）	消灯	消灯	システム一時停止
 黄色（点灯）	消灯	消灯	消灯	システム異常

標識認識機能

前方カメラ（DSBS II）が走行中に認識した特定の標識や信号を、メーターディスプレイやブザーで運転者にお知らせする機能です。

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

- **安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。**
- **標識認識機能は、道路標識などの情報を知らせることで運転者を支援しますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。**

標識認識機能を使用してはいけない状況

- **次のときは、システムを OFF にしてください。**
  システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - **過積載やパンクで車両が傾いているとき**
  - **センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき**
  - **センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき**
  - **事故や故障などにより走行不安定なとき**

システムを OFF にする必要があるとき

次の参照先を確認してください (>>> P.281)

表示機能

前方カメラ（DSBS II）が走行中に認識した道路標識を、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 複数の道路標識を表示できます。
  マルチインフォメーションディスプレイの表示状態によっては、標識の表示数が制限される場合があります。

📖 アドバイス

表示機能の作動条件

- 次の条件を満たしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識を表示します。
  - システムが道路標識を認識しているとき
- 周囲の状況や車両の状態などにより、道路標識の表示が遅れる場合があります。
- 最大 3 つまでマルチインフォメーションディスプレイに道路標識を表示します。
- 次の状況になると、道路標識の表示は消えます。
  - 最高速度標識またははみ出し通行禁止標識または転回禁止標識が表示されたあと、一定の距離を走行したとき
  - 方向指示器を点滅させて、右折または左折したとき
  - シフトポジションが “R” のとき
  - 規制区間の終わりを示す補助標識を認識したとき
- 最高速度標識が表示された状態でパワースイッチを “LOCK（OFF）” にしたとき、再度 EV システムを始動させると、前回と同じ標識が表示されます。

表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラ（DSBS Ⅱ）が標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラ（DSBS Ⅱ）の認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- その他の状況
  - 前方カメラ（DSBS Ⅱ）および前方レーダー（DSBS Ⅱ）が正しく表示されないおそれがあるとき
  - システムの一部もしくは全てが作動しないとき

注意喚起機能

次の状況では、マルチインフォメーションディスプレイ内に道路標識が強調表示されたり、ブザーが吹鳴します。

- 速度超過注意喚起：自車の車速がディスプレイに表示されている最高速度より一定の速度を超過したとき
- 車両進入禁止注意喚起：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したとき
- 赤信号注意喚起：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したとき

アドバイス

注意喚起機能の作動条件

- 速度超過注意喚起に対する作動条件
  次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - 最高速度標識を表示しているとき
  - ディスプレイに表示されている最高速度より一定の速度を超過したとき
- 車両進入禁止注意喚起に対する作動条件
  次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
  - 進入禁止標識の間を通過するとき
- 赤信号注意喚起に対する作動条件
  次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
  - 車速が約 20 ～ 70 km/h のとき
  - 一定以上の減速がないとき
  - 方向指示レバーを操作していないとき
  - 一定以上のハンドル操作をしていないとき
  - 先行車がいないとき

注意喚起機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では注意喚起対象があってもシステムが作動しないおそれがあります。
  - 信号機が点滅信号のとき
  - 信号機の庇（ひさし）で発光部の一部が隠れているとき
  - ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
  - 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
  - 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
  - 信号機が矢印信号のとき
  - 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
  - 交差点間の距離が近いとき
- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では注意喚起対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
  - 標識や信号機が多数あるとき
  - 標識が通常とは異なる大きさのとき
  - 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
  - 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
  - 信号機の灯色が黄色のとき
  - 信号機が矢印信号のとき
  - 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

マルチインフォメーションディスプレイの表示	表示内容
	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

標識認識機能の設定を変更する

センターディスプレイの設定で、標識認識機能の設定を変更することができます。 **(>>> P.503)**

ブラインドスポットモニター（BSM）（車線変更サポート付）

ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）は、自車の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認をサポートするシステムです。

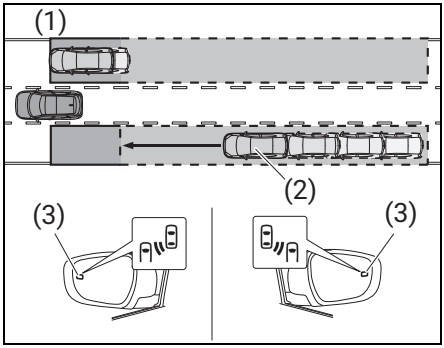
BSM は、車速が約 15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したインジケーターを点灯させます。インジケーターが点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、インジケーターが点滅し、室内ブザーにより運転者に危険を知らせます。

⚠ 警告

- **BSM は、車線変更時の後方確認をサポートするシステムです。実際の車線変更時には、必ず目視やドアミラーで周辺状況を確認してください。**
- **周辺の状況によっては、システムが作動しないことがあります。システムを過信せず、常に安全運転に努めてください。システムを過信すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

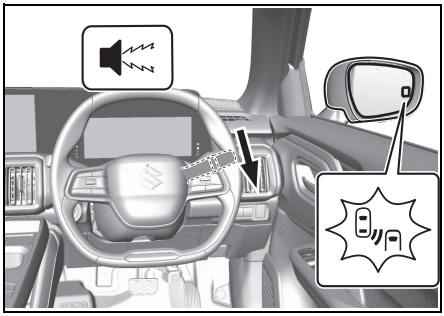
BSM は、レーダーセンサーにより隣の車線を走行する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターを点灯させることによってその車両の存在を運転者に知らせます。

- ドアミラーのインジケーターが点灯する



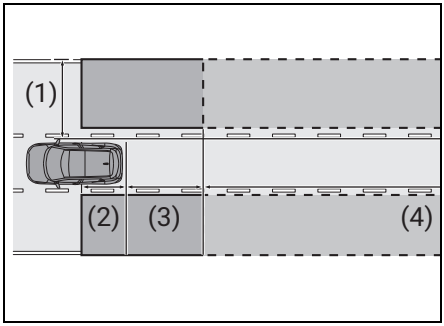
(1) ドアミラーに映らない範囲（死角）を併走する車両
(2) 後方からドアミラーに映らない範囲（死角）に急速に接近してくる車両
(3) インジケーター

ドアミラーのインジケーターが点灯しているとき、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、インジケーターが点滅し、室内ブザーにより運転者に危険を知らせます。



BSM で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



(1) 車両両側の側面から約 0.5 ～ 4.0 m
(2) リヤバンパーと運転席付近
(3) リヤバンパーの後方約 4 m
(4) リヤバンパーの後方約 4 ～ 50 m

⚠ 注意

自車と検知された他車の速度の差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

BSM の作動条件

BSM は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM の機能を停止していないとき
- シフトポジションが “R” 以外のとき
- 車速が約 15 km/h 以上のとき
- “READY” 表示灯が点灯しているとき

アドバイス

センターディスプレイの設定で、BSM の機能を停止することができます。 **(>>> P.503)**

こんな場合は作動しません

BSM は、次のような車両や車両以外のものを検知できないため作動しません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など（※1）
- 対向車
- 同じ車線を走行する後続車（※1）
- 2 つ隣の車線を走行する他車（※1）
- ガードレール、壁、標識、駐車車両などの静止物（※1）

※1 状況によっては検知することがあります

こんな場合は正しく作動しないことがあります

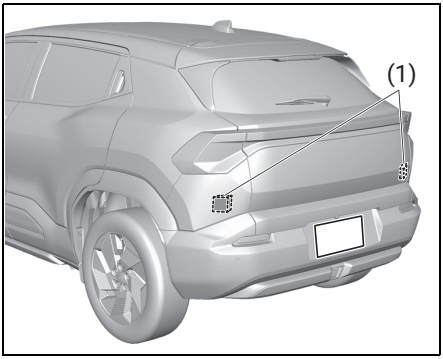
BSM は、次のような状況では車両を正確に検知できないため、正しく作動しない場合があります。

- レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺のリヤバンパーに汚れ、雪、氷などが付着しているとき
- センサーまたはリヤバンパーに強い衝撃が加えられたときなど、センサーの角度がずれたとき
- タイヤが滑っているか空転しているとき
- ガードレールや壁などとの距離が近い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- サスペンションを変更したとき
- 荷室に重いものが置かれているとき
- バッテリーに電圧異常があるとき
- センサー周辺の温度が高すぎる、または低すぎるとき
- トンネルの入り口、または出口付近を走行しているとき
- 排気ガス、水滴、雪、飛沫、砂、煙などのために後方の視界が悪いとき
- 2 台以上の車両が連続して接近しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき

- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど同じとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り、下りが連続した坂道や、舗装の継ぎ目等を走行しているとき
- 凹凸がある道路や砂利道を走行しているとき
- 自車と他車の速度差に変化があったとき
- 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 車両後部にキャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき（車高が低い車両など）

レーダーセンサーの取扱い

レーダーセンサーは、リヤバンパー内側の左右にそれぞれ１つずつ配置されています。



(1) レーダーセンサー

⚠ 警告

レーダーセンサーを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

取扱いを誤ると、レーダーセンサーが車両を正しく検知できなくなり、ブラインドスポットモニタが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **レーダーセンサー周辺のリヤバンパーは常にきれいな状態を保ってください。汚れや着雪によりレーダーセンサーが正常に作動しない場合があります。**
- **レーダーセンサー、リヤバンパーまたはレーダーセンサー周辺部に強い衝撃を与えないでください。接触事故などでレーダーセンサーやリヤバンパーなどのレーダーセンサー周辺部が変形・損傷した場合は、ブラインドスポットモニタを使用せず、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
- **レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーなどを貼ったり、ものを取り付けたりしないでください。透明のものでも貼らないでください。**
- **レーダーセンサーやリヤバンパーなどのレーダーセンサー周辺部の改造や塗装、純正部品以外への交換はしないでください。修理や交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
- **レーダーセンサーや周辺部品を取り外したり、分解したりしないでください。**

次の場合、システムは BSM OFF 表示灯および RCTA OFF 表示灯を点滅させ、システムの動作を停止します。BSM OFF および RCTA OFF 表示灯が点滅し続ける場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

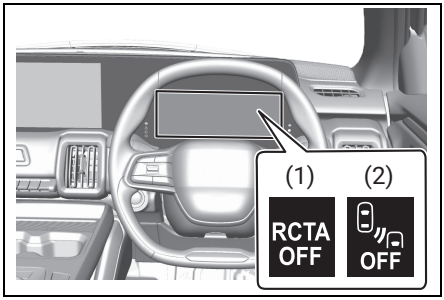
- **センサーやセンサー周辺のバンパーに、雪、氷、泥が大量に付着しているとき。**

- **センサーが非常に低温もしくは非常に高温になったとき**
- **センサーの搭載位置、角度に大きなズレが生じたとき・バッテリー電圧が低下しているとき**

ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）／リヤクロストラフィックアラート（RCTA）の停止

センターディスプレイの設定で、BSM の機能を停止することができます。**(>>> P.503)**

BSM の機能を停止すると、ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯とリヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯が点灯します。



(1) リヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯

(2) ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯

アドバイス

BSM の機能を停止しているときは、リヤクロストラフィックアラートも同時に停止します。

BSM 機能が ON のとき、リヤクロストラフィックアラートを個別に停止することができます。

ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）／リヤクロストラフィックアラート（RCTA）のメッセージ

システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メーター内またはマルチインフォメーションディスプレイに警告灯もしくはメッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

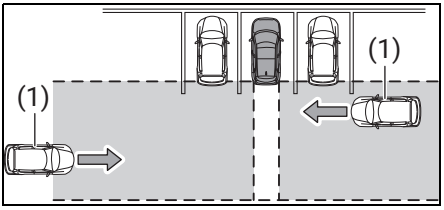
メッセージ	表示灯	マスターウォーニング	ブザー音	原因と対処方法
 “BSM システム一時停止中 ”	点滅 	点滅 	単音	BSM とRCTA の機能が一時停止状態です。EV システムを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
				BSM とRCTA はセンサーまたはセンサー周辺の汚れを検知しています。汚れを取り除き、EV システムを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
 “BSM システム異常 取扱説明書を確認してください ”	点滅 	点滅 	単音	BSM とRCTA のシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）は、自車が低速で後退時、レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、衝突の可能性が高いときは室内ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの画面表示によって、その車両の存在を運転者に知らせます。

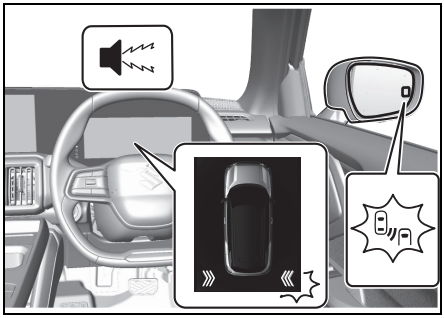
⚠ 警告

- **リヤクロストラフィックアラート（RCTA）は、後退時に自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。状況によっては本システムが有効に作動しないことがあるため、運転者は直接目視で安全確認を行う必要があります。**
- **周辺の状況によっては、システムが作動しないことがあります。システムを過信せず、常に安全運転に努めてください。システムを過信すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**



(1) 接近車両

- 室内ブザーが断続的に鳴る
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される
- ドアミラーのインジケーターが点滅する

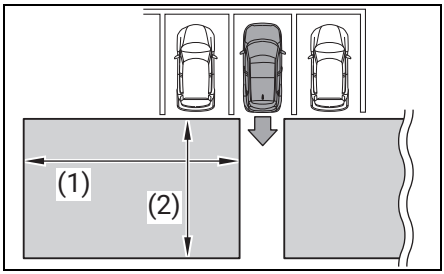


アドバイス

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）の検知情報は全方位モニターにも表示されます。 **(>>> P.349)**

RCTA で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



(1) 約 20 m
(2) 約 8 m

RCTA の作動条件

RCTA は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニタ（車線変更サポート付）の機能を停止していないとき
- RCTA の機能を停止していないとき
- シフトポジションが “R” のとき
- 自車の後退時の車速が約 8 km/h 以下のとき

- 接近する他車の車速が約 3.6 ～ 90 km/h のとき

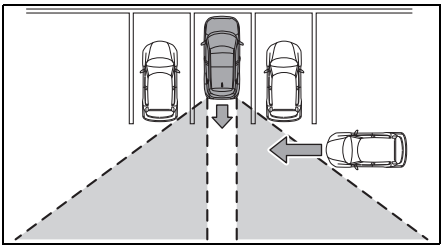
アドバイス

- センターディスプレイの設定で、リヤクロストラフィックアラート（RCTA）を停止することができます。 **(>>> P.503)**
- ブラインドスポットモニタ（車線変更サポート付）の機能を停止すると、RCTA も同時に停止します。

こんな場合は作動しません

リヤクロストラフィックアラートは、次のような車両や車両以外のものを検知できないため、作動しません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが感知できない車両



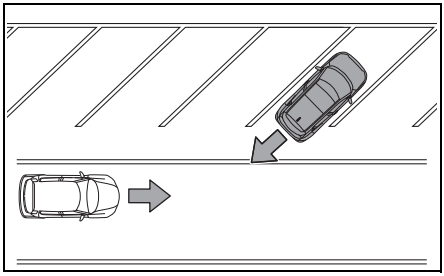
- 駐車車両および同様の静止物（※1）
- 小型の二輪車、自転車、歩行者（※1）
- 自車から遠ざかる車両

※1 状況によっては検知することがあります。

こんな場合は正しく作動しないことがあります

リヤクロストラフィックアラートは、次のような状況では車両を正確に検知できないため、正しく作動しない場合があります。

- リヤバンパーのセンサーやセンサー周辺に汚れ、雪、氷などが付着しているとき
- センサーまたはリヤバンパーに強い衝撃が加えられたときなど、センサーの角度がずれたとき
- バッテリーに電圧異常があるとき
- センサー周辺の温度が高すぎる、または低すぎるとき
- 大雨、濃い霧、吹雪などの悪天候のとき
- 排気ガス、水滴、雪、飛沫、砂、煙などのために後方の視界が悪いとき
- 2 台以上の車両が連続して接近しているとき
- 高速で接近してくる車両がいるとき
- グレーチングや側溝がある環境のとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 浅い角度で駐車している車両がいるとき



レーダーセンサーの取扱い

次の参照先を確認してください。 **(>>> P.331)**

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）の停止

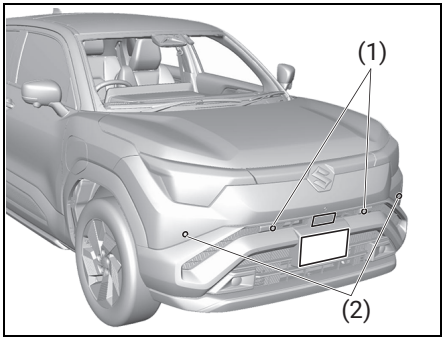
次の参照先を確認してください。**(>>> P.332)**

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）のメッセージ

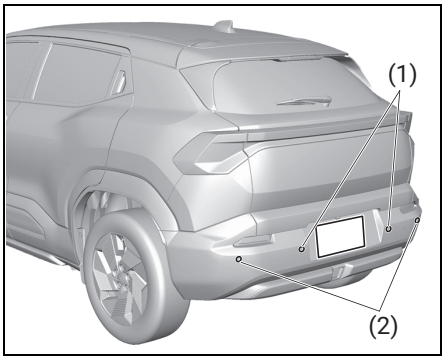
次の参照先を確認してください。**(>>> P.332)**

パーキングセンサー

バンパーに装着された超音波センサーにより、車両前方および後方の障害物を検知します。



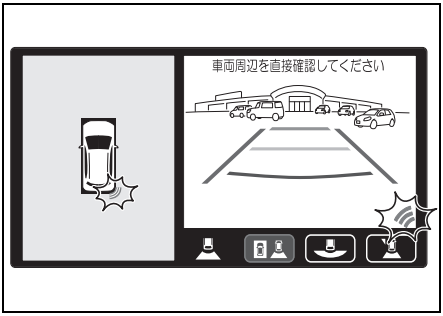
(1) 中央センサー
(2) コーナーセンサー



(1) 中央センサー
(2) コーナーセンサー

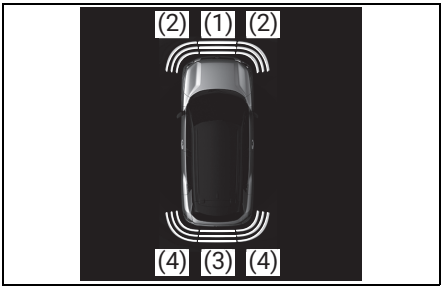
メーターのシフトポジション表示が“R”、“N”または“D”のときで、停車中や徐行中に壁などの障害物を検知すると、室内前方のブザーが障害物までの距離に応じて鳴ります。

全方位モニターには、センサーの検知情報が画面に表示されます。



表示色	距離（目安）	ブザー音
緑（点滅）	前方：60 ～ 100 cm（中央のみ）後方：60 ～ 150 cm（中央のみ）	長い間隔の断続音
緑（点滅）	45 ～ 60 cm	断続音
黄（点滅）	35 ～ 45 cm	短い間隔の断続音
赤（点灯）	35 cm 以内	連続音

検知した障害物までの距離により、マルチインフォメーションディスプレイ表示が以下のように切替わり、パーキングセンサー作動表示灯も点滅します。



(1) 前方中央センサー障害物検出時
(2) 前方コーナーセンサー障害物検出時
(3) 後方中央センサー障害物検出時
(4) 後方コーナーセンサー障害物検出時

距離（目安）	マルチインフォメーションディスプレイ表示
前方：60 ～ 100 cm（中央のみ）後方：60 ～ 150 cm（中央のみ）	
45 ～ 60 cm	
35 ～ 45 cm	
35 cm 以内	

⚠ 警告

- **パーキングセンサーは運転者の注意義務を軽減するものではありません。運転の補助としてご使用ください。**
- **センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。周囲の安全は必ず直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと運転してください。パーキングセンサーだけを頼りに運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠ 注意

- **表内のブザー音以外が鳴ったときは、センサーの故障が考えられます。**

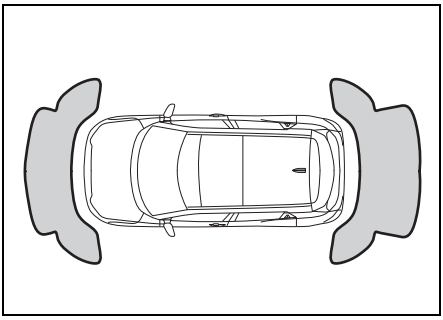
スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- **前方の超音波センサーには純正フィルムを貼り付けています。剥がしたり、貼りなおしたりしないでください。**

アドバイス

- 障害物を検知してから表示されるまでには、多少時間がかかります。
- いくつかの障害物を同時に検知した場合は、距離の近い障害物を優先して室内ブザーが鳴ります。
- いつも障害物を検知してブザーが鳴っている場所でも、状況によりブザーが鳴らない場合があります。
- パーキングセンサーが作動しているときに障害物を検知すると、パーキングセンサー作動表示灯が点滅します。**(>>> P.170)**

検知範囲の目安



- センサーの直近や真下は検知できません。
- 超音波センサー（コーナー）の検知距離は、約 60 cm 以内です。
- 超音波センサー（中央）の検知距離は、前方が約 60 ～ 100 cm、後方が約 60 ～ 150 cm 以内です。

アドバイス

- 細いポール状の障害物やセンサーより低い障害物は、遠くから検知されていても、車両が近づくと検知されなくなることがあります。
- システムが道路標識や類似の障害物までの距離を、実際の距離よりも短く計算することがあります。

こんな場合は作動しません

次のようなとき、パーキングセンサーは作動しません。

- パワースイッチを“ON”にした直後の数秒間
- シフトポジションが“P”のとき
- 障害物を検知できないとき
- シフトポジションと、メーターのシフトポジション表示が一致していないとき、または“ － ”表示のとき
- パーキングセンサーが一時停止または故障しているとき **(>>> P.289) (>>> P.289)**

こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、パーキングセンサーが正常に作動しない場合があります。

- 超音波センサーが正常に作動しないとき **(>>> P.281)**
- 地面が傾斜している場所に駐車しているとき
- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 大雨、濃霧、吹雪などの悪天候時
- センサーをステッカー、アクセサリーなどで覆ったとき

- 超音波センサー付近にバンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア、除雪装置（スノーブラウ ）などを取り付けたとき
- けん引フック、字光式ナンバープレート、フォグランプ、コーナーポール、または無線機アンテナなどの市販の電装品を装着したとき
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 炎天下や寒冷時にセンサー付近が熱いときや冷たいとき
- 凸凹道、坂道、じゃり道、草むらを走行中のとき
- 車が大きく傾いたとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 超音波センサーに障害物が近づきすぎたとき
- 障害物に対して斜めに向かったとき（反射波がもどってこない）

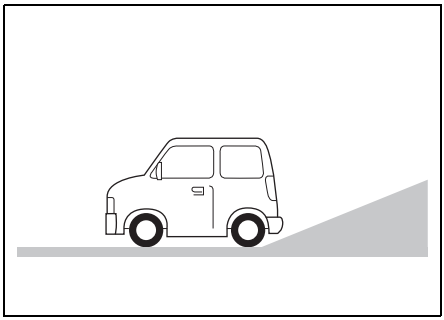
正しく検知できない可能性がある障害物

- 針金、フェンス、ロープなどの細い障害物
- 鋭角的な形のもの
- 標識などの背が高く上部が張り出している障害物
- 縁石などの背が低い障害物
- スポンジ状のものや雪壁などの音波を吸収しやすいもの

こんな場合にも作動することがあります

次のようなとき、パーキングセンサーが作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき

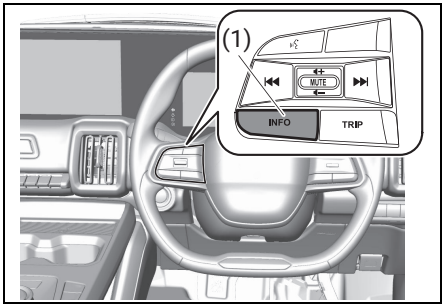


- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両後方が著しく傾いているとき
- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 路面に段差、縁石、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき

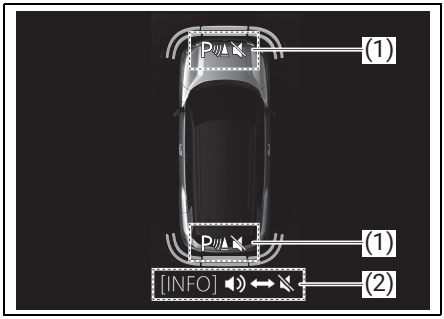
パーキングセンサーブザーの吹鳴を一時停止するときは

障害物を検知してパーキングセンサーブザーが鳴り、メーターのマルチインフォメーションディスプレイにオン／オフ切替えアイコンが表示されているときに、ハンドルの “INFO” スイッチを押すと、ブザー音を一時的に停止することができます。

ブザーが停止している間は、ミュート（消音）アイコンが表示されます。



(1) “INFO” スイッチ



(1) ミュート（消音）アイコン

(2) オン／オフ切替えアイコン

パーキングセンサーブザーは下記のいずれかの条件を満たすと、停止していたブザーが鳴るようになります。

- 再度 “INFO” スイッチを押したとき
- 後退時にダイヤルシフトの位置を “R” 以外から “R” にしたとき
- 前進時にダイヤルシフトの位置を “N” または “D” 以外から “N” または “D” にしたとき

アドバイス

周囲の状況によっては、パーキングセンサーブザー停止中に障害物を検知したとき再度ブザーが作動することがあります。

低速時ブレーキサポート (前進・後退)

低速時ブレーキサポート (前進・後退) は、徐行 (車速約 10km/h 以下) で走行中に進路上の作動対象を超音波センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断した時に、警報により運転者に回避操作をうながすとともに、自動的にブレーキを作動させることで、衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、センターディスプレイの設定で、低速時ブレーキサポート (前進・後退) の機能を ON/OFF することができます。 **(>>> P.503)**

低速前進時ブレーキサポート

低速前進時ブレーキサポートは、シフトポジションが、“P” または “R” 以外で徐行（車速約 10 km/h 以下）し走行中、超音波センサーにより車両前方の壁などの障害物との衝突を回避きないと判断したときに、自動で強いブレーキをかけて衝突の回避または、衝突時の被害軽減を図る機能です。

後退時ブレーキサポート

後退時ブレーキサポートは、シフトポジションが “R” で徐行（車速約 10 km/h 以下）し走行中、超音波センサーにより車両後方の壁などの障害物との衝突を回避きないと判断したときに、自動で強いブレーキをかけて衝突の回避または、衝突時の被害軽減を図る機能です。

⚠ 警告

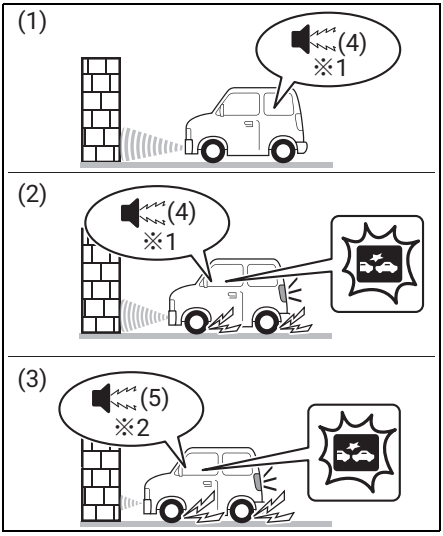
- **低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートの検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートにたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。**
- **お客様自身で低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートの作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポート機能作動時は、強いブレーキがかかります。運転前に全ての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。**

アドバイス

- 低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポート作動中に、障害物が超音波センサーの検知範囲外に移動したり、運転者が回避行動（ステアリングの操作）を行なったときには、途中で低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートの作動が解除されることがあります。
- 低速前進時ブレーキサポート作動中にシフトポジションを “P” または “R” にすると、低速前進時ブレーキサポート作動が停止します。
- 後退時ブレーキサポート作動中にシフトポジションを “R” 以外にすると、後退時ブレーキサポート作動が停止します。

作動イメージ

低速前進時ブレーキサポート

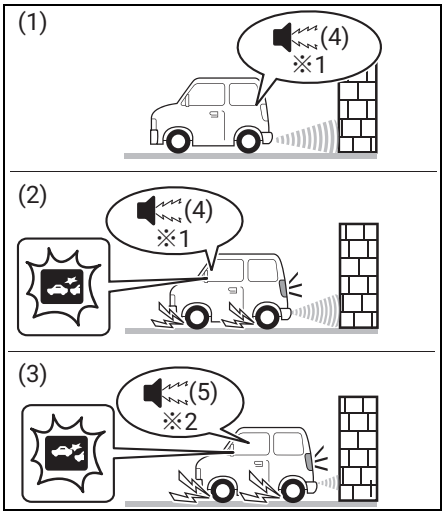


(1) 障害物へ接近（車間距離短縮）（約 10 km/h 以下）
(2) 距離短縮（衝突を回避できないと判断）
(3) 衝突を回避または被害を軽減
(4) 長い間隔の断続ブザー音
(5) 断続ブザー音

※1 パーキングセンサーのブザー速度によっては、パーキングセンサーが作動する（ブザーが鳴る）前に、低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートが作動する場合があります。

※2 衝突被害軽減ブレーキによる車両停止後、衝突被害軽減ブレーキが解除されるまでの間、低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートのブザー音は継続されます。

後退時ブレーキサポート



(1) 障害物へ接近（車間距離短縮）（約 10 km/h 以下）
(2) 距離短縮（衝突を回避できないと判断）
(3) 衝突を回避または被害を軽減
(4) 長い間隔の断続ブザー音
(5) 断続ブザー音

※1 パーキングセンサーのブザー速度によっては、パーキングセンサーが作動する（ブザーが鳴る）前に、低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートが作動する場合があります。

※2 衝突被害軽減ブレーキによる車両停止後、衝突被害軽減ブレーキが解除されるまでの間、低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートのブザー音は継続されます。

こんな場合は作動しません

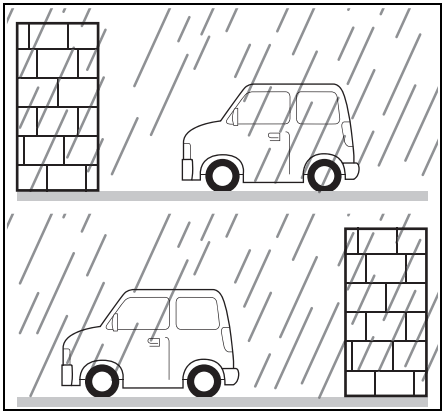
次のようなとき、低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートは作動しません。

- EV システム停止中のとき
- パワースイッチを“ON”にした直後の数秒間
- シフトポジションが以下のとき、低速前進時ブレーキサポートは作動しません。
  - “P” または “R” のとき
- シフトポジションが “P”、“N”、“D” のとき、後退時ブレーキサポートは作動しません。
- センターディスプレイの “ 設定 ” から、デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）を停止させているとき **(>>> P.503)**
- ESP® を作動停止（OFF）にする **(>>> P.374)**
- 障害物を検知できないとき
- 超音波センサーが一時停止または故障しているとき **(>>> P.289)** **(>>> P.289)**
- ESP® が作動しているとき

こんな場合は正常に作動しないことがあります

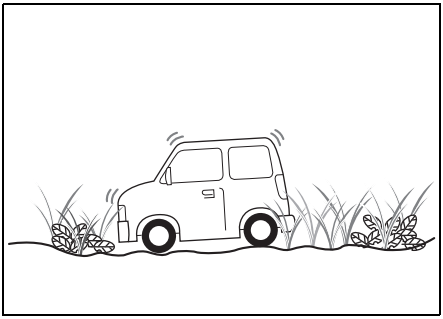
次のようなとき、低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートが正常に作動しない場合があります。

- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 大雨、濃霧、吹雪などの悪天候時

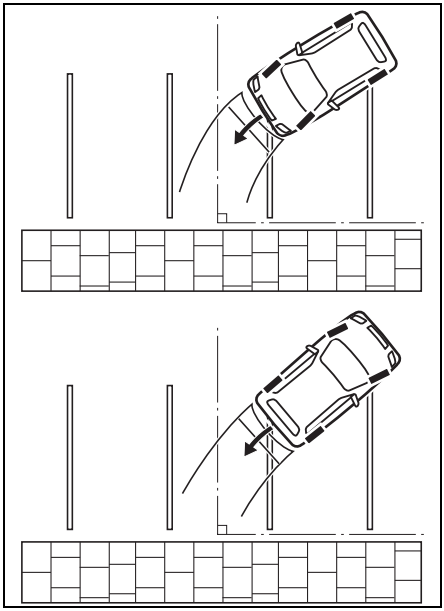


- 車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで後方の視界が悪いとき
- センサーをステッカー、アクセサリーなどで覆ったとき
- けん引フック、字光式ナンバープレート、フォグランプ、コーナーポール、または無線機アンテナなどの市販の電装品を装着したとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、超音波センサーの方向がずれたとき
- 超音波センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア、除雪装置（スノーブラウ) などを取り付けたとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 狭い道路を走行するとき
- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合

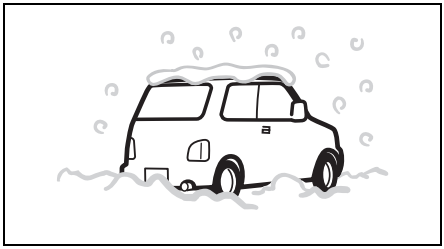
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路で超音波センサーに水がかぶったとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱(H形鋼など)の付近を走行するとき
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 衝突などにより超音波センサーの取り付け方向がずれているとき
- タイヤチェーンまたは指定サイズ以外のタイヤを装着したとき
- 段差を乗り越えるなどで車両が傾いているとき
- 炎天下や寒冷時にセンサー付近が熱いときや冷たいとき
- 湿度が極端に高いまたは低いとき
- 凸凹道、坂道、じゃり道、草むらを走行中のとき
- 車が大きく傾いたとき



- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 洗車場、自動車整備場、工事現場などの超音波が発生する環境が周囲にあるとき
- 超音波センサーに障害物が近づきすぎたとき
- 障害物に対して斜めに向かったとき（反射波がもどってこない）
- 車両に対して壁などの障害物が垂直の位置にないとき

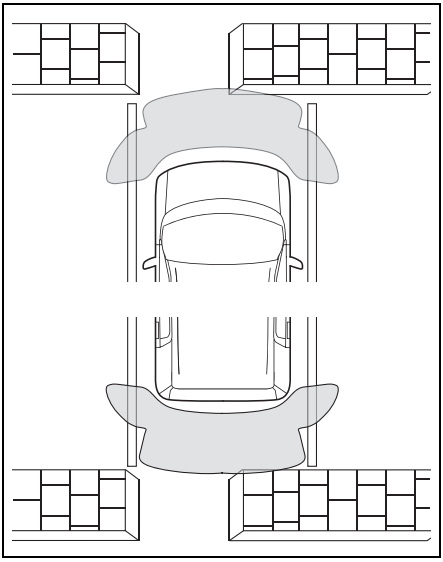


- 地面に対して垂直でない壁、凸凹な壁、波状のような連続模様のある壁やシャッター
- 壁から飛び出している柱やパイプなどの配管
- 人、スポンジ状のもの、雪壁などの音波を吸収しやすいもの



- 歩行者、自転車、動物などの動いているもの

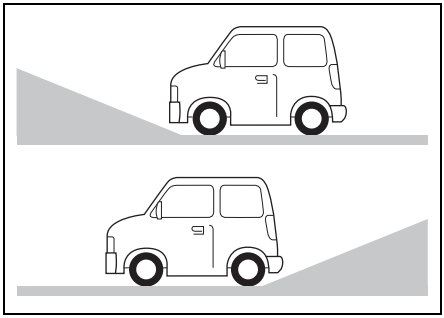
- 突然進行方向に出てきた障害物
- 次のような障害物は超音波センサーが検知できない場合があります。
  - 標識や街灯などポール状の障害物
  - ガードレールなど高さの低い障害物
  - 小さい障害物またはチェーンやロープなどの細い障害物
  - 細い網目状のフェンス
- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- ブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドル操作をしていたりするとき
- 地面が傾斜している場所を走行中のとき
- 進行方向に複数の障害物が重なってあるとき
- 壁などの障害物の一部しか超音波センサーの検知範囲内に入っていないとき



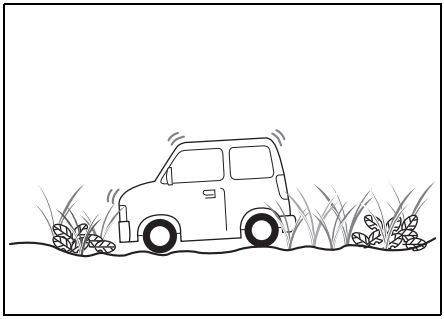
こんな場合にも作動することがあります

次のようなとき、超音波センサーが衝突の可能性のある障害物と判断して低速前進時ブレーキサポート／後退時ブレーキサポートが作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



- 進行方向に駐車場のバーや遮断機、看板などがあるとき
- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき



- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- 障害物のすぐ近くに停車するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき

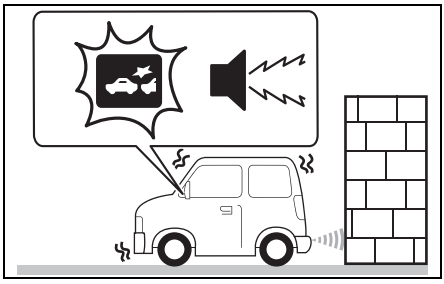
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両が著しく傾いているとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 車両進行方向に障害物がある状態で、起伏や段差などを乗り越えるとき
- 路面に段差、縁石、車止め、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき
- シフトポジションが “N” で車両を押す場合
- 超音波センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）

後方誤発進抑制機能

後方誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約 10 km/h 以下）で走行中に、車体端から後方約 3 m 以内に壁などの障害物を検知すると、アクセルペダルの急激で強い踏み込みによるモーター出力の上昇を自動的に抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたモーター出力は、機能が解除されると徐々にもどります。

作動中は、次の方法でお知らせします。

- マルチインフォメーションにメッセージを表示 **(>>> P.182)**
- 室内ブザーが断続的に鳴る



- 必要に応じて、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）を ON/OFF することで、後方誤発進抑制機能の機能を ON/OFF することができます。**(>>> P.503)**

⚠ 警告

- **後方誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突時の被害を軽減することを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。後方誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。**
- **お客様自身で後方誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては後方誤発進抑**

制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **後方誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などを後退で上がっている場合に機能が作動すると、自重により坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

- 後輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。
- 後方誤発進抑制機能作動中にシフトダポジションを“R”以外にすると、後方誤発進抑制機能は停止します。

こんな場合は作動しません

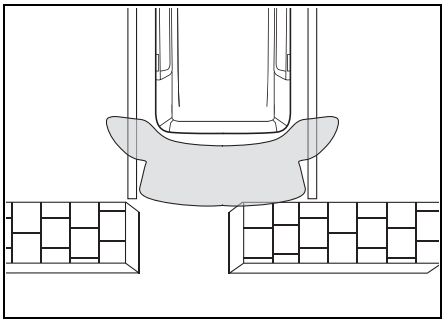
次のようなとき、後方誤発進抑制機能は作動しません。

- EV システム停止中のとき
- パワースイッチを“ON”にした直後の数秒間
- シフトポジションが“P”、“N”、“D”のとき
- デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）を停止させているとき
- 急な坂道のとき
- 障害物を検知できないとき
- 超音波センサーが一時停止または故障しているとき **(>>> P.289) (>>> P.289)**

こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

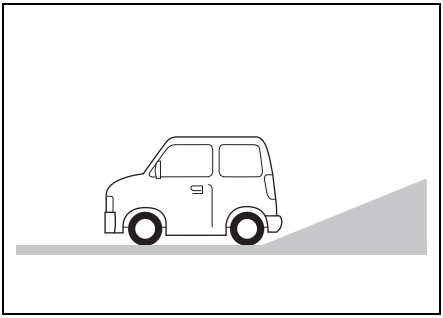
- 超音波センサーが正常に作動しないとき **(>>> P.281)**
- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- ハンドル操作をしているとき
- 標識などの背が高く上部が張り出している障害物
- 縁石などの背が低い障害物
- 地面が傾斜している場所を走行中のとき
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 壁などの障害物の一部しか超音波センサーの検知範囲内に入っていないとき



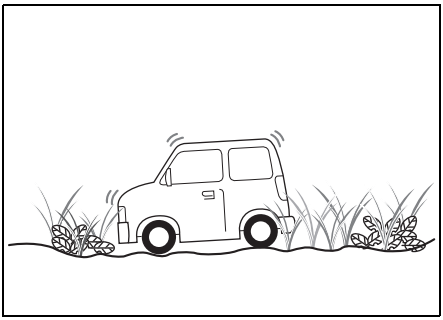
こんな場合にも作動することがあります

次のようなとき、超音波センサーが衝突の可能性のある障害物と判断して後方誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



- 進行方向に駐車場のバーや遮断機、看板などがあるとき
- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき



- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- 後方障害物のすぐ近くに停車するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両後方が著しく傾いているとき
- 超音波センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 車両後方に障害物がある状態で、起伏や段差などを乗り越えるとき
- 路面に段差、縁石、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき

踏切内などで作動した場合は

後方誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- いったんアクセルペダルを離し、再度アクセルペダルを踏み込む

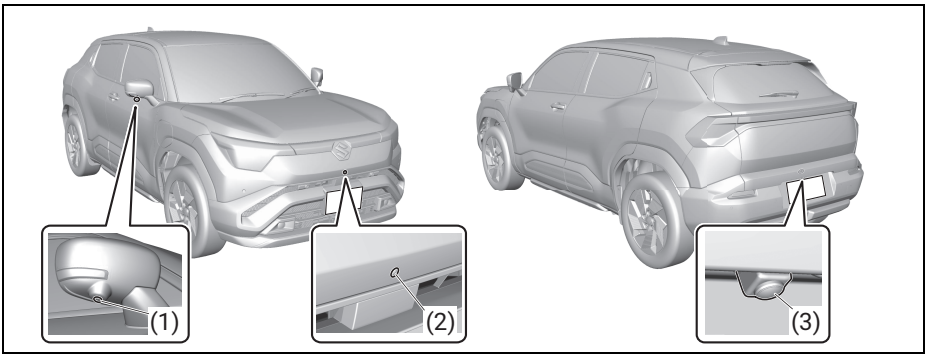
⚠ 警告

遮断機が下がる直前に無理に踏切内に侵入しないでください。踏切内で低速時ブレーキサポート (前進・後退)、誤発進抑制機能や後方誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。(>>> P.464)

全方位モニター

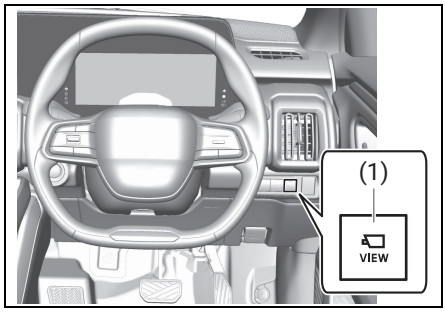
全方位モニターはフロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラを使用して、車両周辺の映像をセンターディスプレイに表示する機能です。駐車時や狭い道でのすれ違い、左右の見通しが悪い場所からの発進時などに運転者を補助します。

カメラの位置



(1) サイドカメラ（左右ドアミラー下部）
(2) フロントカメラ
(3) バックカメラ

カメラスイッチの位置



(1) カメラスイッチ

⚠ 警告

- **全方位モニターは、運転者の注意義務を軽減するものではありません。運転の補助としてご使用ください。**
- **画面に表示される範囲には限界があり、人や障害物が映らないことがあります。後方および周囲の安全は、直接目視やミラーで確認しながら、ゆっくりと運転し**

てください。画面だけを見て運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **カメラは精密機械ですので、強い衝撃をあたえたり、分解や改造をしたりしないでください。また、カメラに付着して固まった泥や凍り付いた雪などをお湯をかけたり、棒などでついたりして落とさないでください。破損して火災や故障の原因となります。**
- **車幅目安線は実際の車幅より広く表示されます。運転するときは必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。(>>> P.354)**
- **ドアミラーが格納された状態、および前席ドア、バックドアが確実に閉まっていない状態で全方位モニターを使用しないでください。周囲の映像が正しく映し出されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。(>>> P.230)**

! 注記

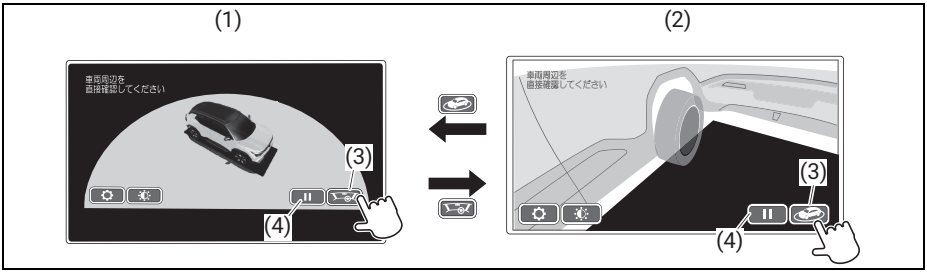
EV システム停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
EV システム停止中は、全方位モニターを長時間使用しないでください。

使いかた

3D ビュー

車両周辺の映像を車外または車内からの視点で表示します。

1) パワースイッチを “ON” にします。
2) ナビゲーションのオープニング画面終了後、3 D ビューが画面に映し出されます。
3) 画面上の映像切替えボタンをタッチすると、視点画面が切り替わります。一時停止 / 再生ボタンをタッチすると、3 D ビューの回転を一時停止します。もう一度タッチすると再び回転します。



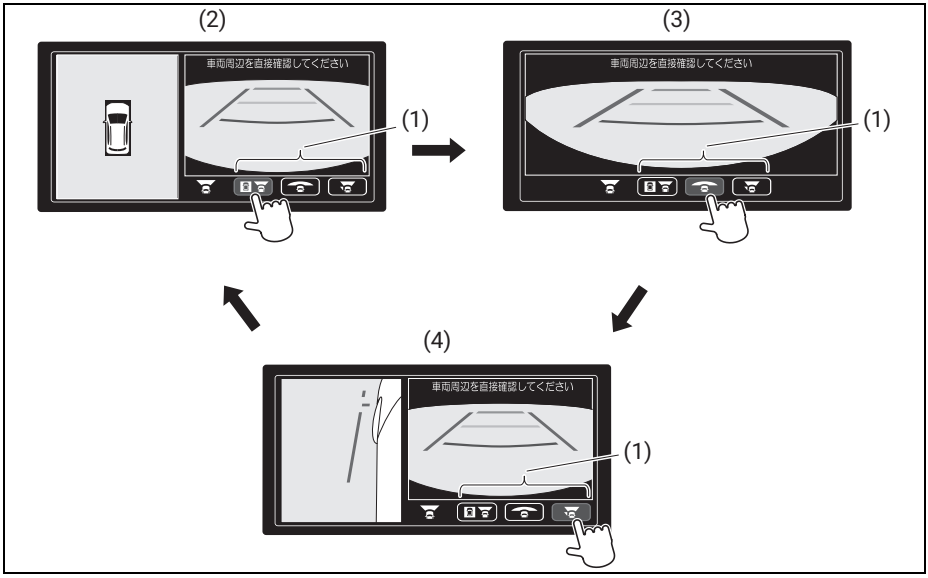
(1) 初期状態
車両周囲の映像を車外からの視点で表示
(2) 車両周囲の映像を車内からの視点で表示
(3) 映像切替えボタン
(4) 一時停止 / 再生ボタン

アドバイス

- シフトポジションが“P”のときにカメラスイッチを押すと、3 Dビューを表示できます。
- 3 D ビューの表示画面は、設定で変更が可能です。 **(>>> P.360)**
- 起動画面表示中でもカメラスイッチを押すと、3 D ビューが画面に映し出されます。
- パワースイッチが “ACC” のときは、3 D ビューは表示されません。

前方を確認するときは

1) パワースイッチを “ON” にします。
2) シフトポジションを “N” または “D” にします。
3) カメラスイッチを押します。 **(>>> P.349)**
「トップ映像＋前方映像」（初期状態）が画面に映し出されます。
4) 映像切替えボタンをタッチするたびに、次のように画面が切り替わります。



(1) 映像切替えボタン
(2) トップ映像＋前方映像（初期状態）
車両周囲および前方の映像を表示
(3) 前方ワイド映像
車両前方の映像を広範囲に表示
(4) サイド映像 ＋ 前方映像
車両助手席側下方、および前方の映像を表示

- カメラスイッチを押すと、下記のように切り替わります。 **(>>> P.349)**
  - トップ映像＋前方映像（初期状態）→ 前方ワイド映像 → サイド映像 + 前方映像 → カメラ映像終了
    任意の画面を選択していた場合は、下記のように切り替わります。
  - 例：前方ワイド映像を選択している場合
    前方ワイド映像 → サイド映像 + 前方映像 → トップ映像＋前方映像 → カメラ映像終了
- カメラスイッチを押す以外にも次のようなときに、もとの表示画面にもどります。
  - カメラスイッチを押してから 3 分経過したとき **(>>> P.349)**
  - ナビゲーションの操作を行なったとき
  - 車速が約 10 km/h 以上になったとき
- 車速が約10 km/h以上のときにカメラスイッチを押すと､左側画面にサイド映像のみ表示させることができます｡約10 km/h以下となると前方映像が表示されます。**(>>> P.349)**

アドバイス

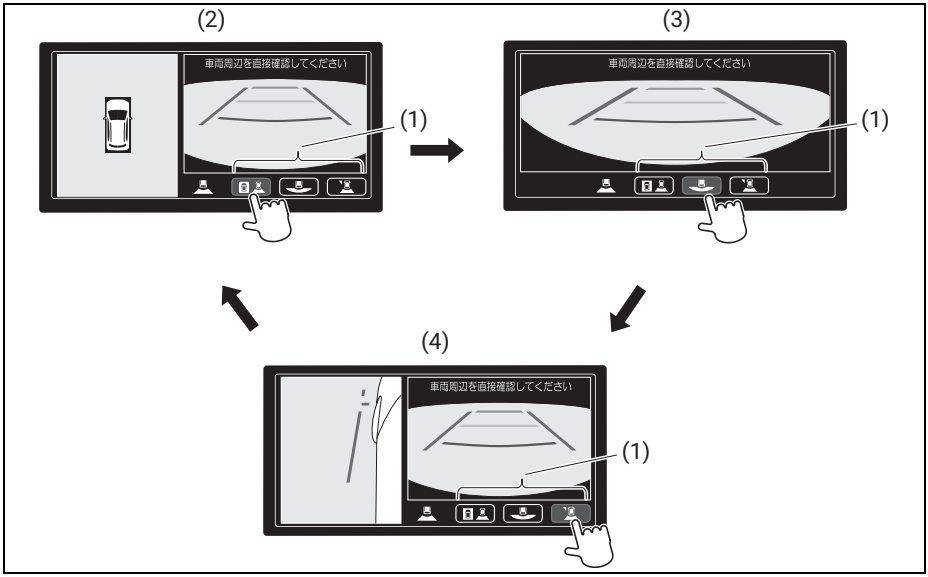
- フロントソナー自動表示機能が ON のときに、フロントの超音波センサーが障害物を検知すると自動で前方の映像を表示します。
- カメラ映像の画質調整および初期表示の画面設定は､シフトポジションを“P”にすると変更ができます。**(>>> P.360)**
- パワースイッチが “ACC” のときは、カメラ映像は表示されません。

後方を確認するときは

1) パワースイッチを “ON” にします。

2) シフトポジションを “R” にします。
   - 自動的に、「トップ映像＋後方映像」（初期状態）が画面に映し出されます。

3) 映像切替えボタン（1）をタッチするたびに、次のように画面が切り替わります。



(1) 映像切替えボタン

(2) トップ映像＋後方映像（初期状態）
車両周囲および後方の映像を表示

(3) 後方ワイド映像
車両後方の映像を広範囲に表示

(4) サイド映像 ＋ 後方映像
車両助手席側下方、および後方の映像を表示

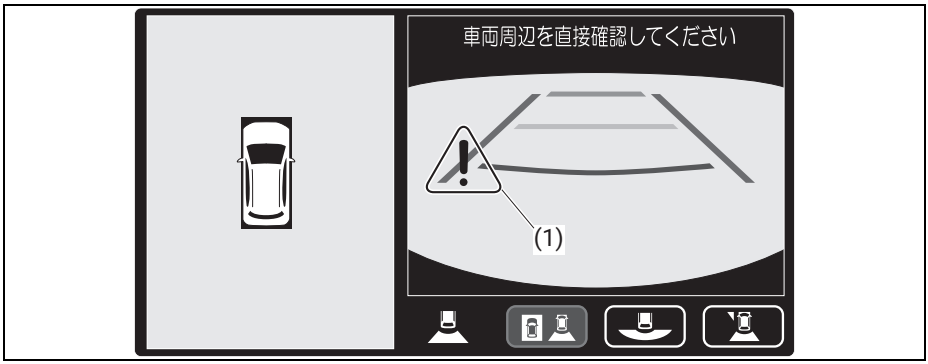
- カメラスイッチを押すと、下記のように切り替わります。 **(>>> P.349)**
  - トップ映像＋後方映像 (初期状態) → 後方ワイド映像 → サイド映像 + 後方映像 → トップ映像＋後方映像 (以降繰り返し)
- シフトポジションを “R” 以外にすると、“R” に入れる直前に表示されていた画面にもどります。（フロント映像自動表示機能を ON にしている場合は、前方カメラの映像へ切り替わります）**(>>> P.361)**

アドバイス

- 全方位モニター後方の映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。ただし、ナビゲーション本体の起動中は映し出されません。
- カメラ映像の画質調整および初期表示の画面設定は、シフトポジションを “P” にすると変更ができます。**(>>> P.360)**
- パワースイッチが “ACC” のときは、カメラ映像は表示されません。

画面のエラー表示について

カメラのシステムに異常がある場合は、画面に次のように表示されます。
スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

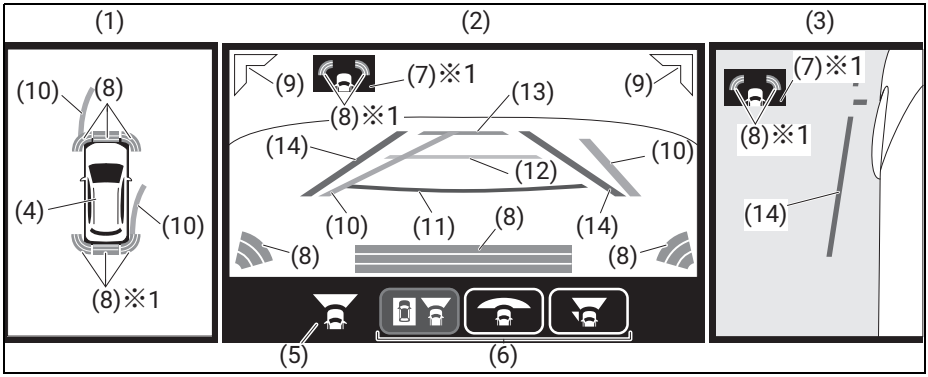


(1) カメラシステムエラーマーク

5

画面の見かた

画面には周囲の映像とともに、次のようなガイド線やボタンなどが表示されます。
ガイド線は運転操作の目安として使用できます。



※1 後退時のみ表示されます

(1) トップ映像
(2) 前方・後方映像
(3) サイド映像

番号	表示内容	内容
(4)		自車の位置を示します。
(5)		前方の映像が映ってることを示します。
		後方の映像が映ってることを示します。
(6)		トップ映像 + 前方映像が映っていることを示しています。
		トップ映像 + 後方映像が映っていることを示しています。
		前方ワイド映像が映っていることを示しています。
		後方ワイド映像が映っていることを示しています。
		サイド映像 + 前方映像が映っていることを示しています。
		サイド映像 + 後方映像が映っていることを示しています。
(7)		後退中に前方左右の壁や障害物などを検知すると表示されます。

番号	表示色	名称	内容
(8)	緑または黄または赤	パーキングセンサー検知表示	徐行中に壁や障害物などを検知すると表示されます。 **(>>> P.336)**
(9)	黄	リヤクロストラフィックアラート（RCTA）検知表示（後方）	低速で徐行中に右左から接近している車両を検知すると表示されます。**(>>> P.334)**
(10)	緑	進路目安線	ハンドル操作と連動して、前進／後退時の予想進路を目安として示します。（※1）
(11)	赤	距離目安線	バンパー前端／後端の中央部から約0.5ｍ前方／後方の位置を目安として示します。
(12)	黄		バンパー前端／後端の中央部から約 1ｍ 前方／後方の位置を目安として示します。
(13)	水色		バンパー前端／後端の中央部から約 2ｍ 前方／後方の位置を目安として示します。
(14)	紫	車幅目安線（縦線）	車幅（ドアミラーの張り出し分を含む）の少し外側の位置を目安として示します。
		車幅目安線（横線）	車両最前端の位置を目安として示します。

※1 ハンドルが中立（まっすぐ）の状態になるとトップ映像、前方／後方映像の進路目安線は非表示になります。

- ガイド線は路面に対して表示されているため、自車の周囲にある駐車車両などの障害物との距離を正確に表示するものではありません。また、トップ映像は平らな路面を基準に画像処理して表示しているため、路面より高い位置にある障害物（他車のバンパーなど）の位置を正確に表示するものではありません。
- 画面上に表示される台形状の距離・車幅ガイド線は目安であり、実際の距離間隔・車幅間隔とは異なる場合があります。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤに交換したりするとガイド線とトップ映像が正しく表示されないことがあります。

⚠ 注意

- **トップ映像は、ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせ処理した擬似的な映像のため、次のように表示されることがあります。**
  - **立体物が倒れているように表示される**
  - **路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない**
  - **立体物が映像の継ぎ目で消える、または位置がずれる**
- **前方映像または後方映像に表示されている立体物がトップ映像には表示されないことがあります。**

- **トップ映像上で路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**
- **カメラの位置がずれると、映像やガイド線がずれることがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
- **雪道や滑りやすい路面では、進路目安線と実際の進路が異なる場合があります。**
- **トップ映像に表示される車両アイコンはコンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なります。**
- **トップ映像は照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。**
- **映像の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。全方位モニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。**
- **全方位モニターのカメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画像上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されたりすることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。**
- **ワイド映像は広い範囲を映すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また、距離も実際とは異なる見え方をします。**

アドバイス

ナビゲーションの起動時やタッチパネルの異常時は、ボタンが操作ができません。しばらく待つか、カメラスイッチを押してもとの表示画面にもどり、再度カメラスイッチを押して画面を表示させて操作してください。

それでも操作できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

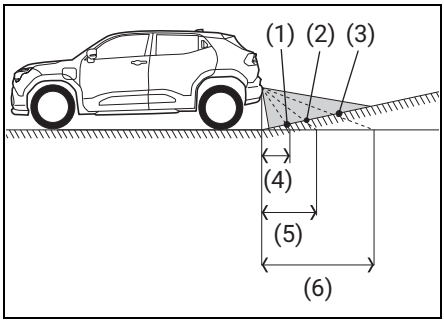
映像と実際の路面との誤差

乗員人数、積載量、路面の勾配や状況などにより、画面のガイド線の示す位置、距離は変わります。運転するときは必ず周囲の安全を直接確認してください。

進行方向に上り坂がある場合

実際の距離より手前に、距離目安線が見えます。

後方映像（代表例）

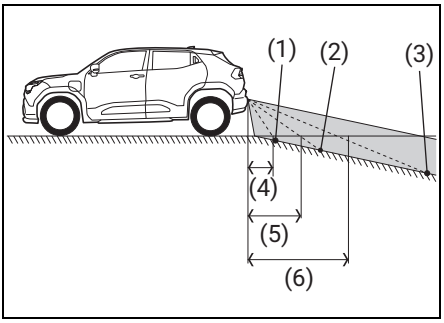


(1) 赤色 距離目安線（約 0.5 m）の示す地点
(2) 黄色 距離目安線（約 1.0 m）の示す地点
(3) 水色 距離目安線（約 2.0 m）の示す地点
(4) 約 0.5 m
(5) 約 1.0 m
(6) 約 2.0 m

進行方向に下り坂がある場合

実際の距離より後ろに、距離目安線が見えます。

後方映像（代表例）



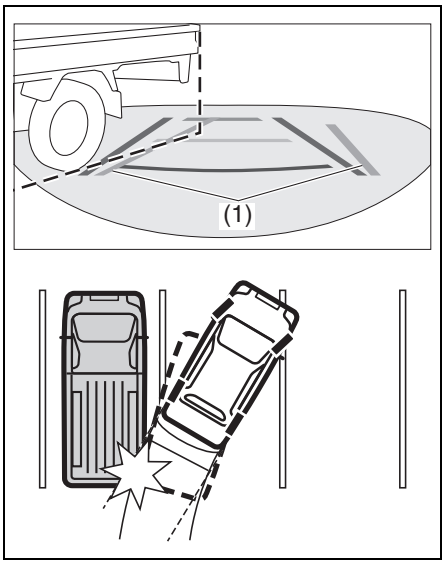
(1) 赤色 距離目安線（約 0.5 m）の示す地点
(2) 黄色 距離目安線（約 1.0 m）の示す地点
(3) 水色 距離目安線（約 2.0 m）の示す地点
(4) 約 0.5 m
(5) 約 1.0 m
(6) 約 2.0 m

立体物が近くにあるとき

立体物が近くにある場合、実際の距離と異なって表示されることがあります。

例 1

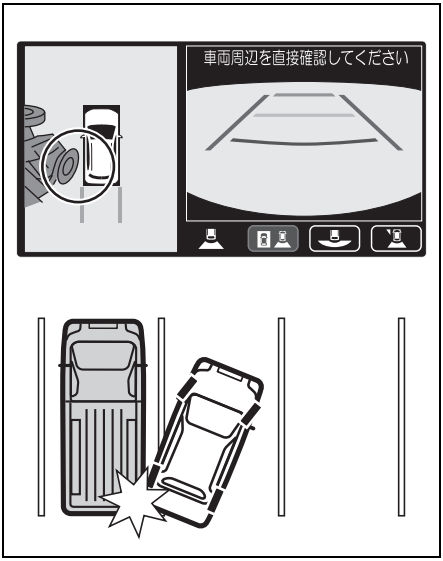
次の図の進路目安線は、表示されているトラックの車体に触れていませんが、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合、ぶつかることがあります。



(1) 進路目安線

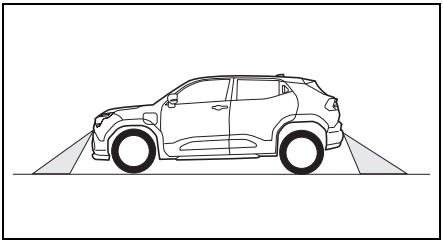
例 2

次の図のトップ映像では、自車とトラックの車体間に、わずかな距離があるように見えますが、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。



画面に映る範囲

- 次の図の範囲がナビ画面に映し出されます。ただし、前後バンパー付近やバンパー下にあるものは映りません。



- カメラより上の部分は映し出されません。標識などの背が高く上部が張り出している障害物は、画面上では上部まで確認できません。
- 全方位モニターの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- 画面に映し出される範囲に駐車車両などの障害物があると、実際の距離と異なって画面に表示されることがあります。
- 後方の映像は、ルームミラーやドアミラーで見る場合と同じように、左右が反転して映し出されます。
- フロントカメラおよびバックカメラは車両中心よりずれた位置に取り付けられているため、前方映像および後方映像は多少中心よりずれて映し出されます。

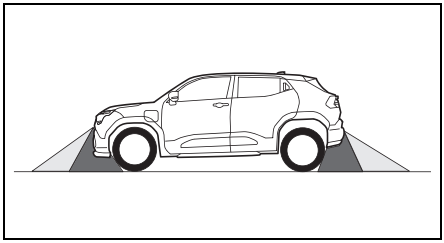
全方位モニターの視野範囲イメージ

⚠ 注意

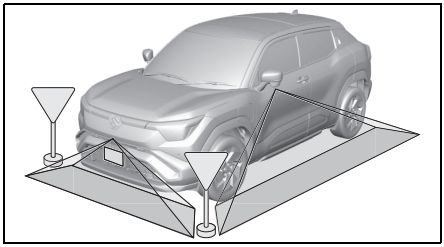
特定の領域は、カメラに映し出されない死角となります。

必ず目視で安全を確認してください。

- バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります。



- トップ映像ではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります。



アドバイス

- 全方位モニターの映像は、実際の色味とは多少異なることがあります。

- 移動物が映像に映っているときは、移動物の残像がでることがあります。
- 次のような場合は、全方位モニターの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 夜間や雨の日、および暗い場所
  - 炎天下や寒冷時にカメラ付近が熱いときや冷たいとき、または雨天などで湿度が高いとき（カメラレンズがくもる場合があります）
  - 直接カメラに強い光が入るとき（映像に白い縦線などが入る場合があります）
  - 蛍光灯などの照明の下（映像にちらつきが出る場合があります）
  - 外気温が低いとき（画面が暗くなる場合があります）
  - カメラのレンズが汚れているとき、または雪、水滴がついているとき **(>>> P.363)**

設定の変更

映像の画質調整や、全方位モニターの設定を変更することができます。

⚠ 警告

周囲に何もないような安全な場所で設定の変更をしないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

設定の変更をするときは、周囲に何もないような安全な場所で行なってください。

5

画質調整

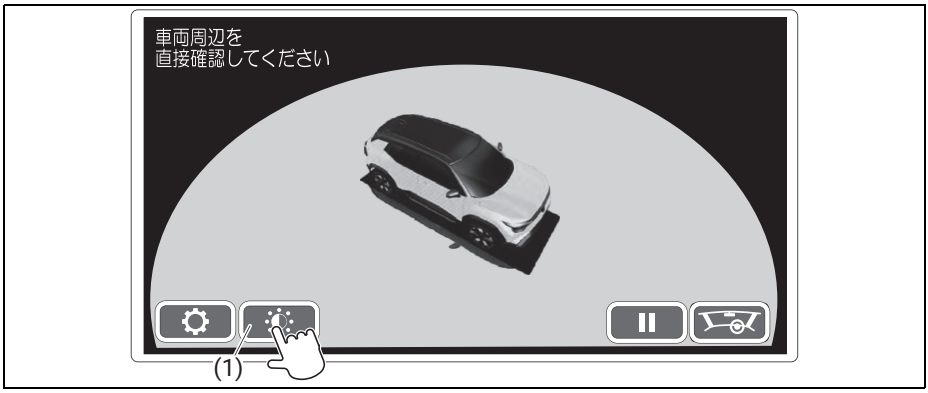
設定の変更は、次の手順で行ないます。

1) パワースイッチを “ON” にします。

2) パーキングブレーキをかけます。

3) ナビゲーションのオープニング画面終了後、カメラスイッチを押します。

4) 3D ビュー画面が映し出され、画質調整ボタンをタッチします。



(1) 画質調整ボタン

5)明るさ、コントラストなどの調整ができます。お好みの画質に調整してください。

アドバイス

- 設定した明るさの数値は、ライトの点灯／消灯で変わります。
- 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

全方位モニター設定

設定の変更は、次の手順で行ないます。

1)パワースイッチを “ON” にします。

2)パーキングブレーキをかけます。

3)ナビゲーションのオープニング画面終了後、カメラスイッチを押します。

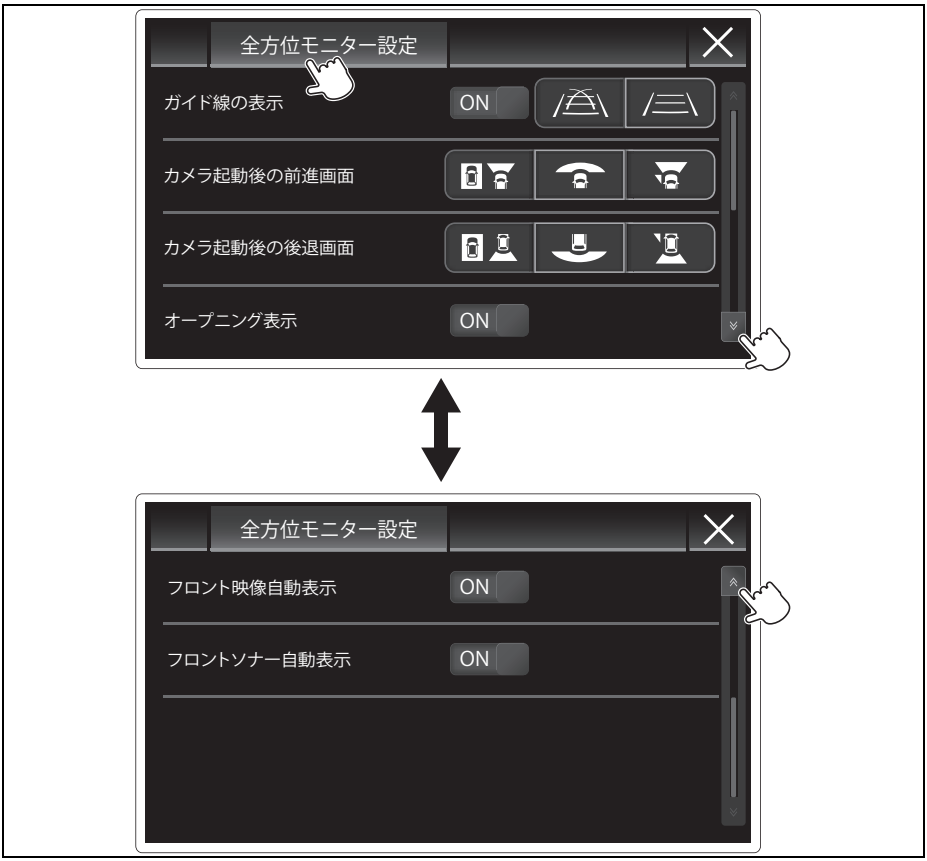
4)3D ビュー画面が映し出されたら、設定ボタンをタッチします。



(1) 設定ボタン

5)“ 全方位モニター設定 ” をタッチすると、全方位モニターの設定ができます。
お好みに応じて設定を変更してください。
または へタッチすると、ページが切り替わります。

図は代表例です



ガイド線の表示	目安線を “ 目安線非表示 ”、“ 舵角連動目安線 ”、“ 固定目安線 ” から設定できます。
カメラ起動後の前進画面	前方を確認するための映像を “ トップ映像 + 前方映像（初期状態）”、“ 前方ワイド映像 ”、“ サイド映像 + 前方映像 ” から選択できます。
カメラ起動後の後退画面	後方を確認するための映像を “ トップ映像 + 後方映像（初期状態）”、“ 後方ワイド映像 ”、“ サイド映像 + 後方映像 ” から選択できます。
オープニング表示	起動時に自動表示される3Dビューの表示／非表示を設定できます。
フロント映像自動表示	シフトポジションを “R” から “P” 以外にしたときに、自動表示されるカメラ映像の表示／非表示を設定できます。
フロントソナー自動表示	フロントソナー自動表示の設定をON/OFFできます。

カメラの取扱い

⚠ 警告

- **高圧洗浄機を使うとき (>>> P.437)**
- **カメラは精密機械ですので、強い衝撃をあたえないでください。また、カメラに付着して固まった泥や凍り付いた雪などは、棒などで突くなどして落とさないでください。破損して火災や故障の原因となります。**

⚠ 注意

- **カメラやその周辺をぶつけたときは、画面の映像が正しく表示されないことがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
- **カメラを交換したときは調整が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
- **カメラの作動をさまたげるものを、カメラ部分およびカメラ周辺に取り付けないでください。字光式ナンバープレートを装着した場合、全方位モニターの映像が一部遮られる可能性があります。**

! 注記

- **カメラの取り外しや分解、改造は行わないでください。分解すると防水性が失われ故障の原因となります。**
- **全方位モニターのカメラのお手入れについて (>>> P.438)**

故障かなと思ったら

画面にカメラシステムエラーマークが表示されたら

センターディスプレイに⚠マークが表示された場合は、カメラシステムに異常が発生しています。

- 表示が消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

全方位モニターの映像の映りが悪い

- カメラのレンズが汚れていると、映像が見づらくなる場合があります。レンズに水滴、雪、泥などの汚れが付着しているときは水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときや、レンズにワックスなどが付着したときは、中性洗剤を使ってください。
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドライトの強い光が直接カメラに当たると、映像に白い縦線などが入り映像が見づらくなる場合がありますが、異常ではありません。

画像やガイド線がずれている

次のような場合には、画像やガイド線がずれることがありますが、異常ではありません。

- 乗車人数や荷物などの影響で車両が傾いている
- タイヤチェーンの装着やタイヤ空気圧の変化などにより、車高が変化している
- 路面が傾斜しているところで使用している
- 前席ドア、バックドアが開いている

上記以外の場合は、カメラの位置がずれている可能性があります。スズキ販売店

またはスズキ代理店で点検を受けてください。

ハンドルが直線状態だが進路目安線が曲がっている

カメラシステムなどの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

本製品のライセンスについて

全方位モニターに組み込まれたソフトウェアには、オープンソフトウェアが含まれています。
ライセンスは次の通りです

[T-Kernel]

This Product uses the Source Code of T-Kernel under T-License granted by the T-Engine Forum (www.tron.org).

[OpenGL ES]

SGI FREE SOFTWARE LICENSE B (Version 2.0, Sept. 18, 2008)

Copyright (C) [dates of first publication] Silicon Graphics, Inc. All Rights Reserved.
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice including the dates of first publication and either this permission notice or a reference to http://oss.sgi.com/projects/FreeB/ shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

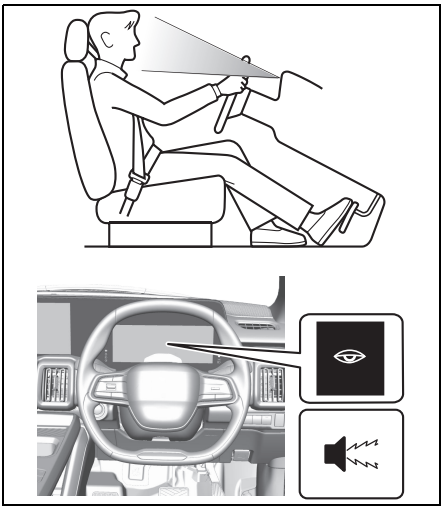
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL SILICON GRAPHICS, INC. BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of Silicon Graphics, Inc. shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from Silicon Graphics, Inc.

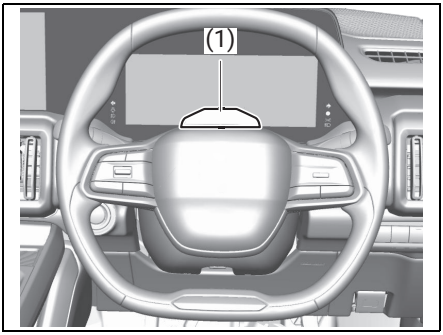
ドライバーモニタリングシステム (DMS)

DMS とは Driver Monitoring System（ドライバー モニタリング システム）の略称です。

カメラにより運転者の眼の開閉状態や顔向きなどを検知し、走行中に運転者が眠気を感じたり、居眠りや脇見をしているとシステムが判断した場合は、画面表示と警報音によって注意を促します。



運転者の状態を検出するセンサー



(1) ドライバーモニターカメラ& LED

⚠ 警告

DMS の認識性能には限界があります。DMS を過信した運転を行わないでください。

- **疲労時の運転は重大な事故に至る危険があります。運転前や運転中に疲労を感じた場合は、十分に休憩を取り、安全運転を心がけてください。**
- **DMS は運転者の眠気を解消するものではありません。**
- **DMS は運転者の不注意行動を未然に防ぐものではありません。**
- **状況によっては、DMS が運転者の状態を正確に検出することができないことがあります。**

アドバイス

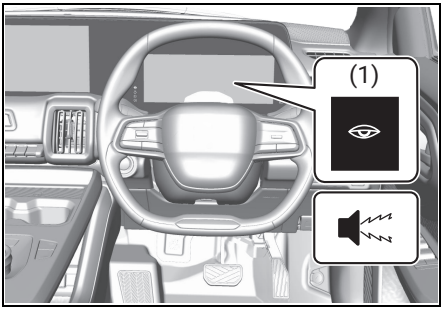
DMS はカメラにより運転者の目、鼻、口、頭の位置などの特徴を認識しています。目、鼻、口、頭の位置などの特徴が認識できないときには正しく機能しない場合がありますので、正しい運転姿勢をとれるよう、シートやハンドル位置を調整してください。**(>>> P.32)**

眠気警報

約 65 km/h 以上で走行中に運転者の目の閉じ具合や、まばたき、あくびの増加などを検知し、眠気があると DMS が判断した場合は、警報により注意を促します。

眠気警報が作動すると、室内ブザーとメーター内の表示で運転者に警報します。

- 居眠り警告灯が点灯し、メーターディスプレイに眠気警告が表示されるとともに、室内ブザー（単音）が鳴ります。



(1) 居眠り警告灯

アドバイス

運転者本人が眠気が覚めたと感じても、眠気の疑いが残る場合、数分おきに警報する場合があります。また、眠気の疑いが残った状態で65 km/h以上になると、その都度警報する場合があります。

このような場合には、できるだけ早く安全な場所に車両を停止して、休憩をとることをお勧めします。

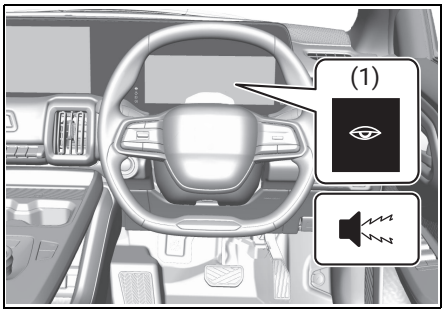
システムが眠気警報を発しているときに、運転者の脇見を検出すると、眠気警報が停止し、脇見警報が作動する場合があります。

居眠り警報

約 65 km/h 以上で走行中に運転者の目の閉じ具合、首のかたむきを検知し、居眠りしていると DMS が判断した場合は、警報により注意を促します。

居眠り警報が作動すると、室内ブザーとメーター内の表示で運転者に警報します。

- 居眠り警告灯が点灯し、メーターディスプレイに居眠り警告が表示されるとともに、室内ブザー（短い間隔の単音）が鳴ります。
- 居眠り警報は、ドライバーが居眠りから目覚めたとDMSが判断するまで継続されます。



(1) 居眠り警告灯

アドバイス

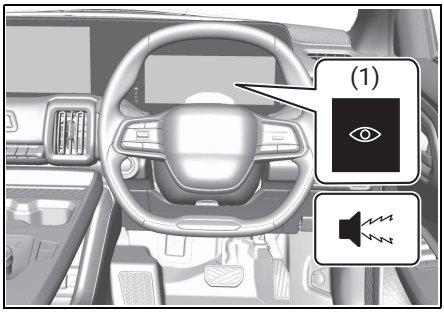
居眠り警報が作動した後、約 5 分は DMS の警報は作動しません

脇見警報

約 20 km/h 以上で走行中に運転者の視線や顔向きを検知し、脇見をしているとDMS が判断した場合は、警報により注意を促します。

脇見警報が作動すると、室内ブザーとメーター内の表示で運転者に警報します。

- メーターディスプレイに脇見警告が表示されるとともに、室内ブザー（短い間隔の単音）が鳴ります。



(1) 脇見警告灯

アドバイス

- 方向指示器、非常点滅表示灯が作動しているときは脇見警報は作動しません。
- シフトポジションが “R” のときは脇見警報は作動しません。
- 次の条件のいずれかを満たしている場合は、脇見検知機能が正常に作動しないことがあります。
  - 曲率の小さいカーブ、ロータリーなど車の向きと視線が大きく異なるとき
  - カーブなどでステアリングを切っているとき
  - 視線と顔の向きが大きく異なっているとき
  - 頻繁に顔の向きや視線を正面方向以外に向けているとき
  - 顔を大きく傾けて運転しているとき
  - 運転者が大きく動いているとき
- 運転者が大きく動いているとき、または運転者が顔を下方向に向けているときは、脇見警報が作動する場合があります。

警報 ON/OFF の設定のしかた

DMS の警報は OFF にすることができます。

ドライバーモニタリングシステムの設定は、センターディスプレイの “ 設定 ” から切りかえることができます。**(>>> P.503)**

警報を OFF にすると、DMS 警報 OFF 灯が点灯します。

アドバイス

次のようなとき、DMS の警報は自動的に ON になります。

- パワースイッチを “LOCK（OFF）” から “ON” にしたとき
- 停車中にシートベルトを外して、運転席ドアを開けたとき
- センターディスプレイの“設定”で設定のリセットを実行したとき

こんな場合は正しく作動しないことがあります

次のようなとき、DMS が運転者の顔を適切に検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラが正常に映像をとらえにくい環境のとき
  - 車室内が高温のとき
  - 強い光（太陽光やヘッドランプ光など）にドライバーモニターカメラや運転者の顔が照らされているとき
  - 周囲の構造物、トンネルの出入り、木漏れ日などの影響で車室内の明るさが大きく変動しているとき
- ドライバーの目や鼻、口、顔の輪郭がドライバーモニターカメラから見えにくい状態になっているとき
  - メガネやサングラスのレンズが光って見えるときや、外の風景が映りこんでいるとき
  - ハンドルや手、腕、その他の障害物によって運転者の顔とドライバーモニターカメラ、LED の間が遮られているとき
  - ドライバーモニターカメラ、LED に指紋や汚れ等が付着しているとき
  - 帽子やサンバイザー等を目深にかぶっているとき
  - 目が歪んで見えるような高い度数のメガネをかけているとき
  - 近赤外線を通しにくいメガネやサングラスをしているとき
  - メガネやサングラスのフレームで目が隠れているとき

- ヘルメットや被り物などを着用しているとき
- 眼帯を着用しているとき
- 前髪が目にかかっているとき
- マスクを着用しているとき
- 目、鼻、口、顔の輪郭が判定できなくなるような化粧やペイント等をしているとき
- 髭で口の輪郭が隠れているとき
- 頭を大きく傾けているとき
- 運転姿勢をくずしているとき
- 笑ったり、目を細めているとき
- 助手席や後席の方が身を乗り出すなどして、運転席付近に 2 つ以上の顔が存在するとき
- 車室内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

DMS に異常があるとき

DMS が一時停止すると、DMS 警報 OFF 灯が点灯します。

DMS に異常があると、DMS 警報 OFF 灯およびマスターワーニングが点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに“ドライバーモニタリングシステム要点検”が表示されるとともに室内ブザーが鳴ります。

アドバイス

- DMS　は次のような場合に一時停止します。
  - DMS 本体の温度が高い、または低いとき
  - ドライバーモニターカメラの温度が高い、または低いとき
  - 運転者の目、鼻、口、頭の位置などが適切に検知できないとき

状況が改善すると、DMS の一時停止は解除されます。

- DMS に異常がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

ドライバーモニターカメラ・LED について

アドバイス

DMS を正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- ドライバーモニターカメラおよび LED にステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。
- ドライバーモニターカメラおよび LED を傷つけないでください。
- ドライバーモニターカメラおよび LED に触れて指紋を付けたり、汚したりしないでください。指紋や汚れが付着した場合には、柔らかい布で乾拭きするか、硬く絞って水気を除いた布で軽くふき取ってください。
- ドライバーモニターカメラおよび LED に強い衝撃を与えないでください。

OSS について

DMS には、オープンソースを使用したソフトウェア (OSS) が含まれています。下記 web サイトにライセンス情報が記載されています。

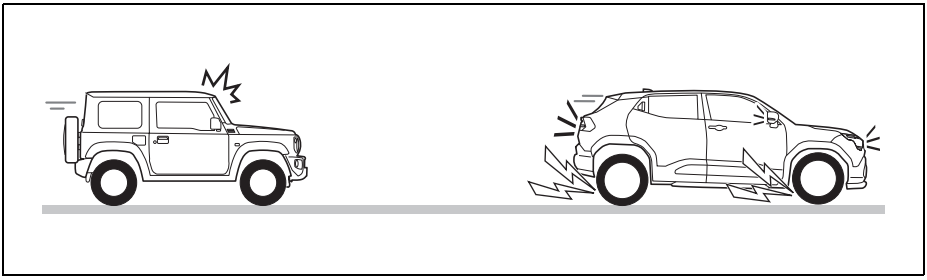
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0602/

運転支援装置

エマージェンシーストップシグナル（ESS）

ESS とは Emergency Stop Signal（エマージェンシーストップシグナル）の略です。ESS は次の条件をすべてみたしているときに、非常点滅表示灯を通常よりも速く点滅させることで、後続車へ注意を促す機能です。またその際、メーター内の方向指示器表示灯もあわせて点滅します。

- ブレーキペダルを踏み込んだときの車速が約 55 km/h 以上のとき
- ABS が作動しているとき、または ABS が作動するような急ブレーキのとき



ESS は次の状態になると機能が停止します。

- 車速が十分に低下したとき
- ブレーキペダルを離したとき
- ABS の作動が終了したとき
- 非常点滅表示灯スイッチの位置を ON にしたとき

⚠ 警告

ESS は走行中の急ブレーキ時に、後続車に注意を促すことで追突を軽減する機能で、すべての追突を防ぐものではありません。減速や停車するときは不要な急ブレーキはさけ、常に安全運転に努めてください。

アドバイス

- ESS の機能を停止させることはできません。
- ESS の機能よりも、非常点滅表示灯スイッチの操作が優先されます。
- 次のような路面を走行中に、一瞬しか ABS が作動しなかったときは、ESS は作動しないことがあります。
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

ABS 装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ABS とは Antilock Brake System（アンチロックブレーキシステム）の略です。

ABS はブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

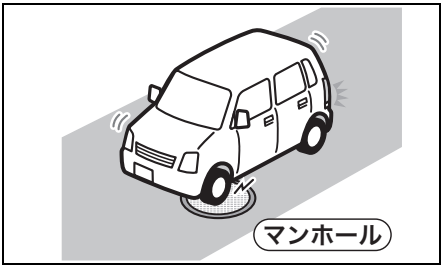
⚠ 警告

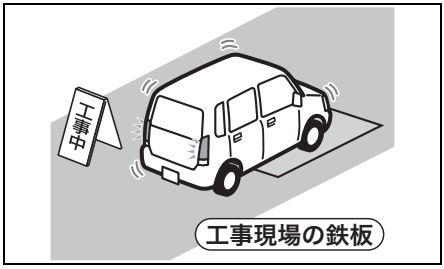
- **常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABS による制御には限界があります。**
- **ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※1）が起こったりした場合は効果を発揮できません。**

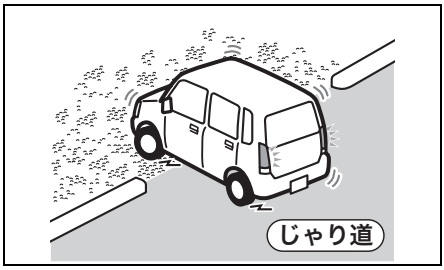
  ※1 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

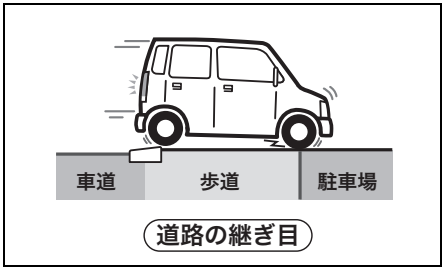
- 滑りやすい路面を走行しているとき

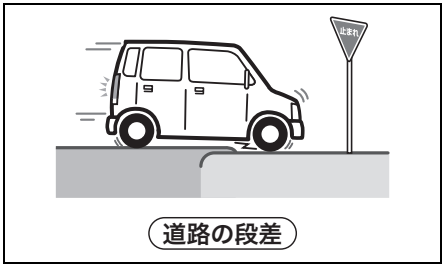




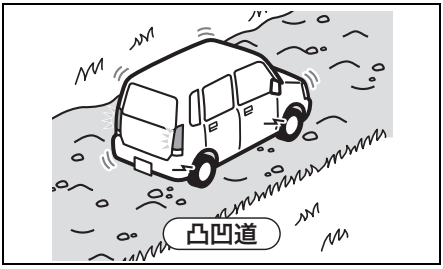


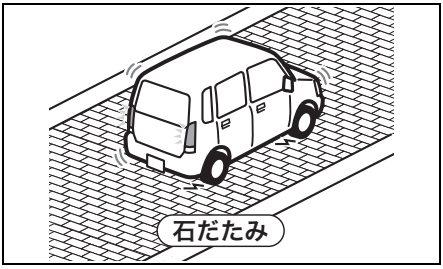
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき





- 悪路を走行しているとき





ABS 作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS の作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

EV システムを始動して発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

タイヤについて

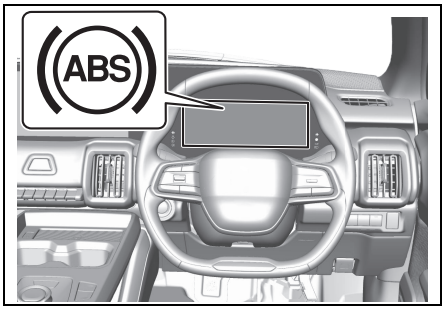
⚠ 警告

ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。4 輪とも指定のサイズではなく、メーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一ではないもの、もしくは著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用すると、正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ交換時は、指定のサイズで、4 輪ともサイズ、メーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。

また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。

ABS 警告灯



ABS の電子制御システムに異常があると、パワースイッチが “ON” のときに点灯します。

ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABS の効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

アドバイス

次の場合にもブレーキからの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを踏んだときのモータールームからの作動音
- 運転席のドアを開けたときに車両の前部から聞こえるブレーキシステムのモーター音
- EVシステムを停止してから1～2分後に聞こえるモータールームからの作動音

ESP® 装備車の取扱い

ESP®（※1）は、ABS、ブレーキアシスト、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※1 ESP® は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Mercedes-Benz Group の登録商標です。

ESP® には、次のシステムが含まれています。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

次の参照先を確認してください。**(>>> P.370)**

ブレーキアシスト

ABS のブレーキアシストと同様です。

トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびEVシステムの出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

アクティブコーナリングサポート

旋回中に加速すると、内輪にブレーキ制御を行ない、車両が外側にふくらむこと（アンダーステア）を抑制します。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP® による制御には限界があります。

⚠ 注意

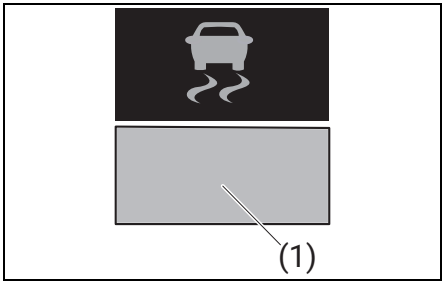
- **次のことをお守りください。**
  守らないと ESP® が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
  - **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  - **タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
  - **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
  - **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
  - **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、ESP® が正常に作動しない場合があります。**

アドバイス

次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。

- パワースイッチを “ON” にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだ状態でパワースイッチを “ON” にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
- EV システムを始動したとき
- EV システムを始動して、最初の発進時

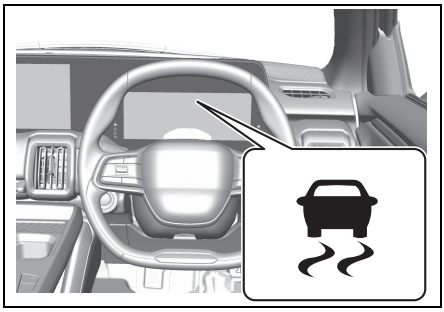
次のメッセージが表示されたときは、ESP® のシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



(1) “ESP® システム異常
点検を受けてください ”

ESP® 作動表示灯

- 次のような状況になると、0.2 秒間隔で小刻みに点滅します。
  - 発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
  - 急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している
  - ABS が作動している
- システムが正常な場合はパワースイッチを “ON” にしたときに、数秒間点灯したあと消灯します。
- ESP®の電子制御システムに異常があると、パワースイッチが のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
  次の機能が作動しません。
  - トラクションコントロール
  - スタビリティコントロール
  - スズキ セーフティ サポート
    ヒルホールドコントロールも作動しない場合があります。
    ABS は作動します。
    ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。



⚠ 注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。
とくに慎重に運転してください。

! 注記

走行中に ESP® 作動表示灯が点灯したまま消えない場合、ESP® システム（ABS 以外）に不具合がある可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

ESP® を作動停止（OFF）にする

ESP® システム（ABS 以外）は、センターディスプレイの設定で作動停止（OFF）にすることができます。

ESP® システムが作動停止（OFF）になると、メーター内の ESP® OFF 表示灯が点灯します。

次のようなときは、ESP® システムを作動停止（OFF）にしてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。

- 車検を受けるときなどテスターに載せる場合。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止（OFF）の状態にする必要があります。
- スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。

スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、システムを復帰させトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にしてください。

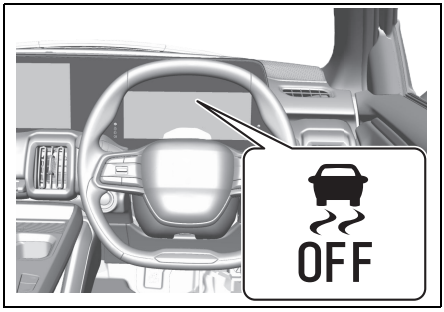
ESP® システムが復帰すると、メーター内の ESP® OFF 表示灯が消灯します。

アドバイス

- 安全のため、ESP® OFF スイッチを操作しても、ABS およびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- ESP® を作動停止（OFF）にすると、デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II ）OFF 表示灯および車線逸脱抑制 OFF 表示灯が点灯し、スズキ セーフティサポートの一部機能が停止します。（前方衝突警報と誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の EV システムの出力を抑制する機能は作動します）

ESP®OFF 表示灯

- パワースイッチが“ON”のときに、ESP® を作動停止（OFF）にすると点灯します。
  - 点灯中は、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
- システムが正常な場合はパワースイッチを “ON” にしたときに、数秒間点灯したあと消灯します。



ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約 2 秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

⚠ 警告

- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車が後退してしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。ヒルホールドコントロールを過信せず、必要に応じてブレーキペダルを踏み、安全運転を心がけてください。**

- **ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。**
- **停止するときにブレーキペダルの踏み方が不十分な場合、ヒルホールドコントロールが作動しないことがあります。**
- **ブレーキペダルから足を離したまま 2 秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。**
- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るとき、ヒルホールドコントロールが作動するとタイヤがロックし、車両がコントロールできない場合があります。**

ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約 2 秒間、車が後退することを防ぎます。

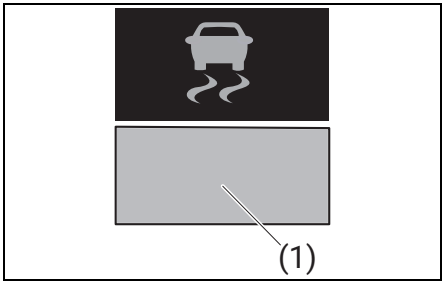
- ダイヤルシフトが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである
- ブレーキペダルをしっかり踏んでいる

アドバイス

作動中に下記のような状態になることがありますが、異常ではありません。

- モータールームから音が聞こえる
- ブレーキペダルが硬くなり踏み込めないことがある

次のメッセージが表示されたときは、ヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



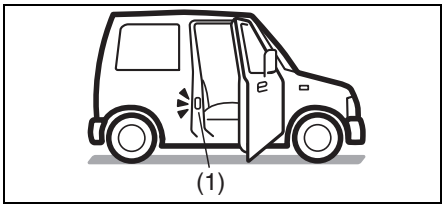
(1) “ ヒルホールド機能停止中 ”

5

走行するときは

タイヤの空気圧を適正に

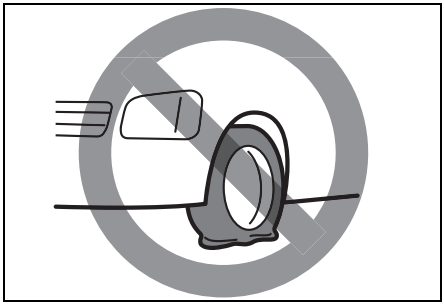
- タイヤの空気圧が低いと電費を悪化させます。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「空気圧ラベル」で確認のうえ、調整してください。



(1) 空気圧ラベル

⚠ 警告

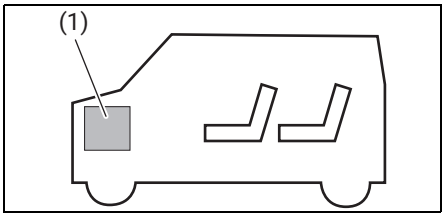
- **空気圧が低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  空気圧が極端に低いまま走行しないでください。



- **指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。**
  タイヤの空気圧は指定空気圧に調整してください。
  - **走行安定性が悪化する**
  - **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
  - **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
    ABS
    エマージェンシーストップシグナル（ESS）
    ESP®
    スズキ セーフティ サポートの一部機能

鉛バッテリーを点検して

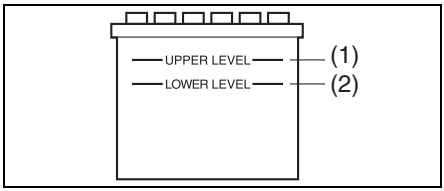
この車は、鉛バッテリーを搭載しています。



(1) 鉛バッテリー

鉛バッテリーの液面を点検する

液面が下限より下にあるときは、バッテリー補充液を上限まで補充してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。



(1) 上限
(2) 下限

⚠ 警告

- **バッテリー液が不足すると、発熱して爆発のおそれがあります。バッテリー液量が下限以下のまま使用または充電しないでください。**
- **バッテリー端子にゆるみがあると、火災や故障の原因となります。バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。**

! 注記

次のことをお守りください。お守りいただかないと､故障の原因となったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
- **バッテリー端子から電気製品の電源をとらない**

高速走行するときは

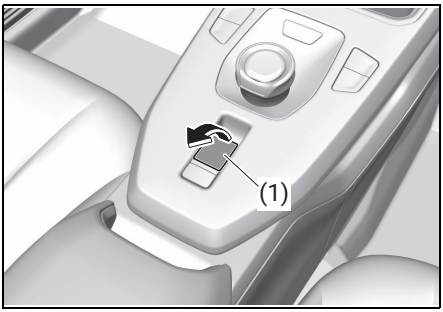
高速道路や自動車専用道路を走行するときは、以下の点に注意してください

- 走行速度が速くなると、車両が停止するまでの距離は長くなります。停止するための十分な距離をとってブレーキをかけてください。
- 水たまりを高速で通り抜けると、ハイドロプレーニング現象が発生することがあります。ハイドロプレーニング現象とはタイヤと路面の間に水が入り込む現象で、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。路面が濡れているときは速度を落として走行してください。
- 高速走行時には、車両が横風の影響を受けることがあります。トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通りすぎるときなどは速度を落とし、横風に注意して走行してください。

駐車するときは

平らな場所に駐車するときは

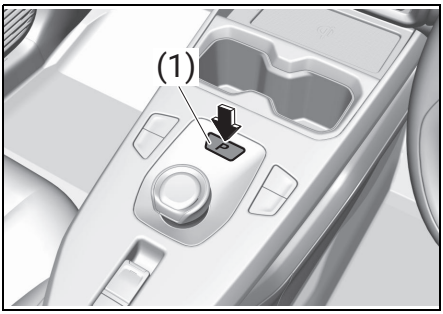
1) ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチを引いて、電動パーキングブレーキ作動表示灯が点灯していることを確認します。



(1) パーキングブレーキスイッチ

2) P ポジションスイッチを押します。

- ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。



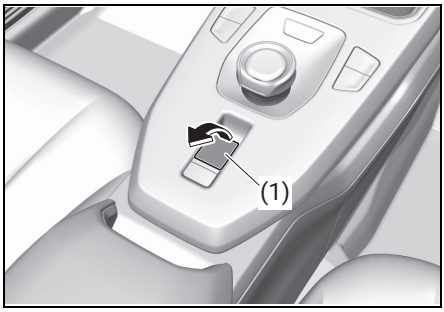
(1) P ポジションスイッチ

⚠ 注意

- **平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、P ポジションスイッチを押してください。**
- **寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。**

坂道に駐車するときは

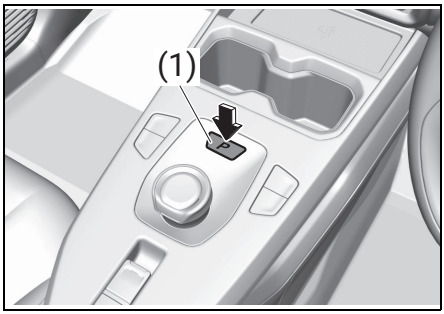
1) ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチを引いてパーキングブレーキをかけます。



(1) パーキングブレーキスイッチ

2) P ポジションスイッチを押します。

- ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。



(1) P ポジションスイッチ

3) 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠ 警告

急な坂道に駐車すると、無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

急な坂道には駐車しないでください。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

寒冷時の運転

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠ 警告

雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、など「急」のつく運転はしないでください。



ブレーキの効き具合を確認

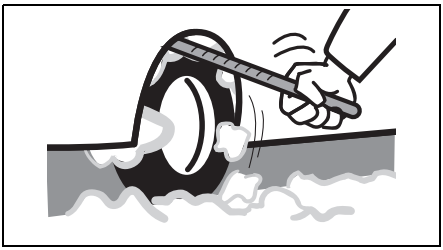
ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 警告

- **適合品以外を装着すると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**
  タイヤチェーンは、適合品以外を装着しないでください。
- **走行中にいつもと違う音がした場合、タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**
  走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。
- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ(30 km/h以下)にしてください。**
- **急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど「急」のつく運転をしないでください。**
- **路面の突起や穴を避けてください。**

! 注記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行すると、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。

アドバイス

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。

- ABS
- エマージェンシーストップシグナル(ESS)
- ESP®
- スズキ セーフティ サポートの一部の機能

タイヤチェーンを装着する前に

タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。後輪には装着しないでください。

ジャッキアップに適した安全な場所で装着

次の参照先の 1、2 をお読みください。 **(>>> P.487)**

応急用スペアタイヤ（別売り）には装着できません

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてから、タイヤチェーンを前輪に装着します。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

! 注記

アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従い、正しく装着してください。

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

スズキエクスターウインドーウォッシャー液の場合

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通常	原液 1 に水 3	約－ 5 ℃
温暖地の冬期	原液 1 に水 2	約－ 9 ℃
寒冷地の冬期	原液 1 に水 1	約－ 15 ℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約－ 40 ℃

鉛バッテリー

鉛バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーでは EV システムは始動しにくくなります。

冷却水

凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

! 注記

冷却水に水漏れ防止剤などの添加剤を入れると、次の原因につながる可能性があります。

- **冷却水路の詰まりや腐食**
- **電気絶縁性の低下**

冷却水に水漏れ防止剤などの添加剤を入れないでください。

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

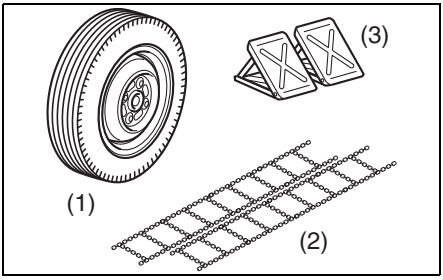
アドバイス

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

- 雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。
- スノーブレードはスズキ純正品の使用をおすすめします。スズキ純正品以外のものを使用すると適切に機能しないおそれがあります。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



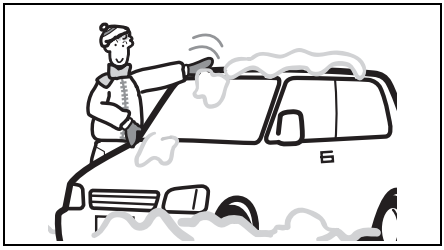
(1) 冬用タイヤ（市販品）
(2) タイヤチェーン（別売り）
(3) 輪止め（市販品）

出発の前に

屋根に積もった雪

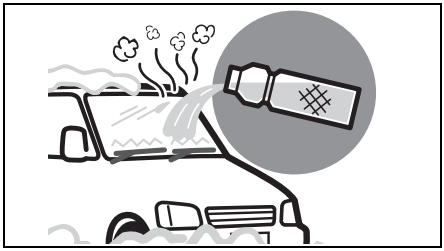
出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。

- フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）が正常に作動しない場合があります。



ワイパーの凍結

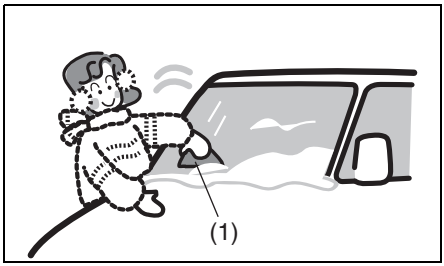
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



ガラス面の雪や霜

プラスチックの板を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。

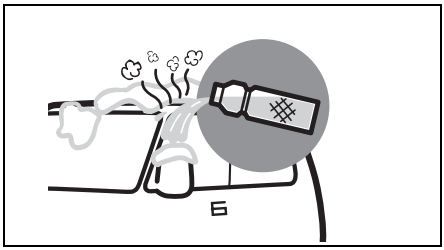
- フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）が正常に作動しない場合があります。



(1) プラスチックの板

ドアミラーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障するおそれがあります。

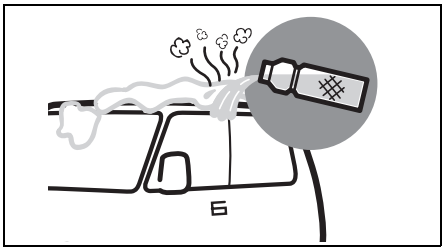


! 注記

- **ドアミラー格納スイッチの場合、ミラーを手で動かすことが可能かを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。**
- **リモート格納ミラーの場合、ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。**

ドアの凍結

ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



靴に付着した雪

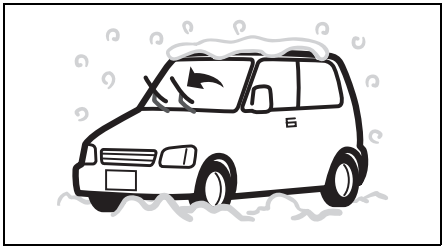
乗車するときによく落としてください。

そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



屋外に駐車するときは

フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II）が正常に作動しない場合があります。



! 注記

- **軒下や樹木の下に駐車すると、積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。**
- **降雪時は、軒下や樹木の下には駐車しないでください。**
- **降雪時に屋外に駐車すると、雪の重みでワイパーアームが変形したり、ワイパーラバーがガラス面に凍り付くことがあります。**
- **駐車するときは、ワイパーアームを立ててください。**

駐車するとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

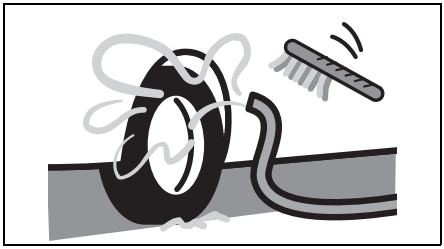
- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。また、ブレーキホールドシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。
- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを “P” にして駐車し、必ず輪止め（市販品）を使用してください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションを “P” にしたあとにパーキングブレーキを解除してください。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを “P” にした状態でダイヤルシフトが動かないことを確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。

凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。



6. 装備の取扱い

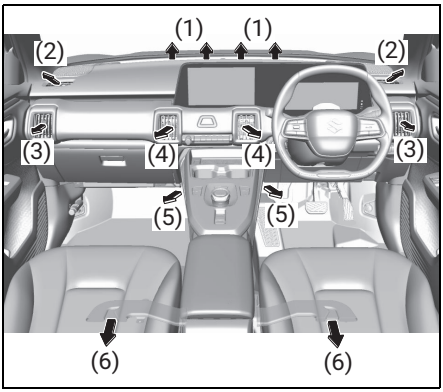
エアコン・ヒーターの使いかた . 386
エアコンの吹き出し口 386
オートエアコン 387
各スイッチの使いかた 389
エアコンの上手な使いかた 394
リモート操作によるエアコン操作について 395
シートヒーター 397
ステアリングヒーター 398

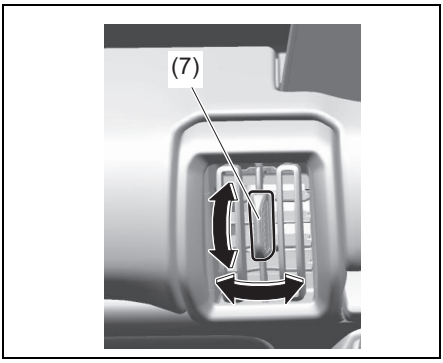
室内灯の使いかた 400
室内灯 400

収納スペース 404
収納スペース 404
ドリンクホルダー 406
ショッピングフック 408
ラゲッジシェルフ（荷室カバー）. 408
ラゲッジボード 409

そのほかの装備 411
サンバイザー 411
可倒式アシストグリップ 412
フットレスト 413
アームレスト（ひじ掛け）..... 413
アクセサリーソケット 414
USB ソケット 415
AC 電源コンセント（100V、1500W）[非常時給電モード付].. 416
ワイヤレス充電 426
ガラスルーフ (サンシェード付き)（タイプ別装備）..... 431
ルーフラックアンカー 431
アンテナ 432
オーディオ機能について 432
ステアリングオーディオスイッチ 433

エアコンの吹き出し口





(1) デフロスター
(2) サイドデミスター
(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口
(5) 足元吹出し口
(6) 後席足元吹出し口（リヤヒーターダクト）
(7) ノブ

- ノブを上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。

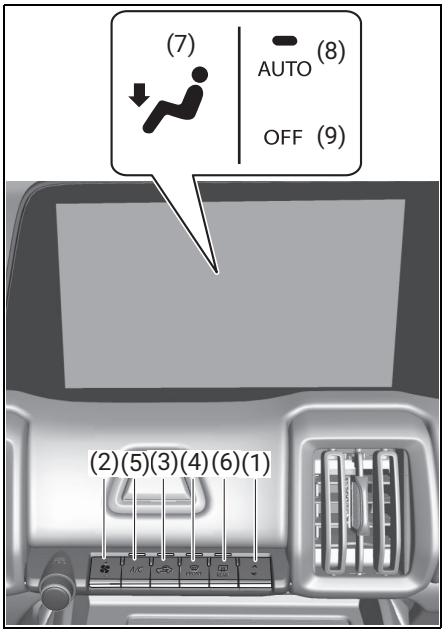
⚠ 注意

エアコンやヒーターからの温風に長時間さらされると、低温やけどのおそれがあります。とくに、お子さま、お年寄り、皮膚の弱い方が乗車される場合や、同乗者が仮眠される場合には、足元の吹出し口からの温風に長時間さらされないように注意してください。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

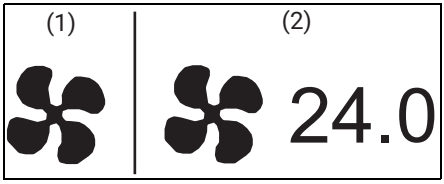
オートエアコン



(1) 温度調節スイッチ
(2) ファン（風量）調節スイッチ
(3) 内外気切替えスイッチ
(4) デフロスタースイッチ
(5) エアコンスイッチ
(6) リヤデフォッガースイッチ
(7) モード（吹出し口）切替えスイッチ
(8) “AUTO” スイッチ
(9) “OFF” スイッチ

アドバイス

- モード（吹出し口）切替えスイッチ、“AUTO ” スイッチ、“OFF” スイッチは、センターディスプレイで操作できます。
  操作するには センターディスプレイの “ エアコン ” アイコン、または温度およびファン（風量）調節アイコンを選択します。
- 温度調整や風量調節もセンターディスプレイで操作できます。



(1) “ エアコン ” アイコン
(2) 温度およびファン（風量）調節アイコン

オートエアコンの使いかた（操作手順）

! 注記

EV システムが停止中にエアコンを使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。EV システム停止中は、エアコンを長時間使用しないでください。

自動で使うとき

“AUTO ” スイッチを押して温度調節スイッチで希望の温度を設定すると、各機能が自動制御されます。ただし、デフロスター位置へは自動で切り替わりません。

1) EV システムを始動させ、“AUTO ” スイッチを押します。
2) 温度調節スイッチを操作して希望温度を設定します。設定温度は LO、18 °C～ 32 °C、HI の間で、0.5 °C間隔で設定できます。
   - 25 °Cを基準に希望の温度を設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチを押してエアコンを止めてください。EV システムへの負荷が軽減され、電費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。また、冬場は暖房の使用を控えることで、消費電力を大幅に削減できます。暖房を使用していないときは、エアコンを切ってください。

3) エアコンスイッチを押してエアコン（冷房、除湿機能）の作動と停止を設定できます。

4) 作動を停止するときは、“OFF” スイッチを押します。

アドバイス

- EV　システムを停止しても設定温度を記憶しています。
- A UTO 作動中に、ファン（風量）調節スイッチ、モード（吹出し口）切替えスイッチのいずれかを操作すると、操作したスイッチの機能が優先されて AUTO 表示が消えます。ただし、操作したスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO 作動中にデフロスタースイッチを押すと、AUTO 表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- シートヒーターやステアリングヒーターを作動させると、よりエネルギー効率の高いシートヒーターやステアリングヒーターの使用を優先することで、空調システムの電力消費を抑えながら快適さを維持できます。
- 車両の状態によっては、走行性能を確保するために空調を制限する場合があります。

手動で使うとき

好みにあわせてスイッチを操作してください。

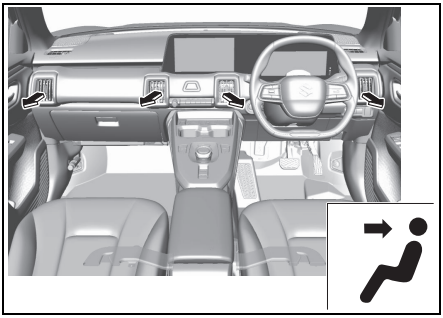
- AUTO　作動中でも、操作したスイッチの機能が優先され、操作したスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を　AUTO　にもどすときは、“ AUTO” スイッチを押します。
- 止めるときは、“OFF”スイッチを押します。

各スイッチの使いかた

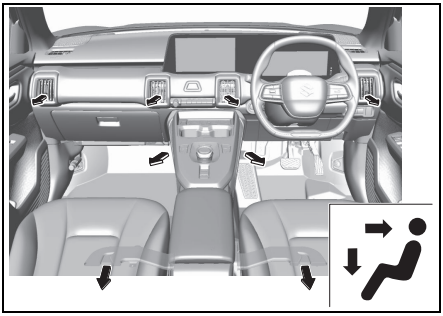
モード（吹出し口）切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

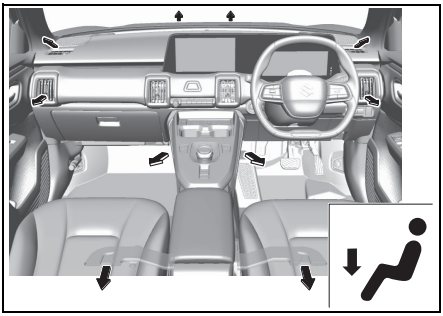
上半身に送風したいとき



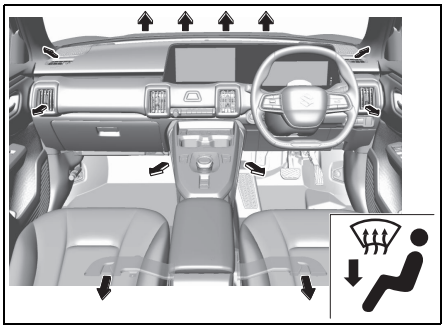
上半身、足元に送風したいとき



足元へ送風したいとき



足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき



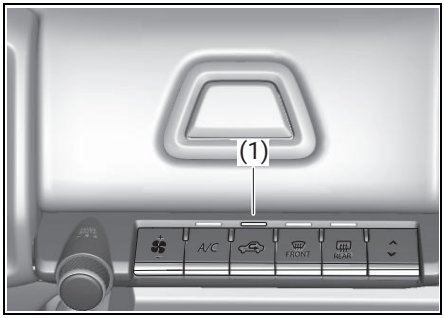
アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わります。内気循環のときに、スイッチの上の表示灯が点灯します。

モード	表示灯	状態
外気導入	消灯	外気を導入しています。 • 通常はこの位置でお使いください。
内気循環	点灯	内気を循環しています。 • トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。



(1) 表示灯

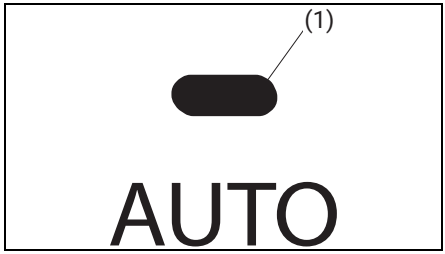
アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切替えてください。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。
- 内気循環を選択しているときは、“AUTO”スイッチを押しても内気循環はそのままで自動制御されません。
- 設定温度、室内温度、外気温度などに応じて、外気導入と内気循環を自動的に切り替えることがありますが、異常ではありません。

“AUTO” スイッチ

“AUTO” スイッチを押すと、ディスプレイに表示灯が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え



(1) 表示灯

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹出し口切替え表示が（上半身、足元に送風したいとき）のときに、温度調節を中間の温度に設定すると、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

温度調節スイッチ

温度調節スイッチを操作すると、LO、18 ℃～ 32 ℃、HI の間で設定温度を変更できます。設定温度はディスプレイに表示されます

- 温度を高くするときは、温度調節スイッチを押し上げます。連続調節するときは、押し上げ続けます。
- 温度を低くするときは、温度調節スイッチを押し下げます。連続調節するときは、押し下げ続けます。
- 18 ℃のときに温度調節スイッチを押し下げると、ディスプレイに LO が表示され、最大冷房になります。また、32 ℃のときに温度調節スイッチを押し上げると、ディスプレイに HI が表示され、最大暖房になります。

アドバイス

- LO または HI が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。
- 外気温が高い場合、ヒーターの作動が制限されることがあります。

ファン（風量）調節スイッチ

ファン（風量）調節スイッチを操作すると、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- 風量を大きくするときは、ファン（風量）調節スイッチを押し上げます。連続調節するときは、押し上げ続けます。
- 風量を小さくするときは、ファン（風量）調節スイッチを押し下げます。連続調節するときは、押し下げ続けます。
- ファンを停止するときは、“OFF”スイッチを押します。

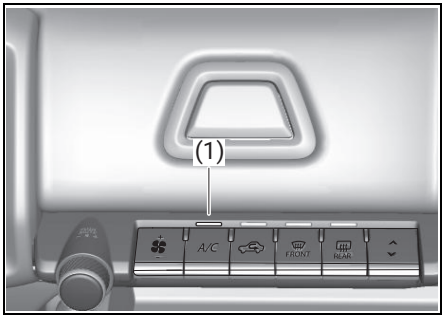
アドバイス

設定温度、室内温度、外気温度などに応じて、風量を自動的に切り替えることがありますが、異常ではありません。

エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。



(1) 表示灯

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを押してエアコンを作動させると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が 0 °C近くまで下がると、エアコンが停止します。このため、外気温度が 0 °C近くまで下がっているとき外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを押してエアコンを作動させると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。
- 除湿暖房は、エアコンスイッチを押さない暖房に比べ暖房性能が低下します。除湿をしないときは、エアコンスイッチを押してエアコンを止めてください。

デフロスタースイッチ

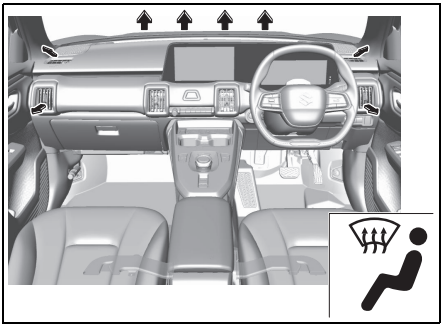
窓ガラスがくもったときに、デフロスタースイッチを押してくもりを取ります。

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切り替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯します。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。(オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります。)

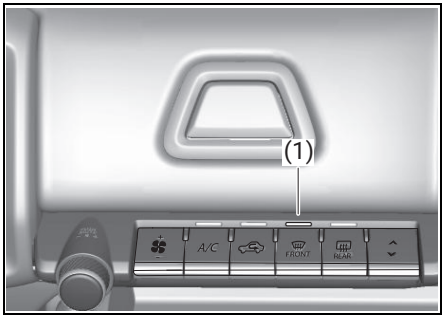
- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン(風量)調節スイッチを操作して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押してエアコンを停止してください。

窓ガラスのくもりを取りたいとき



アドバイス

- 内気循環に切替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチ内の表示灯は吹出し口がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。



(1) 表示灯

- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

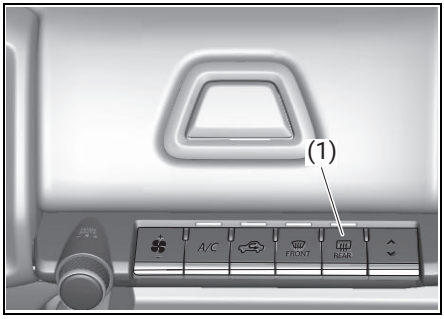
“OFF” スイッチ

“OFF” スイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

リヤデフォッガースイッチ／ワイパーデアイサースイッチ／ドアミラーヒータースイッチ

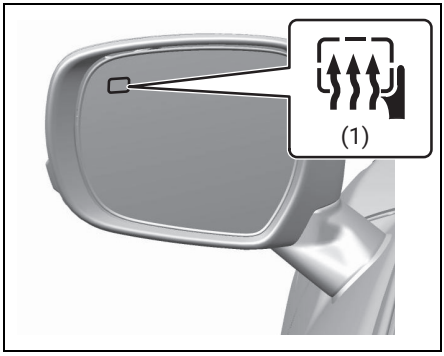
スイッチを押すとバックドアガラス内側のくもりを取ることができます。

同時に、フロントガラス下部およびフロントピラー横が温められ、ワイパーブレードの凍結を防止します。



(1) リヤデフォッガースイッチ／ワイパーデアイサースイッチ／ドアミラーヒータースイッチ

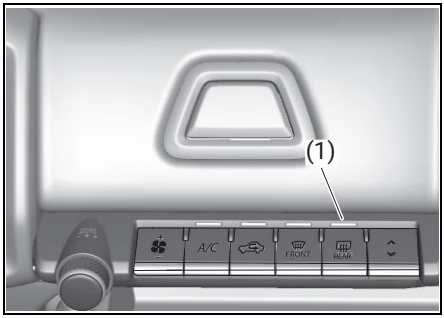
お車にはドアミラーヒーターが装備されています。スイッチを押すと、同時にドアミラーも温められミラーについたくもりを取ります。



(1) マーク

スイッチを押すと ON になり、表示灯が点灯します。

リヤデフォッガー／ワイパーデアイサー／ドアミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。



(1) 表示灯

スイッチを操作するとき

アドバイス

- リヤデフォッガー／ワイパーデアイサー／ドアミラーヒーターは、パワースイッチが “ ON” のときに使用できます。
- 使用中にパワースイッチを “ACC” または “LOCK （OFF）” にすると、パワースイッチを再度 “ON” にしても自動的にスイッチは入りません。
- 鉛バッテリー保護のため､約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- ドアミラーヒーターは、運転席側のドアミラーにのみマークがついていますが、左右両方のドアミラーが同時に作動します。
- バックドアガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください

ナノイー X（タイプ別装備）

「ナノイー」（※1）とは、空気中の水分から生みだされる微粒子です。お肌と同じ弱酸性で、人に優しいイオンです。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

- 「ナノイー」は、ファンの作動と連動して、運転席側のサイド吹出し口を通じて放出されます。
- 「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 「ナノイー X」の作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- 「ナノイー X」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
- 作動直後は作動音が大きい場合があります。

⚠ 警告

「ナノイー」発生装置は高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

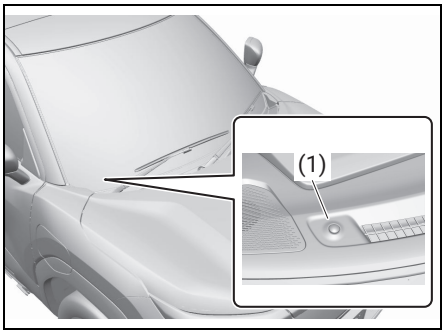
アドバイス

車内の環境（温度・湿度）・風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

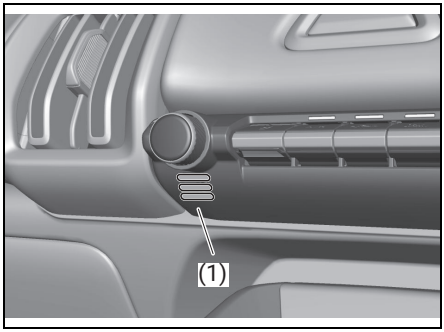
エアコンの上手な使いかた

温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー、室温センサー、外気温センサーなどによって周囲の状況を感知し、自動制御しています。



(1) 日射センサー



(1) 室温センサー

アドバイス

日射センサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないでください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

長期間使用しないときは

月に 1 回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアコンガスを充填するときは

- エアコンガスを充填するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

リモート操作によるエアコン操作について

専用アプリによるスマートフォンからのリモート操作で EV システムを起動し、エアコンを作動させることが可能です。リモート操作には操作上の注意事項があります。次の内容をよく読み、正しい取扱いをしてください。

リモートエアコンを使用するには、スズキコネクトへの契約が必要となります。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください

⚠ 警告

- **乗員やお子さま、ペットが車内にいる状態でリモート操作による EV システムの起動は絶対にしないでください。パワーウインドーが突然動く状態になるほかに、重大事故につながるおそれがあります。**
- **リモート操作による EV システムの起動は必ず車両周囲の安全が十分確認できる範囲で車外から行ってください。車内で行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **リモート操作による電波は、周辺環境により電波状態が不安定で通信できない場合があります。むやみにスイッチを操作しないでください。また、不意の EV システム始動による思わぬ事故を防ぐため、車両周囲の安全を十分確認できる範囲でのみご使用ください。**
- **一般公道でリモート操作を使用しないでください。道路交通法違反となる場合があります。**
- **安全な作業を行うために以下の点にご注意ください。**
  - **点検やメンテナンスのためにスズキ販売店またはスズキ代理店、充電施設に車両を入庫している間は、リモート操作を使用しないで**

ください。点検中やメンテナンス作業中に不意に EV システムが起動した場合、手足を押しつぶされたり、挟まれたりするおそれがあります。

- **車両の点検や整備を行う際は、鉛バッテリーのマイナス端子を外してください。**

- **“READY”表示灯が点灯中はEVシステム作動中の思わぬ事故を防止するため、駐車時に以下の内容を確認してください。**
  - **ワイパースイッチがOFFになっているか確認してください。**
  - **すべての窓が閉まっており、ドアが施錠（ドアロック状態）されているか確認してください。**
- **シフトポジションが”P”で、パーキングブレーキまたは輪止め（市販品）により車両が動かない状態になっていることを確認してください。**

アドバイス

周囲や環境への配慮のため、リモート操作によるエアコン操作の使用は必要最小限としてください。

リモートエアコンが正常に作動しない場合

次のようなとき、リモート操作によるエアコン操作が正常に作動しない場合があります。

- お車の室内温度が非常に高いとき
- 車載通信機が通信できない環境または状態であるとき
- 駆動用バッテリーの電圧が低下しているとき
- ドア、ボンネット、バックドアが開いているとき
- 携帯リモコンが車内にあると検知されたとき
- パワースイッチが “ON” のときまたは “READY” 表示灯が点灯しているとき
- ブレーキを踏んでいるとき
- シフトポジションが “P” 以外のとき
- エアコンに異常があるときや故障のとき
- パワースイッチを押したとき

作動時間について

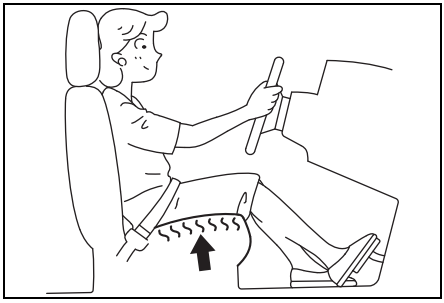
1回の操作での作動時間は 1 ～ 20 分間で、1 分単位で設定できます。

アドバイス

設定した作動時間を変更する場合は、エアコンのリモート操作を停止してから再設定してください。

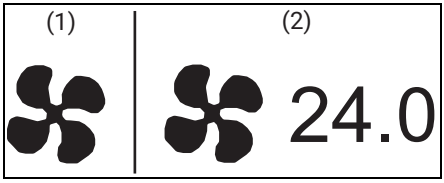
シートヒーター

“READY” 表示灯が点灯中に、センターディスプレイでシートヒーターの設定ができます。



シートヒーターの使いかた

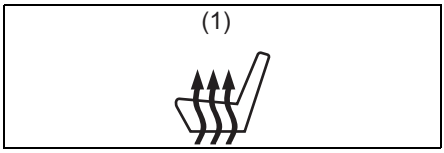
1)センターディスプレイにある“エアコン ” アイコンを押すか、温度およびファン（風量）調節アイコンを押します。



(1) “ エアコン ” アイコン

(2) 温度およびファン（風量）調節アイコン

2)シートヒーターアイコンを選択します。



(1) シートヒーターアイコン

3)シートヒーターアイコンを選択すると、シートヒーターが ON になり、温度を 3 段階から設定することがで きます。

OFF	OFF の状態
1	低温
2	中温
3	高温

⚠ 注意

- **長時間連続でヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因となるおそれがあります。**
- **次の方はシートヒーターの使用を控えてください。:**
  - **お年寄りや体の不自由な方などで、脚の感覚が低下している方**
  - **小さなお子さまや肌の弱い方**
  - **眠っていたり、アルコールや薬などの影響で眠気をもよおしている方**
- **毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。異常過熱の原因となるおそれがあります。**

! 注記

- **シートクッションにはヒーターやシートベルトリマインダーのセンサーが内蔵されています。シートクッションの上に重いものや尖ったもの等を置いたり、取り外しや分解、改造等を行なったりすると、センサーが誤作動したり破損したりするおそれがあります。シートクッションの上に重いものや尖ったもの等は置かないでください。座席の取り外しや分解・改造は行なわないでください。**
- **シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。シートに内蔵されているヒーターやシートベルトリマインダーセンサーが損傷するおそれがあります。**

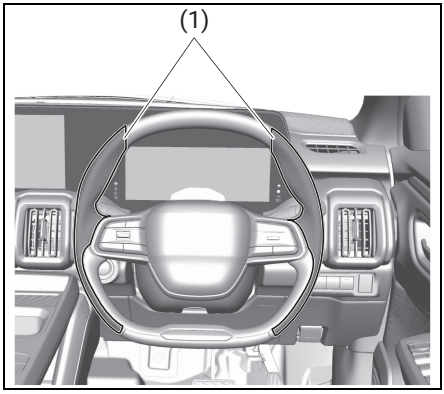
- **シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーター、シートベルトリマインダーセンサーが損傷する原因となります。**
- **詳細は「内装のお手入れ」を参照してください。 (>>> P.440)**
- **鉛バッテリー保護のため、パワースイッチが“ON”のときに使用してください。**
- **シートヒーターの損傷を防ぐためには：**
  - **お子さまが飛び乗るなどして、前席に大きな衝撃を与えない**

アドバイス

ヒーターは自動停止しません。スイッチを切らないと、作動し続けます。希望の温度になったらスイッチを切ってください。

ステアリングヒーター

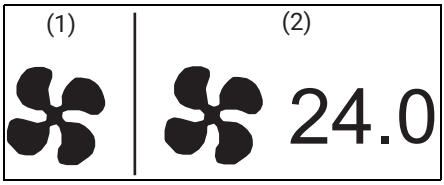
ハンドルの左右のグリップ部をあたためることができます。



(1) グリップ部

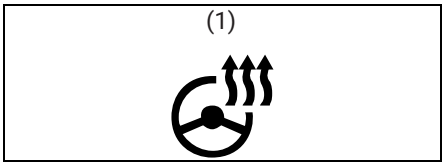
ステアリングヒーターの使いかた

1) センターディスプレイの“ エアコン ”アイコンを押すか、温度およびファン（風量）調節を押します。



(1) “ エアコン ” アイコン
(2) 温度およびファン（風量）調節アイコン

2) ステアリングヒーターアイコンを選択します。



(1) ステリアリングヒーターアイコン

3) ステアリングヒーターが作動します。
- ステアリングヒーターアイコンを再度選択すると、ヒーターが止まります。
- ハンドルがお好みの温度になったら、ヒーターを止めてください。

⚠ 注意

- **長時間連続でヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因となるおそれがあります。長時間連続でヒーターを使用しないでください。**
- **ヒーターに触れるとやけどのおそれがあります。次の方がヒーターに触れないようにご注意ください。**
  - **乳幼児やお子さま**
  - **お年寄り**
  - **病人**
  - **体の不自由な方**
  - **皮膚の弱い方**
  - **疲労が蓄積した方**
  - **倦怠感のある方**
  - **車内で仮眠する前に眠気を誘う薬を服用した方**
- **ヒーターに針金や針などの鋭利なものを突き刺したりすると、発火や感電、けがのおそれがあります。針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。**

! 注記

- **ソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたままにすると、発火や感電、けがのおそれがあります。ソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。**
- **ハンドルカバーは使用しないでください。**
- **EV　システム停止中にステアリングヒーターを使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。鉛バッテリー保護のため、“ READY”表示灯が点灯しているときにステアリングヒーターを使用してください。**

アドバイス

ステアリングヒーターは一定時間がすぎると自動停止します。

室内灯

! 注記

EV システム停止中に長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。EV システム停止中は、室内灯を長時間点灯させないでください。

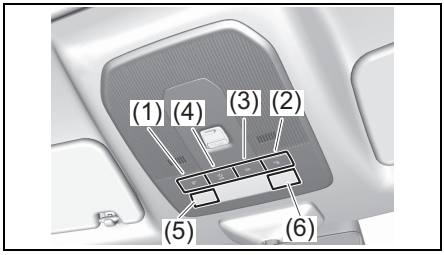
アドバイス

室内灯は非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

前席室内灯

前席室内灯スイッチ (左側) を押すと前席室内灯 (左側) が点灯し、前席室内灯スイッチ (右側) を押すと前席室内灯 (右側) が点灯します。前席室内灯スイッチ (左右両側) を押すと、前席室内灯 (左側) と前席室内灯 (右側) の両方が点灯します。

前席室内灯 OFF スイッチを押すと、ドアの開閉に関係なく消灯します。



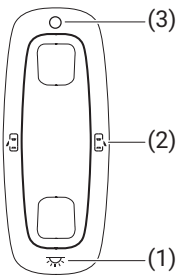
(1) 前席室内灯スイッチ（左側）
(2) 前席室内灯スイッチ（右側）
(3) 前席室内灯スイッチ（左右両側）
(4) 前席室内灯 OFF スイッチ（DOOR ）
(5) 前席室内灯（左側）
(6) 前席室内灯（右側）

アドバイス

- 鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、前席室内灯が自動的に消灯します。
  - パワースイッチが “LOCK（OFF）” の位置
  - 前席室内灯の OFF スイッチ（DOOR ）が押されていない
  - 前席室内灯が点灯後15分経過した

スイッチの状態	状況
前席室内灯スイッチ（左右両側）が押されている	ドアの開閉に関係なく点灯します。
前席室内灯 OFF スイッチ（DOOR）が押されていない	いずれかのドア（バックドアを含む）を開けると、点灯します。 • すべてのドアを閉めると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 • すべてのドアを閉じているときでも、パワースイッチを “ON” から “LOCK（OFF）” の位置にすると、約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。 • パワースイッチを “ACC” または “ON” の位置にする • キーによる施錠 • キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによる施錠
前席室内灯スイッチ（左右両側）が押されていない、または前席室内灯 OFF スイッチが押されている	ドアが開いていても消灯したままです。

後席室内灯



(1) ON
(2) DOOR
(3) OFF

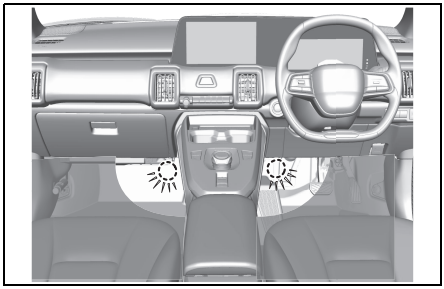
アドバイス

- 鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、後席室内灯が自動的に消灯します。
  - パワースイッチが “LOCK（OFF）” の位置
  - 後席室内灯スイッチが DOOR の位置
  - 中央室内灯が点灯後15分経過した

スイッチポジション	状況
ON	ドアの開閉に関係なく点灯します。
DOOR	いずれかのドア（バックドアを含む）を開けると、点灯します。 • すべてのドアを閉めると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 • すべてのドアを閉じているときでも、パワースイッチを“ON”から“LOCK（OFF）”の位置にすると、約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。 • パワースイッチを“ACC”または“ON”の位置にする • キーによる施錠 • キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによる施錠
OFF	ドアが開いていても消灯したままです。

足元照明

ドアが開いたときに点灯します。全てのドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。この間にパワースイッチを“ ACC”または“ON”の位置にすると、すぐに徐々に減光しながら消灯します。また“LOCK （OFF）”の位置にすると、15 秒間点灯したあと徐々に減光しながら消灯します。



アドバイス

パワースイッチを“LOCK （OFF）”の位置にしドアを開けたままにすると、鉛バッテリー保護のため、約 15 分後に自動的に消灯します。

- 設定が照明連動のときは、ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。
- 設定が照明連動またドア連動はのときは、室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときと同様に点灯します。（アンサーバック機能の設定切り替え時の室内灯 2 回点滅を除く）**(>>> P.504)**

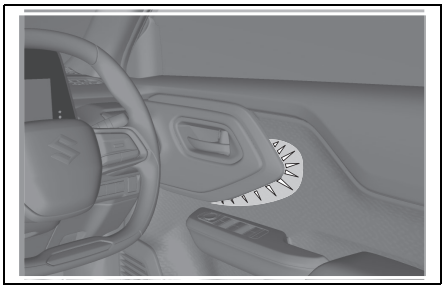
⚠ 注意

EV システム停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

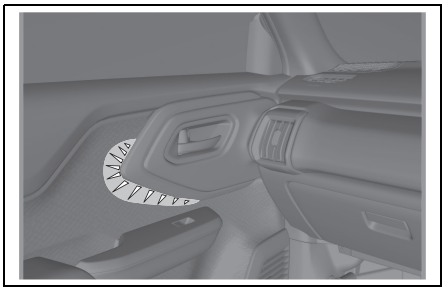
LED アンビエントライト

キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによりドアロックを解除すると、15 秒間点灯します。ドアを開けると 15 分間点灯します。ドアを閉めると、15 秒間点灯したあと徐々に減光しながら消灯します。周囲の明るさに応じてドア周辺の明るさを調整します。

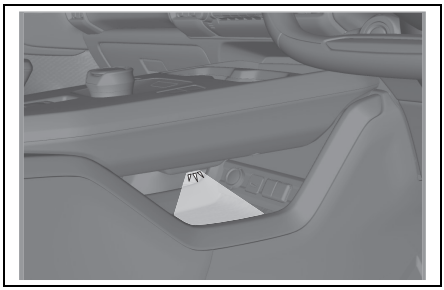
運転席側



助手席側



センターコンソールミドルトレイ

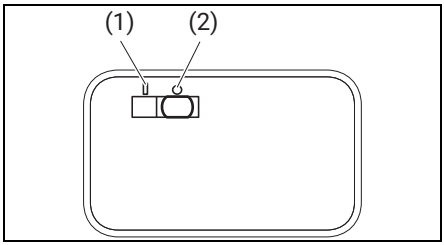


アドバイス

センターディスプレイのセッティングモードで、LED アンビエントライトの色を変更することができます。**(>>> P.503)**

荷室室内灯

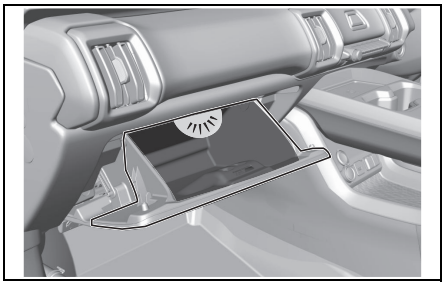
室内灯スイッチが ON 位置のときにバックドアを開けると、約 15 分間点灯します。室内灯スイッチが OFF 位置のときは、バックドアの開閉に関係なく消灯します。



(1) ON 位置
(2) OFF 位置

グローブボックス照明

ふたを開けている間、点灯します。



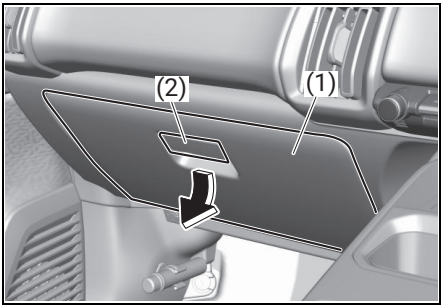
6

収納スペース

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

インストルメントパネル

- レバーを手前に引いてグローブボックスのふたを開けます。
- 閉めるときはカチッと音がするまで確実に閉めます。



(1) グローブボックス
(2) レバー

⚠ 警告

- **グローブボックスのふたを開けたまま走行しないでください。事故の際にけがをするおそれがあります。**
- **ライターやスプレー缶をグローブボックスに入れたままにしないでください。グローブボックスなどにライターやスプレー缶があると、荷物を押し込んだ時ときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**
- **助手席 SRS エアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたり、助手席 SRS エアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。**

⚠ 注意

グローブボックスのふたを開けたまま走行しないでください。加速やブレーキ、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、収容したものが飛び出して身体に当たったりするおそれがあります。

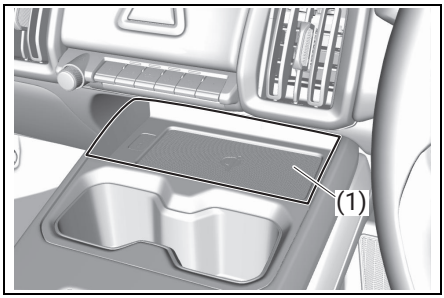
アドバイス

携帯リモコンをグローブボックスに置いた場合、検知できないことがあります。

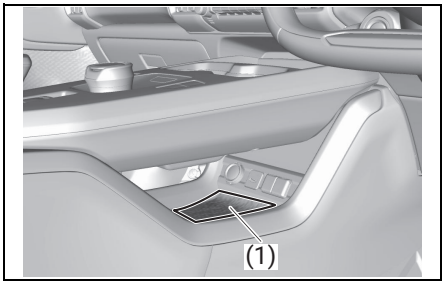
コンソール

オープントレイ

収納スペースは 2 か所あります。



(1) コンソールアッパートレイ



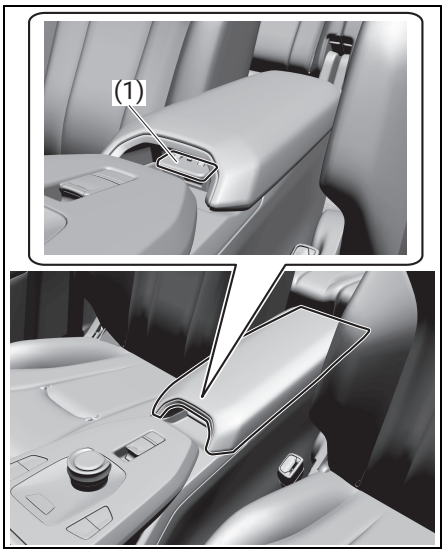
(1) センターコンソールミドルトレイ

⚠ 警告

ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。

センターアームレストボックス

開けるときは、レバーを引き上げながらふたを持ち上げます。



(1) レバー

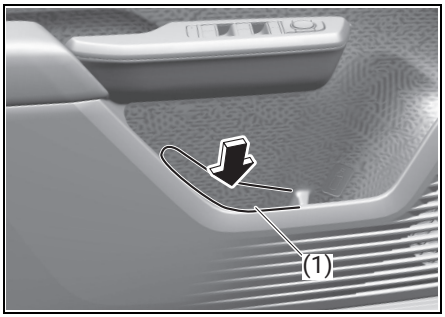
アドバイス

ものを出し入れしたあとは、ふたを閉めてください。

ドアポケット

前席

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



(1) ドアポケット

⚠ 注意

- **ドアポケットに、背が高い飲料用容器、また鋭利なもの、硬いもの、割れやすいものなどを置くと、走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。ドアポケットに鋭利なもの、硬いもの、割れやすいものを置かないでください。**
- **ドアポケットを掴んで引っ張ると、ポケットが破損し、けがをするおそれがあります。ドアを閉める際、ドアポケットを掴んで引っ張らないでください。**

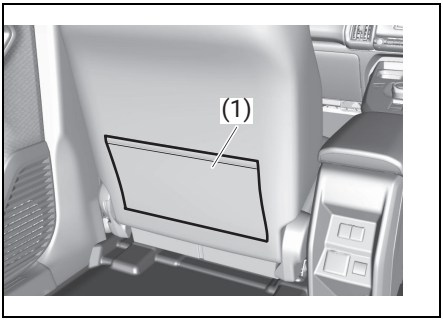
アドバイス

ドアポケットに携帯リモコンを置いた場合、検知できないことがあります

シートバックポケット

助手席側

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。



(1) シートバックポケット

⚠ 注意

シートバックポケットに、背が高い飲料用容器、また鋭利なもの、硬いもの、割れやすいものなどを入れると、走行中に落ちてけがをするおそれがあります。シートバックポケットに鋭利なもの、硬いもの、割れやすいものを入れないでください。

! 注記

鋭利なものや、重たいものを収納すると、シート表皮を破損するおそれがあります。シートバックには、鋭利なものや、重たいものを収納しないでください。

ドリンクホルダー

⚠ 警告

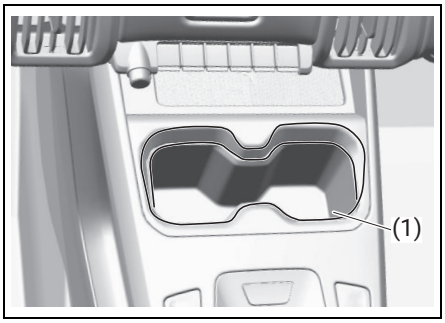
- **飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。**
  - **ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類**
  - **フロア下の配線や電気部品**
  - **ダイヤルシフトや、シートベルトバックルなどの可動部分**
- **ドリンクホルダーに、背が高い飲料用容器、また鋭利なもの、硬いもの、割れやすいものなどを置くと、走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。ドリンクホルダーには、缶ジュースやカップ、ペットボトルを置いてください。**
- **センターコンソールのカップホルダーには、カップと缶以外のものを置かないでください。**
- **後席のドリンクホルダーには、500mℓ を超えるサイズの紙パックを置かないでください。倒れたり、中身がこぼれたりするおそれがあります。**

アドバイス

- 携帯リモコンをドリンクホルダーやペットボトルホルダーに置いた場合、検知できないことがあります。
- 飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

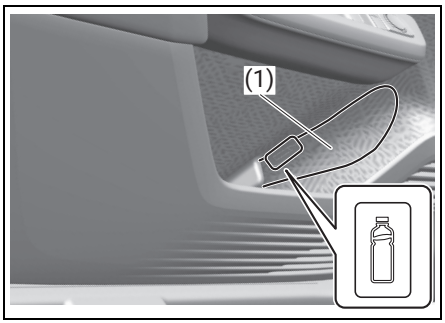
前席

センターコンソール



(1) 前席カップホルダー

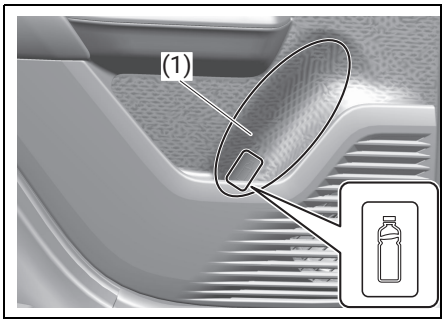
ドア



(1) ペットボトルホルダー

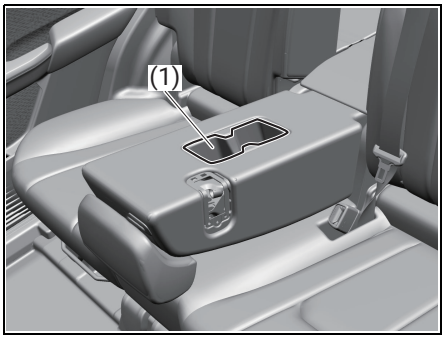
後席

ドア



(1) ペットボトルホルダー

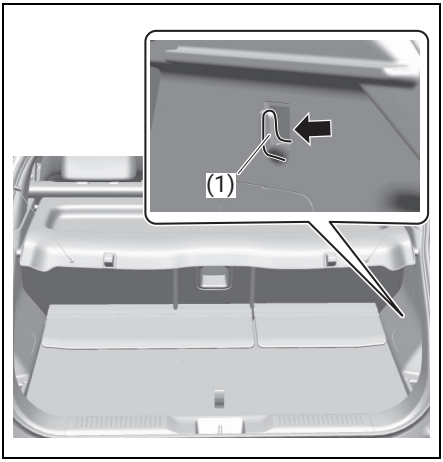
アームレスト



(1) 後席ドリンクホルダー

ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。



(1) ショッピングフック

! 注記

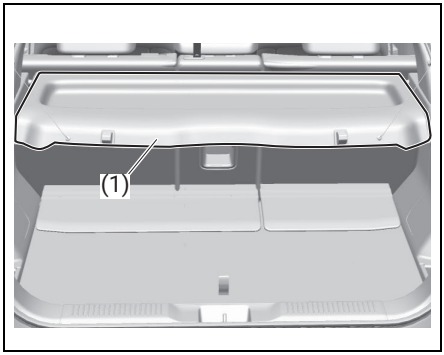
重いものをフックにかけると、フックが破損するおそれがあります。

フックにかけるものは、1 kg 以下としてください。

ラゲッジシェルフ（荷室カバー）

後席の後ろにあります。

荷室の荷物は、荷室カバーによって外から見えないようになっています。



(1) 荷室カバー

⚠ 注意

ラゲッジシェルフには小さいもの、軽いものも載せないでください。後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキのときなどにものが飛び出して、身体に当たるおそれがあります。

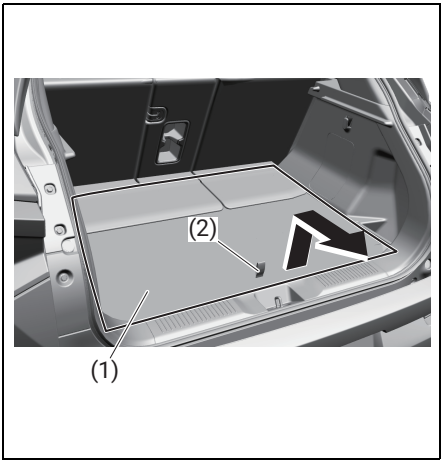
ラゲッジボード

荷室にあります。

ボードの下にも荷物が収納できます。

取り外しかた

ストラップを引くとラゲッジボードが取り外せます。

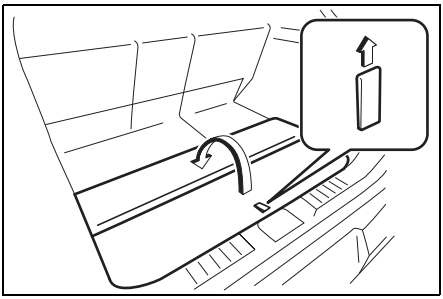


(1) ラゲッジボード
(2) ストラップ

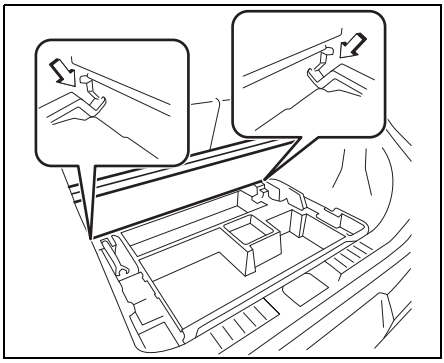
持ち上げたままにするときは

ボード下の荷物を出し入れするときに便利です。

1) ストラップを引いてラゲッジボードを持ち上げ、前方にたたみます。



2) ラゲッジボードを荷室前方にある溝に沿って差し込み、立てかけます。



⚠ 注意

- **後席よりも高い位置に荷物を積み重ねると、後方視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出して、身体に当たるおそれがあります。後席よりも高い位置に荷物を積み重ねないでください。**
- **荷物がバックドアに当たると、ドアや荷物が破損するおそれがあります。バックドアを閉めるときに、ドアに当たらないように荷物を積んでください。**



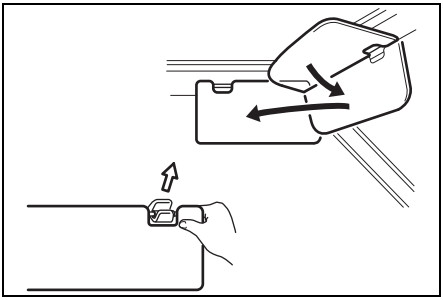
! 注記

フロアボードを立てた状態で後席を後方へスライドさせたり、背もたれを後

方へ倒したりしないでください。フロアボードや周辺の部品、収納物などが破損するおそれがあります。

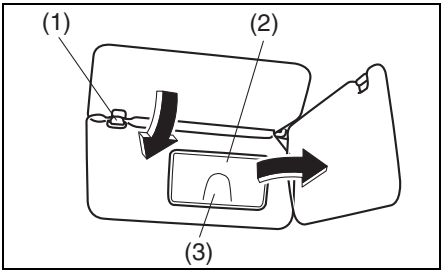
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。



チケットホルダー

サンバイザーの裏側にあります。有料道路の通行券などがはさめます。



(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

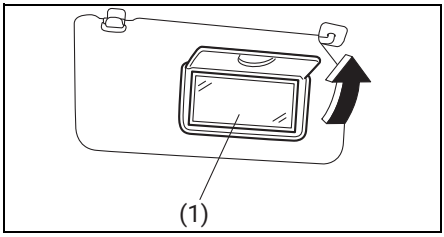
! 注記

炎天下で駐車すると、車内が高温になるためカードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。

バニティーミラー

ミラーカバーを開けた場所にあります。



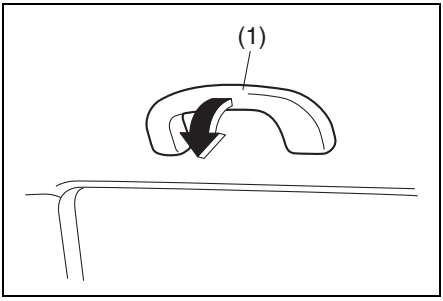
(1) バニティーミラー

⚠ 警告

- **走行中にバニティーミラーを使用すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。走行中はバニティーミラーを使用しないでください。**
- **SRS　エアバッグの収納場所に近づいた状態で SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。**

可倒式アシストグリップ

アシストグリップを手前に倒して使用します。

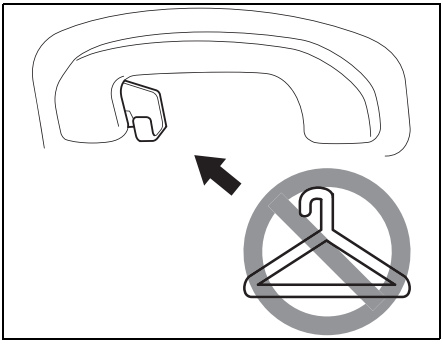


(1) アシストグリップ

! 注記

アシストグリップと天井の破損を防ぐために、アシストグリップにはものをかけないでください。

コートフック（後席）



⚠ 警告

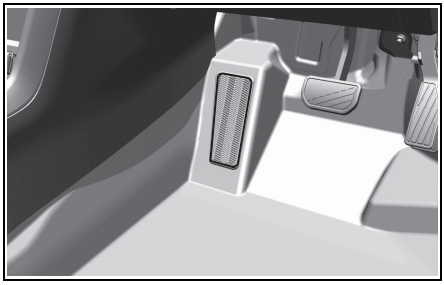
フックにハンガーやとがったものをかけないでください。また、フックに服をかけるときは、ハンガーを使わずに直接服をかけてください。SRS カーテンエアバッグが作動したときに、正常にふくらまなくなったり、ハンガーなどが飛散したりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

! 注記

重いものをフックにかけると、フックが破損するおそれがあります。フックにかけるものは、1 kg 以下としてください。

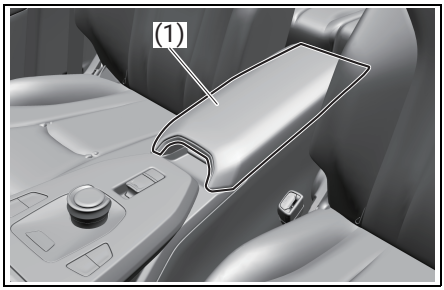
フットレスト

フロアカーペット内にあります。左足のささえとして使用します。



アームレスト（ひじ掛け）

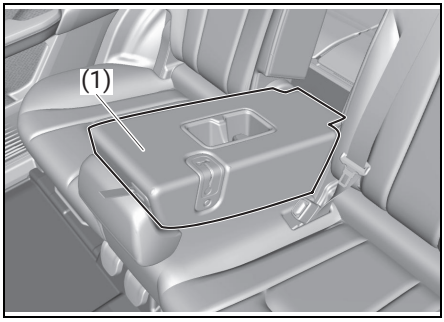
前席



(1) 前席アームレスト

後席

後席は、アームレストを手前に倒して使用します。



(1) 後席アームレスト

! 注記

アームレストに腰をかけたり、荷物を載せたりすると、アームレストが破損するおそれがあります。

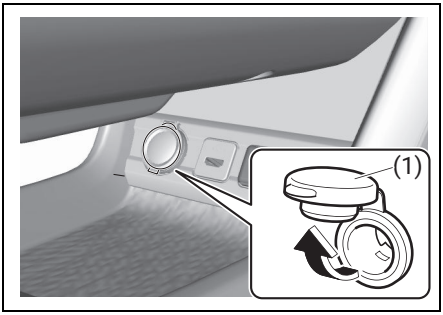
アームレストに腰をかけたり、荷物を載せたりしないでください。

アクセサリーソケット

パワースイッチが “ACC” または “ON” のときに、電気製品の電源として使用できます。使用できる電気製品の規定容量は12V10A（120W）以下です。

- 使用するときは、ふたを開けます。

センターコンソールミドルトレイ



(1) ふた

上図のイラストは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

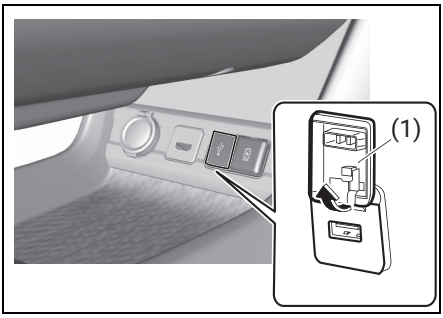
! 注記

- **規定容量は、120 W までとなります。規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。**
- **EV システムを停止するときに、モバイルバッテリーなどの充電機能を備えた電気製品を接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。EV システムを停止するときは、モバイルバッテリーなどの充電機能を備えた電気製品をはずしてください。**
- **EV システム停止中に使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。また、パワースイッチが “ACC” または “ON” のときも、長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。**
  アクセサリーソケットは、“READY” 表示灯が点灯しているとき、またはマイルームモードを使用しているときに使用してください。
- **使用しないときは、ふたを閉めておいてください。**
- **不適切な電気製品を使用すると、車両の電気系統が損傷するおそれがあります。使用する電気製品がアクセサリーソケットに接続できることを確認してください。**
- **パワースイッチが “LOCK（OFF）” の状態で、オーディオまたはナビゲーション機器本体の電源が切れなかったり、キーレスエントリーが作動しなかったりする場合は、アクセサリーソケットに接続された機器が影響している可能性があります。アクセサリーソケットから機器を取り外して、状況が改善されるか確認してください。改善されない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**

USB ソケット

USB ソケット

ふたを開けると、接続ケーブル（市販品）を使用して、お使いのナビゲーションに USB 機器、スマートフォンなどが接続できます。



(1) ふた

⚠ 警告

ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

使わないときは、ふたを閉めてください。

! 注記

EV システム停止中に長時間使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

USB 電源ソケット

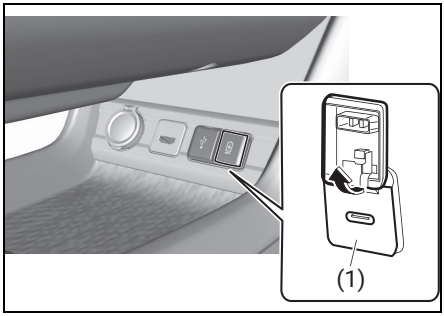
パワースイッチが “ACC” または “ON” のときに、接続ケーブル（市販品）を使用して、お使いのスマートフォンなどのモバイル端末が充電できます。

前席

規定容量は 5 V / 3.0 A (15 W) 以下です。

使用できる USB 端子の規格は USB 電源ソケット Type-C です。

- 使用するときは、ふたを開けます。



(1) USB 電源ソケット Type-C (充電用)

後席

左側ソケット

規定容量は 5 V / 2.4 A (12 W) 以下です。

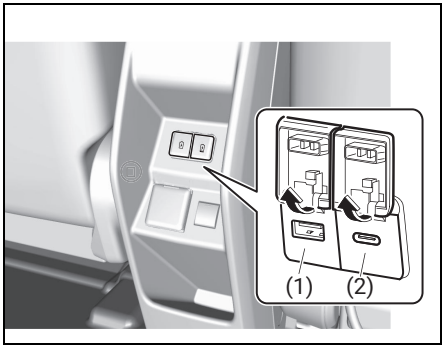
使用できる USB 端子の規格は USB 電源ソケット Type-A です。

右側ソケット

規定容量は 5 V / 3.0 A (15 W) 以下です。

使用できる USB 端子の規格は USB 電源ソケット Type-C です。

- 使用するときは、ふたを開けます。



(1) USB 電源ソケット Type-A (充電用)
(2) USB 電源ソケット Type-C (充電用)

! 注記

EV システム停止中に長時間使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

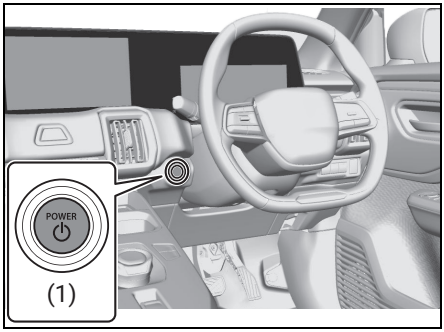
アドバイス

- USB 電源ソケットは充電専用です。
- 一部の機器では、充電中に充電が途切れることがありますが、異常ではありません。
- 車両状態によっては、一時的に充電を停止することがあります。(例：炎天下に駐車した後など車室内温度が高い場合、EV システム始動時)

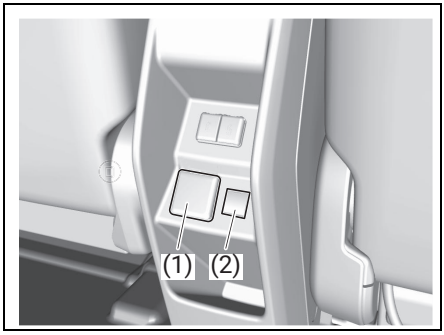
AC 電源コンセント（100V、1500W）[非常時給電モード付]

- AC 電源コンセント
  車内において、AC100V で消費電力の合計が1500W の電気製品を使用することができるシステムです。**(>>> P.417)**
  災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電モードのご使用をおすすめします。 **(>>> P.418)**
- 非常時給電モード
  災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。**(>>> P.418)**

システムの構成部品



(1) パワースイッチ



(1) AC 電源コンセント

(2) AC 電源コンセント ON/OFF スイッチ

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- 地面が固く平らな場所に駐車すること
  - 輪止め（市販品）の使用をおすすめします。
- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが “LOCK （OFF）” になっていること
- 給電中はセキュリティアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

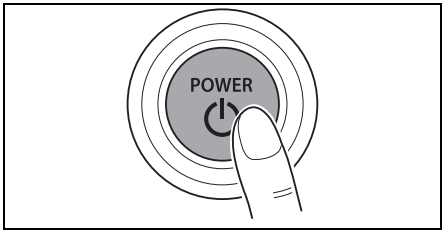
非常時給電モードを使用するときには次の点についても確認ください。

- 普通充電・急速充電を行っていないこと
- 外部給電または V2H 給電を実施していないこと

AC 電源コンセントを使用するには

コンセントを ON するとき

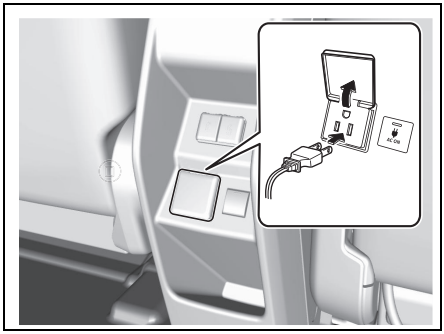
1) パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押します。**(>>> P.248)**



2) “READY” 表示灯が点灯したことを確認し、AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押します。
   - AC 電源コンセント ON/OFF スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。
   - AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。

電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。コンセントはセンターコンソールの後席側にあります。



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1) 使用している電気製品の電源を　OFF にする
2) AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押して OFF にする

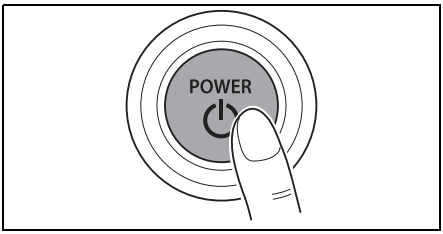
3) コンセントから電源プラグを取りはずす
4) コンセントのフタを閉める

非常時給電モードを使用するには

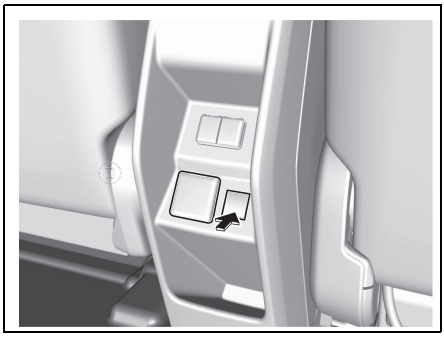
災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法により、車両の走行機能を停止した状態で車から給電することができます。

非常時給電モードを起動するとき

1) ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押して “ON” にします。 **(>>> P.250)**
   - ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、“READY” 表示灯が点灯した場合、非常時給電モードは使用できません。



2) “READY” 表示灯が点灯していないことを確認し、AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを 3 回連続で押します。
   - AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ、起動が完了します。
   - AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイに表示されないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。
   - AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電モード起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



非常時給電モードを停止するとき

次の手順をお守りください。

1) 使用している電気製品の電源を OFF にします。
2) AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押して OFF にします。
3) コンセントから電源プラグを取りはずします。
4) コンセントのフタを閉めます。
5) パワースイッチを “LOCK（OFF）” にします。

電気製品の電源プラグを接続するには

電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

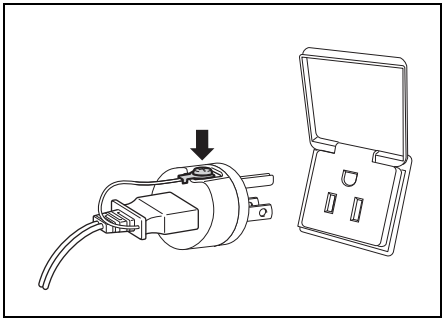
1) フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込みます。

- 電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用し、アース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



アドバイス

AC 電源コンセント、非常時給電モードについて

- AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

停止中または駐車中に使用するとき

- キーレスエントリまたはリクエストスイッチでドアの施錠・解錠することはできません。
- リモコンキーでドアを施錠・解錠することはできません。**エマージェンシーキー**でのみドアを施錠・解錠することができます。**(>>> P.204)**
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “ リモコンを検知できません ” と表示されたりすることがあります。リモコンキーを携帯していることを確認ください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ラ

ンプを消灯したいときは次を参照してください。**(>>> P.269)**

- 外部給電・V2H 給電は使用できません。
- 車両への充電は実施できません。

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- **非常時給電モードの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。**
- **お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。**
- **ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。**
- **コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
- **コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。**
- **コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。**
- **コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。**
  - **コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しない**
  - **コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す**
- **アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。**
- **電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

接続する電気製品について

- **使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。**
- **電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。**
- **特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。**
- **水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。**
- **防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。**
- **水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。**
- **車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。**

電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと 50Hz に対応していない電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを“P”から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
  - 雨水の侵入などに注意する。
    コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
  - コードを窓やドアで挟まない。
  - たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする
  - 誤って車両を発進させない
- 洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。また、モータールーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエータ冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣 (特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど) が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
  - わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

- **急ブレーキをかけときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合**
- **落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合**
- **やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）**
- **ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）**

- **窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。**

⚠ 注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

ショートや故障を防ぐために

- **車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や燃焼のおそれがあります。**
- **振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。**
- **コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。**

非常時給電モードを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してから EV システムを始動してください。

正常に AC 電源コンセント（AC100V 1500W ）または非常時給電モードが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもAC電源コンセントまたは非常時給電モードが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 電源コンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

AC 電源コンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
駆動用バッテリーの残量が不足している	駆動用バッテリーを充電して駆動用バッテリーの残量を回復させてから、再度 AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用バッテリーが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度AC電源コンセント ON/OFF スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用バッテリーが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度AC電源コンセント ON/OFF スイッチを押してください。 • ピンなどの異物が挿さっていないか • 飲料水、雨水、雪などが付着していないか • ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行っても AC 電源コンセントが使用できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

正常に非常時給電モードが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

非常時給電モードが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが “ACC” になっている	パワースイッチが “LOCK（OFF）” の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを “ON” にしてください。マルチインフォメーションディスプレイに “ パワー ON” と表示されていることを確認してください。
AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC 電源コンセント ON/OFF スイッチを3回よりも多く押している	AC 電源コンセント ON/OFF スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用バッテリーが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用バッテリーが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを “LOCK（OFF）” にし、はじめから操作をやり直してください。 • ピンなどの異物が挿さっていないか • 飲料水、雨水、雪などが付着していないか • ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

“駆動用バッテリーの残量低下により給電停止しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処法
駆動用バッテリーの残量が少なくなった	駆動用バッテリーを充電後、非常時給電モードを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電モードが使用できない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

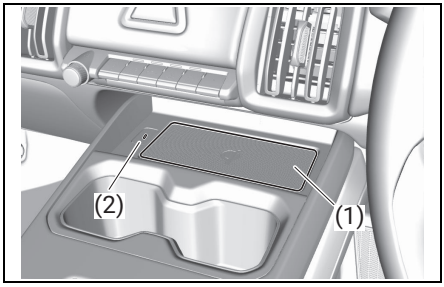
ワイヤレス充電

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格Qiに適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどのモバイル端末を、充電エリアに置くだけでモバイル端末を充電することができます。ワイヤレス充電器は、一度に複数のモバイル端末を充電することはできません。

充電エリアより大きいモバイル端末には本機能を使用できません。また、モバイル端末によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になるモバイル端末に付属の取扱説明書もお読みください。

ワイヤレス充電器は、電磁誘導充電技術を使用してモバイル端末を充電します。

そのため、ワイヤレス充電は、ケーブルを使用した従来の充電よりも効率が低くなり、モバイル端末の温度が高くなることがあります。



(1) ワイヤレス充電器
(2) インジケーター

Qi マークについて

「Qi」およびQiマークはワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。

⚠ 警告

運転中の注意

- **走行中にモバイル端末の充電操作をすると、操作に気を取られて思わぬ事故を起こすおそれがあります。走行中はモバイル端末の充電操作をしないでください。**

電波がおよぼす影響について

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）などの医療用電気機器を使用している方は、ワイヤレス充電の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**

故障ややけどを防ぐために

ワイヤレス充電を使用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、火災や異常発熱、機器の故障の原因となるおそれがあります。

- **ワイヤレス充電器とモバイル端末の間に、金属製のものをはさまない**
- **ワイヤレス充電器に、アルミシールなどの金属製のものを貼り付けない**
- **充電中は、ワイヤレス充電器やモバイル端末を布などで覆わない**
- **Qi　規格に適合しているモバイル端末のみを充電する**
- **ワイヤレス充電器を取り外しや分解、改造をしない**
- **ワイヤレス充電器に強い衝撃や圧力を加えない**
- **ワイヤレス充電器やモバイル端末にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼさない**

⚠ 注意

磁気アレイ（位置合わせや充電器と固定するためのもの）を使用しているモ

バイル端末 は、機種によって充電性能が異なる場合や発熱する場合があります。

! 注記

ワイヤレス充電器が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、ワイヤレス充電器が正常に作動しないことがあります。

- **モバイル端末が満充電**
- **モバイル端末とワイヤレス充電器の間に金属などの異物がある**
- **ワイヤレス充電器の表面にほこりなどが付着している**
- **充電中にモバイル端末が熱くなった**
- **モバイル端末の充電面を上にして、ワイヤレス充電器に置いた**
- **モバイル端末がワイヤレス充電器の中心にない**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある**
- **モバイル端末が次のような金属製のものと接触していたり、覆われていたりしている**
  - **カードやタバコの箱などのアルミ箔が含まれたもの**
  - **金属製の財布やバッグ**
  - **コイン**
  - **金属製のハンドウォーマー**
  - **CD や DVD などのメディア**
- **近くで他車のキーレスエントリーが使用されている**
- **ワイヤレス充電器が、キーレスリモコンの動作に影響をあたえるおそれがあります。キーレスリモコンが検出できなくなる状況を避けるため、キーレスリモコンをワイヤレス充電器から離してください。**
- **上記以外で充電が正常に行なわれない場合は、ワイヤレス充電器の故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。**

故障やデータ破損を防止するために

- **クレジットカードなどの磁気カードや磁気記録メディアをワイヤレス充電器に近づけないでください。ワイヤレス充電器の磁気の影響によりデータが消去される場合があります。**
- **腕時計などの精密機器をワイヤレス充電器に近づけないでください。近づけると故障するおそれがあります。**

鉛バッテリーあがり防止について

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

ワイヤレス充電の使いかた

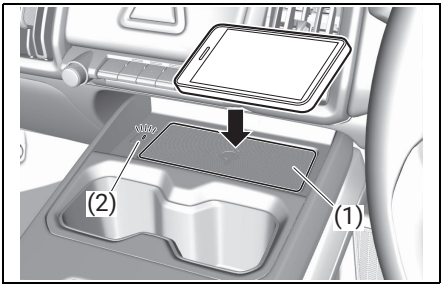
このワイヤレス充電器は、ワイヤレス充電規格 Qi Ver 1.2.4 に準拠しています。お使いのモバイル端末の Qi バージョンは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）のホームページでご確認ください。

すべてのドアを閉め、パワースイッチを “ON” にします。パワースイッチが “ACC” または “LOCK（OFF）” の場合、ワイヤレス充電できません。

お使いのスマートフォンなどのモバイル端末の充電面を下にして、ワイヤレス充電器の中央に置きます。

充電中はインジケーターが青色に点灯します。充電が行われないときは、モバイル端末をできるだけ充電エリアの中央付近に置き直してください。充電が完了す

ると、インジケーターが緑色の点灯に変わります。



(1) ワイヤレス充電器
(2) インジケーター

アドバイス

- 一部のモバイル端末では、充電が開始されるまでに数秒かかる場合があります。
- 充電完了後、モバイル端末を動かさずに一定時間が経過すると、充電を再開することがあります。
- ワイヤレス充電器内でモバイル端末を移動すると、一時的に充電を停止することがあります。
- Qi規格に適合していないモバイル端末をワイヤレス充電器に置くと、エラーが表示される場合があります。
- モバイル端末の機種や仕様によっては、充電性能が異なったりモバイル端末が熱くなることがあります。
- 充電中にモバイル端末が温かくなることがありますが、異常ではありません。

ワイヤレス充電器のインジケーター

インジケーター ※1	状態
消灯	ワイヤレス充電が停止中
橙色	充電準備完了
青色	充電中
緑色 ※2	充電完了

※1 インジケーターランプは、車両・気象条件により光量が変化します。
※2 モバイル端末により、充電が完了しても緑色にならない場合があります。

ワイヤレス充電の一時停止・故障

次の表のようになったとき、ワイヤレス充電が一時停止または故障しています。

インジケーター	状態	対処方法
消灯	車両とワイヤレス充電器が通信できない	エラーが解消されない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。※3
	ワイヤレス充電器が車両と通信できない	パワースイッチを操作しても解決しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

インジケーター	状態	対処方法
点滅（赤色）	• 金属等の異物がある • モバイル端末がワイヤレス充電器からずれている	• 金属等の異物がある場合は、取り除きます。また、モバイル端末にカバーなどを付けている場合は、取り外します。 • モバイル端末をワイヤレス充電器の中央に置きます。
	モバイル端末の温度が高すぎる	ワイヤレス充電器からモバイル端末を取り外し、モバイル端末の温度が下がるまでしばらく待ちます。
	ワイヤレス充電器の温度が高すぎる	ワイヤレス充電器からモバイル端末を取り外し、ワイヤレス充電器の温度が下がるまでしばらく待ちます。
点灯（赤色）	システムの異常	スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

※3 ワイヤレス充電が中断される状況でないことを確認します。 **(>>> P.429)**

アドバイス

ワイヤレス充電器のインジケーターは、ワイヤレス充電器とモバイル端末間の通信状況により、赤色点滅または赤色点灯する場合があります。

作動条件

パワースイッチが “ON” のとき

充電可能なモバイル端末について

Qi 規格に適合したスマートフォンなどのモバイル端末を充電することができます。

ただし、すべての Qi 規格適合モバイル端末との互換性を保証するものではありません。

モバイル端末にカバーや付属品が取り付けられているとき

モバイル端末に Qi 規格非対応のカバーや付属品を取り付けた状態で充電しないでください。

Qi 規格対応の製品でも、カバーや付属品の種類によっては充電できない場合があります。

モバイル端末をワイヤレス充電器に置いても充電されない場合は、カバーや付属品を取り外してください。

充電中に AM ラジオにノイズが入るとき

ワイヤレス充電器で充電中は、AM ラジオにノイズが入る場合があります。

こんな場合はワイヤレス充電が中断したり、充電速度が低下したりする場合があります

- パワースイッチが “ACC” または “LOCK（OFF）” のとき

- 鉛バッテリーの電圧が低下しているとき
- パワースイッチを“ON”にしブレーキペダルを踏み込んだとき。“READY”表示灯が点灯する、またはブレーキペダルを離すと充電が再開されます。
- 携帯リモコンが検知外のとき
- 走行モードの状態によっては、充電に影響が出る場合があります。
- いずれかのドアが完全に閉まっていないときや携帯リモコンが検知外のとき
- ワイヤレス充電器とモバイル端末の間にコインや鍵などの金属製の異物があるとき
- ワイヤレス充電器内部の温度が高いときやモバイル端末の温度が高いとき
- ワイヤレス充電器の内部温度が設定温度を超えると充電が停止します。使用可能な温度になると充電を再開します。
- モバイル端末の位置がずれたとき
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
- モバイル端末のメーカーが独自に設定した保護機能が働いたとき
- モバイル端末により、充電中に充電停止の表示がモバイル端末に表示されることがありますが、ワイヤレス充電器の異常ではありません。
- モバイル端末のサイズによってはワイヤレス充電器に収まらず、正常に充電できない場合があります。
- モバイル端末を無理にワイヤレス充電器に挿入しないでください。ワイヤレス充電器が破損するおそれがあります。

ワイヤレス充電器に置いたモバイル端末に USB ケーブルを接続した場合

モバイル端末のメーカーが設定した方法で充電されます。充電方法によっては、インジケーターが点灯や点滅する場合があります。

ワイヤレス充電器を清掃するときは

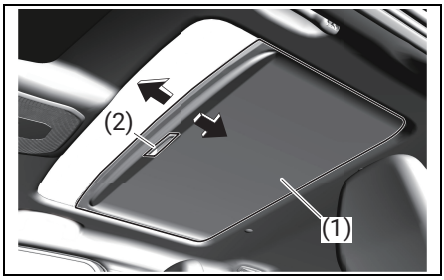
- ワイヤレス充電器をふくときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。
- 充電中はタオルや衣類などで覆わないでください。
- ワイヤレス充電器表面に、クリーナーなどのスプレーが付着しないように保護してください。

⚠ 警告

ワイヤレス充電器を濡らすと、やけどや感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあります。ワイヤレス充電器を水などで濡らさないでください。

ガラスルーフ (サンシェード付き)（タイプ別装備）

サンシェードを開閉するときは、ハンドルを持って車両の前後方向にゆっくりスライドさせてください。



(1) サンシェード
(2) ハンドル

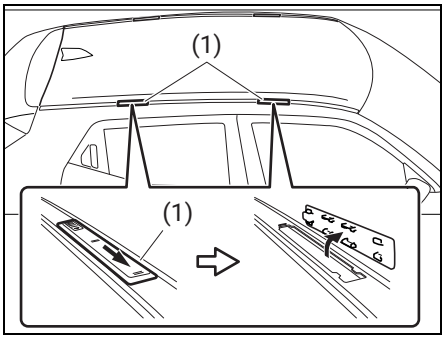
⚠ 警告

走行中にサンシェードを開閉すると、操作に気を取られて思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中は、サンシェードの開閉操作をしないでください。

ルーフラックアンカー

ルーフラックアンカーを使用して、スズキ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）を取り付けることができます。使用するときは、次の項目およびベースキャリア、アタッチメントに付属の取扱説明書をお読みいただき、注意事項を必ず守ってください。



(1) ルーフラックアンカーカバー

- ベースキャリアおよびアタッチメントは確実に取り付けてください。
- ベースキャリアおよびアタッチメントと荷物の総重量は、50 kg を超えないようにしてください。
- スキーなどの荷物を積むときは、別売りのアタッチメントをご使用ください。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

! 注記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

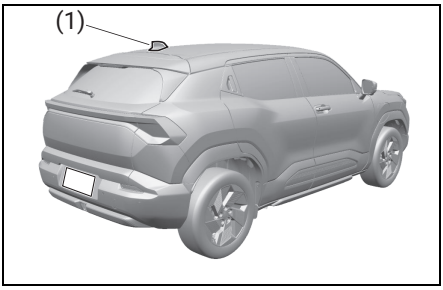
アンテナ

アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

ルーフアンテナ

車両後部の中央にあります。



(1) ルーフアンテナ

ガラスアンテナ

フロントガラス左右上部に内蔵されています。

アドバイス

アンテナ線部に次のようなものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。

- 金属が含まれるウインドーフィルム
- そのほかの金属物（スズキ純正用品を除く）

フロントガラスの室内側をふくときは、アンテナ線を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布でアンテナ線に沿ってふいてください。

オーディオ機能について

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- 音楽などを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- ナビゲーションまたはオーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- ナビゲーションまたはオーディオの機能については、付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警告

走行中にナビゲーション、またはオーディオを操作すると、操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

走行中はナビゲーション、またはオーディオを操作しないでください。

! 注記

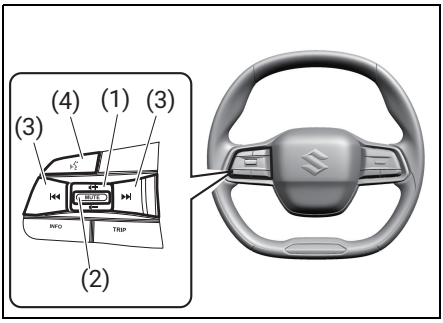
EV システムを停止したまま長時間ナビゲーション、またはオーディオを使うと、鉛バッテリーあがりの原因となります。

EV システムを停止したままでの長時間の使用は避けてください。

ステアリングオーディオスイッチ

パワースイッチが “ACC” または “ON” のときに、手元でナビゲーションまたはオーディオの操作ができます。

- お使いのナビゲーションまたはオーディオによっては、ステアリングオーディオスイッチの機能が、実際の機能と異なることがあります。付属の取扱説明書をお読みください。



(1) 音量調節スイッチ
(2) ミュートスイッチ
(3) 選局（選曲）スイッチ
(4) 発話スイッチ

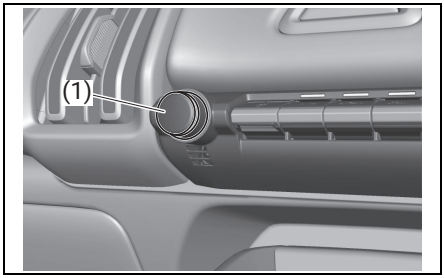
音量調節スイッチ

音量が調節できます。

- 大きくするときは＋側に動かします。
- 小さくするときはー側に動かします。連続調節するときは、＋またはー側に動かして長押しします。

アドバイス

音量調整ノブを操作して音量を調整することもできます。音量調整ノブを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。



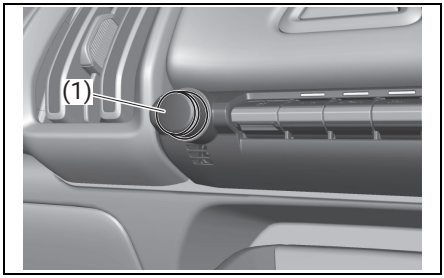
(1) 音量調節ノブ

ミュートスイッチ

スイッチを押すと、ミュート（消音）されます。

アドバイス

音量調節ノブを押してミュート（消音）することもできます。もう一度押すとミュートが解除されます。



(1) 音量調節ノブ

選局（選曲）スイッチ

スイッチを押すたびに、使用中のモードにあわせて、放送局の選局や再生する曲の選曲などができます。

発話スイッチ ※1

センターディスプレイの操作、および音声認識機能がある機器で使用できます。機能を使用するにはお使いの機器にあわせた設定が必要となります。お使いのナビゲーションまたはオーディオに付属の取扱説明書をお読みください。

※1 Apple CarPlay または Android Auto™ を使用している場合
Apple CarPlay または Android Auto™ の詳細につきましては下記のサイトにてご確認ください。
Apple CarPlay :
http://www.apple.com/ios/carplay
Android Auto™ :
http://support.google.com/androidauto

7. お手入れのしかた

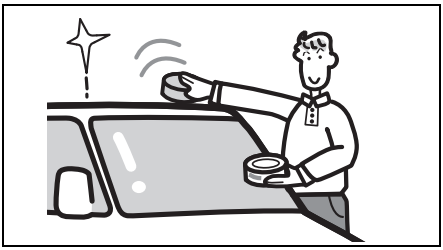
外装の手入れ..... 436
外装のお手入れ..... 436
内装の手入れ..... 440
内装のお手入れ..... 440
簡単な点検・部品交換 442
ボンネット 442
ウインドーウォッシャー液の補充444
タイヤの点検 445
エアコンのお手入れ..... 447
携帯リモコン 449
ヒューズが切れたときは 450
電球の交換 458
ワイパー..... 459

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に1回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。



アドバイス

ワックスがけのときに塗装されていない樹脂部品にワックスを使わないでください。ワックスが付着すると白くなったりムラになったりするおそれがあります。

- 飛び石の傷や、ひっかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

! 注記

- **塗装面の傷の補修を不適切な塗料で行なうと、塗装がはがれる原因となります。**
  塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- **塗装の劣化や車体の腐食を防ぐためには、日ごろのお手入れが大切です。**

洗車のときのご注意

⚠ 注意

- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  洗車した後の運転は注意してください。 (>>> P.34)

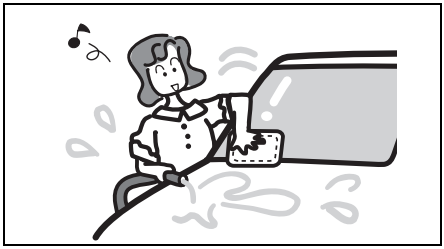
! 注記

- **モータールームに水をかけると、EVシステムの始動不良や電気部品が故障する原因となります。**
  洗車のときは、モータールームに水などをかけないでください。
- **洗車やワックスがけをするとき、車体に寄りかかったり強い力で押したりしないでください。**
  車体が変形するおそれがあります。



手洗い洗車をするときは

1)十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。
2)汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。
3)やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



自動洗車機を使うときは

⚠ 注意

シフトポジションが“P”または停車状態でない洗車機 (ベルトコンベア式など)で実施する際は、デュアルセンサーブレーキサポートII（DSBS II ）をOFFにして、低速時ブレーキサポート（前進・後退）を停止させてください。予期せず、低速時ブレーキサポート（前進・後退）が作動し事故につながる恐れがあります。(>>> P.503)

! 注記

- **ドアミラーが洗車機にひっかかり、損傷するおそれがあります。**
  自動洗車機を使うときは、ドアミラーを格納してください。
- **ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機を使用すると、ルーフエンドスポイラーが洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。**
  ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。

アドバイス

自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

! 注記

- **洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどに向けると、車内に水が入るおそれがあります。**
  洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けないでください。
- **洗車時に高圧洗浄機で超音波センサー表面に直接水を当てないでください。**

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなる恐れがあります。

- **洗車ノズルを車体に近づけすぎると、水圧により車体や部品の変形や損傷の原因となります。**
  洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりしないでください。
- **高圧洗浄機を使用する前に、充電リッドが確実に閉まっていることを確認してください。**
  充電リッドが開いていると、充電インレットが損傷するおそれがあります。
- **高圧洗浄機を使用して車体の下まわりを洗車しないでください。駆動用バッテリーに水が入ると、EV システムが故障するおそれがあります。**
- **洗車時に高圧洗浄機で超音波センサー表面に直接水を当てないでください。**
  高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなる恐れがあります。
- **カメラ周辺部に高圧洗浄機のノズルを向けると、カメラに水が入るなどして、火災や故障、結露などの原因となります。全方位モニター用カメラ装備車は、カメラ周辺部にノズルを向けないでください。**

フロントガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

アルミホイールの手入れ

! 注記

- **使用するクリーナーによっては、塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびホイールガーニッシュの損傷の原因となります。**
  アルミホイールの手入れには、酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。
- **硬いブラシや砂入り石けんを使用すると、アルミホイールが傷つく原因となります。**
  アルミホイールの手入れには、硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。

ランプの手入れ

ランプのレンズ部分は水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。

! 注記

- **ランプのレンズ表面に有機溶剤などを含んだ洗剤は使用しないでください。レンズ表面にひび割れが発生するおそれがあります。**
  もし使用した場合には、十分な水で洗い流してください。
- **レンズ表面をワックスや硬いブラシでふかないでください。レンズが損傷したり、劣化を早めるおそれがあります。**

全方位モニターのカメラの手入れ

レンズ部分は水洗いし、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどいときは中性洗剤をご使用ください。

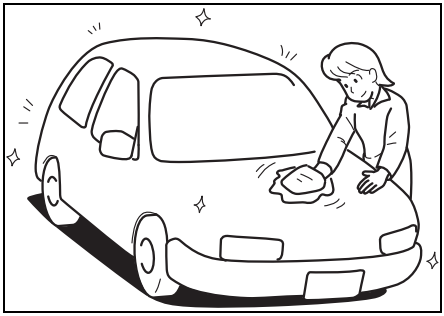
! 注記

- **アルコールなどを使用してカメラをふくと、変色などの原因となります。カメラをふくときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用しないでください。**
- **カメラのレンズは傷がつきにくいようハードコート仕様になっていますが、車ブラシなどを使用すると、全方位モニターの映像が見づらくなる場合があります。**
  レンズの傷つきには十分気をつけてください。
- **有機溶剤などが付着するとカメラの樹脂製カバーが破損する原因となります。**
  有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。
- **カメラに急激な温度変化を与えるとカメラが破損するおそれがあります。凍りついた雪をお湯をかけて溶かすなどの急激な温度変化をカメラに与えないでください。**

ワックスがけ

お車を洗車したあとは、塗装面を美しく保つために、ワックスがけをおすすめします。

- コンパウンド（研磨剤）が含まれるワックス類は使用しないでください。
- ワックスの使用上の注意事項をよく読んでからご使用ください。



外装部品に力をかけすぎない

! 注記

外装部品に強い力をかけすぎると破損するおそれがあります。

フロントバンパー、リヤバンパー、サイドスカート、アーチモール、ドアガーニッシュ、スポイラーなどに強い力をかけないでください。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠ 警告

ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

内装のお手入れの際は、車内に水などをかけないでください。車内に水をかけたり飲み物をこぼしたりした場合は、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

! 注記

- **しみ、変色、変形、強度低下などの原因となるため、次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。**
  - **ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤**
  - **酸性、アルカリ性の洗剤**
  - **漂白剤や染料**
- **電装品やスイッチにシリコンが付着すると、故障の原因となるおそれがあります。**
  エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。
- **車内へ革製品・毛皮・ビニールなどを長時間放置すると、内装の変色や変質の原因となります。**
  色物の革製品・毛皮・ビニールなどは、車内へ長時間放置しないでください。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などのお手入れ

1) 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
2) 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。
3) 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

シートベルトの手入れ

お手入れの方法は、布地と同様です。

⚠ 警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

フロントガラスの室内側の手入れ

- フロントガラスの内側を清掃するときは、前方カメラのレンズ部にほこりやガラスクリーナーなどが付着しないよ

うに保護してください。また、レンズにはふれないでください。

- フロントガラスの室内側をふくときは、アンテナ線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布でアンテナ線に沿ってふいてください。

バックドアガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布でアンテナ線または熱線に沿ってふいてください。

こんなことにも注意して

飲み物などをこぼしたときは

⚠ 警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。

次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

- **SRS エアバッグシステム**
- **ナビゲーションまたはオーディオ**
- **スイッチ、配線などの電気部品**
- **ダイヤルシフト、シートベルトバックルなどの可動部分**

! 注記

助手席のシートクッションには、シートベルトリマインダーのセンサーが内蔵されています。

シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼすと、シートベルトリマインダーセンサーが損傷するおそれがあります。

シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。

ボンネット

⚠ 警告

- **ボンネットは重いため、お子さまが開閉するとけがのおそれがあります。**
  お子さまにはボンネットを開閉させないでください。
- **モータールーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。**
  ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
- **工具や布などをモータールーム内に置き忘れると、故障の原因となったり、モータールーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。**
  点検や清掃に使用した工具や布などは、モータールーム内に置き忘れないでください。

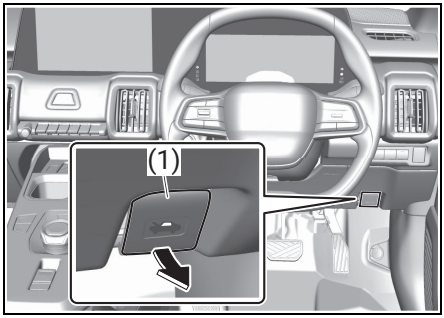
⚠ 注意

動いている冷却ファン（ラジエーターファン）に近づくと、手や髪、衣類などが巻き込まれ、けがのおそれがあります。

“READY”表示灯点灯中は、冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください。

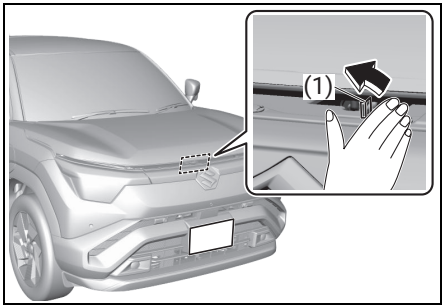
開けかた

1)運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



(1) ボンネットオープナー

2)浮き上がったボンネットのすきまからロックレバーの位置を確認し、すきまから手を入れ、ロックレバーを左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



(1) ロックレバー

⚠ 注意

“READY”表示灯点灯中やEVシステム停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあり、やけどのおそれがあります。

“READY”表示灯点灯中やEVシステム停止直後にボンネットを開けるときは、ロックレバーを操作する前に確認してください。

! 注記

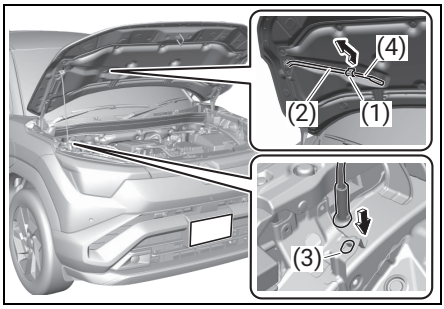
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けると、ワイパーアームや

ボンネットが傷つくおそれがあります。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

3)ボンネットを固定します。

- ボンネット側にあるステーをホルダーから外し、車体側の固定穴に差し込みます。



(1) ステー
(2) ホルダー
(3) 固定穴
(4) 保持する位置

⚠ 注意

- **“READY” 表示灯点灯中や EV システム停止直後は、ステーが熱くなっていることがあり、やけどのおそれがあります。**
  “READY” 表示灯点灯中や EV システム停止直後にステーを使用するときは、ステーを持つ前に確認してください。
- **ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれけがをするおそれがあります。**
  ステーは固定穴に確実に差し込んでください。
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れるとボンネットに身体がはさまれけがをするおそれがあります。**
  ボンネットを開けるとき、とくに風の強い日は注意してください。

アドバイス

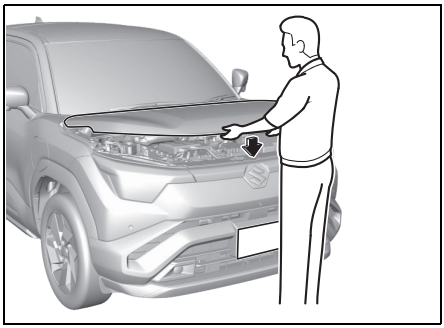
ステーをホルダーから外すときは、「保持する位置」を持ってください。

閉めかた

1)ボンネットを片手でささえながら、ステーを外してもとのホルダーに固定します。

2)ボンネットを閉めます。

- ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



⚠ 警告

ボンネットが完全に閉まっていないと、走行中に開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

ボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

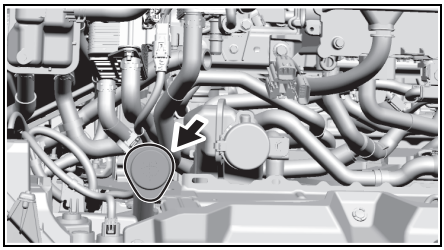
⚠ 注意

ボンネットを閉めるとき、手などをはさむとけがをするおそれがあります。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。

ウインドーウォッシャー液の補充

ウインドーウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャータンクのキャップを開け、ウインドーウォッシャー液を補充します。



⚠ 警告

- **ウインドーウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火のおそれがあります。**
- **EV システムが熱いときや EV システムが始動しているときは、ウインドーウォッシャー液を補充しないでください。**

⚠ 注意

- **ウインドーウォッシャー液の取扱いに関する注意は、容器に記載してありますのでよくお読みください。**
- **ウインドーウォッシャー液を勢いよく注ぐとあふれる可能性があります。ウインドーウォッシャー液はゆっくりと補充してください。**

! 注記

- **液が空のまま使用すると、ポンプが破損するおそれがあります。**
- **キャップにある穴がつまると、噴射不良を起こすおそれがあります。液**

の出かたが悪い場合は、この穴も点検してください。

- **ウインドーウォッシャー液の代わりに石鹸水などを入れないでください。塗装がしみになるおそれがあります。**
- **水だけの補充はしないでください。冬期に凍って、ウインドーウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。**

アドバイス

- スズキエクスターウインドーウォッシャー液は、薄める割合で凍結温度が異なります。車の使用地域の最低気温にあわせて、次の表を参考に薄めてください。**(>>> P.381)**
- 薄める割合は、使用するウインドーウォッシャー液により異なります。ウインドーウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤの点検

タイヤは次の項目を点検してください。

- 空気圧
- 亀裂、損傷
- 溝の深さ
- 異常摩耗

詳しくは、メンテナンスノート（日常点検）をご覧ください。

⚠ 警告

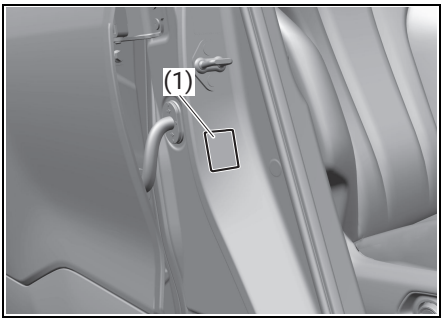
タイヤを交換するときは、指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。

4 輪とも指定のサイズではなく、メーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一ではないもの、もしくは著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用すると、燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です）

- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **アダプティブクルーズコントロール**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **ESP®**
  - **スズキ セーフティ サポートの一部機能 (>>> P.279)**
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「空気圧ラベル」で確認できます。

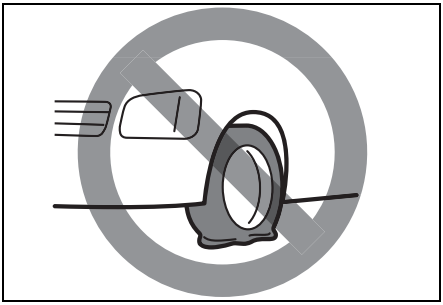


(1) 空気圧ラベル

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。

⚠ 警告

- **空気圧が低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  空気圧が極端に低いまま走行しないでください。



- **指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。**
  タイヤの空気圧は指定空気圧に調整してください。
  - **走行安定性が悪化する**
  - **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
  - **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
  - **アダプティブクルーズコントロール**
  - **ABS**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **ESP®**
  - **スズキ セーフティ サポートの一部機能 (>>> P.279)**

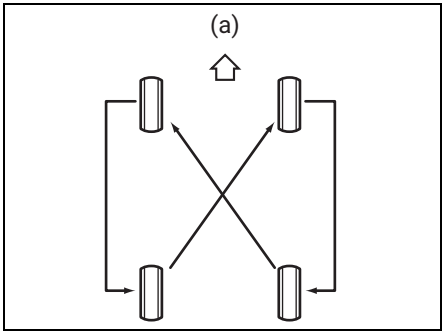
! 注記

4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
タイヤの空気圧は指定空気圧に調整してください。

タイヤのローテーション

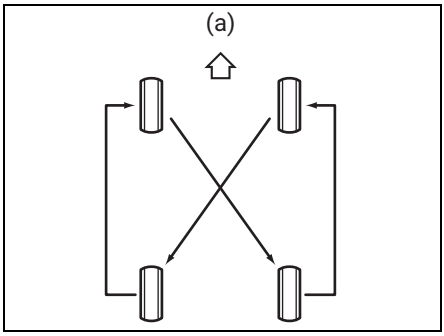
タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとに行なってください。（次の図参照）

2 WD 車



(a) 車両前方

4WD 車



(a) 車両前方

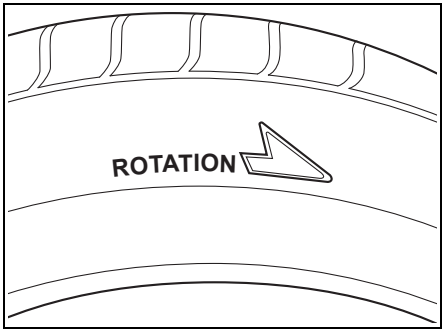
! 注記

回転方向指定のあるタイヤを逆に装着すると、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。

アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、側面に図のような “ROTATION” の文字と、回転方向を示す矢印が刻印されています。



エアコンのお手入れ

エアフィルターを清掃、交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

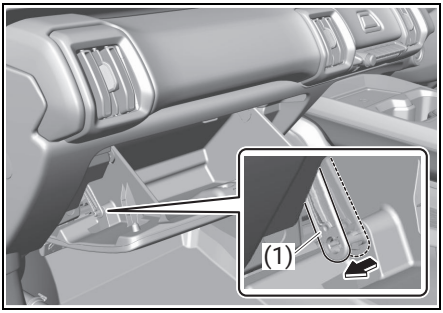
地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000 km ごと、または 6 か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000 km ごと、または 12 か月ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

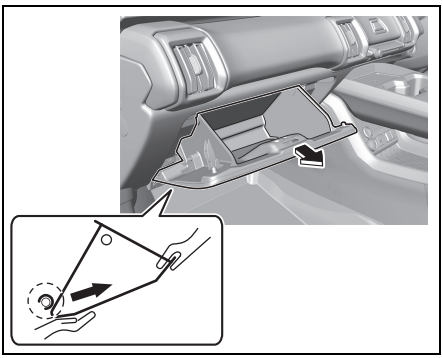
エアフィルターの取り外し

1)グローブボックスを開け、グローブボックスを固定しているダンパーを引き抜いて取り外します。



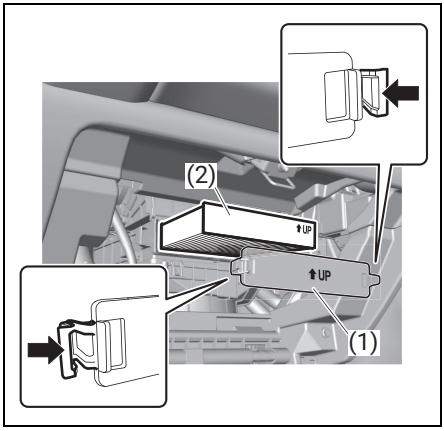
(1) ダンパー

2) 下端部を上側に向けて押し上げるようにして破線部の勘合部分が外れるようにグローブボックスを矢印の方向に引いて取り外します。戻すときは逆の手順で取付けます。



3) ホルダーのロックを矢印の方向へ押して外し、つめをケース側から引き抜き、ホルダーを取り出します。

4) エアフィルターを取り出します。

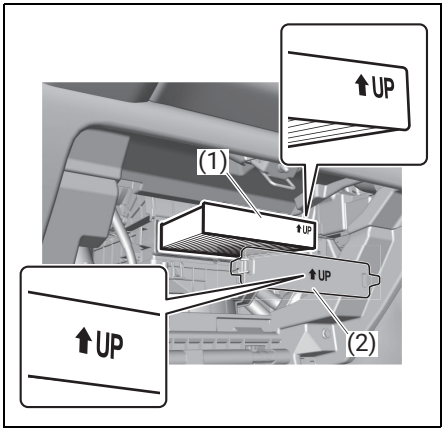


(1) ホルダー
(2) エアフィルター

エアフィルターの取り付け

1) エアフィルターは、取り付け方向マークの矢印を上向きにして挿入します。

2) 取り付け方向マークの矢印を上向きにしてホルダーを取り付けます。



(1) エアフィルター
(2) ホルダー

携帯リモコン

携帯リモコンの電池交換

⚠ 警告

電池が小さいため、お子さまが誤って飲み込むと、のどなどに詰まらせて重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながる可能性があります。

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

! 注記

- **故障を防ぐため、次のことをお守りください。**
  - **濡れた手で電池交換をしない**
  - **電池以外の端子や電子部品に触れない**
  - **端子を曲げない**
  - **油や異物を付着させない**
- **お客様ご自身で電池を交換される場合は、静電気により携帯リモコンが破損するおそれがあるため、金属部分に触れて身体や衣類の静電気を除去してください。**

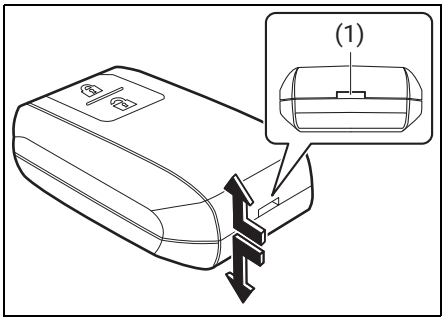
アドバイス

- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、製造年をお確かめのうえスズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

1)携帯リモコンからエマージェンシーキーを取り出します。

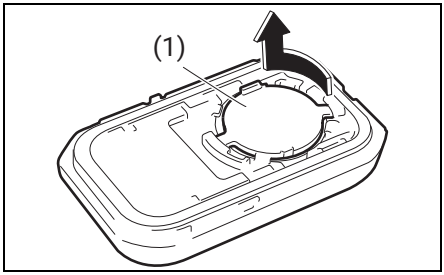
2)携帯リモコンのケースを分割します。

- 携帯リモコンの側面にある溝部分に力を加えながら、ケースを上下に分割します。



(1) 溝

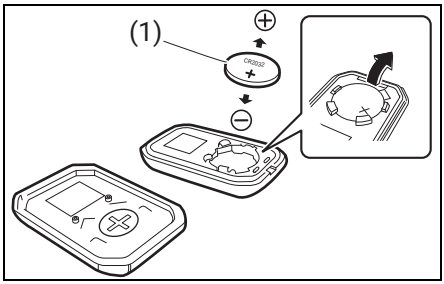
3)カバーを反時計方向に回して外します。



(1) カバー

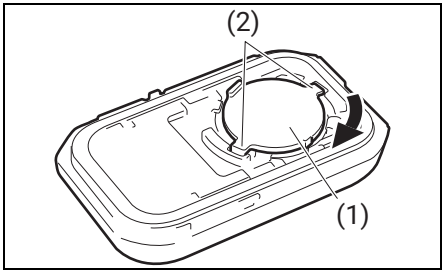
4)電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。
- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



(1) 使用電池：リチウム電池 CR2032

5)カバーの突起を図のように合わせ、時計方向に回して取り付けます。



(1) カバー
(2) 突起

6) ケースを組み付けます。
- ケースのあわせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。

! 注記

ケースの組み付けはあわせ部分のすきまが均等になるように、確実にはめ込んでください。すきまから水などが進入することにより、携帯リモコンが正常に動作しなくなるおそれがあります。

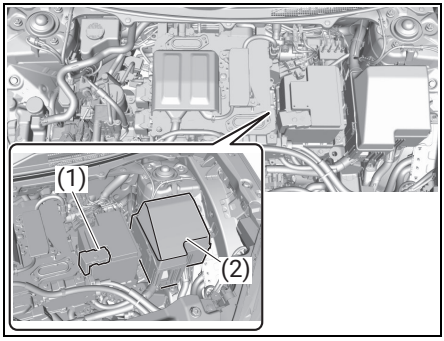
7) 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

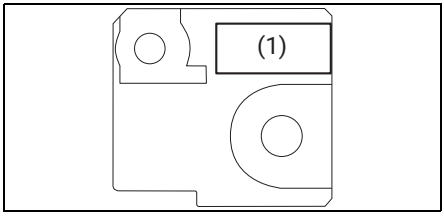
- ヒューズは、モータールーム内と助手席足元（インストルメントパネル内）にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

モータールーム内のヒューズ

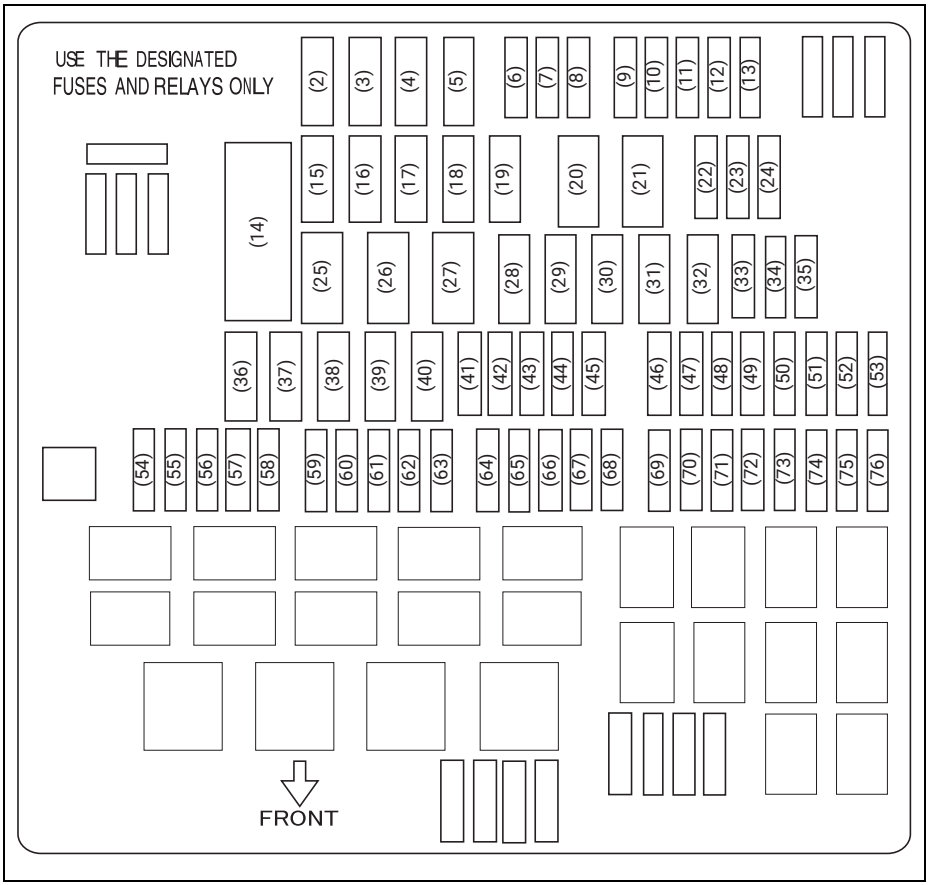


(1) メインヒューズボックス
(2) リレーボックス

メインヒューズボックス



リレーボックス



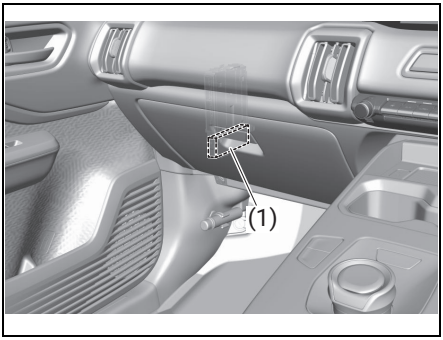
位置	表示	容量	接続先名称
(1)	FL1	250A	バッテリー
(2)	—	—	—
(3)	Shift mot	30 A	シフト モーター
(4)	BLW	50 A	ブロワー ファン
(5)	—	—	—
(6)	Towing	25 A	
(7)	—	—	—
(8)	Power S DR	20 A	
(9)	—	—	—
(10)	Shift	7.5 A	

位置	表示	容量	接続先名称
(11)	Inlet	10 A	
(12)	Deicer	15 A	ワイパー デアイサ
(13)	AMP	20 A	
(14)	DCDC	150A	DCDC コンバーター
(15)	—	—	—
(16)	A/C	30 A	
(17)	—	—	—
(18)	Seat	40 A	
(19)	—	—	—
(20)	—	—	—
(21)	RDTR	80 A	ラジエーター ファン
(22)	Power S DR2	25 A	
(23)	Charger3	10 A	
(24)	B/U2	30 A	バックアップ
(25)	IGN2	60 A	パワー スイッチ
(26)	EPS	80 A	パワー ステアリング
(27)	JB	60 A	ジャンクション ボックス
(28)	—	—	—
(29)	IGN11	40 A	
(30)	—	—	—
(31)	IGN12	40 A	
(32)	—	—	—
(33)	—	—	—
(34)	A/C WP	10 A	エアコン ウォーター ポンプ
(35)	B/U	30 A	バックアップ
(36)	ABS MOT	50 A	ABS モーター
(37)	ABS SOL	30 A	ABS ソレノイド
(38)	ABS MOT2	40 A	ABS モーター

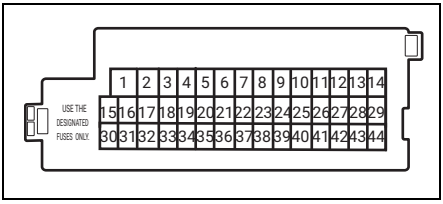
位置	表示	容量	接続先名称
(39)	ABS SOL2	30 A	ABS ソレノイド
(40)	EV2	30 A	
(41)	HORN	15 A	ホーン
(42)	H/L HI L	10 A	ヘッドライト（左）
(43)	H/L L	10 A	ヘッドライト（左）
(44)	H/L HI R	10 A	ヘッドライト（右）
(45)	H/L R	10 A	ヘッドライト（右）
(46)	Shift2	7.5 A	
(47)	EV BTRY	7.5 A	EV バッテリー
(48)	INV WP2	7.5 A	インバーターウォーターポンプ
(49)	—	—	—
(50)	FREQ	7.5 A	
(51)	A/C SIG	10 A	エアコン
(52)	A/C SIG2	10 A	エアコン
(53)	BTRY WP	15 A	
(54)	INV WP	15 A	インバーターウォーターポンプ
(55)	B SNSR	7.5 A	
(56)	B SNSR2	7.5 A	
(57)	IGR	30 A	
(58)	Charger	7.5 A	
(59)	EV	20 A	
(60)	FR OP	15 A	
(61)	RR PCU	10 A	
(62)	RR OP	15 A	
(63)	—	—	—
(64)	FR FOG	10 A	フォグランプ
(65)	B/U SPLY	30 A	

位置	表示	容量	接続先名称
(66)	DMS	7.5 A	ドライバーモニタリングシステム
(67)	—	—	
(68)	CONT5	15 A	
(69)	Charger2	10 A	
(70)	EVC	7.5 A	
(71)	ESU	7.5 A	
(72)	FR PCU	10 A	
(73)	Grill	7.5 A	
(74)	IGR SIG2	10 A	
(75)	ABS2	10 A	ABS
(76)	IGR SIG	10 A	

助手席足元のヒューズ



(1) 助手席足元のヒューズ



位置	表示	容量	接続先名称
(1)	Power window	30 A	パワーウインドー
(2)	IDS	15 A	マルチインフォメーションディスプレイ
(3)	IDS2	10 A	マルチインフォメーションディスプレイ
(4)	MTR	10 A	メーター
(5)	IG2 SIG	5 A	
(6)	TAIL L	5 A	尾灯（左）
(7)	A/B2	10 A	エアバッグ
(8)	TAIL R	10 A	尾灯（右）
(9)	Power window DR	20 A	パワーウインドー
(10)	RR FOG	10 A	リヤフォグ
(11)	Wash	15 A	ウォッシャーモーター
(12)	CHG	10 A	USB

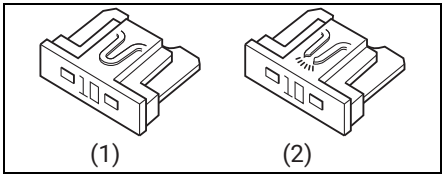
位置	表示	容量	接続先名称
(13)	Power window RR	20 A	パワーウインドー
(14)	CHG2	10 A	USB
(15)	MRR HTR	10 A	ドアミラーヒーター
(16)	RR DEF	20 A	リヤデフォッガー
(17)	Stop	10 A	制動灯
(18)	IG1 SIG7	5 A	
(19)	IG1 SIG3	5 A	
(20)	RR WIP	10 A	リヤワイパー
(21)	CONT4	10 A	
(22)	CONT	5 A	
(23)	D/L	20 A	ドアロック
(24)	HAZ	10 A	非常点滅表示灯
(25)	CONT3	5 A	
(26)	STL	10 A	
(27)	Power window RL	20 A	パワーウインドー
(28)	CONT2	5 A	
(29)	Power window AS	20 A	パワーウインドー
(30)	Dome2	10 A	室内灯
(31)	Radio	15 A	ラジオ
(32)	Dome	5 A	室内灯
(33)	ACC2	15 A	アクセサリーソケット
(34)	HTR	15 A	
(35)	ABS	5 A	ABS
(36)	IG1 SIG4	5 A	
(37)	ACC	5 A	アクセサリーソケット
(38)	FR WIP	25 A	フロントワイパー
(39)	IG1 SIG2	5 A	
(40)	IG1 SIG5	5 A	
(41)	IG1 SIG6	5 A	
(42)	Back	10 A	後退灯
(43)	A/B	10 A	エアバッグ
(44)	IG1 SIG	5 A	

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜きおよび交換用ヒューズが必要となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

点検・交換のしかた

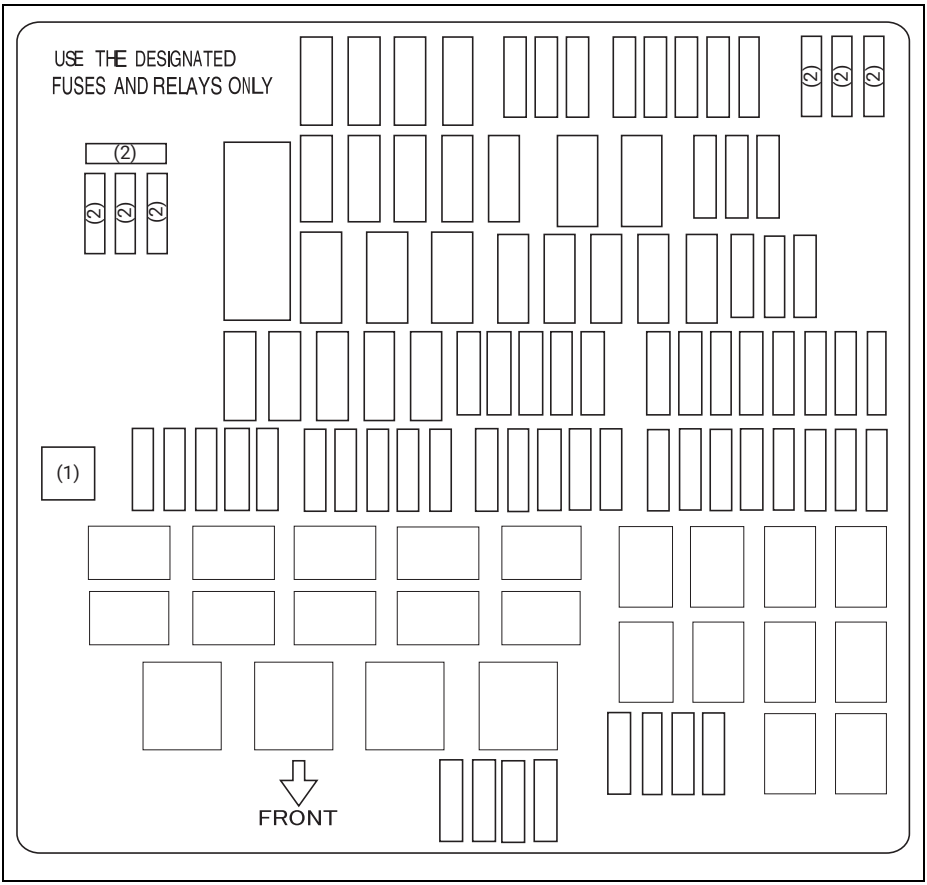
1) パワースイッチを “LOCK（OFF）” にします。
2) モータールーム内のリレーボックス、または助手席の足元のヒューズボックスのふたを外します。
3) 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。



(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

アドバイス

ヒューズ抜きと交換用ヒューズは、モータールームのリレーボックスにあります。



(1) ヒューズ抜き
(2) 交換用ヒューズ

4) 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。
- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

⚠ 警告

サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。

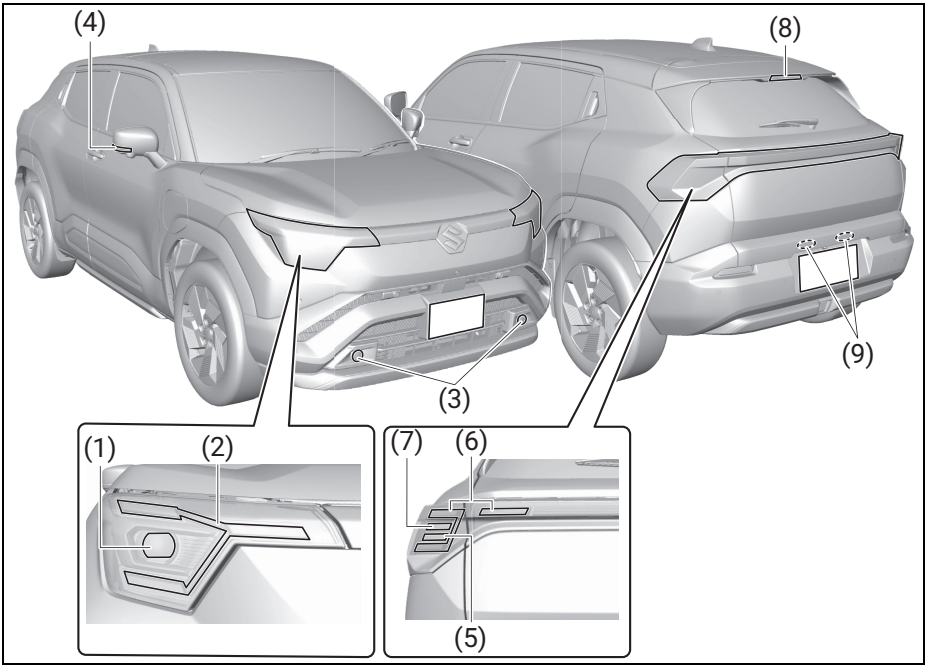
! 注記

メインヒューズボックス内のヒューズが切れたときは、スズキ販売店または

スズキ代理店で点検を受けてください。

電球の交換

すべてのランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



番号	名称			ワット数	型式
(1)	ヘッドライト			LED	—
(2)	車幅灯				
	方向指示器／非常点滅表示灯	前面			
	DRL（デイタイムランニングランプ）				
(3)	フォグランプ				
(4)	方向指示器／非常点滅表示灯	側面	ドアミラー		
(5)	方向指示器／非常点滅表示灯	後面			
(6)	制動灯／尾灯				
(7)	後退灯				
(8)	ハイマウントストップランプ				
(9)	番号灯				
	室内灯 **(>>> P.400)**				

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

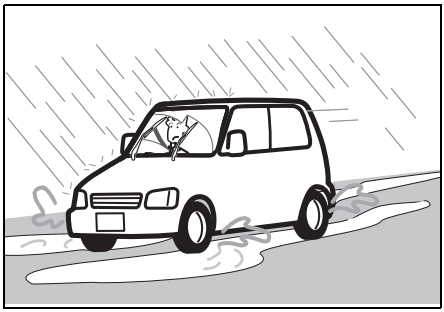
ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が曇ることや結露することがあります。これは、ランプ内外の温度差により一時的に起こる現象です。(雨天時などに窓ガラスが曇るのと同じ現象です。)

また、レンズの縁に水滴が付着しランプ内に水が入っているように見えることがあります。これは、ランプの外側に水が付着することで一時的に起こる現象です。

これらは機能上の問題はありません。

ただし、ランプ内に実際に水がたまっているときやレンズ内面に大粒の水滴がついているときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

ワイパー



! 注記

- **ワイパーブレードラバーが傷んでいると、ふき取りがきれいにできなかったり、ガラスに傷がついたりするおそれがあります。**
  定期的にワイパーブレードラバーを点検し、傷んでいる場合は交換してください。
- **ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たると、ガラスが破損したり傷がついたりするおそれがあります。**
  ワイパーブレード、ブレードラバーを交換するときはガラスに当たらないようにしてください。

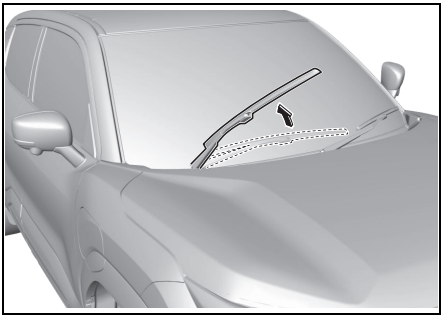
アドバイス

ワイパーブレード、ブレードラバーはスズキ純正品の使用をおすすめします。スズキ純正品以外のものを使用すると適切に取り付けできないおそれがあります。

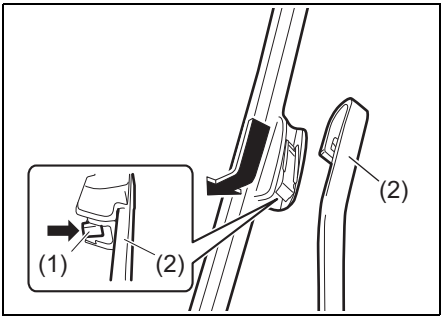
ワイパーブレード／ブレードラバーの交換

フロントワイパー

1)運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こします。

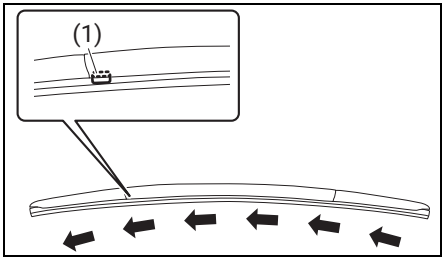


2)脱着用のツメを押しながらワイパーブレードをワイパーアームから外します。



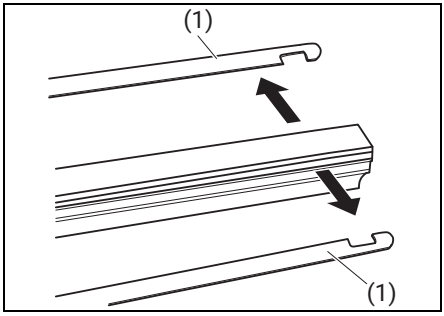
(1) ツメ
(2) ワイパーアーム

3)ブレードラバーのストッパーがツメから外れるまで矢印の方向へ引っ張り出し、そのままブレードから引き抜きます。



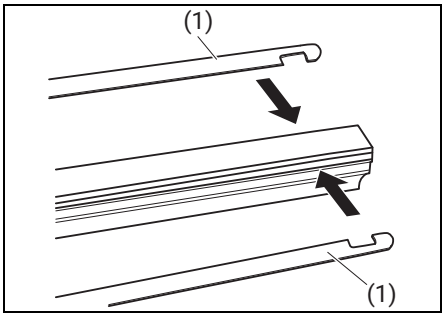
(1) ツメ

4)ブレードラバーからリテーナーを取り外します。



(1) リテーナー

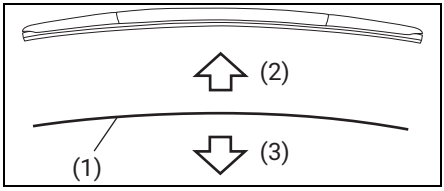
5)新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。



(1) リテーナー

アドバイス

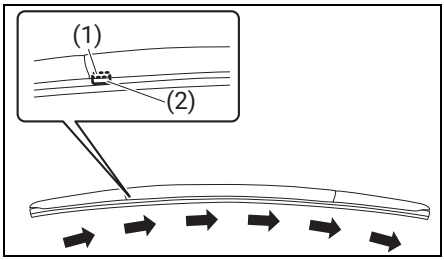
リテーナーは、反りの向きを次の図のように合わせて取り付けてください。



(1) リテーナー
(2) 上側
(3) 下側

6) ブレードラバーを引き抜いたときと逆の手順で差し込みます。ブレードラバーを取り付けるときは、ストッパーのない方からワイパーブレードに差し込みます。

7) ワイパーブレードのツメをストッパーに押し込んでブレードラバーを確実に固定します。



(1) 固定位置（ツメ）
(2) ストッパー

! 注記

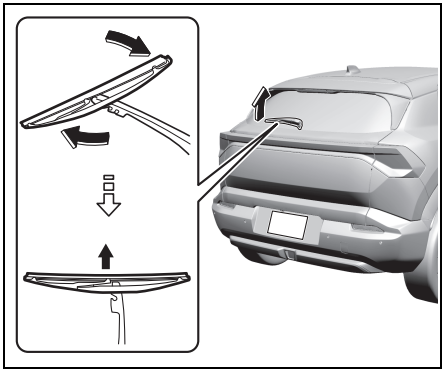
ブレードラバーは、ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。ワイパーの作動中にブレードラバーがずれるおそれがあります。

8) ワイパーアームからワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。

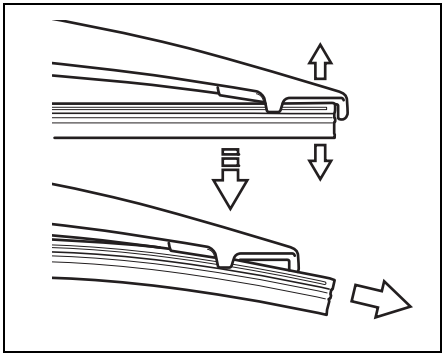
9) 助手席側、運転席側の順にワイパーアームをもどします。

リヤワイパー

1) ワイパーアームを起こします。起こしたあと、ワイパーブレードを回転させてワイパーブレードをワイパーアームから外します。



2) ブレードラバーの先端を引っ張りワイパーブレードのストッパーから外し、そのまま引き抜きます。

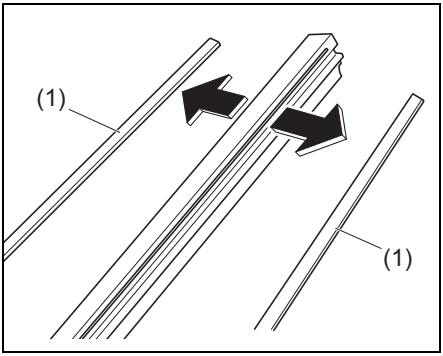


アドバイス

ワイパーブレードの端に強い力をかけないでください。

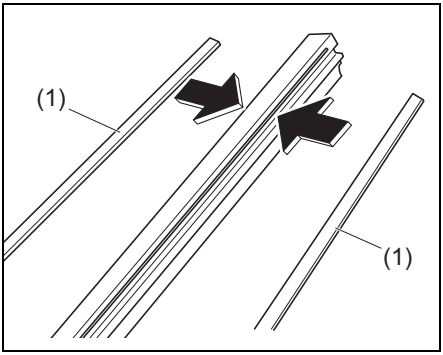
強い力をかけすぎると破損するおそれがあります。

3) ブレードラバーからリテーナーを取り外します。



(1) リテーナー

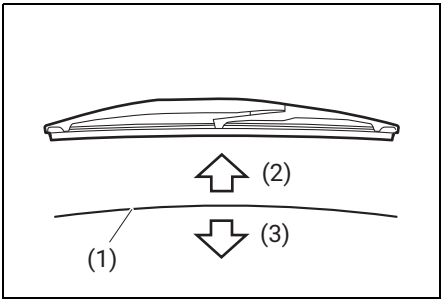
4) 新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。



(1) リテーナー

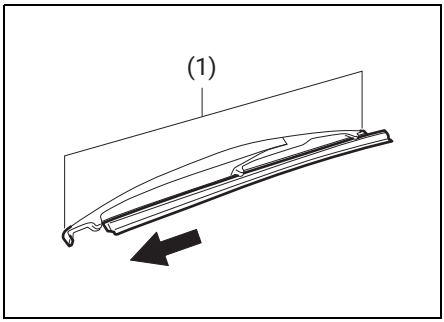
アドバイス

リテーナーは、反りの向きを次の図のように合わせて取り付けてください。



(1) リテーナー
(2) 上側
(3) 下側

5) ブレードラバーを引き抜いたときと逆の手順で差し込みます。ブレードラバーの両端がワイパーブレードの両端のストッパー内に収まるように確実に取り付けます。



(1) ストッパー

6) ワイパーアームからワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。

7

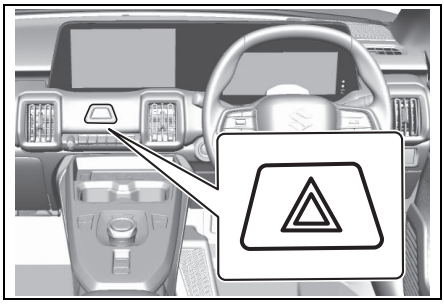
8. 万一のとき

まずはじめに..... 464
非常点滅灯表示灯スイッチ（ハザードランプ）..... 464
故障したときは..... 464
万一、事故が起きたときは..... 465
発炎筒 466
車両を緊急停止するには 467
水没／冠水したときは 468

トラブルが起きたときの対処方法 470
けん引について 470
スズキ緊急通報（ヘルプネット®）..... 477
パンクしたときは 482
鉛バッテリーあがりのときは 493
EV システムが始動できないときは 496
充電リッドが開かないときは 496
オーバーヒートしたときは..... 497
スタック（立ち往生）したときは498

非常点滅灯表示灯スイッチ（ハザードランプ）

パワースイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。



- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。

! 注記

EV システム停止中に非常点滅表示灯を長時間点滅させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。

EV システム停止中は、長時間点滅させないでください。

故障したときは

故障した時の連絡先は

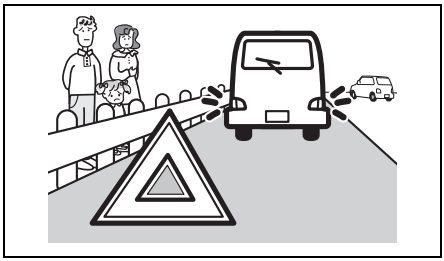
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店および JAF の連絡先は、別冊の「スズキ 4 輪車サービスネットワーク」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

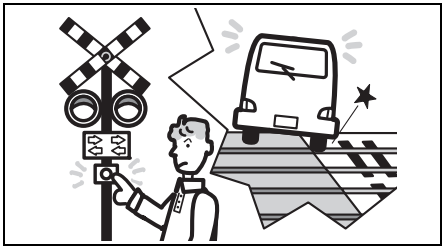
車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。



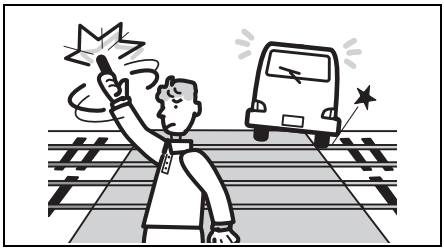
全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1) 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、EV システムを止めます。
2) 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。
3) 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。
4) 相手方、事故の状況をメモします。
5) ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

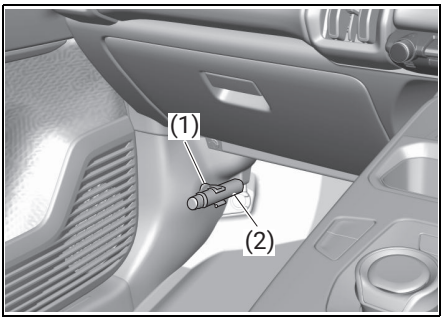
後遺症が出るおそれがあります。

車両が損傷している状態で走行しない

車両が損傷しているときは、それが軽微であっても走行する前にスズキ販売店またはスズキ代理店に相談し、速やかに点検、修理を受けてください。損傷の状況によっては車両火災や故障につながるおそれがあります。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約5分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。
  発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



(1) ホルダー
(2) 発炎筒

⚠ 警告

- **お子さまにさわらせると、やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。発炎筒はお子さまにはさわらせないでください。**
- **必ずホルダーに保管してください。**
- **やけどのおそれがあるため、点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。**
- **可燃物の近くで使用すると、火災の原因となります。ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。**
- **トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。**

車両を緊急停止するには

こんなときどうする？

発煙や火災

車両から発煙、火災などの危険が生じた場合は、直ちに安全な場所に停車し車両から離れてください。

警告灯が点灯したら？

ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。

床下に強い衝撃を受けたら？

ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液など漏れていないか、床下に異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

タイヤが突然パンクしたら？

ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。

ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？

すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（スズキ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠ 警告

金属音が発生したまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

金属音が発生したまま走行を続けないでください。

段差などに注意して

! 注記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- **路肩など段差がある場所への乗り入れ**
- **わだちやくぼみなどがある道路の走行**

ブレーキ操作の感じがいつもと違ったら？

⚠ 注意

次の様な状況を感じたら、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキの効きが悪い**
- **ブレーキの効きに左右差がある**
- **ブレーキペダルの踏込量が大きい**
- **ブレーキのひきずり感がある**

水没／冠水したときは

冠水した場所は走行しない

! 注記

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- **電装品がショートする。**
- **水の侵入による駆動用バッテリーの破損**

やむをえず冠水した道路を走行するときは、水深に応じて対応してください。

- 水深が床面より下のとき、低速で慎重に走行してください。水深がより深い箇所には侵入しないでください。
- 水深が床面より上のとき、すみやかに安全な場所に停車し、車外に出てください。

冠水状態から急激に増水したときは水没したときの対応をしてください。 **(>>> P.468)**

アドバイス

水深が床面より下のときでも速度が速くなると車が停止するおそれがあります。

冠水した場所や深い水たまりでの走行は避けてください。やむをえず冠水した場所を走行するときは、シフトポジションを “D” にして低速で慎重に走行してください。冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- 電装品の機能
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良



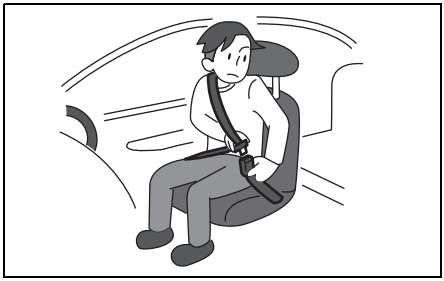
! 注記

- **冠水した場所や深い水たまりでの走行は避けてください。EV システムの損傷や電装品がショートするおそれがあります。**
- **駆動用バッテリーに水が入ると、システムの誤作動や故障の原因になります。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**

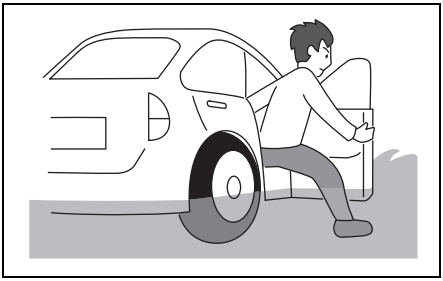
水没したときは

万一、お車が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

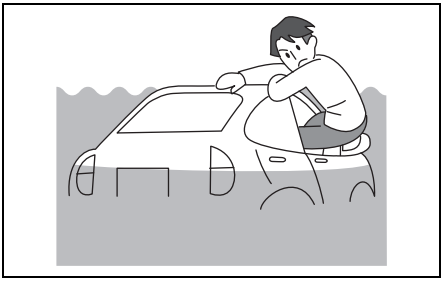
- まずシートベルトをはずしてください。



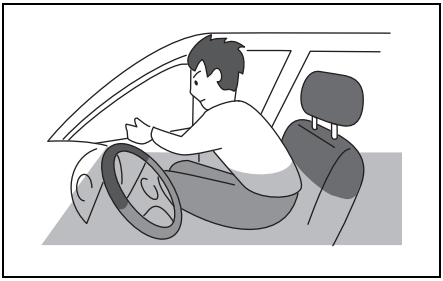
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。



- パワーウインドースイッチでウインドーガラスを開けてください。ドアを開けることができない場合、窓から車外に出てください。



- パワーウインドースイッチでウインドーガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差が無くなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。



⚠ 警告

- **水没した後、時間が経過するとパワーウインドーが動作しなくなります。**
- **この車のフロントドアガラス・リヤドアガラス・バックドアガラスは緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができますが、フロントガラスは合わせガラスのため緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができません。**
- **着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。**

アドバイス

車内外の水位差に応じた方法で対処してください。

- 水位差がある場合は窓から避難してください。
- 水位差がない場合はドアを開けて避難してください。

8

けん引について

レッカーけん引

けん引は、できるだけスズキ販売店またはスズキ代理店、専門業者にご依頼ください。

⚠ 警告

- **デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）および低速時ブレーキサポート（前進・後退）を作動停止（OFF）にしていないと、けん引中に急にデュアルセンサーブレーキサポート II および低速時ブレーキサポート（前進・後退）が作動して思いがけない事故につながるおそれがあります。けん引するときは、デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）を 作動停止（OFF）にしてください。(>>> P.503)**
- **電動パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。(>>> P.265)**
- **お車をけん引したあと、ヘッドランプの光軸が意図せず自動的に調整されたり、アダプティブハイビームシステムが一時的に作動しないことがあります。ヘッドランプの光軸やアダプティブハイビームシステムに違和感を感じた場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

! 注記

けん引中の車両の損傷を防ぐために、適切なけん引の手順や装置が必要です。

他車によるけん引ができない状況

次の場合は、パーキングブレーキにより車輪が固定されている可能性があるため、他車にロープけん引してもらうことはできません。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- シフト制御システムに異常があるとき
- イモビライザーシステムに異常があるとき
- 鉛バッテリーあがりのとき

けん引の前にスズキ販売店またはスズキ代理店への連絡が必要な状況

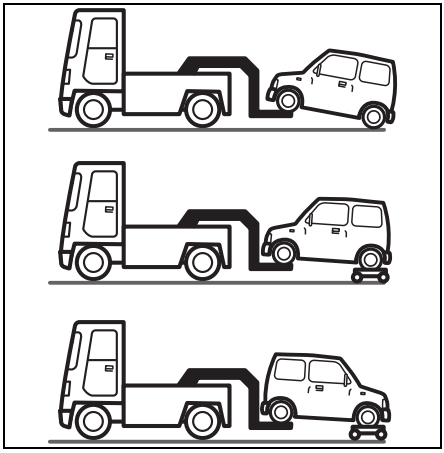
次の場合は、EV システムの故障が考えられます。けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示された
  “EV システム異常
  この車をけん引しないでください ”
- 異常な音がする

けん引してもらうときは (2WD 車)

2WD 車は、以下のいずれかの方法でけん引してもらいます。

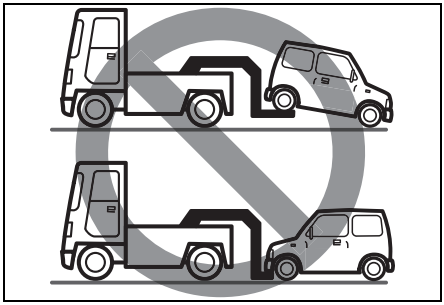
- 前輪を持ち上げる場合：
  前輪を持ち上げ、後輪を地面に着けたままにしてください。または前輪を持ち上げ、台車を使用して後輪を持ち上げてください。けん引する前にパーキングブレーキが解除されていることを確認してください。
- 後輪を持ち上げる場合：
  後輪を持ち上げ、台車を使用して前輪を持ち上げてください。



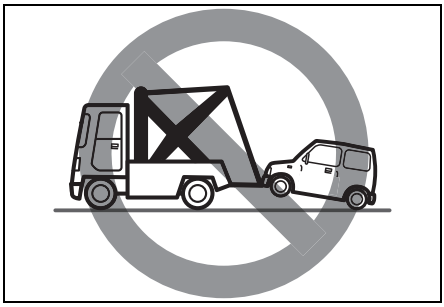
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- 電動パーキングブレーキが故障し、解除できない場合は、4輪を持ち上げてけん引してください。
- “READY” 表示灯が点灯していても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置や EV システムの故障が考えられます。
  けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

! 注記

- **2WD 車は、前輪が地面に着いた状態でけん引するとフロントモーターが損傷するおそれがあります。**
  2WD 車は、4 輪または駆動輪である前輪を持ち上げた状態でけん引してください。



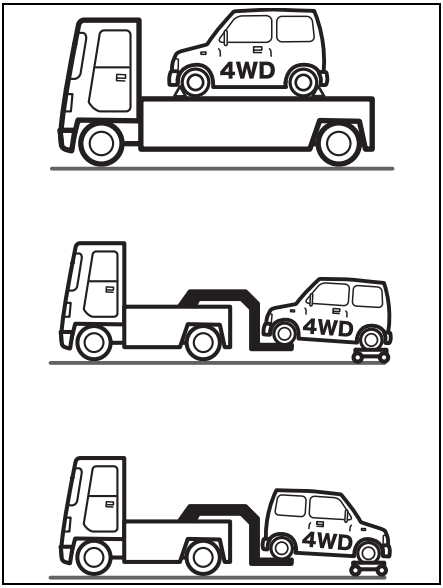
- **図のような車体つり上げ式のレッカー車でけん引すると、バンパーや車体が破損するおそれがあります。**
  車体つり上げ式のレッカー車でけん引しないでください。



けん引してもらうときは (4WD 車)

4WD 車は、以下のいずれかの方法でけん引してもらいます。

- フラットベッド（平床式）トラックによる運搬
- 前輪または後輪を持ち上げ、台車を使用して他の車輪を持ち上げる



! 注記

4WD 車は 4 輪とも地面に着いた状態でけん引すると、フロント／リヤのモーターまたは 4WD システムが損傷するおそれがあります。

ロープけん引

⚠ 警告

“READY” 表示灯が点灯した状態でけん引するときは、デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II）を作動停止（OFF）にしてください。デュアルセンサーブレーキサポート II が作動して思わぬ事故につながるおそれがあります。(>>> P.503)

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フックにかけます。

お車には工具（ジャッキハンドル、ホイールレンチ）、が搭載されていません。

別売りの工具については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

! 注記

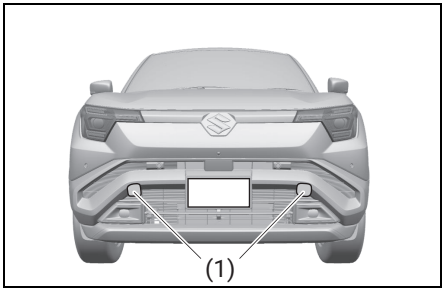
- **車両の前後に装備されているけん引フックを使用するときは、次のことに注意してください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
  - **激しい雪、ぬかるみ、砂地などから抜け出すために車両をけん引しないでください。**
  - **けん引フックに大きな衝撃が加わるような運転はしないでください。**

このような場合は、専門業者にご連絡ください。

- **この車両で他車をけん引しないでください。**

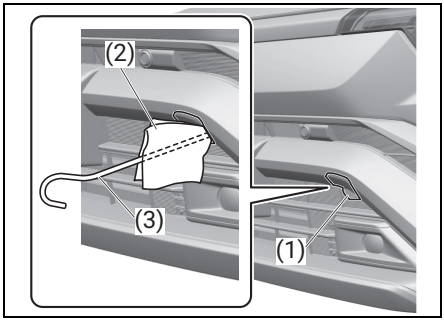
フロント側

1) カバーは、フロントバンパーの左右にあります。



(1) カバー

2) カバーの切り欠き部に、先端に布をかぶせたマイナスドライバーやジャッキハンドルなどを差し込み、カバーをこじって外します。



(1) カバー
(2) 布
(3) マイナスドライバーやジャッキハンドルなど

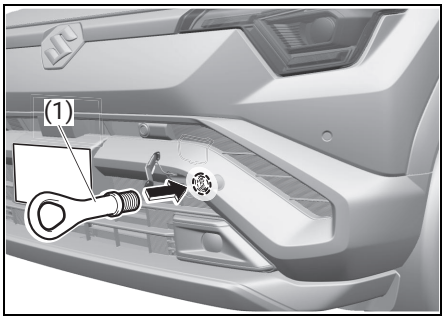
! 注記

けん引フックカバーを勢いよく引いたり、ねじったりすると、落下防止のひもが破損するおそれがあります。けん引フックカバーを外すときは、勢いよく引いたり、ねじったりしないでください。

アドバイス

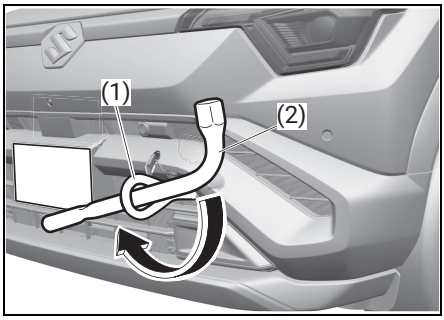
外したカバーは、粘着テープなどで固定しておくとけん引中に落ちたり、バンパーに当たったりしにくくなります。

3) けん引フック差し込み口にけん引フックを差し込み、手でまわせなくなる程度まで締め付けます。



(1) けん引フック

4) ホイールレンチや金属の硬い棒でけん引フックをしっかり締め付けます。



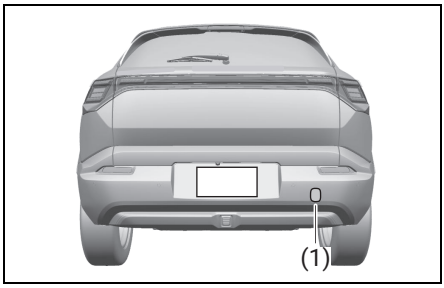
(1) けん引フック
(2) ホイールレンチや金属の硬い棒

リヤ側

! 注記

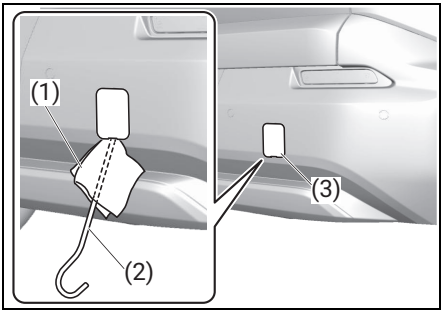
リヤ側は船舶輸送時の固定専用です。他車をけん引したり、積載車などで輸送するためにけん引フックを使用しないでください。

1) カバーは、リヤバンパー右側にあります。



(1) カバー

2) カバーの切り欠き部に、先端に布をかぶせたマイナスドライバーやジャッキハンドルなどを差し込み、リヤカバーをこじって外します。



(1) 布
(2) マイナスドライバーやジャッキハンドルなど
(3) カバー

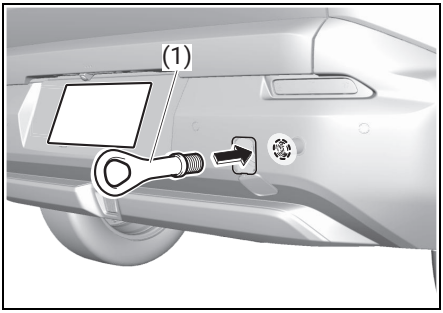
! 注記

カバーを勢いよく引いたり、ねじったりすると、落下防止のひもが破損するおそれがあります。けん引フックカバーを外すときは、勢いよく引いたり、ねじったりしないでください。

アドバイス

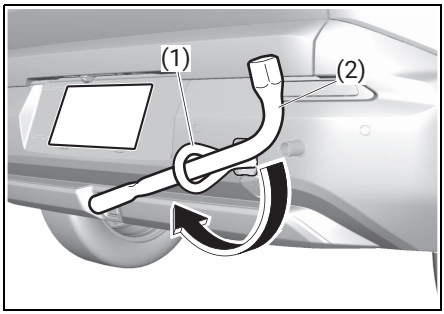
外したカバーは、粘着テープなどで固定しておくとけん引中に落ちたり、バンパーに当たったりしにくくなります。

3)けん引フック差し込み口にけん引フックを差し込み、手でまわせなくなる程度まで締め付けます。



(1) けん引フック

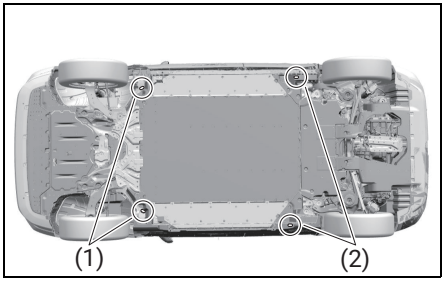
4)ホイールレンチや金属の硬い棒でけん引フックをしっかり締め付けます。



(1) けん引フック
(2) ホイールレンチや金属の硬い棒

積載車用の取り付け穴

積載車などに載せて搬送する場合は、前輪後部および後輪前部の取り付け穴（長穴）にロープをかけて固定します。

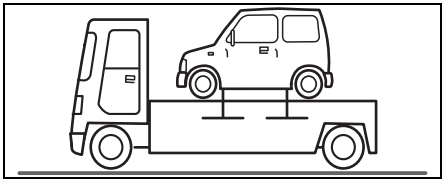


(1) 前輪後部の取り付け穴（長穴）
(2) 後輪前部の取り付け穴（長穴）

⚠ 警告

積載車用の取り付け穴をけん引に使用しないでください。穴が破損し、思わぬけがのおそれがあります。

ロープなどを使用して車両を固定する場合は、下図を参考に固定してください。

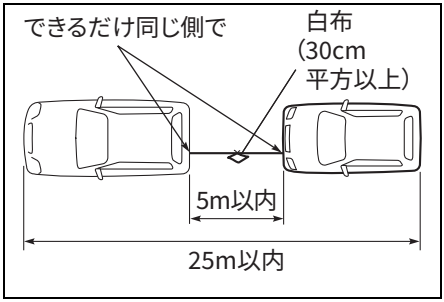


⚠ 注意

ロープなどを過度に締め付けないでください。車体が破損するおそれがあります。

ロープでけん引してもらうときは

1) けん引フックにロープをかけます。
   - ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。
2) ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）を付けます。



3) “READY” 表示灯は点灯したままにします。
   - “READY” 表示灯が点灯しない場合は、パワースイッチを “LOCK（OFF）” または “ACC” 以外の位置にします。
   - パワースイッチが “ON” のときは、デュアルセンサーブレーキサ ポート II（DSBS II）を作動停止（OFF）にしてください。**(>>> P.503)**

⚠ 警告

- **”READY ” 表示灯が点灯しないまま運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  ロープけん引してもらうときは、次のことをお守りください。
- **パワースイッチを “LOCK（OFF）” の位置にしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**
- **お車をけん引したあと、ヘッドランプの光軸が意図せず自動的に調整されたり、アダプティブハイビームシステムが一時的に作動しないことがあります。ヘッドランプの光軸やアダプティブハイビームシステムに違和感を感じた場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

4) EV システムを始動します。EV システムが始動しない場合は、パワースイッチを “ON” にしてください。シフトポジションを “N” にしてパーキングブレーキを解除します。電動パーキングのオートモードはオフにしてください。**(>>> P.265)**

アドバイス

シフトポジションを “N” にできない場合は、ロープけん引できません。スズキ販売店またはスズキ代理店、JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。

5)けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。
- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠ 警告

長い下り坂や急な下り坂では、ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。

! 注記

- **急発進などでけん引フックやロープに大きな衝撃が加わると、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
  けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。
- **やむをえずロープけん引してもらうときは、モーター保護のため、速度 30 km/h 以下、走行距離 30 km 以内にしてください。**

スズキ緊急通報（ヘルプネット®）

スズキ緊急通報は事故などでのエアバッグ作動時または車両後部から大きな衝撃があった場合に通報します。また SOS ボタンを押した時、お車に関する情報（車両の状態や位置情報等）をヘルプネット® のオペレーターに送信し、緊急機関（警察、消防、医療機関等）への連携をサポートするサービスです。

⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカー、植込み型徐細動器（ICD） 、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型徐細動器（ICD) 以外の医療用電気機器を使用している方は、スズキ緊急通報をお使いになる前に医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問合せ下さい。**
- **緊急通報後に救援を待つ場合は、後続車の追突等の二次災害を防ぐ手段を取り、全員車から降りてガードレールの外など安全な場所にすみやかに避難してください。**

アドバイス

- スズキ緊急通報はヘルプネット ® が行うサービスで事故や急病等の連絡をサポートします。
- スズキ緊急通報は事前にサービスのお申込みが完了していないと使用することができません。
- お車の実際の通知地点とヘルプネット ® に通報される位置情報には誤差が生じることがあります。

ヘルプネット® は株式会社日本緊急通報サービスの登録商標です。

お車に搭載された車載通信機はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。フリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

http://www.opensourceautomotive.com/suzuki/DCM3

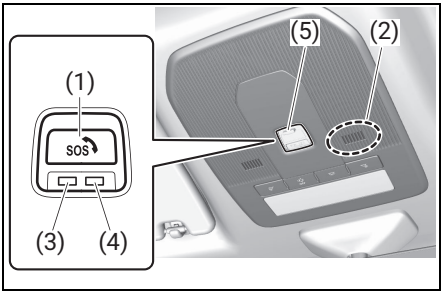
スズキ緊急通報（ヘルプネット®）の使いかた

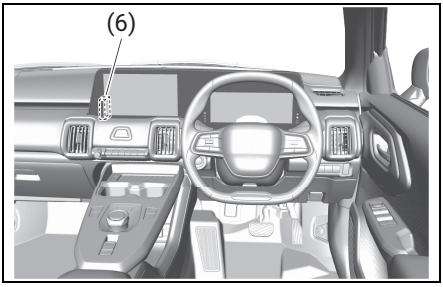
⚠ 警告

スズキ緊急通報（ヘルプネット ®）を使用するときは、安全な場所にお車を停車してお使いください。走行中に SOS ボタンを操作すると事故につながるおそれがあります。

スズキ緊急通報（ヘルプネット®）は先進事故自動通報（D-Call Net®）と SOS ボタン（手動通報）の 2 つの機能があります。SOS ボタン、マイク、カバーは前席室内灯の後方にあります。

8



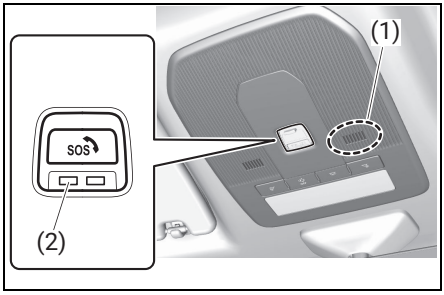


(1) SOS ボタン
(2) マイク
(3) 緑色インジケーター
(4) 赤色インジケーター
(5) カバー
(6) スピーカー

先進事故自動通報（D-Call Net® 対応）

パワースイッチが “ON” のときにスズキ緊急通報（ヘルプネット ®）は利用可能です。エアバッグが展開される衝突事故などをお車が検知した場合、お車から SOS 信号が送信されてヘルプネット ® に接続を開始します。接続時にはお車に関する情報（車両の状態や位置情報等）がヘルプネット ® に送信されます。緑色インジケーターが点滅状態に変わり、マイクを通してヘルプネット ® のオペレーターに接続されて通話可能になります。

- お客様の重症度推定に必要な情報(*)をヘルプネットに連携し、状況に応じてドクターヘリなどの出動を要請する D-Call Net® に対応しています。
  *: 衝突時の速度変化情報、助手席の乗員有無情報、前席 / 後席のシートベルト着用情報
- D-Call Net® は認定 NPO 法人救急ヘリネットワーク (HEM-Net) の登録商標です。



(1) マイク
(2) 緑色インジケーター

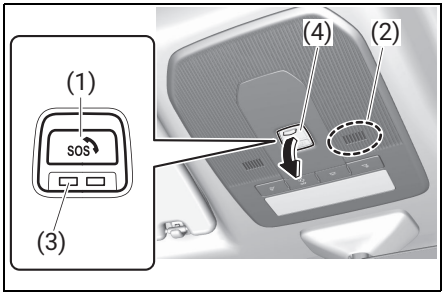
アドバイス

- 事故発生時以外でも、エアバッグが開いたときには自動通報します。このようなときにはヘルプネット ® のオペレーターに通話終了を依頼してください。
- 警察または消防への通報が必要なときはヘルプネット ® のオペレーターが警察または消防への連携をサポートします。
- 通話終了後は、ヘルプネット®から電話をかけると自動的に受話して通話を開始する呼び返し待機状態になります。呼び返し待機状態が終了すると、緊急通報が終了します。

SOS ボタン（手動通報）

パワースイッチが “ON” のときにスズキ緊急通報（ヘルプネット ®）は利用可能です。事故発生や急病などの緊急時にカバーを開けて SOS ボタンを押して離しま

す。接続時にはお車に関する情報（車両の状態や位置情報等）がヘルプネット ® に送信されます。緑色インジケーターが点滅状態に変わり、マイクを通してヘルプネット ® のオペレーターに接続されて通話可能になります。



(1) SOS ボタン
(2) マイク
(3) 緑色インジケーター
(4) カバー

! 注記

- **次のようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
  - **パワースイッチを “ON” にしてもインジケーター (赤色・緑色) が点灯状態にならないとき**
  - **赤色インジケーターのみ点滅しているとき**
- **赤色インジケーターが継続して点灯している場合は、電波状況の良い場所にお車を移動してください。お車を移動した後に赤色インジケーターから緑色インジケーターに変わらない場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**

アドバイス

- SOSボタンを使用してマイクで通話するときはパワースイッチを “ON” にして EV システムを始動した状態で使用してください。EV システム停止中にパワースイッチを “ON” に長時間していると鉛バッテリーあがりの原因になるおそれがあります。
- オペレーターとの通話の音量は調整できません。

- 緊急時以外は SOS ボタンを操作しないでください。手動通報を開始すると、お車からの通話の終了はできません。誤って通報してしまった場合はヘルプネット ® のオペレーターに通話終了を依頼してください。
- 緊急通報開始から通話終了までの間は、緊急通報時の通話を優先する為、自動的にオーディオやナビゲーションの音声がミュートされます。

スズキ緊急通報（ヘルプネット ®）のご注意

! 注記

通信用の機器が内蔵されていますので、インストルメントパネル上部にアクセサリーを取付けたりものを置かないでください。お車の位置情報が正確に送信されなかったり、オペレーターとの通話がつながりにくくなるおそれがあります。

アドバイス

- SOSボタン周辺にある内蔵のマイクに向かって話してください。
- スズキ緊急通報は携帯電話と同様のデータ通信網を使用しています。トンネル内、地下および屋内駐車場、山間地などの電波状況が悪い場所や電波の届きにくい場所や電話回線が混雑している等、発信規制中の時は使用できない場合があります。
- 緊急車両はお車の位置、車種、お車の色、ナンバープレート等をもとに通報車両を特定します。お車の色や

ナンバープレートを替えてしまっていると、お車が見つけにくいなどで緊急車両や緊急隊員の到着が遅れるおそれがあります。オペレーターにお車の色とナンバープレートをお知らせください。

- 手動通報を終了した時はSOSボタンのカバーをもとに戻してください。
- サービスの契約についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 通話終了後は、ヘルプネット®から電話をかけると自動的に受話して通話を開始する呼び返し待機状態になります。呼び返し待機状態が終了すると、緊急通報が終了します。

システム内蔵のバッテリーについて

先進事故自動通報（D-Call Net® 対応）はシステム内蔵のバッテリーを使用します。SOS ボタンの赤色インジケーターが点滅した場合、内蔵バッテリーが消耗して交換が必要な時期の場合があります。安全の為、内蔵バッテリーの交換をお勧めします。内蔵バッテリーの交換についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

SOS ボタン内のインジケーターについて

SOS ボタン内の緑色インジケーターと赤色インジケーターは、スズキ緊急通報（ヘルプネット ®）の状態とオペレーターとの通話状態により下記の状態となります。

インジケーター		状態	説明
緑色	赤色		
点灯	点灯	システム起動開始	パワースイッチを “ON” し、システム起動が開始されたことをお知らせします。システム起動開始後、約 5 秒間点灯します。
点灯	消灯	通報可能	システム起動が完了し、緊急通報が可能です。
点 滅（0.5 秒間毎）	消灯	緊急通報呼び出し中	オペレーターを呼び出しています。
点滅（約 1 秒間 毎）	消灯	緊急通報中	• 緊急通報しているとき • 呼び返し通話をしているとき（※1）
点滅 （約 0.3 秒 間毎）	消灯	緊急通報成功時	緊急通報が成功し、約 5 秒間点滅します。
点滅 （約 3 秒間毎）	消灯	GPS 測位不可	GPS が測位できない状況です。
		サービスエリア外	電波状況が悪く緊急通報ができない状況です。電波状況の良い場所にお車を移動してください。
消灯	点滅（約 1 秒間 毎）	システム異常	システム異常の為、緊急通報できない状況です。スズキ販売店またはスズキ代理店へご相談ください。

インジケーター		状態	説明
緑色	赤色		
消灯	点滅（約0.3秒間毎）	緊急通報失敗時	緊急通報失敗後約5秒間点滅します。再度緊急通報してください。
消灯	消灯	サービス未契約	スズキ緊急通報のサービスが未契約のため、緊急通報ができない状況です。スズキ販売店またはスズキ代理店へご相談ください。
		システム異常	システム異常の為、緊急通報できない状況です。スズキ販売店またはスズキ代理店へご相談ください。

※1 ヘルプネット® との通話が終了した後、ヘルプネット® から電話をかけると自動的に受話して通話を開始します。

! 注記

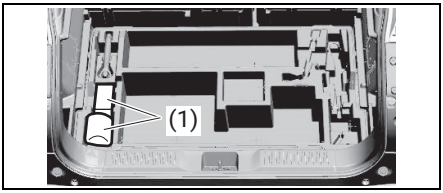
赤色インジケーターのみ点滅するとき、または赤色と緑色のインジケーターがいつまでも点灯し続けるときは、システムに異常があるおそれがあります。インジケーターの点滅状態については、スズキ販売店またはスズキ代理店へご相談ください。

パンクしたときは

お車にはスペアタイヤが搭載されていません。タイヤパンク応急修理セットをお使いください。 **(>>> P.482)**

タイヤパンク応急修理セットの収納場所

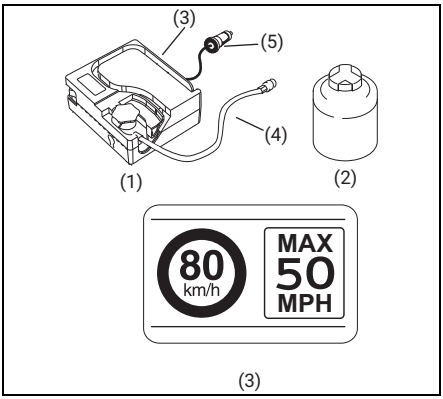
タイヤパンク応急修理セットは、荷室のラゲッジボード下にあります。



(1) タイヤパンク応急修理セット

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかに スズキ販売店またはスズキ代理店で修理または交換してください。



(1) エアーコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル（タイヤ 1 本分）
(3) 速度制限シール
(4) 注入ホース
(5) 電源プラグ

⚠ 注意

- **応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。**
- **応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。**
- **保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。**

! 注記

エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。

- **10 分以上連続して使用しない**
- **防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする**
- **砂やほこりなどを吸い込ませない**
- **使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチを OFF にして、30 分以上放置する**
- **分解、改造などをしない**
- **強い衝撃や圧力を加えない**

アドバイス

- エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- エアコンプレッサーは DC12 V 専用です。ほかの電源での使用はできません。

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
  - 期限が切れる前に、新品と交換してください。
- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
  - パワースイッチを “ACC” にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

応急修理の可否判断

次のようなとき、タイヤの応急修理ができます

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

! 注記

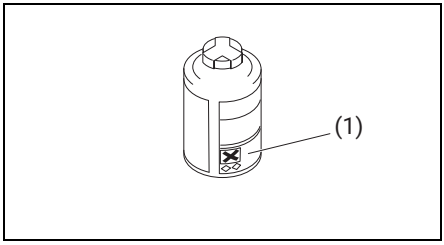
タイヤに刺さった釘やネジを抜いてしまうと、タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。

次のような場合は、タイヤの応急修理ができません

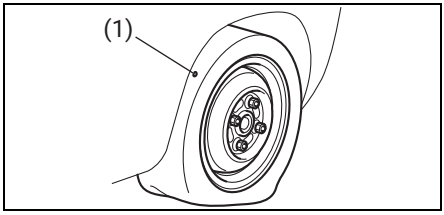
スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。（別冊の「スズキ 4 輪車サービスネットワーク」参照）

- 応急修理剤の有効期限が切れている（有効期限はボトルのラベルに記載）



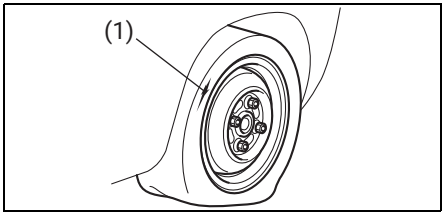
(1) 応急修理剤の有効期限

- タイヤの接地面に長さ 4 mm 以上の切り傷や刺し傷がある



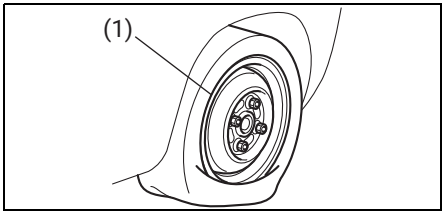
(1) 長さ 4 mm 以上の切り傷や刺し傷

- タイヤの側面に傷を受けている



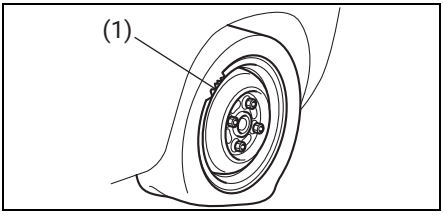
(1) タイヤの側面に傷

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリムの外側へ完全に外れている



(1) ホイールリム

- ホイールリムが破損または変形している



(1) ホイールリム

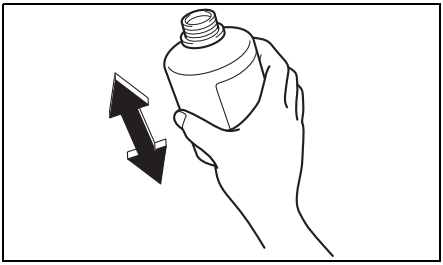
- タイヤが2本以上パンクしている（修理剤はタイヤ 1 本分です）

タイヤ応急修理のしかた

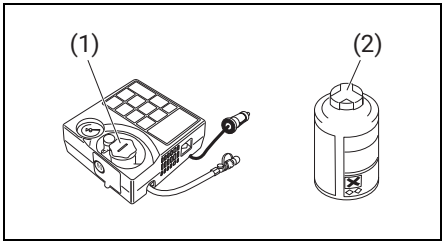
1) 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2) パーキングブレーキスイッチを引き、パーキングブレーキをかけます。 **(>>> P.264)**
   - P ポジションスイッチを押し、EV システムを停止します。必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。
   - パンクしたタイヤの状態を確認します。 **(>>> P.483)**

3) 同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振ります。

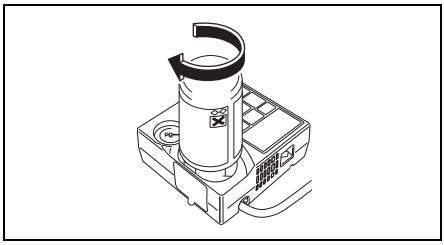


4) エアーコンプレッサーと修理剤ボトルのふたを開けます。

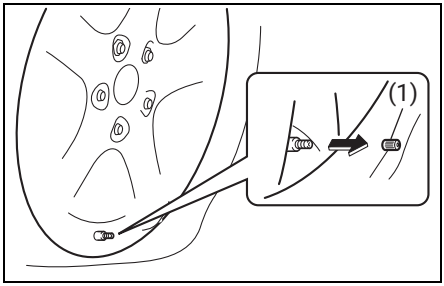


(1) エアーコンプレッサーのふた
(2) 修理剤ボトルのふた

5) 修理剤ボトルをコンプレッサーに取り付けます。
   - 時計方向にまわしてねじ込むと、ボトルの栓が破れます。

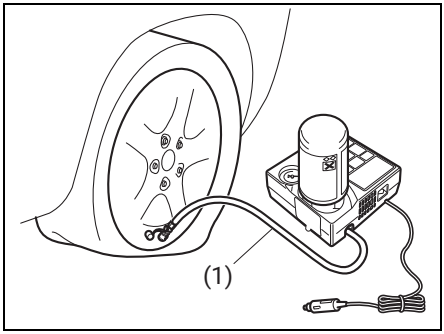


6) タイヤバルブからキャップを反時計方向にまわして外します。



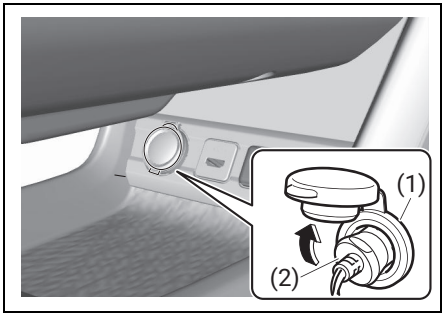
(1) キャップ

7) 空気注入ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



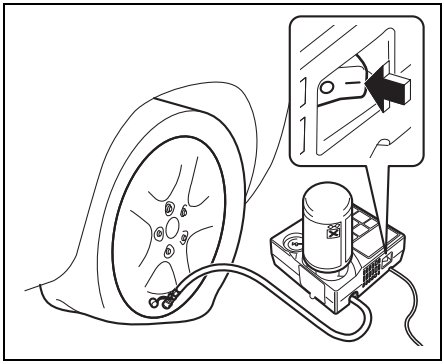
(1) 空気注入ホース

8) エアーコンプレッサーのスイッチがOFF（〇側）になっていることを確認します。電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、EV システムを始動します。



(1) 電源プラグ
(2) アクセサリーソケット

9) エアーコンプレッサーのスイッチをON （I 側）にし、修理剤とともに空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。



- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すきまがなくなれば空気圧が上がります。）
- 指定空気圧まで昇圧するには、10分程度が必要です。10 分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、空気注入ホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

⚠ 注意

- **コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。**
- **タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。**

! 注記

- **コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**
- **コンプレッサーは 10 分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。**

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

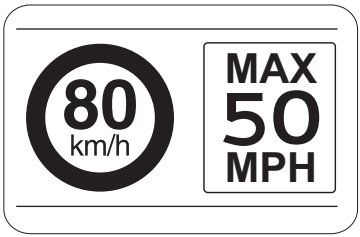
10) 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、応急修理セットを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

11) 約 10 分間または 5 km 程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が 130 kPa（1.3 kgf/cm2）以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧を測定するときは、空気注入ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチを ON (I 側）にしたあと、すぐにスイッチを OFF（○側）にして空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が 130 kPa 未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠ 注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

12) 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して 80 km/h 以下の速度で走行してください。



⚠ 警告

- **万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。SRS エアバッグの収納部には、速度制限シールを貼らないでください。**
- **安全運転のさまたげになるため、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には、速度制限シールを貼らないでください。**

タイヤを修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに

必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。

- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットを使用したあとは、新しい注入ホースおよび修理剤をスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

タイヤ交換の準備

お車にはスペアタイヤ、工具（ジャッキハンドル、ホイールレンチ）、ジャッキが搭載されていません。

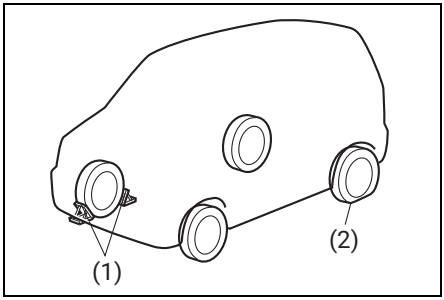
別売りの工具、ジャッキについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

別売りの工具が準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。 **(>>> P.482)**

1) 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

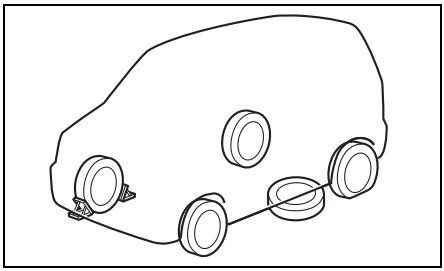
2) パーキングブレーキスイッチを引き、パーキングブレーキをしっかりとかけます。 **(>>> P.264)**
   - P ポジションスイッチを押し、EV システムを停止します。必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

3) 交換するタイヤと対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（市販品）を置きます。



(1) 輪留め
(2) 交換するタイヤ

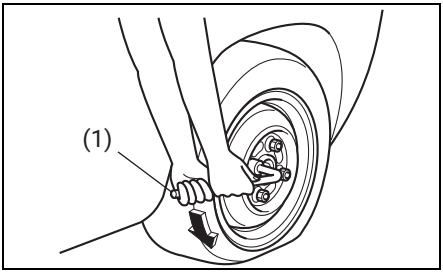
4) 工具、ジャッキを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。
   - 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、タイヤなどを交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。



アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5) ホイールレンチを使用して、ホイールナット 5 個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



(1) ホイールレンチ

ジャッキアップ

お車には工具（ジャッキハンドル、ホイールレンチ）、ジャッキが搭載されていません。

別売りの工具、ジャッキについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。 **(>>> P.264)**

- P ポジションスイッチを押し、EV システムを停止します。

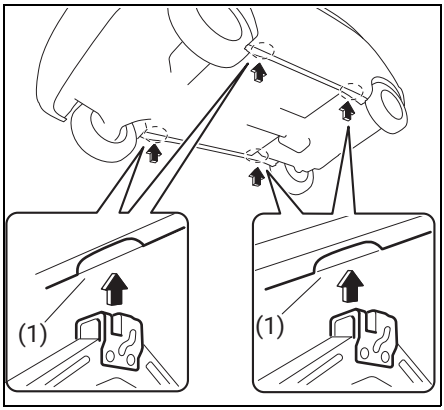
⚠ 警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車の専用品（別売り）を使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、EV システムを始動したり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にものをはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1) ジャッキハンドル取り付け部を手で時計方向にまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置に軽く接触させます。

2) ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置にはまっているか確認します。

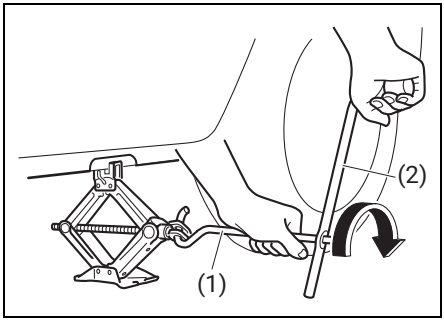


(1) 指定位置

3) ジャッキに、ジャッキハンドルとホイールレンチを取り付けます。（次の図参照）

- ジャッキハンドルは次の図のように、ホイールレンチの穴に差し込みます。

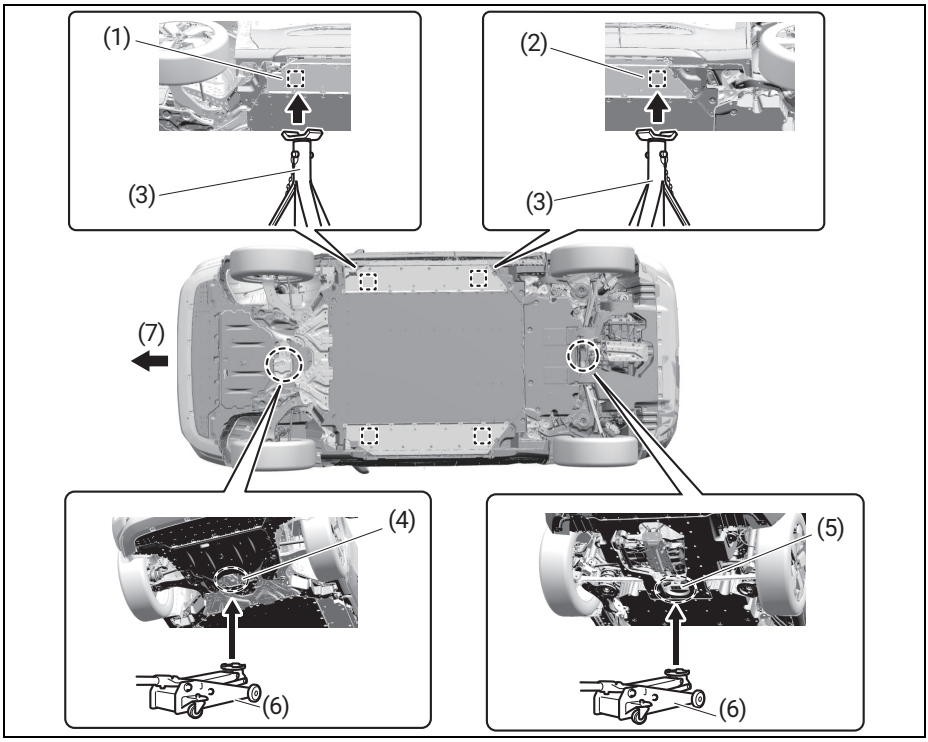
4) ホイールレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



(1) ジャッキハンドル
(2) ホイールレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を次の図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



(1) フロント側リジッドラック指定位置
(2) リヤ側リジッドラック指定位置
(3) リジッドラック

(4) フロント側ガレージジャッキ指定位置
(5) リヤ側ガレージジャッキ指定位置
(6) ガレージジャッキ
(7) フロント側

⚠ 警告

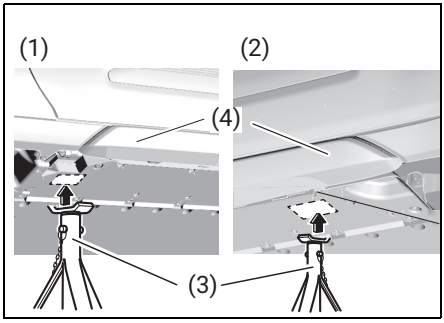
車両が損傷したり、思わぬ事故のおそれがあるため、次のことをお守りください。

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

! 注記

サイドスカートにリジッドラックが接触した状態で使用すると、サイドスカートが破損したり傷ついたりするおそれがあります。

リジッドラックを使用するときは、サイドスカートに当たらないように位置を調整してください。



(1) フロント側リジッドラック指定位置
(2) リヤ側リジッドラック指定位置
(3) リジッドラック
(4) サイドスカート

タイヤの取り付け・取り外し

お車には工具（ホイールレンチ）が搭載されていません。

別売りの工具については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

1) ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

⚠ 注意

走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりは高温になっているこ

とがあるため、やけどのおそれがあります。

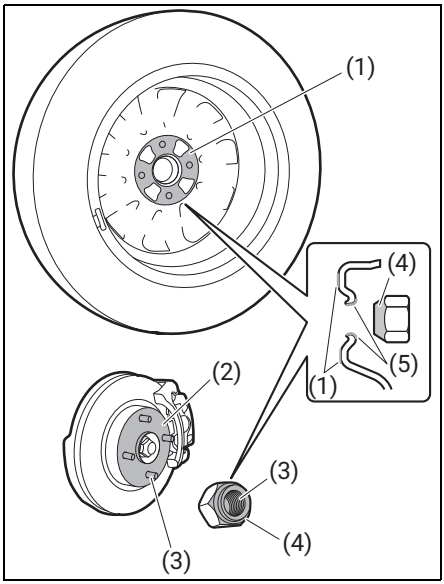
走行直後のホイール､ホイールナット､ブレーキまわりなどには触れないでください。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2) 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

(1) 交換するホイールの取り付け面
(2) 車体側の取り付け面（ハブ面）
(3) ボルトやホイールナットのネジ部
(4) ホイールナットのテーパー面
(5) ホイール穴のテーパー面



- このとき、ボルトやナットのネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

⚠ 警告

前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるみ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

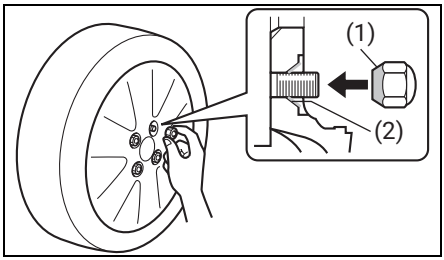
ボルトやナットのネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。

! 注記

ナットやボルトに、オイルやグリスが付着していると、必要以上にナットを締めすぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。

3) ホイールナットのテーパー面が、ホイール穴のテーパー面に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。



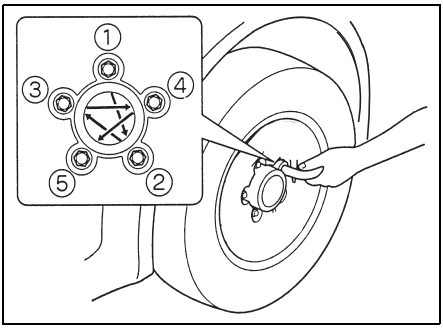
(1) ホイールナットのテーパー面
(2) ホイール穴のテーパー面

4) 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5) ホイールレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

- 締め付けトルク：150 N・m（1530 kgf・cm）

- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



⚠ 警告

ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキ販売店またはスズキ代理店で締め付けトルクの点検を受けてください。

! 注記

ホイールレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締めすぎてボルトが損傷するおそれがあります。

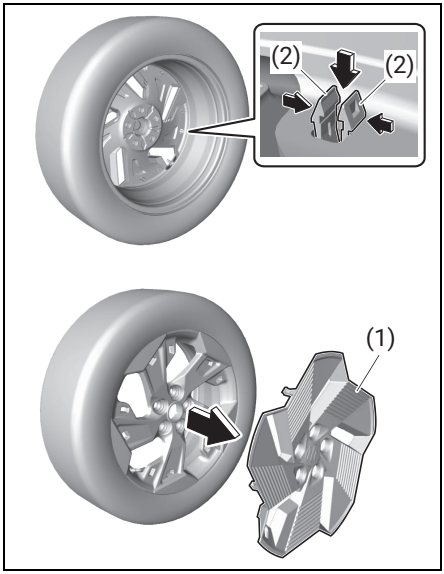
パイプや棒などを使用して、必要以上にナットを締めないでください。

アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

ホイールガーニッシュの取り付け・取り外し

ホイールガーニッシュを取り付けたり取り外したりするときは、ホイールガーニッシュの裏側にあるホイールガーニッシュホルダーをつまんで押します。取り付けたあとは、必ずホイールガーニッシュがホイールに固定されていることを確認してください。



(1) ホイールガーニッシュ
(2) ホイールガーニッシュホルダー

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキは、所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- タイヤを交換してから1,000 km程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

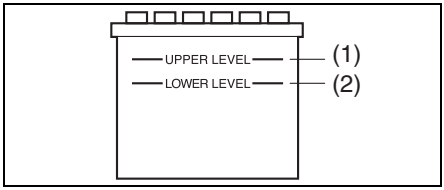
アドバイス

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

鉛バッテリーあがりのときは

警告

- **鉛バッテリーが凍結してる場合は、絶対にジャンプスタートを行なわないでください。鉛バッテリーが爆発するおそれがあります。**
- **ブースターケーブルを接続するときは、手やブースターケーブルが冷却ファンから離れていることを確認してください。冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。**
- **鉛バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。**
  - **バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限以下のままで充電などすると、バッテリーが発熱して爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。バッテリー補充液を上限まで補充してから、充電などを行なってください。**



(1) 上限

(2) 下限

- **充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。**

- **バッテリーがあがった車の“－”端子にブースターケーブルをつながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れた電源供給ユニットの金属部に接続してください。**
- **乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。**
- **原因不明の放電を繰り返す場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。**
- **けがや車両または鉛バッテリーの損傷を防ぐために、以下の方法に従ってジャンプスタートを行なってください。作業に不安がある場合は、スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。**

⚠ 注意

- **ショート防止のため、ブースターケーブルの“＋”端子は、バッテリーの“＋”端子以外の部分（“－”端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。**
- **このお車は押しがけができません。安全のため、押しがけをしないでください。**

鉛バッテリーあがりとは

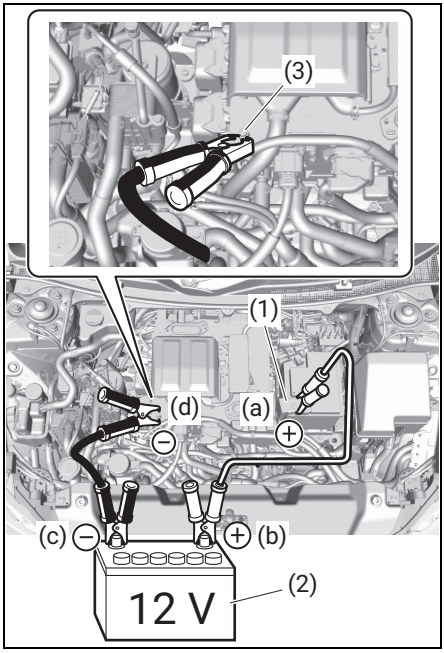
次のようなときは、鉛バッテリーがあがっています。

- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

EV システムを再始動するには

ブースターケーブルと、12V バッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、EVシステムの始動ができます。

1) バッテリーがあがった車とほかのバッテリー正常車の両方に、ブースターケーブルが届くよう配置します。車両どうしが接触していないことを確認します。
2) 必要なもの（ヘッドライトや非常時点滅表示灯など）を除き、全ての電装品を OFF にします。
3) 1 本目のブースターケーブルを、バッテリーあがり車の“＋”端子に接続します。
4) もう一方の端を、バッテリー正常車の“＋”端子に接続します。
5) 2 本目のブースターケーブルを、バッテリー正常車の“－”端子に接続します。
6) もう一方の端を、図で示す電源供給ユニットの金属部に接続します。



(1) バッテリーあがり車の鉛バッテリー
(2) 正常車の鉛バッテリー
(3) 電源供給ユニットの金属部

(a) バッテリーあがり車の “ ＋ ” 端子
(b) バッテリー正常車の “ ＋ ” 端子
(c) バッテリー正常車の “ － ” 端子
(d) 電源供給ユニット

7) バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。
8) バッテリーあがり車の EV システムを始動します。
9) 取り付けたときと逆の手順で、ブースターケーブルを外します。

バッテリーあがりを防ぐためには

- “READY” 表示灯が点灯していない状態でライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用しないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、電装品の使用を極力避けてください。

EV システムが始動できないときは

次のような場合では、EV システムが始動できないことがあります。次の状況をご確認いただき、適切に対処してください。

- 車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。 **(>>> P.104)**
- ヘッドライトが極端に暗くなったり、消えたりする場合、またはヘッドライトが点灯しない場合は、鉛バッテリーあがりや鉛バッテリー端子がゆるんでいる、または電気系統が故障している可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  原因が明らかでない場合は、電気系統の故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
- 駆動用バッテリーあがりの可能性があります。駆動用バッテリーを充電してください。 **(>>> P.100)**
- 携帯リモコンの電池が消耗していたり、電気系統の故障によるヒューズ切れの可能性があります。 **(>>> P.449) (>>> P.450)**
- 駆動用バッテリーの温度が極端に低い可能性があります。 **(>>> P.84)**

対処の方法がわからないときや、対処しても EV システムが始動できないときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

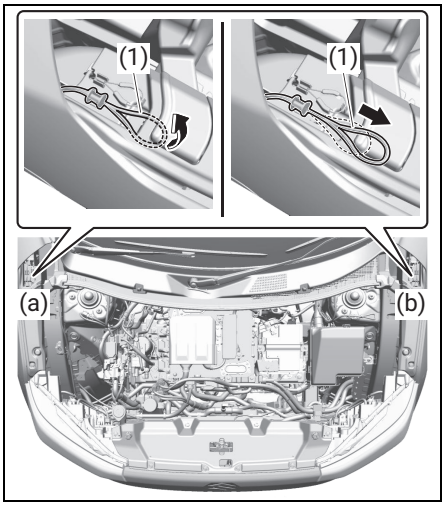
充電リッドが開かないときは

充電リッドが通常の操作で開かないときは、次の方法で充電リッドを開けてください。

1) 全てのドアおよび充電リッドが閉まっていることを確認してください。
2) 携帯リモコンのロックスイッチ、またはリクエストスイッチを押して施錠します。
3) 携帯リモコンのアンロックスイッチ、またはリクエストスイッチを押して解錠します。
4) 充電リッドが開くことを確認してください。

前記手順で充電リッドが開かないときは、次の方法で充電リッドを開けてください。

1) ボンネットを開けます。
2) 図で示すケーブルを車両前方に向かって軽く引き、充電リッドを開ける準備を行ないます。



(1) ケーブル（黒）

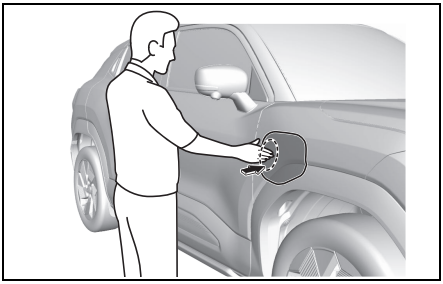
(a) 普通充電リッド側

(b) 急速充電リッド側

! 注記

ケーブルを引くだけでは充電リッドは開きません。ケーブルが損傷するおそれがあるので、強く引かないでください。

3) 図で示す部分を押して充電リッドを開けます。



4) ケーブルをもとの位置にもどします。

! 注記

ケーブルが損傷するおそれがあるので、強く引かないでください。

オーバーヒートしたときは

マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示された場合、オーバーヒートしている可能性があります。

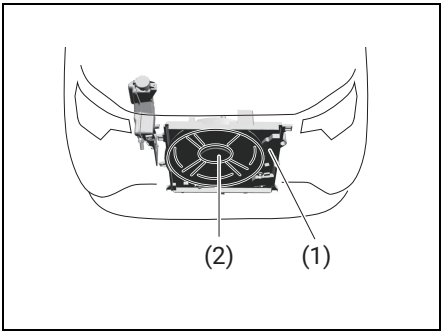
- “EV システム高温 出力制限中です ”
- “ モータ・インバータ高温状態 ”

! 注記

駆動用バッテリーの冷却水は、ラジエーター専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因となりますので絶対に入れないでください。スズキ純正の駆動用バッテリー冷却水がない場合は、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

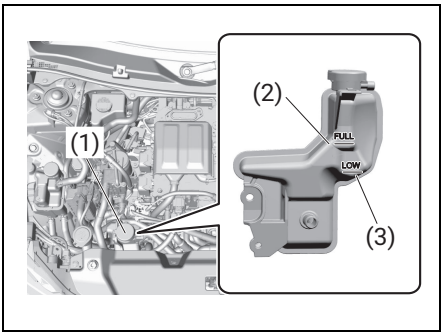
対処方法

1) 車を安全な場所に停めて、エアコンのスイッチを切ります。
2) “READY ”表示灯が点灯した状態で、ボンネットを開けます。
3) ラジエーターの冷却用のファンが作動しているが確認します。
   - 冷却ファンが作動している場合：“EV システム高温 出力制限中です ”または “ モータ・インバータ高温状態 ” のメッセージが消えるまで待ち、EV システムを停止してください。
   - 冷却ファンが作動していない場合：ただちに EV システムを停止し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
4) EVシステムが十分に冷えてから、ホース、ラジエーター、ラジエーターコアから冷却水の漏れがないか確認してください。多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。



(1) ラジエーター
(2) 冷却ファン

5) デガッシングタンクの冷却水レベルを確認してください。EV システムが十分に冷えてから、冷却水の量が“FULL”（上限）マークと“LOW”（下限）マークのあいだにあるかを確認します。



(1) デガッシングタンク
(2) “FULL”（上限）マーク
(3) “LOW”（下限）マーク

6) 冷却水が“LOW”（下限）マークを下回っている場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。

スタック（立ち往生）したときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

1) シフトポジションを“D”または“R”にして、周囲の安全を確かめて、ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進と後退を細かく繰り返してください。

アドバイス

- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、センターディスプレイの“設定”から ESP® システムを作動停止の状態にしてください。

2) 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してスズキ販売店またはスズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠ 警告

脱出の際、勢いよく発進すると事故を起こすおそれがあります。脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。

! 注記

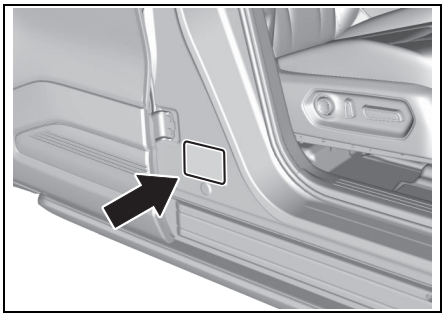
- **タイヤを高速で回転させると、タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。タイヤを空転させないでください。**
- **前進と後退を長時間繰り返すと、EV システムがオーバーヒートしたり電動モーターが損傷するおそれがあります。**

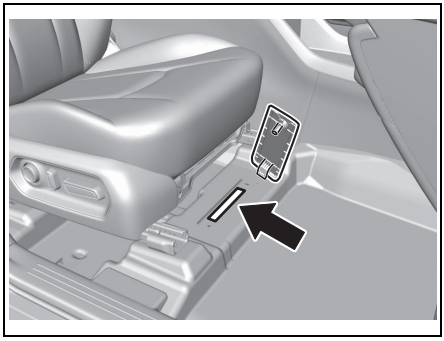
9. サービスデータ

仕様一覧 500
車体番号 500
サービスデータ 501
こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます 503

車体番号

車台番号は、下記の場所に記載されています。車両の登録やスズキ販売店またはスズキ代理店へお問い合わせの際に、使用する場合があります。





サービスデータ

項目：電装	
鉛バッテリー	LN1
ヒューズ	次の参照先をお読みください。 **(>>> P.450)**

項目：タイヤ		
タイヤサイズ		225/55R 18 98V
空気圧	前輪	250 kPa （2.5 kgf/cm^2）
	後輪	250 kPa （2.5 kgf/cm^2）
項目：ホイール		
リムサイズ		18×7J
インセット		45 mm
取り付けピッチ円直径（PCD）		114.3 mm

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目：ブレーキ			
ブレーキディスク厚さ ※1	フロント	基準値（新品時）	28.0 mm
		限度値	25.0 mm
	リヤ	基準値（新品時）	18.0 mm
		限度値	16.5 mm
ブレーキペダル	遊び	1 ～ 8 mm	
	床板とのすきま	82 mm 以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf)〕	

※1 点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。
なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

記載の容量は目安です。交換時の量とは異なることがあります。

項目：油脂類			容量
駆動用バッテリークーラント	2WD	スズキ純正 駆動用バッテリークーラント (オレンジ)	7.0 L
	4WD		9.1 L

項目：油脂類			容量
eAxle オイル	フロント	スズキ純正 E- トランスアクスルオイル SE1	2.7 L
	リヤ (4WD)		2.6 L
ヒーター用冷却水		スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）	3.9 L
ブレーキ液 ※1	グレード	スズキ純正ブレーキフルード (DOT-3)	—
ウォッシャー液	グレード	スズキエクスターウインドーウォッシャー液	2.4 L

※1 指定外のブレーキ液は絶対に入れないでください。

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー **(>>> P.233)**	はさみ込み防止機構 **(>>> P.235)**	鉛バッテリー端子やヒューズを外すなどしたとき

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてスズキ販売店またはスズキ代理店で作動内容を変更することができます。また、メーターディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

次の機能の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- リモートパワーウインドー
- キーレスプッシュスタートシステム
- アンサーバック機能（点灯箇所）
- ドライバーモニタリングシステム設定

! 注記

カスタマイズを行うときは、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、“READY” インジケーターが点灯している状態で実施してください。

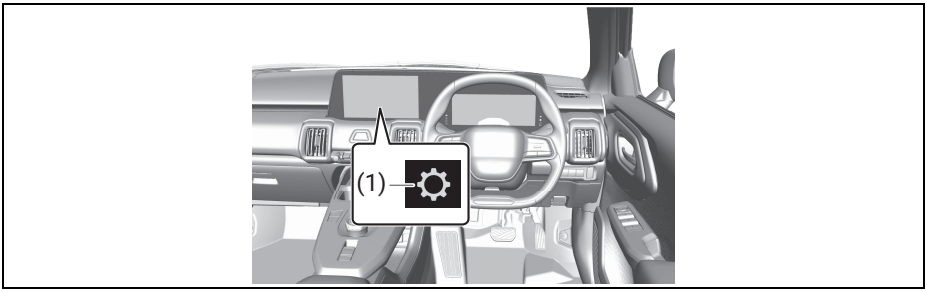
センターディスプレイ以外で設定できる項目

項目	機能	カスタマイズ設定
リモートパワーウインドー	車外から携帯リモコンを使用して、ウインドー開閉する機能	あり／なし
キーレスプッシュスタートシステム	キーレスプッシュスタートシステムの各発信機の機能	あり／なし
ドライバーモニタリングシステム	パワースイッチを“ON”にしたときに、ドライバーモニタリング機能を自動的にON設定に切り替える機能	切り替えあり／切り替えなし

センターディスプレイの “ セッティング ”

セッティングモードへの切替えのしかた

1) パワースイッチを “ON” にします。
2) 車両が停止している状態で、センターディスプレイの “ 設定 ” アイコンを選択してください。



(1) “ 設定 ” アイコン

3)セッティングモードの画面が表示されたら、変更したい項目を選択してください。

アドバイス

“ ” が表示されている場合、選択すると前のページに戻ります。

セッティングモードの終了

終了するときは、“ 設定 ” アイコン以外を選択してください。

設定項目一覧

“ 走行中の設定 ”

項目	カスタマイズ設定
車線逸脱抑制	ON ／ OFF
ESP®	ON ／ OFF
トラクションコントロール	ON ／ OFF
寒冷時バッテリー昇温（急速充電前）	ON ／ OFF

“ 運転支援 ”

項目		カスタマイズ設定
デュアルセンサーブレーキサポート	デュアルセンサーブレーキサポート	ON ／ OFF
	警報タイミング	早い／標準／遅い

項目		カスタマイズ設定
標識認識	標識認識	ON ／ OFF
	速度超過お知らせ方法	強調表示／強調表示とブザー／ OFF
	速度超過お知らせ車速	2 km ／ 5km ／ 10km
	進入禁止・赤信号お知らせ方法	強調表示／強調表示とブザー／ OFF
	制限速度変化通知	ON ／ OFF
発進お知らせ	先行車	ON ／ OFF
	信号	ON ／ OFF
	告知タイミング	早い／標準／遅い
車線逸脱抑制	車線逸脱抑制	ON ／ OFF
	低車速支援	ON ／ OFF
	警報手段	振動／ブザー
	警報タイミング	標準／早い
	ふらつき警報	ON ／ OFF
ブラインドスポットモニター	ブラインドスポットモニター	ON ／ OFF
	リヤクロストラフィックアラート	ON ／ OFF
リヤクロストラフィックアラート	ブラインドスポットモニター	ON ／ OFF
	リヤクロストラフィックアラート	ON ／ OFF
ESP®	ESP®	ON ／ OFF
	トラクションコントロール	ON ／ OFF
アダプティブクルーズコントロール	加速度設定	弱／中／強
	速度設定（短押し）	± 1 ／ ± 5 ／ ± 10 (km/h)
	速度設定（長押し）	± 1 ／ ± 5 ／ ± 10 (km/h)
	カーブ速度抑制	OFF ／弱／中／強
アダプティブハイビーム	アダプティブハイビーム	遮光制御 ON ／遮光制御 OFF ／ OFF
ドライブスタートコントロール	後退時速度上限	約 12km/h ／ 約 30km/h
ドライバーモニタリングシステム	眠気・脇見警報	ON ／ OFF

“ 車両 ”



項目			カスタマイズ設定
エクステリア	ドアロック	キーインロック	ON ／ OFF
		アンサーバックブザー	ON ／ OFF
		リヤシートリマインダー	“OFF” ／ “ 表示 ” ／ “ 表示とドアロック通知音 ”
	ワイパー	リヤワイパー[リバース連動]	連続モード／ 1 回モード／ OFF
	ライト	アダプティブハイビーム	遮光制御 ON ／遮光制御 OFF ／ OFF
		DRL	ON ／ OFF

項目			カスタマイズ設定
インテリア	お気に入りスイッチ		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	アンビエントライト	照明モード	ON ／ OFF
		照明レベル	1 ／ 2 ／ 3 ／ 4 ／ 5 ／ 6 ／ 7
		照明色	ホワイト／ウォームホワイト／イエロー／グリーン／ターコイズ／ブルー／バイオレット／パープル／マゼンタ／レッド／アンバーオレンジ／ピンク
	足元照明		ドア連動／ライト ON/OFF 連動／ OFF
	センターディスプレイ		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
	メーターディスプレイ	レイアウト	Standard ／ Wide ／ Classic
		カスタマイズ	ON ／ OFF
		電費表示	通算／ TRIP A 連動／ ワンドライブ
		電費リセット	
		明るさ	1 ／ 2 ／ 3 ／ 4 ／ 5 ／ 6 ／ 7
	報知音・音声案内		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

“EV”



項目			カスタマイズ設定
充電	普通充電電流		MAX ／ 16A ／ 8A
	タイマー充電		次の参照先をお読みください。 **(>>> P.118)**
	駆動用バッテリー温度	寒冷時バッテリー昇温（急速充電前）	ON ／ OFF
		高温時バッテリー冷却（普通充電中）	ON ／ OFF
回生ブースト	カスタマイズ		弱／中／強
	メモリ		ON ／ OFF

“ 画面 ”



項目		カスタマイズ設定
センターディスプレイ		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
メーターディスプレイ	レイアウト	Standard ／ Wide ／ Classic
	カスタマイズ	ON ／ OFF
	電費表示	通算／ TRIP A 連動／ ワンドライブ
	電費リセット	
	明るさ	1 ／ 2 ／ 3 ／ 4 ／ 5 ／ 6 ／ 7

“ メディア ”



項目	カスタマイズ設定
メディア	詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

“ 通信 ”



項目	カスタマイズ設定
通信	詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

“ ナビ ”



項目	カスタマイズ設定
ナビ設定	詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

“ システム ”



<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th>カスタマイズ設定</th></tr>
<tr><td rowspan="4">時計</td><td colspan="2">12/24h 表示</td><td>12h ／ 24h</td></tr>
<tr><td colspan="2">日付順序</td><td>yyyy/mm/dd
dd/mm/yyyy
mm/dd/yyyy</td></tr>
<tr><td rowspan="2">時刻設定</td><td>TimeZone</td><td>Auto / UTC-**</td></tr>
<tr><td>時刻 / 日付設定</td><td>詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">映像画面時刻表示</td><td>ON ／ OFF</td></tr>
<tr><td colspan="3">言語</td><td rowspan="3">詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。</td></tr>
<tr><td colspan="3">壁紙</td></tr>
<tr><td colspan="3">音声認識</td></tr>
</table>

項目		カスタマイズ設定
初期化	デフォルトに戻す	さまざまな設定や登録された位置情報を消去し、工場出荷状態（すべての設定を初期設定）にもどします。 詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
本体情報		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
音量		
ドライブレコーダー		
コネクテッドサービス		詳しくは、スズキコネクトアプリ取扱説明書をお読みください。
セキュリティロック		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。
お知らせ		詳しくは、ナビゲーションマニュアルをお読みください。

A

ABS 装備車の取扱い 370
AC 電源コンセント（100V、1500W）
[非常時給電モード付] 416

D

DC 外部給電システム 139
DC 外部給電システムが正常に作動
しないときは 145
DC 外部給電システムの使いかた 139
DC 外部給電を開始するときは 139
DC 外部給電を停止するときは 143
DRL（デイタイムランニングランプ）
システム 272

E

ESP® 装備車の取扱い 372
EV システムが始動できないときは ... 496
EV システムについて 80
EV システムの注意 83
EV システムを再始動するには 494

I

ISOFIX/ i-Size お子さま用シートの
固定..... 69

L

LED アンビエントライト 402

O

OSS について 368

S

SRS エアバッグ 43
SRS エアバッグシステムとは..... 43
SRS エアバッグシステムの作動 51
SRS エアバッグシステムを正常に機
能させるために..... 49
SRS カーテンエアバッグシステム 45
SRS サイド／カーテンエアバッグ 54
SRS サイドエアバッグシステム 45

U

UN R44/129 の基準に適合するお子
さま用シートの認証マークについて ... 63
USB ソケット 415
USB 電源ソケット..... 415

あ

アームレスト（ひじ掛け）..... 413
アクセサリーソケット 414
足元照明..... 402
アダプティブクルーズコントロール.. 317
アダプティブハイビームシステム 303
アルミホイールの手入れ..... 438
アンサーバック機能..... 212
安全なドライブのために..... 31
アンテナ..... 432

い

イージードライブペダル..... 258
居眠り警報 366
今すぐ充電を ON にするには 122
イモビライザーシステム..... 74

う

ウインドー 233
ウインドーウォッシャー液の補充 444
ウインドーのオート機構..... 235
ウインドーのオフディレイタイマー
機能 235
ウインドーロックスイッチ 234
運転支援装置..... 369
運転者の状態を検出するセンサー 365
運転するとき..... 240
運転する前に..... 30
運転席・助手席 SRS エアバッグ 52
運転席・助手席 SRS エアバッグシス
テム 44
運転席 SRS ニーエアバッグシステム .. 44
運転席シートベルト非着用警告..... 37
運転席にすわって 31
運転席の足元付近にものを置かない.... 30

え

エアコンのお手入れ..... 447
エアコンの上手な使いかた..... 394
エアコンの吹き出し口 386
エアフィルターの取り付け 448
エアフィルターの取り外し 447
エマージェンシーストップシグナル
（ESS）..... 369

お

オーディオ機能について 432
オートエアコン..... 387
オーバーヒートしたときは..... 497
お気に入りスイッチ 158
お車を長期間使用しないとき 81
お子さまは後席に乗せる 57
お子さまもシートベルトを着用 58
お子さま用シート 61
お子さま用シートの種類 62
お子さま用シートの取り付け 68
お子さま用シートを使用する 57
お子さまを荷室に乗せない..... 60
お子さまを乗せるときは 57
お手入れ 39
オドメーター（積算距離計）..... 151

か

カーブ速度抑制機能 323
外気温計 152
回生ブレーキについて..... 81
外装のお手入れ..... 436
可倒式アシストグリップ 412
カメラの取扱い..... 363
ガラスルーフ（サンシェード付き）（タイプ別装備）..... 431
冠水した場所は走行しない..... 468
寒冷時の運転 379
寒冷時バッテリー昇温（急速充電前）101
寒冷時バッテリー昇温（充電時）..... 101

き

キー..... 204
キーレスエントリー 212
キーレスプッシュスタートシステム . 214
キー連動パワーウインドー..... 236
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときは..... 113
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電したあとは..... 117
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた..... 113
急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール（シフト操作時急発進抑制、後退時速度制限））..... 246

く

草の生い茂った場所は走行しない 33
駆動用バッテリーが電欠したとき 86
駆動用バッテリー残量計.....149
車から離れるときは.....60
車にあったフロアマットを適切に使用する 30

け

計器の見かた.....148
警告灯一覧 160
警告灯と表示灯 159
警告ブザーが鳴ったときは 22
携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで 32
携帯リモコン.....214,449
携帯リモコン車外持ち出し警告.....251
携帯リモコン電池消耗警告 215
携帯リモコン閉じ込み防止機能.....217
携帯リモコンの電池交換.....449
警報の停止のしかた.....76
けん引について 470

こ

高圧洗浄機を使うときは.....437
高温時バッテリー冷却（普通充電中）101
後席シート 221
後席シートベルト非着用警告 38
後席ヘッドレスト 222
航続可能距離.....150
後退時ブレーキサポート.....341
後方誤発進抑制機能.....346
コートフック（後席）.....412
故障した時の連絡先は 464
故障したときは.....464
誤発進抑制機能 299
こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます 503

さ

サービスデータ 501
サイドアンダーミラー 231
座席位置別のお子さま用シート適合性について 64
サポートレッグ付きお子さま用シートの使用について 72
サンバイザー.....411

し

シートヒーター.....397
シートベルト 35
シートベルトで遊ばせない.....57
シートベルトによるお子さま用シートの固定 68
シートベルトの着用のしかた・外しかた.....39
シートベルトの手入れ.....440
シートベルトは必ず着用 46
シートベルトは正しく着用.....35
シートベルト非着用警告 36
シートベルトフォースリミッター（前席および後席の左右）.....42
シートベルトプリテンショナー（前席および後席の左右）.....41
時刻の設定.....158
知っておいていただきたいこと 8
室内灯 400
自動洗車機を使うときは 437
シフトポジション.....151
車検／点検について 11
車線維持支援 312
車線逸脱警報 307
車線逸脱抑制 307
車線逸脱抑制機能 307
車線変更時の補助機能.....323
車体番号 500
ジャッキアップ.....488
車両が損傷している状態で走行しない31
車両情報 157
車両接近通報装置 82
車両装備 13
車両を緊急停止するには 467
周囲をよく確認してから発進する.....32
充電インジケーター 90
充電したあとは.....111
充電スケジュールを登録するには.....119
充電するときは.....107
充電に関するアドバイス 103
充電に関する情報を確認するには.....103
充電に関する装備 89
充電について 80
充電の前に知っておいていただきたいこと 104
充電方法について 100
充電前の重要確認事項.....104
充電リッドが開かないときは.....496
充電リッドの開閉 89
収納スペース.....404
上手に充電するには.....103
照度コントロール 151
助手席SRSエアバッグに関する警告ラベル 46
助手席シートベルト非着用警告.....38
ショッピングフック.....408
信号切替りお知らせ機能.....302

す

水没／冠水したときは 468
スズキ緊急通報（ヘルプネット®）....477
スズキコネクトによるデータの取扱いについて 10
スズキ純正品以外の電装品を取り付けるリスクについて.....9
スズキ純正部品およびアクセサリーの使用をおすすめします.....8
スズキ セーフティサポート 279
スタック（立ち往生）したときは.....498
ステアリングオーディオスイッチ.....433
ステアリングヒーター 398
スノーモード（2WD 車）.....259
スピードメーター（速度計）.....149
滑りやすい路面ではゆっくり走る 34

せ

正常に機能させるために.....41
正常に充電できないときは.....126
セキュリティアラーム（警報装置）.....75
セキュリティアラームの解除のしかた 76
セキュリティアラームの作動 77
セキュリティアラームのセットのしかた.....76
接近警報.....322
接続可能な外部電源について 99
背もたれの倒しかた／起こしかた 223
先行車発進お知らせ機能.....302
洗車のときのご注意.....436
前席シート 218
前席ヘッドレスト 220
センターディスプレイ 156
センターディスプレイの “ セッティング ” 503
全方位モニター 349
全方位モニターのカメラの手入れ.....438

そ

走行可能距離について 88
走行するときは 11,376
走行モード 258

た

タイマー充電機能を使う 118
タイマーロック機能 213
タイヤ交換の準備 487
タイヤの空気圧をチェック 446
タイヤの点検 445
タイヤの取り付け・取り外し 490
タイヤのローテーション 446
タイヤパンク応急修理セット 482
ダイヤルシフトの操作 253
正しい運転姿勢 32

ち

チャイルドプルーフ 209
着座姿勢 46
駐車するときは 378

て

手洗い洗車をするときは 437
低速時ブレーキサポート（前進・後退） 341
低速前進時ブレーキサポート 341
データの記録について 9
適切なお子さま用シートの選択について 62
テザーアンカーによるお子さま用シートの固定 71
デュアルセンサーブレーキサポート II（DSBS II） 292
電気自動車運転のアドバイス 87
電気自動車特有の騒音と振動について 81
電球の交換 458
電動パーキングブレーキ 264

と

ドア 206
ドアミラー 229
ドアミラーの格納 230
ドアミラーヒータースイッチ 231
ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう 59
ドライバーモニタリングシステム (DMS) 365
ドライブモード 258
トリップメーター（区間距離計） 151
ドリンクホルダー 406
トレイルモード（4WD 車） 259

な

内装 15
内装のお手入れ 440
ナノイー X（タイプ別装備） 393
鉛バッテリーあがりのときは 493

に

二次衝突軽減ブレーキ 317
日常点検を確実に 30
荷物を積むときの注意 247

ぬ

布地、ビニールレザー、樹脂部品などのお手入れ 440

ね

眠気警報 365

は

パーキングセンサー 336
廃棄と廃車 11
廃棄や廃車 41
はさみ込み防止機構 235
外すときは 40
発炎筒 466
バックドア 209
バックドアガラスの室内側の手入れ 441
発進お知らせ機能 302
バニティーミラー 411
パワーウインドー 233
パワースイッチ 248
パワーメーター 149
パンクしたときは 482
ハンドル 228
ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に 31
ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない 33

ひ

非常点滅灯表示灯スイッチ（ハザー

ドランプ）....464
ヒューズが切れたときは....450
標識認識機能....326
表示灯一覧....172
ヒルディセントコントロール（4WD車）....260

ふ
フォグランプスイッチ....273
不正改造はしない....8
普通充電ケーブルについて....92
普通充電ケーブルの点検....105
普通充電ケーブルの点検・お手入れ....95
普通充電コネクターのロック・アンロック....96
普通充電のしかた....107
フットレスト....413
踏切内で動けなくなったときは....464
ブラインドスポットモニター（BSM）（車線変更サポート付）....329
ふらつき警報....307
ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない....33
ブレーキホールド....266
フロントガラスの室内側の手入れ....440
フロントガラスの手入れ....438

ほ
ホイールガーニッシュの取り付け・取り外し....492
方向指示器レバー....263
本書の見かた....12
本製品のライセンスについて....364
ボンネット....442

ま
マイルームモードを開始するには....123
マイルームモードを使う....123
窓から顔や手を出さない....59
マルチインフォメーションディスプレイ....153
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ....182
万一、事故が起きたときは....465

み
水たまりを高速で通り抜けない....34
水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認....34
ミラー....229

よ
よくあるご質問（Q & A）....26
横風が強いときは....33

ら
ライト自動消灯システム....271
ライトスイッチ....269
ライトの上向き、下向きの切替え....271
ライトの点灯・消灯....269
ラゲッジシェルフ（荷室カバー）....408
ラゲッジボード....409
ランプの手入れ....438

り
リクエストスイッチの作動範囲....216
リクエストスイッチ未作動警告ブザー....216
リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）....217
リモート操作によるエアコン操作について....395
リモートパワーウインドー....236
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）....334
リヤデフォッガースイッチ／ワイパーデアイサースイッチ／ドアミラーヒータースイッチ....392

る
ルーフラックアンカー....431
ルームミラー....229

れ
レーダーセンサーの取扱い....331
レッカーけん引....470

ろ
ロープけん引....472
路上で故障したときは....464

わ

ワイパー 459
ワイパー／ウォッシャー（フロント）273
ワイパー／ウォッシャー（リヤ）..... 277
ワイパーブレード／ブレードラバー
の交換 460
ワイヤレス充電..... 426
脇見警報 366
ワックスがけ 439

MEMO

MEMO

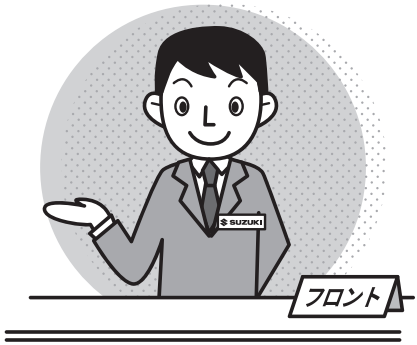
MEMO

MEMO

99011-58U02-000

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら、まずはお買い上げいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、 別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。
お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号